

「岳陽」と共に

あくまでも自分史として
(合作総集版)

Vol. 1

(創刊号～第 60 号)

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

令和 8 年 1 月

※本合作版は、令和5年4月から始めた新通信『岳陽』と共に」を、さらに通しで読んでいただこうと思い、創刊号から第60号までを一挙に合作、総集したものです。改めてのご笑読をお願いする次第です。なお、一部若干の手直しをしていますこと、ご了解下さい。

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市大謝名 3-13-24

教育協働研究所～岳陽舎～（井上講四宅）

Tel:098-963-9282／E-mail: gakuyou17@outlook.jp

HP URL : <http://www.gakuyou.jp>

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

創刊号

発行日
2023.4. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○これからは、「自分史」として書いていこう！

早いもので、令和5年も、既に、4月半ばとなっている。昨年は、70歳ということ、で、「古希」に絡ませ、自らのこれまでを振り返り、次なるこれから（いつまで続くかわからないが？）を展望すべく、こだわりの一年を送ったわけであるが、これを受けて、ここに、自称文筆家として（これしかない！）、新たな形を模索することとした。それが、この、「『岳陽』と共に」と題する書き物の発刊である。だが、これは、言うなれば、私自身の「自分史」の性格をもつものであり、読者には、その旨了解を賜り、寛大な眼差しを向けて頂くものである。要は、あくまでも自分のための書き物であり、自分の生き様、来し方を振り返っていくことを主眼とするものであるということである。

ちなみに、タイトルにある「岳陽」という言葉は、単なる「峻険な三岳の間から上り出する太陽」を指しているのではない。もちろんそこには、その情景に託した、私自身の密かな想いが込められていることは事実ではあるが、そこには、もう一つ、今となつては、誠に摩訶不思議な物語が秘められているのでもある！

ただし、その物語については、裏面担当の、もう一人の私？、堂本彰夫氏に語ってもらうことにしたい。彼が、どのように、その物語を行うのかは、私自身はあずかり知らないが、何故、私が、そのように表現したのかの理由は、そこで明かされるということである！！

末尾に、明後日（17日）、私（達）は、「古希」から飛翔？する。どんな飛翔となるのか？容姿は仕方ないが、みっともない生き様だけは見せたくないものである！

○「古希を迎える粋な仲間達」が後押しを！

ところで、私の、このような新たな飛翔？をどのように思ってくれるのかは、全くの未知数であるが、ひょんなことから、この一年、メールやズームでの交流を行った、高校時代の仲間（9人の「古希を迎える粋な仲間達」との関係は、やはり抑えておかなければならない。

というのも、おそらくこの仲間達との出会い（再会？）がなかったら、私の「古希」を彩る想いも、体験も、決してなかったというところであるが、その彼らとの交流が、私の「古希」の記念（思い出づくり）を後押ししてくれたことは間違いないということである！そして、これがなかったなら、過目終了した「同期会（同窓会）」もおそらく実現しなかったであろう！！

なお、その、一年間続けてきたメール交流（随時）やズーム交流（原則月1回）の足跡は、「唐津東高第15期生ミニ交流誌（きこき通信）」（通巻29号）という形で収めてきたが、これは、私にとつては、予期せぬ財産（奇跡？）となることは言うまでもない（冊子にして共有して欲しい！ズームの方は、動画にして、すべて保存している！）。

そう言えば、かの「同期会」で、52年ぶりの告白？を受けた。穏やかな二次会の席上であったが、当時、名門？我が東高の不祥事（体育祭打ち上げ飲酒事件）相当数が1週間の謹慎処分！実は私も、連座していた！の時に、私（井上）に勧めたのは自分（K君）で、そのことが、ずーと喉元の小骨のように刺さっていたという！

何という告白？であろうか？これもまた、この出会い（再会？）から生まれた不思議な縁（奇跡？）である！！

○「同期会（同窓会）」は、決して「ある」ものではない！

そこで、改めて、先月末（27日）に、「古希」にかこつけた高校の同期会（県立唐津東高校第十五期生）が、地元唐津（シーサイドホテル）であった。総勢七十余名の参加であったが、五十二年ぶりの再会となった人も、数多くいた。名乗りあわなくてもすぐに分かる人もいたが、どうみても誰だか分からない人も、少なからずいた（特に女性。ハクラスの内のハクラス分の人（四五人）が、既に物故者となっていたが、今後は、これに拍車がかかることは言うまでもない！！

とにかく、これからは、一人ひとりが、自らの生を全うすべく、残された日々を、身体の衰え・機能低下に喘ぎながらも、それぞれの地で、いかに自分らしく過（こ）していくかが問われる。「古希」は、さしずめ、そのための最終出発点（覚悟の年）ということになるわけである！！したがって、この同期会に集まった面々は、おそらくそのことを自覚し、そのための時間（ふんぎり）として、かの故郷の地を訪ねたものと思われる！！ただし、当地に住む面々については、この限りではない！！

いずれにしても、それは、言うなれば、最後の望郷であり、極論すれば、それとの決別（卒郷）の機会でもあったろう！！「もう、こうした形で、この地を訪れることはない！」、そういう思いであつたろうということであるが、少なくとも、私のような、長らく故郷を離れて、他の地で生きている人間にとつては、これが最後の機会となるということである！！

なお、今回の「同期会」（もう一つの、大掛かりな組織（本部／支部）の名の下に行われる「同窓会」のような会ではない！）への参加に当たって、つくづく思ったのは、そうした会は、「ある」ものではなく、誰かが、確かな想いと責任でもって、「やる」ものであるということである。それがないと、決して実現しない！年月を経ると、さらに！ただただ世話人に、感謝である！

ということ、これまで組織的な会（同窓会）に縁がなかった私には、このような会同期会の有難さが身に染みて分かった！この年になってからの大きな収穫であるが（かなり遅い？）、是非とも、このことは、ここに書き記しておきたい！（井上）

○改めて、「岳陽」の由来とは？

さて、表面の井上氏に替わって、この裏面は、私「堂本」が担当することになるが、まずは、誌名にある「岳陽」の、もう一つの由来を記すことから始めたい。

もうはるか前のことであるが（四十歳頃）、福岡県篠栗町にある県立社会教育総合センターで、毎年5月の第3土日に開かれていた（今も開かれている）、ある実践研究交流会の懇親会の二次会で出会った、佐賀県から来られていたKさんという女性（今は消息不明？）に、私の守護霊（背後霊）を見てもらうという「僥倖？」があった。その時に知らされたのが、実は、左の絵の人物である。他にも何人かは見えるが、その主たる霊は彼で、彼は、中国唐代の王族（青年貴公子？）で、あまりにも高潔で（自分で言うのも気恥ずかしいが、確かそういう物言いであった）ように記憶している！ある意味世間知らず？、それ故に、他の王族達からは疎んじられていたという。まるで、私のその後を暗示していた（詳しくは書けないが！）その彼を描き（説明文もあった？）、私に送り届けてくれたのである（何とそこには、**岳陽**の字も！）。



当時の私は、今よりは、かなりふつくらとしていたので、彼との親近感はありませんでしたが、最近の私の顔貌は、それに近づいている

ようにも見える（だから、その字を使いたい？）！！

とにかくKさんには、その後の私の姿が見えていた！！驚愕と言え、あまりにも驚愕である！

※参考までに、中国湖南省岳陽市（洞庭湖の近く）には、「岳陽楼」という楼閣があり、唐代の文人達が集っていたらしい。彼女は、そのことを知っていたのであろう！！

〈短歌に託して〜これからも、これは必須である！〉

・「岳陽」に導かれつつ 我は今

想いも新たに 「古希」を越ゆ

・桜舞う ふるさと歩く 古希の連れ連れ（徒然

行く先々に 思い出あり

・五十二年の歲月 いかにもありしか

若き日の かの告白のネタ ただただ驚き

・改めて 「岳陽」に託す 我が思い

そこに込められし 怪しげな縁

・よくぞ こんなことまで 調べ上げ

ただしそれらが 我を惑わす

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕①

○「老松おひま」に隠された北部九州の秘密

やはり最後は、古代史探訪である！私堂本にとつては、それは、単なる歴史好きということではなく、自国の成り立ち時の不明さ（嘘？）とその原因、そして、改めての真実を、自分達なりに知っておきたい！それが、この国に生を受けた一人の人間（国民）としての責務なのではないか（嘘？）をつかれているのが悔しいとも？言い過ぎか？、そう思うからである！

だが、そうは言っても、所詮素人、そんな大それた所業など、土台無理な話である！専門の研究者はともかく、長い年月と労力をかけて、必死に追いかけてきた先人達に申し訳ない（ネット上には、そうした人達が山ほどいる！）！そんなことを思いながらの、我が古代史の旅でもあるわけであるが、とは言え、少しは見えてきたものもある！！

あるいは、これまでの多くの知見の整合化の道筋みたいなものも、いくつか見えてきたようにも思う（要は、有無な情報や研究成果が多々あるにも拘わらず、それらは、一つにはまとまらず、同じ国の歴史なのに、誠に奇妙な状態（バラバラ？）となっている！）！！

ということ、ここでは、「堂本彰夫の古代史旅枕」と題して、その当たりのことを、改めて記していこうと思うが、今回は、先年同期会に際して訪れた（それが、「旅枕」ということでもある）、福岡県朝倉市の「下洲したぐさ」老松神社をネタに、「老松」に隠された北部九州の秘密？について触れておきたい。

まず（これは、ネット情報からであるが）、この下洲老松神社は、「秋月への入口点の甘木待丸・三輪内村と秋月街の中間に当たり、楠の太木が繁る境内の広い神社」であるが、福岡県神社誌によれば、祭神は「神功皇后」と「菅原神、吉祥女」とされているというのである。しかし、社殿には「梅鉢紋」（菅原神を表す）が打たれてはいるが、実際は、「菅原神、吉祥女」は祀られていないし、神功皇后も、本殿後ろの摂社群の中の「忌宮いみのみや」神社に関連はあるが、本殿には祀られていない！したがって、実際の神社祭神が異なっているというのである！！

もちろん、この異変？については、どういうことか、私にはよく分からないのであるが、この「老松神社」は、通常（表面的には、菅原道真とその親族を祀るとされているが、実は「開化天皇（第9代）」（あるいは「大國主命」）を隠し祀る神社なのではないか（天満／天神＝菅原神の名の下、開化天皇が消されている？隠されている？）！そういうことが言われているのである！！福岡県内には、そのような老松神社が11（64）社あるらしいが、そこには、大変な秘密が隠されている！！ならば、どんな秘密が？そして、そうであれば、何故そうなっているかなのである！！（つづく）（堂本）

〈編集後記〉事情により、発刊日を二日程早めましたが、とにかくここに、思い出深き『こきこき通信』後の形をなすことが出来ました！おそらく、これが、私（達）の、最後の通信（パソコンを使って文章を作成し、それをネットにあげる）こととなるかもしれませんが、みなさんの、心からの笑顔を期待しています。改めて、よろしく！

（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 2 号

発行日
2023.4.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「傷心？」から始まった、私の「第2の人生」!!

ということ、ここから、改めて、私自身の「自分史」めくりということになるが、まずは、多少？感傷的とはなるが、『傷心？』から始まった、私の『第2の人生』!!というところから始めていきたい。これに関しては、当時の、次の文章がすべてを物語っている！改めて見てみると、

「...それを支えたのは「意地？」だった!!...この「教育協働への道」も、何とか100号を迎えることとなった! :長年勤めた(26年間)琉球大学での職を、ある事情(想い)から、定年2年前を前倒して辞し(その後、非常勤3年を行ったが)、ここ沖縄の地を去ることなく、爾来6年、遠望の東シナ海を見送りながら、ある意味悠々自適に生きてきたわけであるが、その日々は、実は、まさに「傷心？」から始まったと言えるであろう(そのころの状況を伝えるものが、別コーナーで綴っていた「東シナ海眺望記」であり、「じのん道遺記」である!)!!本当に辛かった!そして、今思えば、よくぞここまで来たものである!!とは言え、やはり、今思い返すと、そういう時があったからこそ、また、一方で、その中に、自らの魂の呻き、自らの思いを、言葉に(下手な短歌を交えながら!)、そして、一部写真に託してこられたからこそ、今があることも真実である!そして、それを支えた?の、もう一つの、私の「意地？」であったことも事実であろう!!まさに、「傷心？」と「意地？」が、この6年間の私をつくり上げたということになるが、その一方の「意地？」の具体的な形が、この「教育協働への道」という教育論考(雑文?)ということなのである!」

以上だが、古希を越えた今も、この想いは変わらない!

○改めて、「教育協働への道」に託したもの!

とは言え、その「傷心？」と「意地？」の向こう側にあったものは、たとえ世間?から遠ざかっても、何とか生きていかなければならない(本当に、職を失えば、厳しい現実が待っている!今までの自分とは、そして、今までやってきたことは何だったのか?そういう自己猜疑にも似た感情に苛まれる!)!そうでなければ、私を信じてくれて

いる人、頼りにしてくれている人に申し訳ない(もちろん、我が奥さんは、その最たる人であるが!!)!

ただ、その際、本当に救いだっただけ、最後のゼミ生達であり、一部とはなつたが?、変わらぬ厚情を頂いた人々(卒業生達を含む)との交流であったわけであるが、とりわけ自分自身を奮い立たせたのは、最初の頃の卒業生(準?ゼミ生S君:当時H教育大学の准教授に誘われた、ズームによる交流(↓教育協働ゼミナール)である。

詳しくは、ここでは書けないが、そこでの出会いと交流が、私の中に沈潜していた「教育への思い」の覚醒、そして、長年唱えてきた「教育協働」のしくみづくり(ひとづくりとまちづくりの循環)への、新たな(最後の?)コミットメントの機会となったのである!

ちなみに、そのズーム交流であるが、ある意味、その気になれば?、何とかなるものではある!!あれだけ、今で言うICTへの懷疑?を叫んでいた私が、その恩恵に浴しているのである(変われば変わるものである!)。とにかく、パソコンとの付き合いが、今の私を支えているわけであるが(目や四肢の不調とつき合いながら)、これがいつまでやれるかは、神のみぞ知るところである!!

○心残り、は、「親バカ？」の締め!!

ということ、今、こうして、曲がりなりにも、心穏やかに、ここ沖縄の地で、第二の人生を送れている私であるが、強いて一つだけ挙げれば、気がかりなことがある!それは、多少文脈が違いますが、三人の娘達、とりわけ次女、三女のことであるが(もちろん長女のことでもあるが、その気がかりは、彼女の、三人の息子達、つまり孫達に移行している)、俗に言う「年頃」からは、遥かに遠ざかってしまっている!こればかりは、父親の私からすれば、いかんともしがたく、今の彼女達の生き様を、傍から見守ることしか出来ない!!それが、ある意味辛い!!

「それでいい、それでいいのだ!」、「要は、自分が納得出来る今、そして、これからであればいいのだ!」。そう自らに言い聞かせながら(彼女らに思いを寄せながら)、老いゆく父親としての思いを抱いてはいるのであるが、果たして、これからどうなっていくのだろうか?言うなれば、心残り、は、「親バカ？」の締めということであろうか!!

そんな中、今、改めて思い出すのは、彼女達の、それぞれの「二十歳の誕生日」に送った色紙のことである!まさに親バカの極致であろうが、そのそれぞれに、彼女達が示していた(否、私が、無理やり、そう思おうとした?ただし、それなりの根拠?はあった?)、生き方の匂いみたいなものを、三つの言葉に託して書いていたのである!

今も、彼女達が、その色紙をもっているのかどうか?そして、その言葉を、今はどう思っているのかは、もちろん定かではないが(机のどこかにしま込んで、そのことを忘れているかもしれない?)、それが、それぞれ、「感性」(長女、「知性」(次女、「理性」(三女)という言葉である!住む場所も、仕事も、そして人生模様も、それぞれ異なっているが、現在もなお、私は、その感覚?を変わず大切にしていきたいと思っている!まさしく、この期に及んで、再度の親バカ?ということである!!

ちなみに、おじいさんという思いや立場は、あまり前面には出てこない!!何とも薄情な「じいじ」ではある!!この間のコロナ禍が、それに拍車をかけた!!

(井上)

○卒郷？で、改めて、「子ども(童)」に戻る!!

さて、今度は、私堂本の番であるが、望郷を終え、卒郷を迎えた今、何故か書きたくなつたことは、小さかつた頃の自分である(何だか矛盾しているようだが?)!!

田幸(ターンム)※の子：ねえ、ねえ、おとうさん！何やら棒切れとビニール袋をもつたおじいさんが、水の流れを見ながら、こちらに近づいてくるよ！何をするんだらうね？

田幸の親：多分、それはメダカ捕りだよ！

田幸の子：え？どうして分かるの？それよりも何よりも、どうして、そんなもので捕れるの？

田幸の親：実は、あのおじいさんは、去年もここに來て捕つていったのだよ！信じられないかもしれないけど、田んぼと小川の間に出来ている小さな流れにビニール袋を入れ、小石二つを重しにして、そこに沈めておくのだよ！

田幸の子：どうして、そんなに捕れるの？網で掬うということなら分かるけど…

田幸の親：昔は、網なんてなかったのだから、子ども達は、知恵(じんぶん)を働かせて、魚を捕つていたのだから？

田幸の子：でも、それだけでは捕れないよね？

田幸の親：そうだね！だから、持つている棒切れで、流れの上の方から、そおと叩いて追いついていくんだよ！

田幸の子：へえー。本当に、そんなに捕れるんだ！

田幸の親：もちろん、そんなにうまくはいかないよ！だけど、何度でも粘り強くやれば、その内の一回位はうまくいくのだよ！

田幸の子：そうなんだあ！簡単にはいかないんだあ！

田幸の親：そういうことだね！でも、工夫と我慢で、何とかやる！そういうことを、このおじいさん達は、今でも覚えていて、ということだよ！だけど、今となつては、何とも珍しいね！

※水のきれいな水田で栽培される田幸の一種(水幸とも)。沖繩では「ターム」と呼ばれ、おいしく食されている。↓「ドウルワカシー」など

※沖繩では、知恵のことを「じんぎん(人文?)」と呼んでいる。年をとつても、「子ども」の自分がある!!しかし、それは、決して望郷のそれではない!!そこに、卒郷?も!!

〈短歌に託してゝ思い出される、過去のあれこれ!〉

・「傷心?」と「意地?」 そう語れるは

まだ幸せ? 通常(どう)は、それさえ言えず!!

・ひとつくりは まちづくり

まちづくりは ひとつくり いかにそを

・二十歳の日に 三人娘をぎれに送つた 三つの言葉

今なお然りと 再度の親バカ

・今年も密かに メダカ捕り

ビニール袋と 石ころ二つ 流石昭和童

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕②

○改めて、「老松」とは?

先に、福岡県に数多く存在する「老松神社」は、かの菅原道真とその眷属を祀る神社とされているが、本当は、「開化天皇 第9代/欠史八代の最後、あるいは「大國主命」を隠し祀る神社ではないか(天満神/天神様の名の下、開化天皇が消費されている?隠されている?)ということ

とであつたが、改めて、それはどういうことか?そして、何故、そうなっているのかである!!その続きを記そう。

要は、例えば「太宰府天満宮」は、「道真」と縁の深い神社であるが、そこには前史があり、元来は九州倭(わ)の(い)国政權直属の神社であり、始原の神とされた「天御中主(北極星?)」ら、天神(あまの)海神(うみのかみ)族を祭つていたのではないかとということである!!

すなわち、道真を排斥した藤原氏が、度重なる災害を道真の怨霊のせいだと宣伝したのと(北野天満宮の創始、それに合わせて、何とかして九州倭国政權の残滓(ざんし)を消し去ろうとした政權が、都合の良い「祭神の入れ替え」を行ったのではないかとということである!!

☞そんな「祭神の入れ替え」というような大それたことがあつたのだとは、現代の我々からすれば、とても信じられないことなのだが、どうも、そういうことは、しばしば行われてきたようなのである(その最大のものが、かの伊勢神宮/内宮の祭神である?)!!

ちなみに、菅原(菅公)家は、血統的には、例の「出雲の国譲り」において「先遣隊」の役割を担つたとされる「天穗日(あめのほひ)命」(出雲大社宮司・出雲臣氏↓千家家の祖神を祖とし(土師氏も?)、一方でまた、「倭奴(那)国」の王(AD57年に後漢から金印を貰つた?)であつたとされる「大幡主(武埴安彦・鰐族?/櫛田神社の主神)」の一統ともされるのである!!そして、前者は、いわゆる「尾張氏」の一派ともされている!!

出雲と北部九州、そして、大和や丹波/伊勢/尾張や近江(もちろん紀伊、吉備も!)の関係については、今後改めて整理していかなければならないが、大きな枠組みとしては、出雲と北部九州の関係が、まずは大きく横たわっている!!そして、その出雲と北部九州の関係が、かの「老松神社」に被せられている!!それが、「開花天皇(大國主命?)」の頃の状況であり、当時(4世紀頃?)の九州倭国政權の実体であつたということである!!

具体的には、二世紀末の「倭国大乱」、それに伴う「那(奴)国」勢力(王族?)の衰退・各地への飛散?、伊都国と邪馬台国(使用字や読み方には異同もあるが!)による「新?倭国」(邪馬台国連合?親魏倭王卑弥呼?)の登場、その後の「台与」(これも、使用字や読み方には異同もあるが!)への継承、そして、それ以降、歴史の闇?に消えていつた「新?倭国」(空白の4世紀)!!しかも、そこには、「紀(木下)姫氏」「熊襲(球磨曾於)族」の関わりがある!!

実は、その辺りのことが、この「老松神社」から見えてくるのではないかとということであるが、今後は、その「闇?」に関わる、神功皇后/武内宿禰/応神天皇等に仮託されている史実?を、いかに解明していくかである!!そして、それらは、当然、朝鮮半島との関係も視野に入ってくる!!(つづく)

〔堂本〕

〔編集後記〕 何とか、今回も作成し終えたが、やはり井上と堂本の役割分担?は難しい!!ある意味、それは当然のことではあるので、それを楽しみながらやつていくしかない!!(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 3 号

発行日

2023.5.15

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○かの「広島」を、いかに総括すべきか!!

私が、広島大学の出身であることは、知る人ぞ知るところである!だが、今の私には(それまでの私はさらに?)、そのことを、声を大にして言えない(言いたくない?)!!そういうわけばかりみたいなものがあることを、ここでは告げおきたい。その理由については、当然ここでは書き切れないが、言うなれば、そこは、「ほろ苦い?後期青春の舞台」であつたということである(ただし、それがあつたからこそ、その後の、そして、今の私があることは事実であるが!)!!

ところで、その広島に、例の古希同期会の仲間が、高校時代の修学旅行の思い出から、再度?訪れたいと、旅のプランを練っている!私としては、その仲間達との付き合いは、大変有難いと思つてはいるが(感謝もしている!)、いざ行くとなると、複雑な思いに駆られるのである!ちなみに、皮肉な?話ではあるが、私自身は、その広島への修学旅行には行っていない(野球部に所属していた私は、春の大会前でもあり、自由参加でもあつたので、行っていない!)。

とは言え、修学旅行の思い出は、確かに貴重なものであり、この年になつては、さらにその想いは募る(今思えば、残念であつた?)!しかし、一緒に行きたいが、私の思い出は、別なところで屈折する?!しかも、個人的には、数年前に、その最後の訪広?は済んでいる!一応のケリ?はついているのである!だから、今更、広島なんて...!!

ただ、こんな思いは、かの仲間達には伝えてはいないし、伝えようとしても、それは土台無理でもあろう(彼らにとつては、ある意味迷惑な話ともなる?)!!困つたものではある!!まだまだ総括の時ではない?そういうことなのか!!

○振り返ってみると、私の人生は、何かがおかしい?

ところで、よくよく考えてみると、私の人生は、何かがおかしい?ふと気がつけば、私の居場所、と言うか立ち位置が、中心から離れていつてしまつていて!!言い換えれば、グループや所属している組織の周辺に行つてしまつていて自分がいるのである!!学会でも、県や市町村との関係も、そうであつたように思う!!もちろん、最後の琉球大学でもそうであつた(これは、学部長をやつたからでもあるが?)!

そして、さらに振り返ってみると、学生時代(学部も大学院も!)もそうであつたし、以前の、東京の職場でもそうであつたように思う!!いつの間にか、周辺人?になつてしまふ私!!やはり、これはおかしい?私の生き方(生き様が、いつの間にか、どこかで狂つてしまふ?その時、その時を精一杯生き、自分なりに必要だと思ふことを言い、そして、動いてきた(しかも、最初は喜ばれもした?)!!しかし、途中から?、野党?否、その野党にもなつていない自分があるのである!!

だが、冷静に捉えれば、実は私の方は全然変わつていなくて、周りが変わつていつていくのかもしれない!!そんな気がしないでもない!!極論すれば、私の方が、時代の流れ・周囲の状況に沿つて、臨機応変に(上手に?)変わつていつていないのかもしれない!!無意識の内に、自ら、そうしてきたのかもしれない!!

いずれにしても、私の人生、何がそうさせてきたのか?それが、かの守護(背後)霊のせいだとしたら、今更、何をか況やである!!そう思うしかない(笑)!!

○研究室が我家(のベランダ)になつただけ!!

話は変わるが、8年前、大学の職を辞し、公務員宿舎を出なければいけないかつた私(達)であるが、沖縄を離れる話もなく(どこからの誘いもなく?本当は、そういう話があつたならば、動いていかもしれない?)、さしあつては、住む家を探さなければいけなかつた!もちろん家を買ふとか、そういうことは考えていなくて、当座は賃貸のアパートか、マンションをということ、あちこち探したのであるが(本当に探して歩いた!1年以上かか?)、結局は見つけれられずにいた。

金額とか立地とかということもあつたが、一番の理由は、私の我儘?であつたのかもしれないが、誰もが気軽に訪ねて来られる場所が欲しかつたのである!そのことを、借りる条件の一つにしていたのであるが、仲介の不動産屋にそのことを話すと、かなり難しいというようなことでもあつた(隣人とのトラブルの危惧?大家さんの意向?)!要は、大学での研究室のように、誰もが、気軽に出入りできるような場所を確保しかつたのである(研究室は、ゼミ生は当然であるが、他の学生、はたまた大人の人の出入りも頻繁にあつた!否、それを、私は望んでいたのである!)。

しかし、事態は、ある時一変した!私の奥さんが、多分?業を煮やしてのことだろう?一軒家の売り物件を、ネット上で見つけたのである!借りるということしか頭になかつた私であるので、かなり動揺?したが(二度にかなりの出費覚悟?肝っ玉が小さい?)、その物件を見にいき、即決で決めたのである(もちろん、先に決断したのは奥さんである!その決断力は、見事であつた!)。

それが、現在住んでいる、宜野湾市大謝名の、この家なのであるが、何はともあれ、このベランダからの眺望が気に入つたのである(北向きではあるが、そこからの、東シナ海の眺めは格別であつた!)。もちろん賃貸ではないので、誰にも気兼ねする必要はない!自由に人が呼べる、来てもらえる(駐車場も狭いがある!)!爾来、この眺望に何度も癒された(台風時は困つたが!そして飛行機の騒音も!)。そして、人も来てくれた!この家と眺望がなかつたなら、本当に私は困つたであらう!されど、ここ数年、コロナが水を差している!!果たして、この先は...(井上)

○最後の？伊江島行！蘇る数々の思い出！！

ゴールデンウィーク前の4月末、一泊二日の日程で、もう訪ねることもないだろうと思っていた、北部離島の一つ伊江島に、我が奥さんと二人で出かけた。直接の目的は、まだ一回も見えていない、同島の「ユリ（まつり）」を見に行くことであつた。天気は、あいにくあまり良くなかつたが、島の北海岸にしつらえられた、広範囲のユリ畑には、鉄砲百合をはじめ、色とりどりの花が植えられていた（まだ一面の開花とは言えなかつたが！）

会場は、GW前のウィークデーでもあつたので、人出は少なかつたが、テント張りの出店や趣向を凝らした写真コーナー等があり、ピークの？GWの時は、かなりの賑わいになるだろうと思ひながら、奥さんとの、久し振りのデート？を楽しんだ次第である！！

ところで、実は、この伊江島（村）は、現役時代には、学生達と何度も訪ねて、島（村教委）のみなさんには、その都度大変お世話になったところである！ゼミ合宿や出張研究会、さらには学部行事（ユークロ）、そして、何年間かは、社会教育実習生の受け入れと！しかも、そこには、数々のドラマ？もあつた！思ひ出せば、それこそきりがなが、今回も、宿を世話してくれたり、一日車を貸してくれたりと、いたれり、つくせりであつた！

当時お世話になつたNさんやUさんが、それぞれ村長副村長、そして、Sさん（当時の社会教育主事）が福祉課長と、それぞれ島（村）のキーパーソンとなつており、また、当時学生であつたY君が、縁あって同村役場職員となり（結婚もそこ！）、今回は、彼が、歓迎会まで仕切つてくれた。そして、翌日には、沢山の土産を買いこんで、港まで見送りにきてくれた。本当に感謝・感激であつた！人（伊江島）の情けは、不滅である！！

最後に、もうつぺんまでは登れないと思つていた（現に、前回は断念していた！）、かの「たっちゅう」（塔頭）に登れた！これが、今回の、もう一つの喜びでもある！

＜短歌に託して懐かしき、あの街、あの島！＞
・ああ広島や 広島や

我が後期青春の 花舞台 いかによつ（断つ）？

・どこかで狂う 私の人生？

何がそうさせるのか？ そも守護霊のせい！！

・研究室が ベランダに 替つただけ！！

されどコロナが 水を差す！

・塔頭に 登れて嬉し 伊江島行

ユリの香りと 人の情けも

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕③～
○隠されている？「木（紀）姫」氏の存在

さて、改めて、その「老松」であるが、実は、「松」は、「木」偏に「公」！すなわち、「木の公（きのみ）」と読める！！だから、木（紀）姫氏を示す（しかも「老」？が被さっている？）！その指摘を見た時は、最初は偶然、否、言葉遊びかとも思つたが、ひよつとしたら、それも有り得る？！う思つたわけである（没落しかけている「木の公」）！

と言うのも、紀（伊）氏は、もちろん現在の和歌山県を本拠地とした？古代豪族ではあるが、その出発地（直前のそれ）は、北西部九州の「基肆（きし）」（百済紀にある！）地方と考えられ、かの「貴国」は、そこにあつた！！ちなみに、その貴国は、半島諸国には、当初知られておらず（途中から出現していた？）、新たな国（勢力）であつた（そう考えれば、さらに辻褄が合うのである？）！！

しかるに、その「木／紀氏」であるが、問題は、それ以前はどこにいたのか？そして、本来の、その出自は？その説明が、新たな頭痛の種ともなつてくるのである！！何故なら、その「木／紀氏」は、そもそも「武内宿禰系」諸

族（半島系渡来民族／伽耶・新羅系？）の一つと考えられるからである（半島南端部の前方後円墳の存在は、その証左でもある？）！！

ところが、最近知つた情報（新説）によれば、彼らは、中国江南にあつた「呉国」（三國時代の「呉」ではない！）の王族の末裔で、BC5世紀頃に九州中部（肥後菊池郡山門）に漂着していた「姫氏」であるというのである。そして、その後、彼らは、同じ江南出身の、いわゆる「熊襲（球磨貫）族」と合流して、中南部九州から攻め上がり、北部九州までをも席卷していた（地下式横穴墓や装飾古墳の分布）！！

そして、その子孫が、3世紀末の「邪馬壹（やまいつ）国女王卑弥呼」や5世紀の「倭の五王」（讃・珍・済・興・武）達であつた！！そしてまた、かの武内宿禰は、その「熊襲族の棟梁（みせりやう）（弥五郎どん）」でもあつたというのである！！実際、「木／紀氏」と熊襲族は、ある時期合体したとみえ、途中から、『紀』に記す「厚鹿文（あか）」「连鹿文（れん）」など、熊襲族の首長とされる名が連ねられているという（「姫氏・松野連氏系図」より）。

しかもまた、その紀（木／姫）氏が移動・進出していた？北西部九州には、鴨氏（これも熊襲族？先の菊池市には、賀茂川や加茂神社がある！）、日下部（かたがは）氏や内（うち）氏（武内宿禰の直系？）、天（あま）族の久米氏らが進出していたことをうかがわせる地名や川の名も多くあるという（しかも、隼人もいる！）！！果たして、これらが、記紀に言う「熊襲」なのであるのか？！！あまりにも複雑である！！

ということで、このように、通説では、熊襲とか隼人とかという中南部九州の部族は、いわゆる蛮族（隼人）の場合は、若干扱いが違ふが！とされ、大和朝廷や九州王朝とは、一線を画すものと思はれていたのであるが、紀（木／姫）氏と同一化している、そして、その紀（木／姫）氏が、「倭の五王」や「武内宿禰」とも関係がある！！であれば、これまでの認識を大幅に変えなければいけないのである！！ただし、頭痛の種は、これだけではないのである！！（つづく）

＜編集後記＞ 今回もまた、様々なことを書いたが、やはりスペースが足りない！！しかし、多くしても大変である！！しばらく（当分）はこれでいくしかないだろう！！

（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 4 号

発行日
2023.5.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○何でなのだ！思わぬ悲？報に驚かされる！

過日のゴールデンウィークに、最後のゼミ卒業生であったT君とO君が、久しぶりに我が家（岳陽舎）を訪ねてきてくれた。昨年の、私の誕生日には（確かそうだったように記憶しているが）、私の「古希」ということで、仲間達と一緒に集まってきたけれど、相変わらずのコロナ過もあって、その後は、みんなの足も止まっていた！

そんな中の訪問であったが、彼らの生活状況も変わって、一人は、家族と共に離島へ（久米島）、一人は逆で、離島（伊平屋島）からの戻り（昨年だったかもしれない）というところで、新たな生活を始めているということであった！さて、ここで言う悲？報とは、他でもない！彼らの先輩でもあるF君が、この3月に、学校を辞めたということであった！せつなく苦勞して（2度目の受験で合格）手に入れた、小学校教諭のポジションであったのに、しかも、初任研は終わったはずなのに？何で辞めたのであろうか？聞くところによると、（学校が？）、イメージにそぐわなかったというところらしいが、そんなことで（誤解を招く言い方かもしれないが）、彼が辞めるとは思えないのである！！

と言うのも、彼は、最初は教員ではなく、民間で働くことを選び、それを踏まえて教職につくという計画の下に、3年前に、その念願を果たしていた若者である！仕事の厳しさ（人間関係も含めて！）や学校現場の窮状も、一応社会人として分かっていたはずである！それが、何故…？！
本当に、不可思議でならないが、こちらから連絡するのにも憚られる（迷惑？）ので、一応待つてはいるが、多分音沙汰はないかもしれない！！悲しいと共に、悔しくもある！！

○久しぶりの、孫との対面！蘇った？じーじい心！！

これも、先のGWに、宮崎県にいた長女（小学校教諭が、三男（小3）を連れて里帰り？してくれた。まだまだコロナが気になる場所であったが、ここ数年、帰沖出来なかったこともあり、思い切つての決断であった！家に、二人の息子（双子の中3生）と旦那（同じく小学校教諭）を置いての旅でもあったわけであるが、少しは、日常の忙しさから解放されたであろうか（持病の片頭痛や鼻炎に、少し悩まされていたようではあるが！）？

あいにく天気の方は今一つであったが（ほとんどが曇り、母親（我が奥さん）のお陰で、家事もほとんどせずに、そして、何よりも仕事のことを忘れて、三男と一緒に、楽しく遊び、時を過ごせたのが良かったのではないか（心の中では気にかかっていたかもしれないが！）！それはともかく、私にとっては、久しぶりの、孫とのご対面であったし（偶に、ズームで顔は見ていたが！）、自分でも不思議なくらいに、「じーじい心」が蘇ったようにも思えた！！双子の兄達とは6歳の違いがあり、今が可愛い？盛りなのかもしれないが、もうすっかり忘れていた（埃をかぶっていた？）、「箱入り娘」というパズルでは、二人夢中になり、仲良く遊べた！

ここで書き（残し）たいことは、沢山あるが、一つだけ挙げれば、その三男の横顔や後ろ姿、そして、何より、その仕草が、兄達（とりわけ長男）にそっくりであったことである！兄弟なので、似ているのは当然かもしれないが（ちなみに、正面顔は似ていない）、あの頃の思い出も、そこには重なっていたのかもしれない！！

○やはり、このことは書いておかねばいけない！！

改めて、今（こ）で、このことを書くのは、正直言つてかなり憚れるが（その後の経緯からすれば、同じ辛い闘病？でも、私の場合は軽微で？、他人に告げるには、どこか恥ずかしきもあり、申し訳なくも思う？）いわゆる手術や抗○○治療がなかったということである！、一応は、自分史の一環として、ここで書き記しておく必要はあるであろう！！とにかく、それが、私の、その後の10年間余りの現役生活、とりわけ大学での仕事振りに、大いに関わっていることは、まさに事実だからである！

ということ、こ（こ）では、その病魔についてと言うよりは（これについては、いつかまた書き記す時もある）、宣告を受けた直後の行動、それ以降の意識のあり様を、自らの備忘録として、ここに書き残して置きたい？そういうことである！！

思い返せば、本当に突然であった！ある年の人間ドックにおいて、結果を知らせる予期せぬ電話が入り、その病魔のことを知らされたわけであるが（後から分かったが、かなり進行していて、命の心配もあった）、これには、本当に狼狽した！直後の大学での授業では、訳の分からないことを口走つてもいたらしい！！

その後、御多分に漏れず、「何故自分が？」という思いに苛まれ、眠っている時以外は、「自分は、○○患者なのだ！」という意識が頭から離れず、かなりの期間、重く、憂鬱な日々を送っていた（周囲には、事あるごとに、同情を貰おうともしていた）！しかし、今は、その○○患者だという意識は、不遜にも？まったくなく、新たに付き合うことになった糖尿病に、それなりに悩まされているが（年に4回の血液検査で一喜一憂している）、こんな悠長な？思い出話をしている次第でもある！

ともかく、これについては、家族をはじめ（とりわけ我が奥さん）には、本当に世話になった！、多くのみなさんに心配と迷惑をかけた！ただ、思うに、初めて検査依頼をしたチェック項目で（その年からの、追加オプションであった）、幸いにも見つかったということ、その意味では、これもまた、かの守護（背後霊のおかげであったと言えのかもしれない（本当に、もう少し遅かったら、それこそ、今の私はなかったであろう？）！！（井上）

○そこにあるのは哀愁？それとも挽歌？！

改めて、目の前にいた（と思っていた？）、貴重な若者達の戦線離脱！先のF君もそうであるが、T青少年の家の、若い（と言っても30過ぎの！）職員（K君／N君）も、その場を去っている！やはり、そこが、自分の居場所（活躍の場？）ではなかったということであろうか？！

しかし、それは、当該の世界（分野）での貢献（やりがい？）に向かっていた（はずの？）自分を、ある意味放棄することでもある（だから戦線離脱？）！それが、たとえかの「自分探し」の一環であつたとしても、誠にもったいなく（数も少ないので！）、I氏の驚愕、否、落胆ぶりは、おそろしく、そこにあつたということである？！

もちろん、自らのより良い人生を求めてのそれであれば、私（達）のような、一線を退いた者（否、赤の他人？）が、とやかく言うことはないし、そもそもそのような権利もない（余計なお世話？）！ただ、振り返れば、これまでも、そうした若者達の離脱？はあつた！だから、I氏にとつては、とても残念であり、複雑なのでもある！

途中からゼミを離れた者、挙句の果てには、大学（院）まで辞めてしまった者、あるいは、卒業後はまったく音沙汰のない者！それはそれで仕方がないのであるが（それが当然？）、とにかく、I氏は、心のどこかで、彼らに對しては、自分は何の役にも立てなかつた？！そう思つてきたのである（だから、悔しくも、悲しいのである！）？！

ということ、今回も、I氏は、彼らの、本当の理解者・相談者にはなれなかつた（青少年の家では「相談役」を名乗っているにも拘らず！）！そういうことでもある？！

ただし、ひよつとしたら、相談したくても、ことがこただけに、それが出来なかつた？！若者達との出会いやつき合ひに、自らのやりがい（使命？）を投じてきた（と思つている？）I氏に對して、一方の彼らは、彼らなりの分別（苦しみ？）をもつて、己の身を処したのかもしれない？！そこに、哀愁？いや挽歌が流れているとも言える？！

〈短歌に託して生きていればこそ、様々な思い〉

・何故に辞める！ そしてせめて その前に

何故に訪ねぬ！ それが悲し（悔し）

・忘れていた？ じーじい心情

されど末の孫が 思い出させてくれた！

・すっかり忘れし あの頃のこと

が、病魔は 別の形で 我を悩ます？

・今なら分かる？ 思いとは裏腹に

それが故の苦しみがあることを！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕④

○もう一つの頭痛の種？「鴨氏（族）」も熊襲なのか？

前号最後で、頭痛の種がもう一つ出てきた？と書いたが、実は、それは、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」のことである！彼らが、（記紀に言う）大和建国（3世紀後半？）に、直接関わっていることは分かっているが（神武一行を無事に大和に先導した八咫鳥（ヤタガラス）こと「建角身（けんかくみ）命」は、鴨族の統領とされる？）、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」は、大和（葛城）はもちろんであるが、吉備、出雲、筑紫をはじめ、全国至るところに、その名を見させているのである！

そして、かの京都には、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が関わる「下鴨神社」「上賀茂神社」もある！前者は、「加茂御祖（みお）神社」とも呼ばれ、建角身命が、娘「玉依姫」と一緒に祭神となつている神社であるが、その「建角身命」は、何と「襲（曾於）」の国の出身であると書いてあるものもあるのである（山城国風土記（逸文）。ちなみに、後者は、「玉依姫」の子「加茂別雷（かもちいかづち）神」が祭神とされている（これは、おそらく「秦氏」との関係による？）！いずれにしても、このように、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」

「（族）」は、重要ではあるが、その解明には、果てしない混迷が待ち受けているのである？！つまり、もしそうであれば、かの、神武による東征（大和建国）が、「熊襲」によるものともなる？！しかも、その「熊襲」は、北部九州の動向とも関係がある？！

しかるに、私は、その「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」の「武角身命（八咫鳥）」自体が、「神武」のモデル（タミミ？）なのではないかと密かに思つていたのであるが、彼らが、改めて、その「熊襲」だということになれば、古代史の解明は、かなり根底から見直されなければならない？！そういうことにもなるのである？！

ということで、改めて、「木（紀）姫（ぎ）氏」や「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」、彼らは、何者なのだ？！そして、ある意味、「木（紀）姫（ぎ）氏」が九州王朝に関わり、他方の「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が大和建国に関わっている？！一体、これは、どういうことになるのだ？！私の頭の中は、こんがらがらるばかりなのである？！

ちなみに、その、「鴨（賀茂／加茂）氏（族）」が関わる？「神武東征」であるが、その痕跡は、かの大和・葛城に大いに残されている！いわゆる葛城山麓（現在の御所市周辺）の地名や神社名がそうである（高鴨・葛木御歳・鴨都波神社等。阿治須岐高日子根命／迦毛大御神・葛城鴨族・事代主勢力？）。間違ひなく、この地域は、一方の三輪山山麓の諸族（三輪／大神（おみ）氏／大物主？／崇神勢力？）と共に、絶対に、大和建国に関わっている？！

また、吉備の加茂地区（例の「榎（え）遺跡」の近く！）には、藤井耕一郎氏が明らかにされている『タケミカツチの正体』河出書房新社、前方後方墳／手焙形土器（火の祭祀用？）勢力の出発地と目される「加茂西遺跡」（現初期の手焙形土器がそこで発見されている！）がある！であれば、「吉備」を経由したという「神武一行」は、その鴨（賀茂／加茂）氏（族）そのものではないのか？！興味・疑問の連鎖は尽きないが、これから先は、また次号にて！（つづく）※先号で、…3世紀末の「邪馬臺（台）国女王卑弥呼」…と書いたが、…

2「世紀末…の間違いである！」了解を願いたい。（堂本）
〈編集後記〉今回もまた、いろんなことを書いてはみたが、やはり気になるのは、若者達のことである？！可能な限り？！人生を健気に生きて欲しい！ただ、それだけである！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 5 号

発行日
2023.6.15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「岳陽」は、意外な形で顔を見せるかも!!

相変わらず、月日が経つのは早いもので、今年も、既に6月の半ば、そして、新年度が始まって、2か月半が過ぎた!ただ、少々湿っぽい?話とはなるが、新年を迎えても、あるいは新年度を迎えても、私の日常には、ほとんど変化がない!現役を退いているわけであるから、当然と言えば当然なのであるが、やはり、何らかの刺激(チャレンジ対象?)が欲しい!そう思う(願う?)度合いが深まっている(梅雨だからか?)!!そんなことを思いながらの、標記の見出し設定であるが、単なる妄想的期待ではない!!

と言うのも、私が求める「教育協働」の意義、言い換えれば、その必然性(自然の摂理?)は、まだまだ、学校教育、社会教育、どちらの関係者にも、それほど実感はされてはいないようではあるが、結果的には、徐々に、その姿を顕現させてきている!!すなわち、個々の取り組みに(地域によって、実施主体の違いによって、その表面的な態様は違うが?)、その実質的な形が、徐々に、否、確実に、その姿を見せ始めている!!そう、「岳陽」は、既に顔を見せ始めているのである!!

ただし、そういう動きに、今の私は、直接的には何も関わっていない!!それが、何とも歯痒い(悔しい?)というところであるが、とは言え、それは、ある意味普遍的な動きであることは間違いないわけであるので、近いうちに、私が関わっている、あるいは直接見聞している取り組みにも、それが見えてくるであろう!だから、「岳陽」は、意外な形で顔を見せるといふことである!!

○久しぶりの霧島!旅の目的は、いずこに?!

さて、時ならぬ台風の襲来ではあったが、過日、久しぶりに(3年振り)、宮崎(小林市)に住む長女一家を訪ねた!主たる目的は、早中学3年生となっている、二人の孫(双子)のクラブサッカーでの雄姿?(残念ながら?レギュラーではない!)を見に行くことであつたが、私には、もう一つ、別な目的もあつた!それは、最近知った、旧日向地域?に散在する、「地下式横穴墓」(これは、何故かその地域だけのもの!「熊襲」と関係か?)の見学である!

一応、どちらの目的も、それなりに果たしたが(サッカーの方は、あいにくの雨で、しかも練習試合であり、あまり盛り上がりなかつたが、遅くなつていった孫達の雄姿は、それなりに見ることはできた!、ここで書き記しておきたいことは、そのお陰で、再び訪れることができた、懐かしき霧島温泉郷(そして、えびの高原も!)のことである!!

と言うのも、折角、宮崎(小林)に行くわけであるので(経路は鹿児島港、一泊は、途中の霧島温泉でしたいというところで、同行の奥さんとついでに書く、旅の手配はすべて彼女である!)、当地を訪れたわけであるが、新たに泊まったその宿(溪谷の傍?)は、これまで利用した宿とは、いささか趣が違い、もう一度、是非訪れたいと思わせるものであつた(詳しくは、ここでは書けない!)!

なお、古墳の方は、3カ所回つたが、一カ所は、その所在が分からず、結局は、2カ所の訪問となつた!予想はしていたので、特に問題もなかつたが(現地に行つて、どういう場所に、どういう形で、それが残っているのか分かればよいということ)、果たして熊襲の墓かどうか?!

○何故、私は、「普通の上等」と言いたかつたのか?!

ところで、今更、こんなことを書いても(思い出しても?)仕方がないが、私は、現職の頃、心許せる学生達(特に大学院生)に、「君達は」サラブレッドにならなくてもいい!駄馬でもいい!しかし、上等の駄馬になれ!」そう言っていた!

ちなみに、この物言いは、ある時期の、沖縄独自のCM(どこかの「泡盛」の宣伝)をパクったものであるが、何故か、その「普通の上等」という言い方が気に入って、個人的には、好んで使っていたわけである!軽いタッチではあるが(出演しているキャラクターの風貌も含めて)、どこか息苦しくて、やり場のない?沖縄の現実を、ある種のペースとウィットで、優しく包み込んでいるようにも思えたことを、今でも覚えている!!

もちろん、彼らが、その物言いをどう受け止めていたのかは、よく分からないが、私の本意としては、「君達が、今学んでいるR大学は、沖縄ではそうかもしれないが、決して一流大学ではない!それに、冷静に気づけ!しかし、だからと言って、卑屈になるな!要は、その部分での生き方(貢献)があるのだ!そして、実は、その部分の底上げが、ここ沖縄では必要なのだ!そこを自覚せよ!」そういうことを言いたかつたように思う!!

今思えば、沖縄(R大学)に対して、あるいはある意味優秀な沖縄の若者に対して、かなり失礼な物言いだつたのではないかとと思うが、それは、ある種の意地を示したかつたのかもしれない!!そして、ある面では、それは、私自身に向けての物言いだつたのかもしれない!!本土(の人間)と同じように頑張っているのに、その力/実績がほとんど評価されない(尺度的には?)、そのような指標/結果が出ているわけだから、そう見られても仕方がないが!!しかし、そう言うつても、苦難の歴史においては、そういうことは、ある意味当然ではあろう?ただ、私が、今改めて意識したのは、その「ある意味当然」を引きずるな!その「ある意味当然」が、いつのまにか、自らの弱さの言い訳となつていてのではないか?だから、そんな評価とはおさらばして、自らの生き方を、信じるままにすればいい!!それは、決して手を抜いて生きることではない!それが、まさしく「普通の上等」なのだ! (井上)

○知らなくてもよかった？出来なくてもよかった？
だが、それさえも、惑わされる時代!!

今、ここでは是非とも書かなければいけないわけではないが、一度は、このことは書きたいとは思っていたことなので（しかし、多くの人にとっては、今更そんなことをと思われかもしれないが）、私堂本が、標記の見出しをつけて進めてみようと思う。

要は、最近のテレビやネット情報で、生命の不思議、科学技術の進歩、古代の真相、宇宙の謎、国内や世界の動き等、あらゆる分野で、本当に様々なことが、しかも矢継ぎ早に知らされるわけであるが、ある意味？知らなくともよかった？出来なくともよかった？ものに惑わされる自分（現代人）がいるということである（ただし、これは、一重に、老いゆく人間の宿命でもあるが!!）

ここでは、そうしたことのひとつひとつを取り上げるつもりはないが（そもそも無理である）、限りある一人ひとりの人生の中で、それらの情報や知識あるいは技術が、本当に必要なのか？そして、そもそもそれらが、その一人ひとりの人生を、豊か（幸せ）にするのかどうか!!

もちろん、これらの自問（愚問？正解は、既に明らかとなっている）は、どの時代にあつても、心ある誰かが（哲学者はともかく）、いわゆる文明批判として出してきたわけであるが、最近（とは言っても、相対的なもの）、その範疇を遙かに越えているように思う!!実は、そのことを、ここでは書いておきたいのである!!

と言うのも、こうした文明の進化・進歩は、いつの日か、絶対に終わりを迎えることも、残念ながら、今の我々は知ってしまったというところである（太陽系／銀河系／宇宙の終焉?）!つまり、少なくとも、このことだけは知りたくなかったが、それもまた、現在の「知の一つ」となっている!考えてみれば、恐ろしい事態である!!しかも、そんな中で、醜い我欲、領土欲をむき出しにしている人間（国）がいる!どうしたものか!!

〈短歌に託して〉梅雨の間に間にも、様々な思い〉

・複雑だが ひよつとしたら 岳陽が
意外な形で 顔を出すかも?

・時ならぬ 台風の襲来
めげずに訪れた 霧島・宮崎 古墳は?

・サラブレッドと誤解して 挫けるよりも
上等の駄馬として 強く生き抜け!

・知らなくても 出来なくとも よかったものに
惑わされる? だがそんな時代も!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑤
〇改めて、「熊襲」／「紀・姫氏」とは?

さてさて、その怪しげな「熊襲」に関わっては、先に紹介したように、「姫氏・松野連系図」というものがあるが、何とあの邪馬台国の卑弥呼や台号、そして、「熊襲」（川上臯師^{たけの}／取石鹿文^か等、さらには、その後の「倭の五王」（讃・珍・済・興・武）等まで示されているという!ちなみに、同系図は、江戸末期から明治期にかけての系譜研究家（国学者）である「鈴木真年^{まこと}」という人が、各地の氏族系譜史料を収集し、それらを、メモ風に考査・修録したもの（『諸系譜』）の一つであるということである（『中興系図』?…国立国会図書館と静嘉堂文庫に所蔵とある）。だから、まったく出鱈目な、いわゆる「偽書」ではないということでもある!!

それはともかく、それによると、件の「松野連氏」は「吳王夫差」の後裔で（このことは、平安期の『新撰姓氏録』にも書いてあるということである）、

『子・忌が日本に渡って帰化人となり、筑紫国に至って、肥後国菊池郡に住み、さらにその子孫・松野連が、筑紫国夜須郡松野に住して、姫姓から松野姓に変えたのが始まりとされているらしい。そして、北部九州には、同氏を祖とする氏族の家系が、複数存在するということなのである!!

と言うことは、この「松野連氏」が、まさに「姫↓木／紀氏」（の本流?）であり、現在追及中?の「老松」（三階松?）、すなわち「木の公^{きのみ}」であつたのではないか!!しかも、繰り返すように、この老松神社は、いわゆる欠史八代の最後「開化天皇」（第九代）を主祭神とする、謎?の神社ともされる!!そして、次の第10代が、新たな（真の?）「ハツクニシラスメラミコト」とされる「崇神天皇」である!したがって、ここに何かが隠されている!!そう思わざるを得なくなるのである!!

また、それに関わっては、当然?第8代の「孝元天皇」も、その謎に与している!!すなわち、開化天皇は、孝元天皇の第二皇子（母は、皇后で、薨色雄／内色許男^{うちいろこ}、命は、穗積臣遠祖※穗積臣氏は「物部氏」と同祖）の妹の薨色謎^{きり}／内色許男^{うちいろこ}の命!同母兄弟には、大彦命・少彦男心命・倭迹迹（日百襲?）姫命、異母兄弟には、彦太忍信命・武埴安彦命がいる!

さらに、その孝元天皇は、孝靈天皇（第7代）の皇子（母は、皇后で磯城郡主または十市郡主大目の娘。同母兄弟はいないが、異母兄弟に、倭迹迹日百襲姫命・彦五十狹芹彦命（吉備津彦命・稚武彦命）。穗積臣氏の祖の薨色雄命の妹の薨色謎命を皇后として、大彦命・稚日本根子彦大日尊（後の開化天皇）らを得た。

また伊香色謎命、埴安媛を妃にし、伊香色謎命との間には、葛城氏・蘇我氏の祖彦太忍信命を得た。埴安媛との間には、御間城天皇（崇神天皇）の代に反乱を起こした?武埴安彦命を得た。とんでもないことになった!この続きは次号で!（つづく）

〈編集後記〉今回は、梅雨、そして、時ならぬ台風の襲来もあり、生活のリズムが少し狂ったように思うが、久し振りに長女一家とも、当地（小林）で会うことができ、そして、何より素敵な温泉旅館（霧島）にも泊まることができ、非日常の良さを満喫出来た。やはり、いいものである!

（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 6 号

発行日

2023.6.30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○やはり、「沖縄」のことは、書いておかなければ!!

本日(25日)、沖縄は、梅雨明けとなった。今年は、随分前から予報はされていたので、特段の喜びはないが、一応は、一つの季節の節目ではあるので、そして、何より、同じ暑さでも、明るい、抜けるような青空の下でのそれと、どんよりとした曇り空の下でのそれとは、やはり雲泥の差があるので、この違いは大きいと言わざるを得ない!!

ところで、この沖縄の梅雨明けは、かの「慰霊の日」(23日)の頃だという記憶(感覚)があるが、多分に漏れず、今年もそうであったということになる!!しかるに、この「慰霊の日」は、78年前の、あの悲惨な沖縄戦のことを、改めて思い出させる日であるが、正直言って、最近の私は、その日のイベント等については、心苦しいが、ほとんど関心がない(一応は、「県民」であるにも拘らず!!)

その理由について、ここでは、多くを語ることは避けるが(多分これからも)、滞在33年という歳月の中でも、もろ手を挙げて、それに賛同、参画したくないという思いが、一方で、頭を擡げてきたということかもしれない!!来沖当初は、あれほど、ここ沖縄で仕事をさせてもらうわけでもあるので、沖縄のこと、沖縄の人達のことを分からなければと思ひ、その理解・協力を努めてきた私であるが、今は、その努力を、ほとんどしていないということである!!

要は、今までの私は、ここで生きている人達と同じ思いで生きていると思っていて、言わば、ふりだけの沖縄人?であったわけであるが、やはりそれは無理であり、まやかしてもあったということである!!そう思うと、何故か、ほっとしている自分もいる!!

○一つの様式でまとめることが難しい?我が経歴!!

ところで、この度、ひよんなことから(今は、具体的なことは言えない)、自らの経歴(功績?)を書き記す機会があった!学歴や職歴に関わる期間や日付等は、それなりに書けるのであるが(ただし、煩雑?、その他の、学外での委員活動や講義・講演等のそれが、何とも覚束ないのである!

この歳になつては、そうした情報(記憶?)は不要であり、委嘱状等も、すべて処分しているわけであるので、今更、その再生?は不可能なのであるが、それにしても、今回改めて思ったことは、自らの経歴の複雑さ、多様さ?である!だから、指定された書き込み様式では、私の経歴(功績?)は、到底書き記すことが出来ないということである(喜ぶべきか?悲しむべきか?)!

ということで、現在、可能な限りのバックアップ作業を行っているわけであるが、経歴が、何の功績となるのかは、私自身が決めることではないが、自分自身の経歴や功績?を、他者の尺度や記載様式で書き記すことに違和感はあるものの(癪でもある)、最後までいはいは?、それに沿ってまとめておくことも、それなりに意味はあるであろう!!そう思つての、作業という次第である!

ちなみに、自分が著した本や論文については、大半は所有しているが、記念すべき二つの単著(単行本)が、何故か?無くなっていることが判明し、奥さんの協力で、アマゾンから入手していることは、別な意味で、複雑な過去となっている(これだけは、実に情けない話!笑)やはり、本質は、いい加減な私なのかもしれない!!

○我が氣力喪失?に、優しき手助け!!

さて、これもまた、一種の旅の報告とはなるが、今回は、少し趣の異なったものであった!と言うのも、最早一線を完全に退いている私が、何故か?研究者の一人として、岡山県内の学校現場に、研究視察(CS関係)の一員として行かせてもらったのである!何とも氣恥ずかしい思いであったが、実は、これには、ある二人?の人間の思惑が絡んでいたようなのである!

詳しいからくり?は分からないが、最近の私の書き物が、どこか弱気で、ある種の氣力喪失?を感じさせるものであるという判断をした(私自身は、そういうことは意識していないのだが?)S君とY君が(二人とも、現在は大学教授であるので、このような表現は大変失礼かもしれないが、私の一方的な親近感の発露として、このように書かせてもらおう!ちなみに、S君は、私の大学時代の教え子?でもある)、今回の企みを思いついたようである!!

余計な話かもしれないが、この二人は、H大学大学院の先輩後輩の関係で、無二の親友であり、人間としても、研究者としても、良き理解者同士でもあるようである!!Y君とは、今回が2度目の出会いであるが、何ともユニークなキャラで、沖縄での最初の出会いで、私に、「〇ちゃん」と呼ばしめた御仁である!今回は、さらなる交流があり(ホテルも一緒、彼の個人的な魅力も、一層深く感じさせてもらった次第である!

本当は、その学校現場への訪問(Y小学校とK小学校。両校ともCSの実施校)のことを、きちんと書かなければと思つての記事作成であったが、どうもそうならないようであるので、それに関連しては、別途?書き記すことにして、ここでは、人間の出会いの妙(Dさん、Fさん、O君並びに両校の関係者のみなさん)、そして、多分悩みや苦労?の連続の中で、健気に、そして、多くの人々のために日々奮闘されている、私の言う「心ある人間」として頑張っておられる人達の姿を、新たな喜びとして見さしてもらつたことを、ここでは記しておきたいと思う!

最後に、たまたま同県内にいる三女との出会いも実現し、今回の旅を、心優しく企画・提供してくれたS君には、感謝以上の何物でもないことを、改めて記しておきたい。(井上)

○なぜ日本の学校から「いじめ」がなくならないのか？なかなか変わらないその構造とは？

ということ、(一)からは、堂本の担当となるが、ここでは、今回もまた、件のネット記事から、有益な話題を拾ってみることにしたい。だが、今回は、少し複雑でもある(もう一つあった記事は辟易である)!!だから、その辺りの微妙なニュアンスを、いかに出せるかでもあるが、その記事は、冒頭(最初の部分だけで申し訳ないが)、「たった2つの『シンプルかつ納得の理由』という小見出しで、以下のように綴ってあった!

「日本の学校は、あらゆる生活(人が生きる)すべてを曲いこんで学校のものにしてしまう。学校は水も漏らさぬ細かさで集団生活を押しつけて人間という素材から『生徒らしい生徒』をつくりだそうとする。学校で集団生活をしていると、まるで群れたバツが、別の色、体のかたちになって飛び回るように、生きている根本気分が変わる。何があってもあるかも知れない。逆に社会では名誉毀損、侮辱、暴行、傷害、脅迫、強要、軟禁監禁、軍隊のまねごととされるのが、学校ではあたりまえに通用する。センセイや学校組織が行う場合、それらは教育である。指導であるとして正当化される。正当化するのがちよつと苦しい場合は、『教育熱心』のあまりの『いきすぎた指導』として責任からのがれることができる。生徒が加害者の場合、犯罪であっても『いじめ』という名前をつけて教育の問題にする。こうして若い市民が兵隊のように『生徒らしく』なり、学習支援サービスを提供する営業所が『学校らしい』特別の場所になる。市民の社会では自由なことが、学校では許されないことが多い。社会であたりまえに許されないことが、学校ではあたりまえに許されるようになる。...」

言いたいことは分からないでもないが(同意するところも多々ある)、ただ、何故そうなつてしまったのかが掘り下げられていない!!結局は、指導のための指導となつてゐる!!そこが腹立たしくもあり、悔しくもある!!

要は、最早、ただ指導するだけでは、誰も救われぬ!学校関係者だけを責めても始まらない!!そうならぬための方策は?そのためには、どこを、どうすればよいのか?そこを示せ!一方で、そう思うのでもある!

〈短歌に託して梅雨開けに想う、いくつかのこと〉

・梅雨明けと慰霊の日

そこで交わる 沖繩の魂 何を求めし?

・様式に 収まり切れぬ 我が来し方?

そんなものに 日付は無用?

・我が氣力喪失?に、優しき手助け

まんまと嵌った 岡山の旅!

・心せよ 指導はもういい!

いかにして その改善を 図るかである!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑥

○「開花」と「崇神」に託された(隠された?)、古代氏族の攻防!!

さて、先号では、件の「老松(神社)」「三階松」が、「姫ノ木/紀氏」(の本流?)の「松野連氏」(「木の公き」)のものであり、そして、そこに、いわゆる矢史八代の最後とされる「開化天皇(第9代)」が関わっていることを示そうとしたが、結論としては、次の第10代が、新たな(真の?)「ハツクニシラスメラミコト」とされる「崇神天皇」であるわけであるので、そこにある関係(ある意味では断絶?)を、改めて精査する必要があるということを示そうとしているということである!!

ということ、まずは、彼ら(「開花」と「崇神」)が、どのような系譜でつながっているのかをみたかったのであるが、少なくとも、それは、第8代の「孝元天皇」、そして、第7代の「孝靈天皇」までは遡る必要があると思つてのことであつた(ただし、本当は、第5代の「孝昭天皇」までも?何故なら、彼は、いわゆる「和珥(鰐)族」の祖?ひ

「よつとしたら「大幡主(大若子命)」「(櫛田神社の祭神として描かれている?)!いずれにしても、そこには、多くの古代氏族が関わっているということである(「記紀」による創作・改竄も、当然?あつたとは思われるが?)!!

そこで、注目されるのが、先号で示したように、「開化天皇」は、かの「物部氏(穗積臣氏)」と関係があつたこと、そしてそこに、大彦命・少彦男心命・倭迹迹(旦百襲?)姫命(同母兄弟)、さらには彦太忍信命・武埴安彦命(異母兄弟)等が絡んでいるということであつた!

すなわち、孝靈天皇の子である、その父親孝元天皇は、母系で、大和とつながり、一方でまた、吉備との関係(異母兄弟)がある!!しかも、彼は、穗積臣氏の祖の麿色雄命の妹の麿色謎命を皇后として、大彦命・稚日本根子彦大日尊(後の開化天皇)らを得ている。また、伊香色謎命、埴安媛等を妃にし、前者との間には、葛城氏・蘇我氏の祖となる彦太忍信命、後者との間には、御間城天皇(崇神天皇)の代に反乱を起こすことになる武埴安彦命(「大幡主(大若子命)」)を得ているということである。

ちなみに、いわゆる「矢史8代」であるが、実は、そこには重大な秘密(実際の権力争いの構図?)が埋め込まれており、特に、最後の第9代「開化天皇」に関わつては、まさに、福岡県の高良山周辺(ある時期の筑紫倭国?)での権力争いの状況が伏されている?そして、それは、「姫ノ木/紀氏」(「松野連氏」/「木の公き」)と、そこから生まれた(離脱していった?)「崇神」勢力(物部氏?)の関係を示すものではないか!!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉

今回も、様々な記事、思いを書き記してみた!また、古代史では、これ以上の深みはないというところまで来た!そこで、今後(のことは、改めて、未知の世界となるが、これからも、楽しく突き進んでいきたい(読者の困惑も顧みずに?)!!

末尾に、沖繩は、やはり蒼い海、青い空でなければ(台風は厄介だが!)...「慰霊の日」はともかく、件の、私の沖繩への思いは、今後どのようなようになってゆくのか?それは、偏に、ここ沖繩で今を生きる人達との、真摯な交わりにかかっている!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 7 号

発行日
2023. 7. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「岳陽チャンネル」、スタート!!

別途、HP上でアップしている「新・教育協働への道1」でも触れたように、今月8日(土)から、それまでの「教育協働セミナー」に替えて、新しく「岳陽チャンネル」という名の、Zoom交流プログラムを立ち上げた!「教育協働」のための人的交流、情報交流という目的は、もちろん変わらないわけであるが、それよりも何よりも、こちらで設定した日時(原則月1回、第3土曜日、10:30~12:00)では、メンバー登録している人の大半が、なかなか顔を出せない(他の用事・スケジュールがある?)というジレンマ(問題)があったということである!!

否、真相?は、もつと別なところにあり(顔触れが固定している?テーマ/事例が、今の自分にとっては、さほど切実ではない?メリットがない?等々)、何らかのリニューアルを果たさなければ、このままじり貧となってしまう?まさに「マンネリ化」の危機?を迎えていたわけであるが、一方で、そういうことは、ある意味世の常でもあるので、もうこの辺で止めにしてもいいかなあ?と思いついて始めたということでもある!!もつと突っ込んで言えば、他ならぬ私自身が、そのセミナーの開催意義を、あまり感じなくなっていたということでもある!!

とは言え、今回改めて分かったことは、そんな状況(関係)にあっても、それなりの人(少なくとも10人以上!)が、交流や情報交換を続けたいと思っているということであり(義理も手伝って?)、やりようによつては、新たな可能性、やりがいも出てくるのではないかとということである!だから、頑張ろう(折角のアカウント所有でもある)!

○何故か、気になる?「さだまさし」の世界!!

ところで、今、こんなことを、ここで書くべきかどうかは悩ましいところであるが、一度は、彼のことを書きたいとは思っていたので、思い切つて、ここで書くことにする!ただ、予め断つておくが、私が、彼の音楽作品自体のファンであるということではなく(もちろん、その要素も、最近はずえている?)、一人の、同世代の人間の生き様として、認められる!簡単に言えば、そういうことである(ただ単に、嫉妬?しているとも言える?)!!

ちなみに、分かる人は分かるであろうが、私も、彼も、昨年「古希」を迎えた(しかも、誕生日も同じ!彼が、少し早い!、怪しげな老人?である!しかしながら、あのバタリテイ、人と人をつなぐ、とてつもなく大きな力、ネットワーク力!同じ年齢の人間として、驚異でもある(比べること自体が、世間からは、まったく不適当とも言われそうであるが?)!本当に、掛け値なしに、そう思う!有名・著名人に限らず、基本的には、他人(俗に言う「成功している人」?)に厳しい私ではあるが(本当は、優しい?)、何故か、彼には、そのような思いをしまっているのである!しかも、「徐々に」!

なお、NHKの番組「今夜も生で さだまさし」、毎回欠かさずに見ているわけではないが(見るにしても、最近、録画視聴が多くなっているが!)、あの番組の内容、出演者、趣旨等も、大いに共鳴し得るものとなつている!多くの人が、参画し(手紙等を含む)、歓迎しているはずである!正直、何とも羨ましい限りである!

○やはり、このことは書いておかなければ!!

過日、ある人(日さん)の訃報に接した!第一報は、既に別のところから入っていたが、その後の、沖縄の知人(Sさん)からのメールで、改めて、故人の生き様(経歴等を含む)、存在意義の大きさを知らされた!添付の新聞記事によれば、「66歳」とあった!本当に、早過ぎる!本人も、さぞかし無念であったことであろう!察するにあまりあるところである!

そこで、先に、「さだまさし」のことを書かせてもらったが、ここで、「やはり、このことは書いておかなければ!!」ということを書き始めた理由は、かつて、がん宣告を受け、だが、不思議にも、今こうして生きている(ただし、糖尿持ち、そして、せつかく生き延びているのだから、何か、自分が、やらなければいけないと思つていことをやろうと、それなりにもがいてきた私にとつて、彼の生き様と功績は、とてつもなく偉大で、何よりも、素直に称えられるものであるからである!

なお、余計なことではあるが、一度、電話で話をした時の、(声)印象は、私と同じくらい?否、もう少し上?そんなことを思つたものであるが、それはともかく、その時の依頼?を、まさしく彼のためだけに、受け止めておけばよかったのかなあとも、今は思うが、ただそれは、それだけの話である!ということ、こんな形で申し訳ないが、私なりのお悔やみ、否、可能な限りの賛辞を送りたい!とにかく、お疲れ様でした!

最後に、ここでは、これ以上のことは書けないが、出身のM県では、事務職からG町の教育長になられ、確か公立では、日本で初めての「中高一貫校」を実現された(これについては、当時、私も、地域と学校の新たな関係ということで注目していた!その後の波及効果については、周知の通りである!)!

その後(いきさつはよく知らないが?)、H教育大学の大学院の立ち上げ(教育政策リーダーコース)に尽力され、多くの学生(現職の教育長等、支持者・理解者を生み出される一方、S県O市、O府S市の教育長もされていた(まさにスーパーマン?)!知人の深い悲しみや、そして、何よりも、彼の存在の大きさを、つくづく感じさせられた次第である! (井上)

○古代史上で活躍する女性（姫神）達!!

古代史に興味をもっていない人には、この記事は、少し敬遠されるかもしれないが、実は、4月から始めている「古代史研究会」と称するズーム交流で、今月（15日）は、女性（姫神）に焦点を当て、意見（情報）交換をすることになっている。

であれば、一般には、すぐに、かの「天照大神」や「豊受大神」（伊勢神宮祭神）、否、「卑弥呼」や「古事」(「魏志倭人伝」と言う名が挙がつてこようが、実は、今回は、何故か、前回の交流で話題となった、高(山貴)久子という人の『姫神の来歴 古代史を覆す国神の系図』(新潮社、2013年)を準テキスト?として行うことになっている。

というのも、そこに登場している「櫛名田姫」と「丹生津(にぶ)姫」が、なかなか解明できない、我が「日本(倭国)」の古代の真相を握らされている人物(勢力?)なのではないか?ということであるが、果たして、彼女達は、どのような存在なのであろうか?改めて、意見交換(新珍?発見)が楽しみである(否、不安先行かな?)!

なお、作者の高山さん自身は、残念ながら、若くして亡くなっている!もし、今も存命ならば、さらなる異彩を放っていたことであろう!!惜しいものである!

ということで、他にも、豊玉姫、玉依姫、スセリビメ、宗像三女神、神功皇后、よど姫、とよ姫、はたまた、神夏磯(かみなそ)姫、田油津(たぶつ)姫等々、怪しげな?姫神達は目白押しなのであるが、一方で、かの琉球王朝では、国王一族の女性(姉妹等?)が、「聞得大君(きこえのおおきみ)」となり、奥(影?)の差配者として、一族を守護していた!

それは、あたかも、かの「卑弥呼」のようでもあった!!つまり、神(おなり神/太陽神?)の意思を取り次ぐ、まさに「大日靈貴(おおひるのかみ)」であったわけである!!ちなみに、かつて「平塚らいてう」が、「元始、女性は太陽であった!」と言ったということであるが、おそらく、それは、このようなことを指していたのかもしれない!!

〈短歌に託してゝ名ばかりの文月?せて思ひだけは〉

・岳陽チャンネル 苦肉の策の

最後の呼びかけ? これでよいのだ!

・同い年 いつのまにやら 気になる人に

その言動は 認められ得る!!

・敢えて書く 彼の偉大さ 二重にあり!

開きし世界と その生き様!

・太陽 月 星!

古代人の 想いは深し そは何故!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑦

○何故、二人の関係解明が「突破口?」となるのか!!

ということ、もし、そうだとすれば、そのことが、その後の九州と近畿(大和)の状況(二極化の構図?)を形づくっていったということになる(ただし、「記紀」は、後者の「崇神」/物部氏?勢力からの歴史叙述であることは、言うまでもない?)!!しかしながら、まだまだ、私が言わんとするこ

とは明瞭ではない(ある意味、当然ではあるが?)!!

つまり、史実?としての、当時の状況、氏族の関係が、具体的に描かれていないということである!!とは言え、その具体化の突破口?が、「開花天皇」と「崇神天皇」の関係解明にあることは、かなりの感触をもって言えるのではないか?今後は、そこに基軸をおいて進むだけ!!

そこで、改めて、何故、「開花天皇」と「崇神天皇」の関係解明が、その「突破口?」となるのかであるが、一つは、当時(8世紀前後)の、『日本書紀』編纂の主体(持統/藤原政権)が、第10代の「崇神」を、「大和王朝」(近畿倭国→日本国)の、事実上の初代王(ハックニシラス

スメラミコト)としていることであるが、彼が、北部九州から(それ以前は韓半島?伽耶?)、おそらく吉備を経由して?、大和に入ったことは間違いないからである(『櫻向/三輪王朝?』!!

ちなみに、創作上?の初代王「神武」(こちらも、ハックニシラスメラミコト)は、記紀全体の内容構成の必要(そもそも、我が国の紀元/起源を、識緯(しきり)の思想を用いて、可能な限り古く見せるために、BC660年としたことによる!)から考え出されたことは、これもまた、ほぼ間違いない!!

ただし、そのモデル(タミ?)は、当然?いたのであり、それが、3世紀初期の、まさに鴨族の統領?「建角身命」(八咫鳥)であった!!とは言え、そこには、大きな穴(問題?)が生じた!要は、史実?を800年余り遡らせたので、その期間を、どのように埋めていくのかということである!!

そこで、これからは、私自身のオリジナル(空想?)かもしれないが、そこに、いわゆる「矢史八代」が考案され、その空白を補おうとした!!しかも、それらは、ある意味では史実であること、を、いわゆる「神話」という形で、婉曲に投影させた!!

とりわけ、伊弉諾/伊弉冉による「国生み/神生み」、そして「別離」、その後の、伊弉諾による「三貴子」生誕、そして、天照大神と素戔鳴命による「誓約(ちかひ)」、その後の「天岩戸事件、出雲追放、八岐大蛇退治」等、さらには、素戔鳴命の子?の大国主命による「国づくり、国譲り」等々。

そして、最後の、天照大神の孫の「瓊瓊杵(にぎはこ)尊」による「天孫降臨」、さらには、「日向三代」の物語と続いていくわけであるが、実は、それらは、単なる神話ではなく、持統・藤原政権が把握していた、大和建国あるいは政権獲得までの史実であり、それらをデフォルメ化したものだったということである(だから、矢史八代の事績自体は、少ないのでもある?)!!(つづく)

〈編集後記〉日本全国が、今年もまた、集中豪雨や暑さに苛まれていくというのに、こんなことを書いていただけでよいのかという自己嫌悪?を感じながらも、今回もまた、一応紙面を構成することができた!コロナ第9波?気にはなるが、私達なりの夏の羽ばたき?そういうことである。(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 8 号

発行日
2023. 7. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

〇いよいよ、「ID問答」の方は、終わりとなる!!

既に承知されている人も思うが、別途HP上にアップしている「ID問答（内なる対話）「意味ある世間話」となるや、否や!!」も、一応「了」という形で、過日、締めを行った!自らの内に、二人の人間を操り（ある意味「遊び心」からであるが、そればかりではないことは、分かる人には、分かってもらえているはずであるが?）、世の出来事や、自分（達?）なりに、これは書き留めておかなければと思ったことを、まさに対話形式（ダイアログ）で、書き綴ってきたものである!

ちなみに、そこでの記事（①～②⑩）は、「総集版」として、改めて、HP上にアップするつもりである（昨日22日にアップした!古いのを合わせれば、今回の分は第3弾ということになるが、興味のある（余裕のある?）人は、通しで、（再び?）読んで欲しいものである!

なお、もう一つの「新・教育協働への道」も、一応は、次のステージ（⑪）に移ってはいるが、そこでも、何故か「つづく?」という、怪しげな表記で終わらせている!「いつ止めてもいい?」という思い（覚悟?）を、そこに忍ばせているが、これについては、もう少し成り行きを見てということではある!!

いずれにしても、こちらの『岳陽』と共に、二人（私井上と堂本氏）の共作としては、最後のもの?ということになるわけであるが、記憶力と思考力（遊び心も?）の減退（消失?）に抗うための良策であることは言うまでもない!!果たしてどうなるか?暑い夏ではあるが、当面は（下肢の不調にもめげず）、書き続けていくことになる!

〇ふと思った?我が書きモノの行く末?!

ところで、ここで、ついでと言ったら、少し複雑ではあるが、最近、偶にはあるが、HP上にアップしているものを含めて、これまでの、私の書きモノ達は、いつ、どのように処分?（笑）されるのだろうか、思うことがある!

本や紙の資料等（既に、かなりの分は処分しているが!しかし、何故か?古代史関係は、嫌というほどある!）は、たとえ私が処分しなくても（出来なくなっても?）、目に見えるわけではあるので、誰か（私の奥さん?もしくは、娘達?）が処分してくれるとは思うが（ただし、どういう思いでやるのかは別問題?...笑?）、パソコン本体やUSBの中の書きモノ（データ）は、別である!!

ちなみに、私以外の人達（昔の人達?）は、そういう心配?もなく、後に続く家族、あるいは所縁の人によって、篤く保管されるか（例えば、〇〇文庫として?）、図書館への寄贈という形で処遇されることではあるが、私のモノ達は、そういうわけにもいかない（要は、他の人達にとっては利用価値がない?所在も、バラバラ?）!!

ということ、いとも簡単に、処分（廃棄または焼却）されているかもしれないということであるが（冷静に捉えれば、残される側にとっては、懐かしきはあっても、実際には厄介な代物となる?）、パソコン上のものは、私自身の生き様（世間的に言えば、道楽?）を示しているものであるので、こちらの方は、いつの日か（決断の日?）、自らで消せればと思っではいる!!そういうことである!

〇とんでもない若者達?そこにあるのは、異次元の世界?!

急遽、ここでは、違う話題にすることにした!用意していたものがあつたのだが（これについては、いつかまた取り上げる予定である?）、この感激（否、むしろ驚き?否、それ以上?）を忘れてはいけなとも思い、見出しのテーマとした次第である!

まず、そのテーマからしたら、やはり、あの大谷翔平のことであろう（まだシーズン途中ではあるが!）!!かのWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）での活躍はもちろんであるが、その後のシーズン・プレイ（三刀流）についても、何とも言えない活躍（雄姿!）である（もちろん、こんな表現では生ぬるい?）!

ただし、ここで書き記しておきたいことは、実は、そういうことではない!大リーグで活躍している（した）選手は、あのイチロー選手を始め（凄いい記録も残している!）、数多くいる!まさに、彼らも、とんでもない若者達なの（だったの）である!しかも、そうした若者達は、様々な種目・分野で、無数にいると言えるのである（もちろんスポーツ以外でも?）!

しかし、やはり、あの大谷翔平選手は違う!否、突然ではあるが、あの将棋の藤井聡太七冠もそうである!否々、一番ホットなところで言えば、先日の、VNL（バレーボールネーションズリーグ）での、日本チームキャプテンの石川祐希選手もそうである!!では、改めて、彼らは、何が違うのか?

もちろん、その答えは、人によって異なるであろうが、私がここで言いたいことは、彼らの活躍（実力?）は、他の人がどれだけ頑張っても、その域には、おそらく達することが出来ない?それくらい、異次元の活躍（実力?）なのではないかということである（ただし、そこには、恵まれた体と頭脳があり、そしてまた、それに劣らぬ鍛錬（意志も含めて!）があつたのであろうが!）!!しかも、何より、自らが自らの世界（時空）を楽しんでいるようにも見える?そこが違うのである!!

だが、誤解されては困るが、多くの人の努力や鍛錬の無意味さを述べているのではなく、今まさに、そうしたものを越えた（超絶した?）若者達がいる（出てきている?）!そういうことを、素直に驚きたい、歓迎したいということである!（井上）

○改めて、「了？」の意味を問う？！

先に、I氏の方から、「ID問答」形式の論稿（記事）作成は、一応の締めを行つたことが示されたが、ここでは、その最後に記された「了？」の意味について、私堂本の方からも、思うところを、少し補完（敷衍？）しておきたい！ただし、これは、ただ単にそれを補うということではなく、私堂本の方からの、心からの返答？ということである！

何を二人？で戯れているのだという、お叱りもあるであらうが、まさに、この「ID問答（形式）」は、I氏の、それこそ「意地？」と「浪漫？」の為せる業であり、仰々しく言えば、彼の、言わば「プライド」、否、「セルフ・デイングニティ」でもあるわけである！ちなみに、前者は「誇り・自尊心」、後者は「自己の威厳・尊厳」という日本語ということになるうか（I氏は、後者の言葉と出会った時から、何故か、そちらの方を大切にしている？）!!

もちろん、俗世?においては、どちらでもよいのである。ところが（双方共に、自らが抱く自意識であることに違いはない?）、前者が「見栄や虚栄」、後者が「品位・品格」、そして、前者は、外（他人）、後者は内（自分自身）に對しての発動というようなニュアンスもあり、I氏は、後者の方を、好んで使用しているということである!!

いずれにしても、人間は、その自意識の発露として、『プライド(誇り・自尊)』や『ディグニティ(威厳・尊厳)』を持つものであり、それがなくなると、単なる生き物(死んではないという存在)となる!! ただし、そういうことは、他ならぬ自分自身が思うことであり、他人が、どうこう言うことではない!!

とは言え、そういうことを論ずること自体が不遜であり、ある意味では、そういうことが出来ること自体が、恵まれし者？の、それこそ「見栄や虚栄」なのかもしれない❗️老いていく者の「了？」の意味には、そういうこととが被さっている❗️そういうようにも思うのである！

〈短歌に託してゝ我が「書き記すこと」の意味?!〉

・「問答」に 千々に寄せにし 我が思い

如何なる形で
次を求めむ？！

・ふと思った？ 我が書きモノの行く末？！

PC/USBのは誰が消す？

・予定を替えての 我が書きモノ

記したきは 若者達の 新たな時空？！

・「了?」と書く 思いの先に 何がある?

実はそれは 老いの生（所為^{せい}？） ？！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑧

○新たな「旅枕」？「宮地嶽神社」の謎は見えるか？

さて、「旅枕」と称しながら、そうした風情は一向になく、少々焦つていたところであるが、近々、その「旅？」が実現しそうである！ここでは、その「旅？」自体については触れないが（後日？別途、紹介することにはなるであろう？）、実は、このコーナーのテーマ（「老松（神社）」を追う！と、おそらく大に関わつてくるであろう？、福岡県の「宮地嶽神社（及び境内の横穴式石室）」を訪ねることになった！たまたま当地に寄る機会ができて、ちょうどその時（今月28日）、年3回あるという、同神社の古墳の開陳という饒幸？に与れることになったのである！

しかるに、「宮地嶽神社」は、県内でも有数の神社であり（年に2度、境内石段から玄界灘まで真つすぐ伸びる参道の延長線上に夕日が沈む「光の道」で有名！）、主祭神が「神功皇后」で、「陪從神」として「勝村大明神」と「勝頼大明神」（あまり知られていない？）が配祀されているという（三神を併せて、「宮地嶽三柱大神」みはしらのおおかみと呼ぶらしい！）。☞

⑤ 詳しいことは、ここでは書けないが、ここで、私が注目したのは、主祭神の「神功皇后」はともかくとして（本筋としては、最重要人物？）、「陪從神」とされる「勝村大明神」と「勝頼大明神」という、耳慣れない（不思議な？）二人の神のことである！別説によれば、「安（阿）部亟相（じょうしょう）（宮地嶽大明神）」「藤（とう）高麿（勝村大明神）」「藤（とう）助麿（勝頼大明神）」、あるいは「宗像三女神」と「勝村大明神」を祀るとも言われているらしい！！

深入りすれば、何ともややこしい？神社のような気もするが、ここで、改めて気になるのは、「藤（とう）」という名の人物（神）である！現在（代）も、まさに「藤（とう）さん」という人が、福岡県にいるが（知人にいた！）、この「藤（とう）」氏？の末裔なのではないかかと思ったりもする！！

ということ、このまま「宮地嶽神社」を深掘りしていくと、これまでの、「老松（神社）」への接近が、ある意味遠ざかる恐れもあるが、実は、この神社と、近場の、かの「宗像大社」とは因縁深き関係にあり（前者は、後者の「元宮」だったというような話もある）、そして、その両者（神社）は、件の「老松（神社）」と大いに関わる？、筑後の「三沼の君→筑紫の君？」が庇護（進出？）した神社であることも、間違いないさそうなのでもある!!

しかも、その筑後には、他ならぬ「藤（藤）大臣」という人物もおり（武内宿禰ではないとも言われている）、先の「陪從神」「藤（藤）氏？」のことが、俄かに頭を過るわけである？であれば、その「三沼の君」筑紫の君？が、「大善寺玉垂宮」や「高良大社」の創建を担ったことは、これまた事実のようであり、かの「空白の4世紀」の重要な場所と見做される「北部九州」の実態が、

《編集後記》 今回は、いつにもまして、過去を振り返ること（モノを通して？）が多かつたが、それは、裏を返せば、新たなモノを得る機会が、やはり少なくなっているからであろう!! ただし、古代史においては、偶然の機会であるが、「宮地嶽神社」（間接的には「宗像大社」も）にも視野を広めることが出来そうで、大いによかつたと、一人（否、二人?）喜んでいるところである（もちろん、「旅」自体も、楽しみであることは言うまでもない!）

（井上ノ堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 9 号

発行日
2023. 8. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○やっとの思いで帰沖！何というハプニングの連続！

戻ったら、予定していたタイトル（話題）で書こうと思
っていたが、あまりにも、今回の旅（福岡・岡山・鳥取）の
インパクトが強すぎて、急遽変更して、この旅でのことを
題材に書いていくことにする。なお、予定のタイトル（話
題）は、何故か、忘却のかなたへ…（何と言う記憶力？）!!
とにかく、まずは出発日（先月28日）、台風5号の影響
で飛行機が飛ばないことを心配していたが、予定通り飛ん
でくれて、初日の福岡での、高校時代の旧友との再会（宮地
嶽神社訪問を含む）も実現したが、次の、思いもよらぬ台風
6号の襲来によって、帰沖の日（31日）が大幅に遅れた！
本当に予期していなかった事態で、我が家に戻れたのは、
実に、月が替わった3日であった（結局、2倍の日数！
延泊は、幸いにも、福岡にいる次女のアパートで出来た
ので問題はなかったが、帰りの便のチケットがなかなか取
れず、3日の便となった次第である（移動の大変さはあった
が、4日の、鹿児島空港からの便も押さえてはいた！）！ちな
みに、これらの手配もまた、我が奥さんによるものである
！何という人なのか（スマホの達人？）！
しかし、ここには、思わぬハプニング？そして、さらな
るアクシデント？が挟んであり、まさにとんでもない旅と
もなった（飛行機は飛んだが…笑）！その一つがコロナ感染
未遂事件で、我が奥さんが、鳥取でもらったかもしれない
？！コロナの濃厚接触者となり、二日間は、次女のアパー
トで、逼迫状態で過ごし、何とか確保した3日のチケット
で帰れることになったのであるが、福岡に引き返すことも
あるという条件の中での、ひやひや帰路であった！

💡だが、あにはからずや、次なるハプニングが、密かに
待ち受けていた！というのも、現在空港の上空に雷雲が
発生しており、出発を見合わせるということであった！
もちろん、それでも帰れるなら、それもやむなしとい
うことで、2時間近く待つて、いざ改めて出発というこ
とで、機内に着席して、しかも、いざ離陸という直前に、
今度は、機長からの、予期せぬ機内アナウンスがあり、
冷房システムの異常で、回復に時間がかかるということ
で、待つていたが、結局回復せず、思いもしない、機材
変更ということにまでなってしまうた！よくぞ、こんな
ことがあるものである（まさに初めての経験！）!!
乗客全員、荷物とともども、搭乗口まで戻され、1時間
半くらい待たされ、やっとの思いで、再搭乗の運びとな
った！都合4時間くらい遅くなったが、幸い那覇空港に
は降り立つことが出来た！本当に、やれやれであった！
ついではながら、家に着くと、電気はついたが、断水状
態であった！とにかく、大変な旅であったわけである！
○とうとう、私（達）のところにコロナが来た!!
なお、ここには、この話の続きともなるが、とう
とう私（達）のところにも、コロナが来たのかというこ
とで（鳥取で濃厚接触者となる！とりわけ我が奥さん！）、
まさに、覚悟をしたということであるが、どういう訳か、
一緒に行動した私達（家族全員6人）は、全員発症する
ことはなかった（本当にやれやれである！）！
ただし、（私達）の結果が、都合6回のワクチン
接種の賜物なのかどうかは分からない？まだまだ、コロ
ナの脅威は、そこにあるということでもある！

○今も継続中の台風禍！世界的な異常？

こちらでは最後になるが、こんなに長い時間、私（井上）の
日常生活（旅を含む）を混乱させていながら、今回の台風（6号）
は、まだまだ近海をうろつき（進路が変わり、動きも遅い）、新
たに九州地方を襲おうとしている！そしてまた、その東方海上
には、俄かに新しい台風（第7号）が発生し、盆休み期間、日本
本土（東日本→西日本）を直撃しかねない動きを見せている!!
地球温暖化の影響で、これまでの気象条件が、かなり変質し、
かつて経験したことがないような、世界的な異常気象が、各地
で出現してきているようであるが、今回の度重なる、そして奇
妙な動きを見せる台風の襲来は、その一環なのかもしれない!!
そんな中、今回の台風（6号）から思い出されたのは、いつの
ことだったかは定かではないが（他にも、台風によって、予定して
いたスケジュールやイベントの中止・変更は、数限りなくあるが）、
ある時の台風が、東シナ海上で東西を行き来し（ほとんど二直線
上）、その間の学部行事（ユース・クロスロード、確か「座間味」
が出来ず、秋に、やり直したことである！

ちなみに、その時は、何故そのような動きとなったのかは分
からなかったが（自然・神？のいたずらだと思っていたように
も思う？）、今回、改めて分かったことは、その原因が、太平洋
高気圧の張り出し具合（偏西風の動きも連動した？）によるもの
であるということである！

とにかく、ここ沖縄は、毎年、このような台風禍に悩まされ
るのであるが、実は、冷静に捉えると、本土でも、毎年、どこ
かで水害に見舞われ、各地で、その爪痕、悲しい記憶が、積み
重ねられている（テレビ等で、それぞれの慰霊祭等が、頻りに紹介さ
れている！）！今や、全国どこでも、そうした災害が起こり得
ることを示しているわけである（「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」
といった用語の使用は、まさに日常茶飯のこととなっている！）！

末尾だが、災害による行事の変更ということ、もう一つ思
い出されるのは（生涯学習教育研究センター長時代）、かの3・1
1のことで、文科省との共催で開いた大々的なイベントが中止
となったことである（後日開催！大変な思いをした！）（井上）

○パソコンなしで過ごした1週間！

さて、表のI氏の報告？からも分かるように、私堂本の方は、一週間も、パソコン操作から離れてしまったことになる！多分、こんなことは、この地に引越してきて初めてである！しかも、たとえ旅先であっても、何かを考えたり、本を読んだり、はたまた短歌の走り書き等を準備しながら、I氏と共に、私堂本も動き回るのであるが、今回は、そのようなハブニングやアクシデントの連続が、現実の行動を甚だしく規制するものでもあったので、ほとんど何の蓄えもなく、帰宅した次第である！しかも、心配だったのは、パソコンに向かう気力であったが、案の定、台風之余波も続いたこともあり、ほとんど芳しくない状態で、数日を過ごしたことになるわけである！つまり、この間は、単なる旅先脳、日常脳（要するに、その日、その時に、取り敢えずは何をするのかだけを考えている状態？）であったわけであり、いわゆる「思索脳」ではなかったということである！だから、なかなか文章がうまく作れず、この記事作成も、あつちについて、こつちについてという状態で進めている次第である！

ということ、これからの、『岳陽』と共に」の記事作成も、かなりの難渋を強いられるものになろうが（もちろん、台風後の厳しい暑さもあって！）、まだまだへこたれるわけにはいかない！それは、まさしく自分（達）のためでもあるが、様々な分野・場所で、それこそ身を粉にして（大いなる労苦を背負いながらも）、否、自分の人生の実現・成就のために、一生懸命に頑張っている人がいるが（当然、自国の存続、尊厳を守るために命を賭して戦っている人達も含めて！）、その人達に申し訳ない！！

とりわけ、私の方は、そうした人達と、心のどこかでつながっていたい！あるいは、そういう人達の、何かの役に立つ存在でありたい！そういう思いで（ここまでできたわけであるので、これからも、そうありたいと思うわけである！！）たとえ、それが無力であつたとしても！！

○100歳で「生きて」孫達を集む！何という逞しさ！！

ところで、このことは、是非、私堂本の方から付け加えておきたい！それは、今月で100歳となる義母のことである！今は、それを祝う会も、おそらくあちこちで開かれているだろうが（沖縄では、そのお祝いを「カジマヤー（風車）」と呼んでいる、我が近親者には、これまでそういう人がいなかったたので、いささか驚いているわけであるが、それはともかく、ここで言いたいことは、この100歳の義母（老女）が、自らの孫達を全員（曾孫を含む）、「生きて」、一堂に集めたということである（過ぎ去った、若かりし頃のようにな！）！私は、このことに、いたく感動するのである！

ただし、余計なことであるが、三人の子ども達（連れ合い含む）の二組は、実はコロナ感染で、出席が叶わなかった！したがって、何とも奇妙な集まりとなった（まるで「いと云」の様）。しかも、これには後日談？があり、当の義母も、次の日に感染が確認されたということである！当日、それが分かっていたならば、その会自体も、本当は実現しなかったということでもある！何という「遅しき」！

〈短歌に託してよくぞこんなにいるんなことが！〉

・台風 コロナ 雲雲 そして空調！

よもやこんな旅に なろうとは！！

・だがこれもまた 楽しき

そして思い出深き 旅となる！！

・福岡・蒜山・鳥取 懐かしき家族旅行

こんな光景 昔は沢に

・100歳の老女 コロナに負けじ

生きて孫達集む いと凄し！

・宮地嶽 福岡・佐賀・長崎に 散在す

この理由も明かす 文献欲す

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑨

○残念ながら、「宮地嶽神社」の謎は追えなかったが…！！

翻つて、今回の旅の、もう一つの楽しみであった「宮地嶽神社」訪問であるが、残念ながら、その謎は追えなかった（ある意味当然ではあるが！）！ただし、巨石（近くの相島から運ばれた玄武岩 古墳（6世紀末建立？）横穴式石室／大塚古墳／四墳／奥宮／番社不動神社。日本一の大きさを誇る）を中から見ることが出来て、貴重な体験とはなった！いずれにしても、よくぞこんなものを作ったものである！余談ではあるが、そうめん流し（無料）もいただくことが出来た！予想外の贈り物？であつた！！

改めて、その古墳は、当時の北部九州の王（安曇族？）墓とされ、その黄金の出土品多数（国宝）から、地下の正倉院とも呼ばれているようである（金の鎧あみ・冠・馬具類・大太刀等数多くの埋蔵物が発掘され、20点が国宝に指定！有名な「光の道」は、当然現れなかったが、後背の山（在自山／宮地嶽）と社地、そして、階段と鳥居が織りなす光景は誠に秀逸であつた！しかも、その鳥居の神紋が、かの「三階松紋」（老松）であつたことを後で知った（本当は、ここに迫りたかつた？）！やはり、これは、筑後（第9代）開花天皇あるいは「藤大臣」？と関係がある！そして、そこには、改めて「安曇族」との関係もあるわけである！

とは言え、これだけの収穫で終わるわけにもいかないので、新たにネット上の情報を探してみると、何と、この「宮地嶽神社」、ここを総社として、福岡・佐賀・長崎に散在しているとのこと（17社。我が故郷唐津には2社も！）、しかも、それらは、見ようによつては、例の筑後の高良大社周辺と背振山系を、それぞれ取り囲むように配置されている！！

ますます興味が沸くのであるが、もちろんその詳細は分からない？！何故、「宮地嶽神社」がそのように配置されているのか？どこかに、その情報はないものか？だが、そこが、新たな謎（「空白の4世紀」の真相解明の道？）として、浮かび上がってきたことだけは確かである！！（堂本）

〈編集後記〉ということで、以上、台風を挟んだ、本土への旅のこと（そこにあつた数々の事件？）を、過去の思い出とともに書き記してきた！本当に、旅は何が起きるのか分からないもの！！ちなみに、古代史では、結果的には「宮地嶽神社」への接近が、少し出来たのかもしれない！！とにかく、かの「神功皇后」伝説は、大いなる謎（真実？）を有していることは間違いない！！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 10 号

発行日

2023. 8. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○この世界は、一体どうなっている(く?)のか?!

先号(第9号)では、急遽予定を変更して、この夏の旅(福岡・岡山・鳥取)を中心に書いた。そこで、ここでは、元々予定していたテーマ(話題)で書いていきたいわけであるが、そこに予め書き記していたのは「金スマ」、そして、「ヒューマニエンス」というキーワードであった!しかしながら、果たして、どのようなことを書きたかったのか?残念ながら、その具体的な内容(具材?)が思い出せないでいる!何という、体たらくなのであるのか?!

ただし、見出しは、標記のようにしていたわけであるので、そういうことに関わる内容のことを書きたかったのであらう!!おそらく、「金スマ」については、7月21日の【エンタメ界を変えた!「音楽の日」事務所の垣根を越えた90人ダンスコラボの裏側】という番組のこと、「ヒューマニエンス」については、毎回知らされる最新の研究成果からであらう(ちなみに、前者の番組は、直接視聴しているわけではない!)!!

とにかく、今改めて思うことは、世界が、「思っている以上に変わっている」、これまで当たり前だと思っていたことが、当たり前でなくなっている(気象等を含めて)!!そういうことが、あらゆる分野で起きているということである(教育も然り?)!!

ちなみに、最近よく、「ニューノーマル(新しい普通?)」という言い方がされるが、問題は、それが、どのように、人々の生活(生き様)に影響を与えるかである!!全員が、うまく適応できるとは限らない!!そこにまた、新たな喜悲劇が生まれる!!

○久しぶりの、沖縄での家族再会!懐かしいが、以前と違うものも多々あった!!

いずれにしても、そうこうしている間に、今年の盆休み(13〜15日)も、あつという間に過ぎ去ってしまった!そこでは、例の、怪しげな?本土旅の、すぐ後の再会自体は、それほど喜びではなかったが(もちろんこの間のコロナ禍で、この面々での沖縄での再会は久しぶりではあったが)、懐かしさも手伝って、楽しく過ごさせてもらった(私の夏は、ここで終わったということ?)!

しかも、私自身は、腰や下肢の不具合があり、動きそのものは、まさに老体そのものであったが(何とも情けない)、何とか昔と同じような光景を再現しようと、精一杯の努力はしたつもりである(特に海での釣り)!!

なお、この間、福岡で夜間保育の仕事をしているOさん(北海道出身。ゼミ生ではない!)が訪ねて来たり(別便で、北海道の変わった?日本酒も頂いた!)、昨日(27日)は、今や恒例?となっている、これまた北海道出身のO君(沖縄で小学校の先生をしている)がトウモロコシを持って来たりと、当時の若者達との再会も、それなりにあった!本当に、有難いものである!

思うに、今やこういう機会(再会)も、めっきり少なくなっており(もちろんコロナのせいでもある)、こうした訪問は、非常に貴重で、その中で、他の若者達の近況(消息?)等も知れるのである!ということ、出来たら、彼らとも、またいつか出会えればなあとも思う次第である!やはり、時は過ぎ去っているわけである!

○最後(最期?)に書くべきこと!!

ところで、これについては、以前どこにも書いたかと思うが、そしてまた、多分これが、もう一つ、先号(9号)のために書き記せなかったことでもあるが、一つケリ?をつけておかなければいけないことがあるということである!!ただし、その思いは、この間の様々な出来事によって、かなり色褪せたものとなつてはいる!!やはり、物事には、「旬」というものがあるということである!!否、それはまだ、機が熟していないということでもある!!

まあ、それはともかく、改めて、それは、私(達?)が、ここで「最後(最期?)」に書くべきことは何か?ということであるが、たとえそれがどのようなものでも(結局は、実現しないこともある)ということであるが、一応(二度?)は、事前に明示しておきたい、言い換えれば、途中で?、自分(達?)に言い聞かせておきたいということである(ちなみに、忘れないために?笑)!

ということ、私(達?)と同じ「古希」を過ぎてしまった人でも、毎日が忙しい、あるいは他にやる事が山ほどあつて、とてもそういう「暇人の戯言?」には付き合つてはおられないという人もあるであらうが、少なくとも、これまでの私(達?)からすれば、これは、とても大きな宿題(卒業課題?)でもあるわけである!!

要は、故あつて、ある意味不本意な?日々を、既に7年以上も送ってきた私(達?)であるが、もうそろそろ、そうした心持ち(過去への拘泥?)は脱して、真の老後?を送り始めなければ(否、楽しまなければ?)いけない!!そうでなければ、はつきり言つて、自分自身がみつともない(惨めだ?)ということである!!そんな思いが、ここに来て募つているということである!!

ついですが、その最後(期?)に書くべきこととは、「教育」「沖縄」「古代史」のことであるが(だが、本当の?最後(最期)は、「家族」のことかも?)、問題は、いつの時点で、それらを書き記して(否、残していくかである!!今は、まだ何とも言えない!)とにかく、「その時」が、それぞれ来るはずである!!ただし、その予備作業は、今、ほとんどは終わっている!!

(井上)

○そんな中、見つけ出してしまった、別の次元での、もう一つの過去?!

ということで、表に最後に記された、I氏の思い(最後(最期?)に書くべきこと?)であるが、やはりそこには、まさに「終活」に向けてシフトしているI氏の姿(心の動き)が垣間見えるわけである?!したがって、もう一つの問題は、それに連動して、私堂本の方は、どのように、それに絡んでいけばよいのかということとなる?!

そんな中、改めて、表の記事とは、直接には連動しないが(否、そうでもないかもしれない?)、いつものように、一日の最後の仕事?ということ、深夜(正確には早朝?)、パソコンに残していると思われた、ここ(宜野湾市の大謝名に移り住んだ直後の頃の書き物(現在、HP上に乗せている書き物とは違う、もう一つの、言うなれば隠された秘密の書きモノ?)を見つけてしまった!それは、私達(直接的にはI氏?)の、表には出していない、「別の次元での、もう一つの過去?」ということでもある?!

ほとんどが、未完のもので(私小説的なものもある?)、いつかは書き上げようと思つての、まさに「途中」の代物ばかりではあるが、その時はその時で、精一杯の思いを込めて書いたものであらう!ちなみに、I氏の、大学院時代の提出レポート(打ち換えも収録されている!)

ただ、今改めてそれを見ると、ほとんどが、私堂本の作品となっており、それを、今更どうすればよいのか、いささか困惑しているわけでもある?!しかし、折角同じパソコンのフォルダーに入れているわけであるので、何とか整理しておかなければならない?!否、いつかは、これもまた、「その時」が来たら、何らかの形で葬らなければいけない!!
そんなこんなで、パソコンとは厄介なものである?!

○改めて書き始めた? 「新・教育協働への道」!

ちなみに、最近の書き物から、私(達?)の、特に「教育」に関わる論考に、かなりの弱気(諦め?)が鏝(も)りはめられていることは、誰にでも分かると思うが、ただそれだけであれば、やはり何とも情けない(悔しい?)!まだまだやらなければ、頑張っている人達に申し訳ない?否、自らの老いに、ただ負けている?!そんな思いも、離れずにある?!それ故に、この夏の暑さともおさらばということ(実際は、まだまだ暑いが!)、別コーナー「新・教育協働への道」をみてもらえばと思うが、新たに(ただし、これは何度目かな?)、そして元気に、次なる?歩みを始め出した?!

とにかく、まだまだ止まってしまうといけない、否、止まっていたら、ある意味(状況次第では?)、絶好の(「真正正銘最後の?」機会を逃すかもしれない?!だから、もう少しだけ頑張つてみたい?!そう思つてのことだということである?!※そこで、もしよかったら、そして、興味のある方は、是非こちらのページ(別コーナー)も、笑読下さい。

〈短歌に託して今年もまた、夏が過ぎる?!〉

・ ニューノーマル その物言いに 何がある?

混乱だけなら アブノーマル?

・ 久し振り 顔を合わせた 全家族

同じようだが 同じではなし!

・ 最後に書くべきこと?!

そんなことまで 何故記す? 誰のため?

・ 断捨離? それとも終活?

我が秘かな書きモノ 如何に葬る?

・ いつまで歩むか? 教育協働への道?!

躓(つまず)くだけだったら ただの道?!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑩

○開花天皇 高良大神、武内宿禰、住吉大神、神功皇后の絡み? そこが解明されれば、一氣に謎は解ける?!

話は、ここ(で)がらりと変わるが、いわゆる「大和朝廷(厳密には、8世紀初頭の持統・藤原政權)」が、記紀の編纂(ひよつとしたら『日本書紀』だけ?)を通して(「神話」の創作を含む)、自らの政權の正統性・正当性を言い募り(でつち上げ?)、都合の悪い(本当は真実であつた!)過去の歴史を歪曲あるいは改竄して、かの(自分達に都合の良い?)「万世一系」の系譜を創り上げたということ(これは、ほぼ間違いない!)こと(しかし、現時点では、このことさえも、まだまだ真実とは捉えられていない?)、そして、その中で、最も核心の部分となるのが、まさに現在追跡?中の開花天皇(玉垂命↓老松?)、高良大神(高良大社↓太宰府天満宮?)、武内宿禰(藤原大臣?)、住吉大神(塩土老翁?)、そして、神功皇后(息長足姫)の絡み?」なのではないかということである!

ただし、いずれにしても、その「絡み?」の解明で難しいのは、そこにあつた「旧奴(邪)国(倭奴国?)」の存続状況であり(例の「帥升王」や本来の奴(邪)国王であつた?「大幡主(大若子命/武埴安彦?)」の存在↓多分そこに、かの「卑弥呼」「邪馬台国」の出現が関係している?)、その後の「吾(吾)与」「(神功皇后)に仮構されている?」勢力の移動変質の過程であることは言うまでもない?!

端的に、かの2世紀末の「倭国大乱」が、どのような勢力によつて、どのように引き起こされたのかということであるが(そこら我が国の形/倭国↓日本が作り出されてきた?)、このコーナーで話題としているのは、そこでの「開花天皇」(玉垂命↓老松?)、そして、「武内宿禰」(九州中南部から北上してきた「熊襲」勢力↓姫/紀氏?)らが、それらとどのように関わっているのかということである?!そしてまた、その攻防・交わりの地が、高良大社と背振山系周辺であつたということである?!(堂本)《編集後記》今回は、いつもの台風とともに、その間にあつた、友人との再会、家族旅行等、そして、そこにおける数々のハプニングが、ここでの記事作成に大いに関与し、予定していた題材もほとんど瓦解?!しかし、一応は、書きたかったことは書けた?!そういうことである!なお、古代史の方は、改めてこれからである!福岡への旅は、今後とも増えるかもしれない! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 11 号

発行日
2023. 9. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel: 098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○メディアが創る？虚構の世界？！

過日、某テレビ局の「24時間テレビ」の一部を見た(ある時期は、確か子ども達と一緒に、一生懸命に見ていたように思うが、最近ではほとんど視聴はしていなかった！)！ひょんなことから、そこに、理央奈ちゃんという、6歳のインフルエンサー(障がいをもっているにも関わらず、健気に生きている！)が出ていることを知り、その活躍(存在)に驚いた(感動させられた？)！詳しいことは、ここでは書けないが(忘れてしまってもいい？)、とんでもない少女であった！しかも、これだけではない！同番組のウリ？でもある、「チャリティマラソン」の、今回のランナー、ヒロミ(呼び捨てで申し訳ないが？)のことも、正直言って、心を打たれた！一応は芸能人であるので、番組を盛り上げるための芝居だったかもしれないが(家族やスタッフを巻き込んだ？)、私には、それを越えて、一人の人間の真摯な生き様を見させてもらったようにも感じられた！

ということで、テレビを始めとして、多種多様なメディアが、真実を伝えたり、意味のあるエンターテインメントを提供したりしているわけであるが、そこには、奇妙な？虚実合いまみえた現実が存在する？！そして、そこには、たとえ偽善(創善？)と金儲けであつても、それによつて感動、そして救われる人達がいる？！実は、そのことも、大切な事実だということでもある？！ただ一人、心で思っているだけでは、そういうことは実現しない？！改めて、痛感！

ただ、メディアの虚構というものはそういうものであるうが、その中に、決してあつてはいけない(だが大いにあり得る？)人間模様もある(今回の某芸能Pのように！)？！

○果物が織りなす「サマーフェスティバル」？！

さて、ここでは、ある意味珍しい話題となるが、この夏は、様々な果物との出会いがあつた(いつもの夏も基本的に同じであるが？)！メロン、ブドウ、梨、桃といった案配であるが、後者三つは、ほぼ同じ時期のものであるので、そういうように思うのかもしれない？！

ただし、もちろん、これらは、すべて自前で得たものではなく、私と、私の奥さんの兄弟／姉妹、そして知人からの贈答品である！それに、私達が贈ったマンゴーを加えれば、それこそ、果物が織りなす「サマーフェスティバル」(ちよつと大袈裟か？)といったところである？！

糖尿病を患っている私からすれば、かなり複雑な「サマーフェスティバル」ではあるが(二度に沢山の量は頂けない！)、いずれにしても、私達の兄弟姉妹(そして、当該知人も)は、全員が70歳以上の高齢者である！しかも、私の長兄と次兄は、近況報告？によると、それなりの大病を、最近患っていたらしい(手術・入院もあつた！)。要は、こうした遣り取りを、いつまでやれるかということでもあるが、改めて思うと、最早こうした遣り取りが、自分達の関係(つながり意識)を実感する、数少ない機会となつていっているのかも？！だから、やれる間は、やり続けよう！そんな会話も、今回したばかりである！

メディアでの様々なニュース、嬉しいスポーツニュース、そして、醜悪な芸能ニュース、そういう中での細やかな身内話。これもすべて、今の私の日常なのである！ちなみに、ウクライナ情勢だけは、別次元で気になっている(毎日ネットで見ている！)！これも、日常である？！

○我々の世代は、歴史から抜け落ちている？！

ところで、最近よく、「Z世代」という言葉を耳にするが、あまり気にもせず、いつものように、マスコミが創った煽つた？気まぐれ新造語(例えば、〇〇王子のような？)だと思つてやり過ごしていた！しかしながら、今ここで、改めて書くことではないかもしれないが、あるネット記事(池上彰氏の本に関わる)を読みながら、ある意味では大変なことを思い知らされた！

それは、我々(今現在、「古希」前後を生きている世代。ただし、数年間？否、そうでもなさそうである？)が、残念ながら「歴史から抜け落ちている世代」なのではないかということである？！端的に言えば、戦後間もなく生まれた「第一次ベビーブーム世代(団塊の世代)」はともかく、その子ども達にも、「第二次ベビーブーム世代」という、歴史を背負う？名前がついている？！

ただし、問題は、それではない！第一次ベビーブーマー達が大人になり、社会の中心を担う世代になったとき、「次の世代は何だかよくわからない」「われわれの常識が通用しない連中だ」ということで、「X世代(60年代中盤～80年頃の生まれ)ジェネレーションX」と呼ばれた！

それはそれでよいのであるが、実は、その次の世代(81年～90年代中盤生まれ)が「Y世代(ミレニアル世代)」(ミレニアム/2000年を経て成人していく、多感な青春時代以降を21世紀にすぎず世代。若いときからインターネットや携帯電話を使いこなしてきた)。そして、その次の世代(90年代中盤から2000年代序盤頃に生まれた世代。主に現在の高中生から20代を指す)が「Z世代」と呼ばれ(単なるアルファベット順ではあるが！)、彼らは、物心ついたときにはスマホが身近にあり、インターネットのない生活を経験したことがない最初の世代だということである！

で、2010年以降生まれの人たちは、「R(リアル)世代」と呼ばれるようである？！ということは、団塊の世代以降、1960年代中盤までに生まれた我々には、〇〇世代という位置づけがない？！我々の世代には、歴史を背負う名前がない？！そういうことである？！何と言うことだ？！(井上)

○何故か蘇ってきたあのころの情景(感覚)!!

ということ、ここでも、表面のI氏の書き物に関わって、私(堂本)なりの述懐を書き記しておきたい。それは、たとえ「〇〇世代」と呼ばれていなくても、我々の世代?には、れっきとした?それなりの時代情景(感覚)があったということである!!それは、かの「高度経済成長期」を謳歌する前の、言わば「過渡(端境)期感」であろうが(だから、〇〇世代と名付けられない?)、何らかの世代ではあったということである!!

しかるに、思い起こせば、田舎出身(佐賀県唐津市の農村地)の私達(当時はI氏のみ?以下、同じ)からすれば、大学進学のために移り住んだ大都会?広島(本当にそう思っていた!)は、すべてが驚きであり、新鮮であった!まさに純粋無垢な青年には(貧しかった!野球しかしてこなかった!)、とんでもない「時と場所」であった!

だが、一方では、思わぬ世界も待ち受けていた!いわゆる「学園(大学)紛争」と呼ばれるものであるが、それは、私達の世界観を大いに動かし(創り?)、その後の奇妙な?人生をも導いてくれた(かなりの紆余曲折もあったが!)

とは言え、当時の私達の思いや行動は、例えば、三田誠広の『僕って何』や村上龍の『限りなく透明に近いブルー』に、直ぐに刈り取られ、今や、さだまさしや水谷豊らによって、別な花として植え替えられている(実はみな同じ歳!否、三田は違う!)!!もちろん、それでよいのであるが、ただ私達には、もう一つの、『遅れてきた青年』(大江健三郎)が心のどこかにいる!!そう、私達は、勝手に?「遅れてきた(祭りは終わった?)」!!そう思っ生きてきたとも言えるが、その「祭り?」は、今も、どこかで、誰かが行い続けている!!否、見続けているとも!!

○文章表現における「自分なりのこだわり」!!

さて、ここでも、ある意味?突然ではあるが、「自分なりのこだわり?」を開示してみよう!ただし、これは、私堂本よりも、I氏からの告白?であった方が良いのかもしれない!!それはともかく、我々の文章には、とにかく「!!」という表記がやたら多い!断言してはいけないということでもあるが、最終的には、読み手側の同意によって、その位相?を決めたいということである(迷惑な話かもしれないが?)!もちろん、自分自身は、基本的には「!」ということではある!!

他にも、「括弧書き」が多い。読み手にとつては、「極めて不評」だということは分かっているが(本当である!)、どうしてもそのようになってしまふ!そして、可能な限り、接続詞を入れる!節/段落間の関係を明らかにするためであるが、書き手としての自分への意識づけという意味もある(ただし、同じ表現は使えないので、選択にはかなり苦慮している!)!とにかく、著述家としては、失格かも!!

〈短歌に託してゝまだまだ暑い!秋よ、早く来い!〉

・偽善 創善 金儲け?

救いや感動あれば それもよし!!

・ある意味重なる 季節の贈答

だが、その遣り取り 極めて貴重!!

・〇〇世代? 何と呼ばれようが 我が人生!

無冠であつても それでよし!

・何故か蘇った あのころの感覚!

でもそれは 自分だけの 〇〇世代!!

・自分なりのこだわり 客商売なら 法度!

でもつながれば それで本懐!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑩

○「倭国大乱」に端を発する、我が国の形(倭国+日本)!!

ということ、ここからは、改めて、いわゆる北部九州(高良大社と背振山系周辺を中心とする地)でどのような史実が展開されたのかということになるが、関わっている人物(多くは「神(命)/姫」として登場している?)としては、開花天皇(玉垂命+老松?)、武内宿禰(藤大臣?)、住吉大神(塩土老翁?)、神功皇后(息長帯姫)ということである!!もちろん、そこには「中国史書(『魏志倭人伝』等)中の「卑弥呼」や「台与」、そして「帥升」「難升米」「狗古智卑狗」等!さらには、「天照大神」「素戔嗚命」「大國主命」「天物主/オオナムチ」、そしてさらには「大幡主(奴国王?)」といったところであるが、彼らが、どういう勢力で、どのように出会い、その攻防を繰り広げたかであるわけである!!

そこで、まず、改めて問題となるのは、その交わり・攻防の大きなきっかけであった?2世紀末の「倭国大乱」ということになるが、それはおそらく、それまでの盟主であった「(委)奴国」(博多湾沿岸地域)と、その隣国「伊都国」、そして、新たに登場してきた、内陸部の「邪馬台国」との、言わば三つ巴のせめぎ合いの経緯・形であるということになる(結局は、伊都国と邪馬台国が組んで、新たな連合国家を形成した?)!!

詳しいことは、ここでは示せないが、その経緯の中で、旧「(委)奴国」の王族や、それとつながりのあった「伊都国」の一部の?王族達が、その地を離れ、山陰、近畿、九州南部、さらには半島南部等にも移動し、それぞれが、新たな生活の場を創り出していた!!そして、その中で、新たに大きな勢力を創り上げた「出雲」と「吉備」の勢力が、邪馬台国連合や中国・半島からの脅威を回避するためあつて、先に移動していた「尾張」「丹波」の集団(海部族?)とも力を合わせ、畿内大和で別な(新たな)中心を形成していった(↓嚮導遺跡)!「記紀」は、そこをもって、我が国のスタートとしている!!改めて、それは何故か?(つづく) (堂本)

〈編集後記〉とにかく、まだまだ暑い!時たま、涼しい風がベランダから吹いてくるが、秋は、当分訪れそうもない!!それはともかく、書く(パソコンを打つ)という行為は、年毎に(極端に言えば日増しに?)過酷となっている!!古代史の方はともかく、他の題材のラインナップ、そして、目、腰、臀部、下肢の不具合が、それに拍車をかけている!!でも、これしかないのだ!! (井上ノ堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 12 号

発行日
2023.9.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○知り過ぎる、分かり過ぎることはいいことか!!

さて、このことも、もう随分前から思い続けていたことであるが、それぞれの人生において、世界情勢や国内における様々な事件・事故等(その中にはいわゆる醜聞や闇の世界の出来事?も入っている!)を、これでもか、これでもかという形で、知り過ぎる、分かり過ぎる(ある意味知らされる?)ことは、本当にいいことなのかどうか!!

そんなことを思ったりもしてきたわけであるが、単純に言えば、知らない(分らない)方が、むしろ幸せなのではないかということである!!そんな馬鹿なという人も、もちろん多々いるであろうが(過剰な?「知る権利」を主張する人々や、いわゆる「愚民政策」として批判する人々は、ここではともかく!!、そこにある無力感や絶望感が、何とも哀しくて仕方がないということである(そつとしておく、分かる時に分かれればよいというようなことでもある?)!!

改めて、こんなことを言えば、それこそ「庶民」を愚弄しているとか言われそうだが(自らも庶民なので何とも言えないが?)、要は、気がつけば、知らなくとも(分からなくとも)よいものまで、実に嫌というほど見せつけられているということである!!何のために?それは、内外の情勢(沖縄のこと)であれ、宇宙や自然界、そして人間(人体含む!)のことであれ、膨大な情報に晒され、その解釈、反応(納得?)に、アレルギーさえ起こしてしまっているのではないかということでもある(科学やITの発展が、それに拍車をかけている?)!!

○ミッシェン(任務?やりがい?生き甲斐?)に想つ!!

先程、某銀行の○○さんから、突然の電話があった! 予期せぬ?転勤(職場移動?)で、来月から担当を離れることになるので、一度挨拶に来たいということであった!同銀行の、言わばありふれた顧客対応の一環かもしれないが、ただ、そればかりではなさそうな感じでもあったので、いささか感動を禁じ得なかった!!

とは言え、結局は、そこまでする必要はないですよということで、丁重にお断りしたのであるが、それとは別に、ここで俄かに思ったことは(余計なことであったが?)、彼女が、どういう思いで、その仕事(銀行員)をしているのか?ということであった!

というのも、丁度昨日(19日)、我が奥さんが深夜見ている、「転職」をサポートする仕事をしている若者達のドラマ(題名は覚えていないが!偶に、歯磨きをしながらチラ見している!)のことが、頭を過つたのである!!

折しも、先日終了した「Vivant」とも関係するが、仕事とか、ミッシェンというように、今更ながら少し関心を向けているので、彼女には、少々(かなり?)迷惑であったかもしれないが、今日眺めていたネット記事の、教員の仕事とかミッシェンのことも含めて、考えた次第だということである!

要は、「Vivant」でのミッシェン(この場合は任務)については、少々荷が重いので、これ以上書きたくはないが、人は、折角人として生まれてきたわけであるので、自らの生活や仕事を、ある意味でのミッシェンと捉えていければなあ、改めて思ったということでもある!!

○私(達)は、今なお(永遠に?)「遅れている」!!でも:

ところで、先号(11)で、私(達)の世代には、「○○世代」というような、言わば、その時代を表象するような冠が着かない(強いて言えば、戦後復興の「端境期の世代?」)ということ、多少自虐的に書いたが、今回は、それを武器に? (ただ単に年を取ったということもあるが?)、その「端境期の世代?」という

ことで、全く私的な世界ではあるが、それを語ってみたい! すなわち、我々の世代(「端境期の世代?」)が持っている(持たされている?)、かの「高度経済成長期前後の意識や感覚」が、今、どのような状態になっているのか!そういうことでもあるが(細かいところは、何とも言えないが?)、今、目の前にある、それぞれの現実(実体?)の、言わば構図(全体像?)みたいなものが見える(分かる?)!!しかし、それが故に、自分の人生、生き方に、その構図(全体像?)が、うまく取り入れられていないということでもある(まさに、「マージナルマン」?)!!

言い換えれば、こんな私(達)の世代意識や人生談義とは無関係に、世の中は動いている(しかも激変している?)!そして、新たな危機や不安要素が増大している!!まさに、その意味で、相変わらず、私(達)は、「時代の端境」に位置しているのかもしれない!!だから、私(達)は、「今なお(永遠に?)、遅れている?」!!そういうことであるのかもしれない!!

かなりの抽象で申し訳ないが、私(達)は、ある時代の端境期の中で生を受け、頑張り、そして、年を取ってきたのである!私(達)は、その時代の空気(もちろん物質的なものも含めて!)を、あるがままに吸い、そしてそれを、我が子を含めて、次の世代に伝えてきたのである(生者としての当然の営みであるが!)!!

ただそれだけのことであるが、それは、前の世代、そして、次の世代、「その双方に遅れている?」という、かなり奇妙な世代感覚でもあるわけである!!しかし、それは、ある種の特異?であるかもしれないが、「その時代」に生まれ、育った人間(世代)の糧であり、一つの意地でもあるということである!! (井上)

○与えられた正義（自由・平等・博愛・平和）!!

ということ、今回もまた、表面のI氏の書きモノに誘われて、かなりヘビーなものになるかもしれないが、今有している正直な思いを、ここでは、堂本としての立場から、改まって綴ってみたい!それは、標記のことと関係するが、次から次へと発生する、世の内外の事件・事故、不幸に対して、その原因・構図が、何ともやるせないものであるということである!!

つまり、ある特定の人間、特殊な国家だけが、その原因・構図を成しているのであれば、それはそれで、その対処法もあるであろうが(ただし、それさえも、現実には難しいのも事実↓現今のウクライナ情勢!)、あの「国連」さえもが、何の手立ても出来ずにいる(その限界がどこにあるのかということも、今回改めて知らされた!)!!

本当は、分かりたくなかった!しかし、今の時代は、そういう訳にもいかない?そういうことである!しかも、出来るなら、こうして欲しい、こうあつて欲しいと思うのであるが、一方でまた、その原因・構図故に、心を痛めることはあつても、自らではどうしようもない状態となつていく!そのジレンマが、そこにあるということであるが、だから、学生時代に一時流行った?「偽悪」という思いや行動も、ほとんど意味を成さない!!

しかも、それら「与えられた正義」さえも、ある国、ある人達にとつては、自らのものとなつてはおらず、それを獲得、ないしは回復すべきものとして、今もなお、彼らの現実の上を浮遊しているとも言える!!何と厳しい(哀しい?)現実なのであるのか!!

とにかく、冷静に言えば、かの「自由・平等

等・博愛・平和」という観念は、我々の世代にとつては、言わば「与えられた正義」であつて、

自らが苦勞し、勝ち得たものではない!それらが軽いものと言うことはできないが、その新しい現実態を、自らが、ある意味汗水流して創出していかなければいけない?そういうことなのかもしれない(ただし、それは、決して「誰かの犠牲(死)」によつてもたらされるものであつてはいけない!)!!

それもまた、別途述べたように、分かるようになったがためにそう思うのであろうが、自分が持つている価値観や経験値では、如何ともしがたい!!また、そういうものを生かす場や関係が消失している!!もちろん、それが「老いる」ということでもあるが、単なる世代間の違い(ある意味では宿命?)で終わらせてしまつてはいけない!!そう思いながらの、今現在でもあるということである!!

〈短歌に託してゝ気持ちだけでも、迎えつつある秋!!〉

・知り過ぎる 分かり過ぎることは

よいことか? それもこれも 己次第!!

・ミツシヨ 上からは 複雑だが

見つけたものなら それは貴重!!

・我が世代には 二重の遅れ?

だが今となつては それが糧!!

・与えられた正義? たとえそうであつても

大切なものは 大切なのだ!

・逆転の発想? 実はそれは必然のこと!

何故ならそこに 真実ある故!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕②

○逆転の発想?が必要!「記紀」編纂の舞台裏!!

そこで、改めてであるが、記紀編纂(当時の政權は、そのような古代史の真相を知つて分かつていた!!だから、彼らの、編纂(ここでは「日本書紀」)の課題意識は、如何にそれを、自らが都合の良いものにするかであつた!!つまり、ある意味「最初から」、そこには「用意されたストーリー(骨格)」があつた!!そういうことである!!

すなわち、書記編纂の基本原則(藤原氏・持統天皇の正統・正当性の主張が、そこにはあつたということであるが、そこに、各地・各様の古文書や言い伝え等を材料として(重要氏族の家伝や、収集した「風土記」等を利用して)もちろん、そのしなれば、枝葉は描けない!!、大きな物語を創り出したということである(「神話」の創作・架上げは、その大きな武器やなつた?)!!

ただし、直接の『日本書紀』記述者(原案作成者)は、自らの矜持(自負、怨念?)でもつて、どこかに、その真実(虚実?)を伝えようとした(例えはわざと「あり得ない話」を挿入するとか?怪しげな「謎かけ」を行うとか?)!!また、一方の『古事記』は、それ以上に(これだけは真実を伝えたい!だが露骨な反逆は避けたい!)、誰か(おそらく「多(タ)氏」?)が、密かに別途用意したものであつた(だから、本当は「記紀」という括りは間違ひである!)!!

ということ、こうした史実説明の視点は、まさに「逆転の発想?」と言えるが、知れば知るほど(私の場合は、手に入る、一部の研究成果あるいは論者の知見からかもしれないが)ただし、それは、自分で言うのも烏合がましいが、かなりの量であると言ふまでもない!!、そう思えてくるのでもある!

要は、そのように見れば、これまでの多くの矛盾や謎?が、不思議なくらい鮮明に見えてくるということであるが、特にここでは、この「記紀」が隠そうとした、いわゆる「倭国大乱」前後の状況、とりわけ北部九州の状況が、実際は、どのようになつていたのか?そこを明らかにしなければいけない!そこに、「記紀」が暗示している、そして、編纂者達が、そこから繰り広げられてきたと認識している、つまり、そこがスタートであると考えられた、今現在(当時)の状況があるということである!!(堂本)

〈編集後記〉9月末、少しは涼しくなつてきたので、これからは、大いに外に出たい!そして、運動(ただし、ジョギング程度?)もしたい!出来れば、県外への旅もしたい!果たして、どうなるか?古代史の方は、新たな旅枕のネタも欲しい!!(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 13 号

発行日
2023.10. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○終わるといふところそこにあつた懐かしい情景が!!

心情的には、甚だ複雑ではあるが、かの玉城青年の家が、新館建設・再スタートのために、近々壊される! 昨日(9/23日)、その施設(建物)の思い出を語る、言わば「お別れ会」みたいなものがあつた! 参加者は、少し寂しくもあつたが、それぞれの思いを胸に馳せ参じた人達である(初代専門職員であつたKさん、最近、故あつて辞めたN君を含む)!

私は、現在、相談役をやっているということもあつて、多少遅れて、その会に顔を出したが、腰の調子も悪かつたので、その後の、施設巡り? には参加しなかつた(同席していた、何代目かの所長Yさんと、事務室で、昔話に花を咲かせていた!)。

私自身も、その施設での思い出は、それこそいろいろあるが、そこで行つた、大学の授業の一環での宿泊研修(1泊2日)、及び何度目かの利用の時のご迷惑(深夜早朝までの学生との歓談? ↓次の「朝の集い」の時の、当直の専門職員からの大いなる叱責!), またあつた時は、当時の若いミュージシャン(確かリッツという名?) とのミニライブや卒業生講話、そして、ゼミ主催の研究会の実施等、数々の思い出がある! 老朽化のためということであるが、その施設、そこで働いていた人、そして、そこを利用していた人にとつては、まさに、そこが、懐かしい情景を残しながら、「終わる」ということである! これもまた、一つの時代の流れでもある! なお、その敷地は、新施設の「キャンプ場」となるということである!

○調査団? の来所&夜の飲み会(うりずんの誓い?)

これもまた、同日(9/23日)、ある調査団? 4人が(その中には、40年振りという、院政時代の知り合いHさんもいた! 彼は、見るからに、素敵な老紳士となつていた!), 我が「岳陽舎」を訪れてくれた! 出来合いの出会いとも言えるが、現今の「教員の働き方改革」に関わる政策談義ともなり、折角の機会でもあつたので、私なりの評価と意見陳述も行った!!

ここでの談義が、どのように、その調査団? の研究成果につながるのかは、まったく分からないが、若干なりとも貢献できることになれば、これほど嬉しいことはない! ある意味では、知己との再会の場であつたことは否めないが(特に、Hさんとの再会は、過ぎ去つた広島/院生時代のことを、否が応でも呼び起こすものであつた!), 久し振りに楽しい時間となつた!

その後、無理やり、私の午後の用事(※上記)に合わせてもらう形で、南部のエスニック料理店(ニライカナイ橋の近く。確か「カフェくるくま」という名)で、昼食を共にし、その地での絶景(本当に素晴らしい!) を、一緒に楽しませてもらった! そして、青少年の家まで、送つてもらつた! さらに、その後、これも予定していた、那覇での「夜の飲み会」では(「うりずん」という、観光客には有名な店? 所長のTさん、北部のSさんも含流!), 場所も含めて、とても懐かしく(ドウル天、ドウルワカシ※田芋料理も含めて!), 多少の? 酔いに任せて、「うりずんの誓い?」まで叫んだ次第である(どんな誓いかは、今のところ?)!

○孫達への賛歌! 無理矢理? 我が青春を重ねる!!

さて、今回も、ここでは話ががらりと変わるが、過日の、宮崎県に住む双子の孫達のことである! 中学生最後の試合(サッカークラブ)で、これまで、ずーとBチームであつた彼らが(いわゆる控え選手? たまに、一軍の試合に出ていたが!), 今回はスタメンで出場したとのこと(ただし全員出場し指導者の配慮? そこに、教育としての、当該少年サッカー部の意義が凝縮されている!!) ! そして、ゴールとアシストを、それぞれ果たしたとのこと! しかも、勝利したとのこと!

彼らの喜び、そして、直接その雄姿を見られなかつたことの残念さ、そういうものがあつて、知らせを聞いて(一日過ぎていた! 我が奥さんのラインチェック遅れ!), 直ぐにLineを通じて、彼らに告げたかつたことを話したということである! 余計なことではあるが、私が、そのような行動に出たのは、もちろん、孫達に直接声をかけたかつたこともあるが、メールで知つた、母親である、我が長女の喜びにほだされてのものであつたことは言うまでもない(母親として、本当によくやってきたと思う!) !!

しかるに、それは、自らの少年時代のことであるが、中学、高校と、野球部に所属し(基本的には、主将で、エースで4番? 高校の時は、エースではなかつたが!), 本当に野球漬けの毎日を送つた私である! だが、結局は、双方共に、夏の最後の大会では、惨めな、早期敗退を喫してしまつた! 何のために、頑張つてきたのか? 最後の様は、何と情けないものであつたのか? そんなことを、心のどこかで引きずりながら、この年まで生きてきたわけであるが、ある意味、孫達は、それとは違つた思いを持つことができたのではないか? 頑張れば、報われる!!

要は、彼らは、レギュラーではなかつたが、これまでよく頑張つたということ、ある種の自信として、そして、これから続く長い人生において、たとえその時は負けたとしても、それをやらない方がよかつたというようなことは決してなく、とにかく、自分で決めたことは、最後までやり通して欲しい(後悔や愚痴も、その時々においては出てくるかもしれないが!) ! そういうことを、直接伝えたかつたということである! (井上)

○自然科学と人文科学の違い、そして、その役割!!

表面の記事にあるように、今回、我が家（「岳陽舎」に、4人の調査団？が訪ねて来てくれた！調査の目的は、現在大きな課題となっている「教員の働き方改革と教員評価（のあり方）」について、現地調査及び、当地の研究者との意見交換をしたいというようなものであったが、同時に、そのメンバーとは、久しぶりの再会ということでもあった（ある意味、そちらがメイン？）！

尤も、ここでは、その報告的なものを書きたいということではなく、改めて、少し時を置いて考えてみた、いわゆる「自然科学と人文科学の違い、そして、その役割!!」というようなことを、少しだけ述べてみたいと思う次第である。

今回の、彼らの研究調査旅行にケチをつける気は毛頭ないが、I氏も含めて、これまで、数限りない研究者（何も大学の教員に限らない！）が、まさに「教育（事象）」に関わる研究をなしてきたということであるが、その成果は、現在、どのように活かされているのか（表面的には、ほとんど活かされていない？）!!

と、そのようなことであるが、そこにある「真実（真理）」を、どのように受け止めればいいのかという、ある意味では、古くて新しいテーマというところでもある!!言い換えれば、「教育（事象）」を対象とする学問・研究の限界（ジレンマ？）を、どのように克服していけばよいのかということでもある!!

単純に言えば、その学問・研究（の成果）の広がり（高まり）は、いわゆる自然科学と人文科学のそれとでは、かなり（否、まったく？）違うのではないかということであるが（前者は、答えは一つ）、教育（事象）を対象とする教育（科）

④学は、そのどちらの要素も有している（言わば「複合学問」）、単純な区分け論は出来ない!!

ちなみに、より客観性・実証性を重視するため「社会科学」というような言い方もあるが、いずれにしても、自然科学には、その対象事象の真実は一つであるということ、一方の、人文科学ないしは社会科学のそれは、そうではないということ、だから、現実世界においては（研究者のそれであろうが、現場のそれであろうが）、必要な真実を共有することが難しいということである!!

それが、悔しくもあり、哀しいことでもあるが、せめて、多くの人（全員と言いたいところであるが!）が、この考え方、このアプローチでいこうというような理論（公理？）が出現したらなあと思うのであるが、これはまた、夢のまた夢なのであろう!!

〈短歌に託して少しは、涼しくなったか!!〉

・終わるということ ただしそれは

次があるということ!! そうでなくては!!

・“うりずんの誓い?” 一時の酔い(宵) か?

ビールと泡盛 切に背中押す!!

・やらない方がよかった? そんなことはない!

それをどう受け止めるかが 重要なのだ!

・真理の追究 大切なものの追求!

どちらも 科学が求めるもの!!

・エンタメ風とは言うが それは自信?

古代の謎は 彼らが解くかも!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑩

○似非「旅枕」?しかし、ここでは、是非書いておきたい!!

ある意味突然ではあるが、ここでは、是非書いておきたいことがある!なかなか、本物の旅枕?をなすことが出来ないということもあるが、最近、ネット上の記事とか、YouTubeでの動画視聴というところで、私にとっては種々の旅枕?が、そこに実現している!!言わば、似非「旅枕」?ということであるが、そこでは、これまで知らなかった知る努力もなかった、様々な情報、有無な視点が数多く得られているということである!本当に凄いな達がいるものである(尤も、トンデモない人達も多いが!!)

それはともかく、ここで、是非紹介したいのは、怪しげな若者コンビ(サム&マサキ/漫才芸人風?)が提供している「TOLAND VLOG (トウランド・ヴィログ)」である!それは、「日本神話や世界の神話などの『謎』に注目して、分かりやすく解説するチャンネルで、登録者数は3月現在で14万人を超える人気チャンネルです。」とある!現在の登録者数は、私自身は知らないが、どの動画にも、(他の類似動画と比べて)圧倒的な視聴回数が刻まれている!

彼らは、事あるごとに、「エンタメ風」とは言っているが(もちろんその要素も多分にあるが!)、私には、遙かにそれを越えて、我が国の「謎多き古代史」への確かな解明材料、視点を提供してくれているように思えるのである(かの「古史古伝」等も含めて!)

!!古代史研究家とは、一言も名乗っていないが(むしろ実業家?、こんな若者(厳密にはサム)がいるのである!何と言うことか!!脅威としか言いようがないが、個人的には、これから、かの九州王朝説と近畿王朝説との、言わば果てしないバトル?にも参入して、その新展開(真実?)を導いてくれるならば、これほど頼もしいことはない(その素地は大いにある!)!!他にも、何人かは、紹介したい人(ブログ)もいるが、今回は以上!(つづく)(堂本)

《編集後記》10月に入って、ここ沖縄でも、それなりの秋の到来を感じさせているが、まだまだである!!書きたいこと、書かなければいけないと思うことは、やはり生きている以上、それなりに出てくるのであるが、誌面作成とのタイムラグもあり、その時の思い、感覚が、少し怪しくもある!!古代史の方は、予想外の動きである(目の疲れは最高潮?)!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 14 号

発行日
2023.10. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○非情な(解せない?) 采配?そこには何があったのか!!

随分日が経ってしまったが、過日の、女子世界バレーボール選手権(オリンピック代表予選)。日本は、結局ブラジルにも負け、残念ながら、今回での代表決定には至らなかった!そして、そこにおいて、最後の二セットは、これまで中心選手(主将でもあった!)として奮闘してきた古賀紗理奈選手の姿がなかった(ネット上で騒がれていた!!)!

何か、第3セットの終了時点でトラブルがあったものかと、その時は思うだけであったが、試合終了後のインタビューでは、自分自身は、調子は悪くなかった!その理由(不起用)については、監督に聞いてくれというようなコメントであった!問題は、その後の、真鍋監督の言である(決定率、効果率、返球率が下がっており、ある意味交代は、理の当然だ!)。これは、下衆の勘繰りかもしれないが、今回の成績(実力?)でも明らかのように、たとえ今回の機会で出場権をとったとしても、今(まで)の古賀選手(中心のチーム)であれば、おそらくメダル獲得は困難!!監督は、そう思ってたの采配ではなかったのかということである!!

そこで注目されるのが、その非情な(解せない?)扱いを受けた古賀選手の、これからの踏ん張りである!!試合後の涙もなかったが(采配への怒り?負けた情けなさ?)、とにかく、その悔しさを、どのように晴らすのか?そこが重要であるということであり、それがまた、監督の本当の思いなのかかもしれない!!そんなことを、思った次第である!

○研究者としての倫理?今更質されても!!

これも、過日のことであるが、半分笑い話?として、ここで書き記しておくのも一興かな?とも思い、以下、少し書いておきたい!実は、ひよんなことから、思いも寄らない行動(勉強?)を余儀なくされたのである!

どんな行動(勉強?)かと言うと、何と、あの独立行政法人日本学術振興会の「研究倫理eラーニング」の受講である!最近?、岡山にあるK大学のS教授(二応教子?)ということで、S君と呼んでもいいが!から、研究協力者としての依頼(本当は、私のボケ防止のため?)が増えているが、今後、それを行うためには、私の適格証明?が必要だということ、指定の「研究倫理eラーニング」の受講を課されたのである!

別に、私は、そうしたことまでして、彼の研究協力者にはなりたくないものであるが(可能なことは、すべて協力するつもりである!)、科研費等の実施にあたっては、そのことは必至(義務)であるということなのである!

折角の、彼からの依頼でもあったので、むげに断ることも出来ず(当然、最初は断ったが!)、結局は、引き受けた次第であるが、その受講の手間暇(サイトへの入室手続きが、自分でも情けないくらいにかかり、改めて、彼の依頼を悔やんだことを(笑。本当である!)、ここでは、是非とも名状しておきたいということである!

ということで、修了試験?には、無事合格することは出来たが、私が、内容よりは、パネル操作?に難渋した高齢者、そして、今更、研究者としての倫理を質されても?と思った、元研究者でもあったということである!

○小さな山の林立がその“お山の大将?”だけでは!!

さて、全国には(もちろん沖縄にも!)、地域のため、みんなのために、自分の人生を賭けて?頑張っている人達がいる!しかしながら、それは、ある意味「小さな山の林立」となっていないか!!こんなことを言えば、彼らへの冒涇ともなるが、もう少し、その山々が互いに力を出し合い、さらなる山(大きな山?)とならないか?そういうことである!

そんな中、その「大きな山?」で、私には、ある意味大変懐かしくもあり、複雑な思いを抱かせるものがある!!それは、九州のM先生達のことである!そして、彼らは、まさに「大きな山」であり、その中心M先生は、学会・先輩の中では唯一とも言える、本当に敬愛して止まない人であった(まだご存命のはずである!)

当地での研究会の立ち上げ人であり、今でも理論的、精神的な支柱として活躍されていると思うが、私も、沖縄に来てから、年1回当地で開催されるその会には、毎回参加していた(「世話人」として)!要は、彼らは、私達にとっては、ここで言う「大きな山」であったということである(その影響力は、それこそ偉大!)

ちなみに、それには、実に多くの事例発表者(手弁当参加)、そしてゼミ生も連れていった。余談ではあるが、私自身は、事例発表等よりは、友人達との再会、夜の懇親会やその後の三次会?が、何よりの楽しみであった(元気を貰う、回復させる?数少ない機会であった!最早時効ではあるので、その時々私から誘われた人は、大変申し訳ないが、山車?であったということもある!!)!

ただ、ここで書いておきたいことは、たとえばどんなに「大きな山?」であつても、そこだけの、いわゆる“お山の大将”であつてはいけないということである!実は、私も、M先生とは比べものにならないが(比べること自体不適?)、どこかの地の、小さな“お山の大将”?であつたかもしれない!!とにかく、みんなが、そればかりではいけないということである!(井上)

○こんなこと(祭り?)は、やはり必要なのだ!!

いきなりであるが、何とも微笑ましい、そして、内心ではホッとする?テレビ番組であった!しかも、それは、あの大都会東京、しかも新宿での話である!ちなみに、関係のネット記事では、次のようになっていた!大都会の高層ビルにこだまする熱唱。この夏、会社員たちがパフォーマンスを競う大会が4年ぶりに復活した。出場者たちは何のためにステージに立ち、何を手にしたのか?新宿・副都心で50年近く続くサラリーマンの祭典「会社対抗のど自慢大会」。会社のプライドをかけてハイレベルな歌とパフォーマンスが繰り広げられる。4年ぶりとなる今回、出場者たちには大会にかけるそれぞれの思いがあった。コロナ過で就職した2年目社員は上司や同僚との会話のきっかけを作りたいとステージへ。出場希望者が見つからない会社では、常務が驚きの選択を、働き方改革の時代に、会社でのど自慢に出る意味とは?10月1日放送分

ところで、この番組は、NHKの「Dear」にっぽん」という番組であるが、この番組の趣旨は、「この時代をどう生きていったらいいのだろう?いま、多くの人が不安を抱えたり迷ったりしながら生きています。2020年4月にスタートしたDearにっぽんは、日本各地でひたむきに生きる人たちの取材が入り、今の時代を生きていくヒントや、未来への希望を探し、あなたに届ける番組です。」とある!また、「日本各地の『いま』をひたむきに生きる人たち見つめ、大切なものをあなたに届けるドキュメンタリー」ともある!

ということ、今回のネタ(人間模様)は、時代の最先端を行く人達のところ、すなわち新宿での話である!しかしながら、考えてみれば、それは、ある意味時代の反転現象、言い換えれば、人間社会の重要なものが復活?している!!そう言えるのかも!しれない(目覚めているかどうかは分からないが?)!!とにかく、やはりそういうことは必要なのだ!!頑張れ!ひたむきに生きる人達!!

○「今」、それぞれの「存在と時間」の中で!!

一方でまた、さらなる悲劇(中東地域)が加わっている!しかし、今の私達?には、眼前の「それぞれ」があるだけである!ハイデガー風に言えば(ただし、深くは分かっていない!)、そこには、それぞれの「存在と時間」があり、その「今」は、それぞれの、これまで(過去)の結果であり、これから(未来)の原因でもあるということである!!

いずれにしても、問題は、個人と社会/集団全体(国または世界の「今」の不整合?である!個々人には、折角生まれてきたのだから、そこで生きる意味や目的を見つけ、健気に生きよ!そのようなことかもしれないが、残念ながら、現実の社会(世界)は、往々にしてそれを許さない!!

ただし、そうは言っても、孤独(孤立)ではダメで、家族は当然であるが、他者、友人や同僚の存在や、それとの関わりが重要であるということだけははつきりしている!!それを示したのが、いみじくも上段の話であるが、その逆の、哀しい出来事も、残念ながら多いのもある!!

〈短歌に託して秋来る!物思ふ季節!そはいかに!!〉

・監督の 思いや計らい?

結果がすべてだが、それだけでもなく!!

・研究者としての倫理?

今更質されても どうしようもなし??

・それぞれの小山 林立だけでは ダメなのだ!

力を合わせて 大山にならなければ!

・やはり祭りは 必要なのだ!

そこに 人との交わり あればこそ!!

・存在と時間 せめて己の 生きる意味

そを知らずば ただの空言?

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑭

○「倭国大乱」は、「準備されたストーリー」に絶対投影されている!!

先号でも述べたが、現在、ネット記事「フログを言ひ」やYouTubeの動画で、これまで知らなかった、分からなかった情報(新知識)ただし、その真偽自体は、多くは保留!!に、それこそ多種多様に接している!そして、大いなる刺激を受けている(特に、「神話」や、そこにおける「神々」の正体及びその関係等の解明?)!ある意味、見事なものである!!

そんな中、自身の興味・関心(課題)は、「記紀」(とりわけ『日本書紀』)においては、ある意味「最初から」、そうした神話や神々の関係等には「準備されたストーリー」があったということは、自分なりに推察してきているところであるが、問題は、その「準備されたストーリー」とは、果たしてどのようなものであったのかということになる!!

ただし、このコーナーでは、それとの関係で言えば、まずは、『魏志』等が記している、かの「倭国大乱(2世紀末)」が、そこに、どのように組み込まれているのかということが、重要な注目点となることは言うまでもない!!何故なら、その「倭国大乱」の結果、少なくとも北部九州では、それまでの、「倭奴(邪)国」(後漢から印綬を中心とする、言わば「旧倭国(連名)」から、「邪馬台国」(魏朝臣を盟主とする、言わば「新倭国(連名)」が出現したということが、事実として考えられるからである!

ちなみに、その「倭国大乱」であるが、北部九州だけのものを指すのか、あるいは西日本全体(一部関東近辺までを含む?)を巻き込んだものを指すのか、それについては、まだまだはつきりしない(ただ『魏志』のそれは、その記述領域からすれば、北部九州でのそれを指していたと考えられる?)!!しかし、いずれにしても、その「大乱」の後に、「卑弥呼」を共立した勢力(「新倭国(連名)」が、「邪馬台国」を王都として、それまでの、倭奴(邪)国を中心とする「旧倭国(連名)」から、その政(覇)権?を奪取したということになるので、その前後の、諸勢力の攻防(それに伴う人々の移動・進出の経緯が、かの「準備されたストーリー」に投影されていることは、絶対に間違いない!!そういうことでもある!!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉沖縄も、かの湿気から解放され、それなりの秋となった!我が岳陽舎の二階ベランダから見える「東シナ海」の蒼も素敵である!このまま季節の移ろいを堪能したいものである!古代史の方は、やつと佳境?に入れそうである!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 15 号

発行日
2023.11.15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○人間社会における「最適(解)」のゆらぎ!!

これもまた、随分と日数が経ち、そのことを書く意欲もかなり減退しているが、一応準備していたことではあるの
で、若干書き記しておきたい!それは、過日行われた将棋
の王座戦最後の対局の、ある種の裏話?のことである!
すなわち、その対局では、それまで7冠の藤井壮太九段
が劣勢の状態で、前王座の永瀬拓矢九段が、ほぼ勝利かと思
われたが(かのA-Iはそう指示していた)、結果は、藤井
7冠の勝利で終わった!永瀬九段の、ある一手(詰め)の
間違いで、戦局が大逆転であつたそうである!

判断ミス、脳の疲労?多分そういうことであつたとい
うことらしいが、注目されるのは、そのミス?が、藤井7冠
の誘導とも言われていることである(具体的にはどうい
うことか分からないが!)!!要は、その時その時の、言わば「最
適(解)」は、生身の人間の(思考の)やり取りの中では、
そのように振舞えないこともあるということである!!

この場合は、「最適(解)」が、必ずしも勝利をもたら
すわけではないということになるが、ここには、ある興
味深い真実?が隠されているようにも思えるということ
である!!それは、たとえA-Iが最適(解)を示しても、人間
は、それに応じられない場合もあるということ、さらには、
わざとA-Iに最適(解)を出させ、その裏?をかいて、あ
ることを実行することも出来るということである!!

その意味では、A-Iは、人間の思いの裏の裏?までは読
み切れないということであるが、今後、このA-Iと人間の
関係は、どのように推移していくのであろうか?かの「生
成A-I」の功罪も、おそらくそこに収束していくのかも!!

○古希過ぎた教え子が恩師訪ねる!しかも、奇跡も!!

過日(10/21)、面白いことが起きた!と言うより
は、普通では、ほとんど見ることの出来ない光景を、見
させてもらったと言う方が的を射ているであろう!!しか
も、そこでは、私にとっては、奇遇というか、ほとんど
奇跡?に近いことまで起きてしまったということであ
る!何という日であつたのであろうか?

そこですは、その光景であるが、同日久し振りに、
高校の同期とのズーム交流を行ったのであるが、一つの
交流先には、いつもはそれぞれに参加している3人(共
に福岡住)が、彼らの担任(2年時?)であつたY先生(現
在81歳!)の自宅(唐津市)を訪ねていて、その先生も
交えた、予期せぬ再会の場となつたということである!
古希を過ぎた高齢者?(教え子)が、3人で申し合わせ
て、遠く離れた、高校の恩師宅を訪ねるということ自体
が、そもそもあり得るのかということでもあるが、さら
に、その4人と、他の3人(福岡一人と沖縄)が、ズーム
で、昔話に花を咲かすということがあるなんて...!

しかも、驚いたことには、そのY先生が、私の出身大
学である広島大学の先輩であつた!さらには、同じ寮生
(薫風寮)でもあつた!そういうことが判明したのである
(ほとんど奇跡?)!短い時間ではあつたが、当時の学生
生活が、懐かしく思い出されたことは言うまでもない!
よもや、こういう展開になろうとは、夢にも思わなかつ
たが、ズームという文明の利器が、こんなことまで実
現させたのである!いつかまた違った形で、思わぬ再会
があればいいなあと、思つてもみた次第である!

○“教育”と“学習”の関係は、未来永劫続く!!

ところで、今となつては、かなり懐かしい思い出となるが、
かつて、「教育」と「学習」の関係について、深く考えさせら
れることがあつた!それは、1980年代前後の「生涯教育/
学習」論議のことであるが、課題の性格上、「教育」ではなく
「学習」とすべきだという論議が、かのユネスコも含めて、か
なり広範囲に展開されたということである!

もちろん、そこでは、学校教育後の成人の学習に目が向けら
れたわけであるので(ユネスコ「成人教育推進国際委員会」、個々
人の自主的・自発的な学習が求められるというようなこともあ
つて、「生涯教育」よりも「生涯学習」の方が、より相応しいと
いうような論調であつたように思う(現に、我が国においても、最
終的には「生涯学習」という用語で、関係法制度、各種施策・部署名等
が統一?されていったことは周知の通りである)。

ただし、私は、その論議(の広がりや成果)が、学校での、子
ども達の教育のことも含んでいるので、そうした法制度や施
策・部署名ではなく、やはり全体としては「生涯教育」という
言い方(考え)が望ましいと考えていたし、その重要性につい
ても、声を大にして述べてもきたわけである(ある時期までは、
かなりの少数派であつたことを記憶している!学会においても!!)!

要は、子どもの教育であらうが、大人の学習(教育)であらう
が(こちらは、「支援」ということを、必ず明示していたが)、一人
ひとりの生涯に亘る「学習」を鼓舞し、支援することが、「教育」
であることを自覚し、そのための有効な施策とか組織づくりを
行うことが必要であるということであつたわけである(その理論
的支柱が、かの「タテ・ヨコの統合理論」であつた!)

ちなみに、学校(子ども達の)教育においても、「教育」の
もつ「従属性(上から与えられる?)」を排除して、「学習」、さら
には「学び」を主張する人達もいた!気持ちには十分に分かるが、
他者からの望ましい働きかけ(これが教育の本質!)は必要であ
り、それが、社会全体の力ともなる!!ただ、問題は、その現実
の姿であつたことは間違いない!!そこに、「教育」を忌避せざる
を得ないような実態もあつたということである! (井上)

『○改めて、「国」とは何かを問う!!』

先号でも触れたが、今、再び（本当は、もっと多く、否
常であろうが）、そこに生きる人々にとつて、自らが
属している「国」とは何か？そういうことを考えさせら
れる事件・騒乱（はつきり言えは、戦争という名の「悲劇」）
が頻発している！

そんな中、民族（人種）、言語（文化）、宗教ないしは思
想・信条（政治体制）、そして、歴史的経緯（戦争や植民地
支配等、それらによつて、多種多様な国々が、一応は「世
界／国際社会」という枠組みの下に存在しているわけ
であるが、現実には、そこには、次のような形（極めて不
安定な約束事？）があり、それら全体を含んで、「世界／
国際社会」と言っているということである！

すなわち、まずは、「領土・領海・領空を有する」独立
国家（二）というものを形成している。次が、そうした形
を有しないまま、自らの生存圏域を維持する（統治委任
国）。次が、民族（人種）としては存在するものの、他
国の枠組みの中で生きている（そうせざるを得ない！「自
治区」等。改めてよく見れば、我々人間は、そういう国
家群状況の中で、生まれ育ち、生きているわけである！

もちろん、すべての人々が、それぞれの「国（独立国
家）」で生まれ育ち、生きていければ、それが一番よい
のである（ただし、結婚や就職等の関係で、他国で生き
る、他国民となることは、個々人の自由意志によるものであ
れば、それもありである！）、実際には、そのような自由や自
己選択も叶わない人達がいる！そこに悲劇が起こり、繰
り返されるのである！それが問題なのである!!

ただし、さらによく見てみれば、たとえそうしたこと
があるにしても、極めつけの不幸は、そうした体制・状
況の存在を顧みず（踏みにじって）、他国、あるいはそ
こに生きる人々の権利や命を、一方的に、しかも武力で
奪つてしまふ国・勢力があるということである！

このようなことは、絶対に許されることではなく、

『それこそ「世界／国際社会」は、その阻止・撲滅に一致
団結しなければいけない！それが、まさに「国際連合」の
使命であり、存在意義でもあるわけである！
だが、そこは、そこに表象される「世界／国際社会」と
は名ばかり？言い換えれば、自らの利益の駆け引きの場と
なり下がっている？幾つかの「特権国家」の、時々都合
のよい談合の場ともなっている？そのようにも言える!!

まあ、このように言つても、ほとんどが空しい？もので
あることは、世界中の多くの人達が感じていることであろ
うが、しかし、それで終わらせてはいけないのである！事
実、多くの心ある人達は、自らの出来ることを精一杯やっ
てきたし、これからもやっていくであろう！それが、単な
る悲劇の繰り返しを、阻止してきたわけでもある!!

いずれにしても、人類は、6万年前にアフリカを出て、
世界各地へと旅立っていった！そして今、目下の「世界／
国際社会」を創り出している！だが、それはまだ、その「グ
レートジャーニー」の途上なのかもしれない!!

〈短歌に託して〉秋の憂い？今回は少し書き過ぎか!!
・最適（解）？ あるかも知れぬが、掴むは別？

その神域？ AIはどこまで？

・古希となり 訪ねられることあつても
訪ねることなし？ 違いは何？

・教育と学習 その対立？ 何故に生まれる？

世代のつなぎの 難しき!!

・国益？ 同じ国とて 何故違ふ？

そこにありしは 哀しき人の世!!

・続いている？ グレートジャーニー!!

時間と距離では 終わつてはいいても!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ⑤

○「倭国大乱」と、そこにおける「大幡主」の謎（怪？）!!

先号では、かの「倭国大乱」及びその前後の顛末は、「記紀」直接的
には「日本書紀」において、件の「準備されたストーリー」に、絶対に投影
されているということを述べたが、こゝら辺りの経緯や諸部族の動きが、具
体的にどうであつたのかということが、改めて問われてくることは言うま
でもない！そこに、どうにも訳の分からない人物（神）がいる！それが、「大
幡主命」（初代奴国王？大若子命、武埴安彦命とも）である！

ところで、実は、その神（命）を祀る神社（「櫛田神社」等！ただし、有名な
博多の櫛田神社は、何故か？伊勢からの勧請という！）が、北部九州（現在の福岡
県・佐賀県一帯）に数多くあるのであるが（ただし、祭神の入れ替へを背後に隠さ
れている！）、かの2世紀末の「倭国大乱」によつて、その命（神）を王とし
ていた「倭奴国」は衰退を余儀なくされ（政權移譲）、彼らその王族（
は、近畿、そして、伊勢の方へ移動しているというところらしいのである（事
実、その伊勢には、櫛田神社や櫛田川というようなものがある！）!!

とは言え、そんな彼（神？）が、今日まで、その北部九州に、多種多様に？
祀られているということになれば、この近辺の人達は、その「大幡主命」（天
若子命）をこゝろ敬愛しており、その時々々の権力者・支配者の目を掻い潜
つて、丁重に祀つているということにもなる!!なお、かの伊勢地方の豪族と
されている「渡会氏」（伊勢神宮外宮の宮司）は、本来は「磯部氏」とされ
驚くなかれ、かの「伊都国」の出身ともされているようである!!

また、例の「丹生氏」（丹の発掘・精製氏族）も、その伊都国の出身と自称
しているようであり（丁和歌山県伊都郡、丹生津姫神社等）、北部九州から
の移動（移民？）の事実、決して見逃せないものとなっている!!

またまたその子細については、よく整理出来ないが、そのような史実が、
こゝで取り上げている「倭国大乱」と、どのような関係となるのか？その中
でも、「大幡主命（天若子命）」が、どのような動きをなしたか？その辺り
を、今後調べていきたいと思つている次第である！（つづく）（堂本）

〈編集後記〉沖繩は、少し涼しくなつてきましたが、みなさん
の方はいかがですか？危惧された、その後の台風襲来もなく、変
わらずののんびりした日々ですが、パソコン生活は、さらに拍車
がかかっています（YouTube視聴も加わって！）!!目と腰、そして下
肢の具合もあります、今はやるのみです！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 16 号

発行日
2023.11. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「二極化は宿命」そのどちらかに与えなければ……!!

まだ、それほど人生を達観するほど生きたわけではないが(ただし、古人と比べればそうでもない?)、世の中(人間社会)は、「良い／悪い」、「勝つ／負ける」、あるいは「賛成／反対」、「与党／野党」というように、いつのまにか、二つの極(価値?勢力?)に分かれていく!!そして、「敵／味方」というようなことも、それと同じであろうが、人間の生き方(生き様)、そして集団のあり様は、結局は、そうした「二極化」の流れ・力の中で翻弄(蹂躪?)される(それは、ある種の「宿命」とも言える?)!!

しかしながら、実際は、その「二極化」は、単純なものではなく、明らかに多くの人を悩ませ、その中で苦しみを倍増させながら進んでいく!!それは、「二国」のあり様もそうであるが、そこにおいては、どうしても、どちらにも与えることができない個人や集団(国)を生み出すということにもなる!!そこに、第二極の居場所やスタンスが確立されればよいのであるが、多くの場合はそういうわけにはいかない?否、最終的には、不本意ながらも、どちらかに与えさせられる(選挙等は、その典型である!)!!

現在、「多様性」の主張ということで、あらゆる分野において、そこでのバリエーション(グラデーション?)に基づく価値や生き方が指向されているが、そのことは、ここで言う「二極化の宿命(悪魔性?)」にどのように対峙しているのであろうか?決して綺麗ごとや掛け声だけでは済まされないのであるが、文学や芸術の世界はともかく、虚脱や厭世、あるいは憎悪だけで生きていかなければならないことだってあり得る?そうも、思うのである!!

○「ユーチューブ(動画)」のこと!!

前にも述べたように、最近では、「ユーチューブ(動画)」視聴で、私の「ライフワーク」としての古代史研究?(ってほどのものではないが!)が、質はともかく、量(範囲)的には、これまでとは比べようもない情報収集や新たな視点の獲得につながっている!このことは、残念ながら、明白な事実であり、その存在意義には、最早疑義を挟むわけにはいかない!変われば、変わるものである!ということ、ここでは、そのことを、私の「セルフヒストリー」の、一つの重要なメルクマールとして位置づけ、それがもつ「メディア」としての意義や可能性について書き記しておきたいということである!古希を過ぎた高齢者、そして、かつてこうした文明の利器?をかなりの危惧(インフルエンサー)と称される怪しげな人物?そして、その職業化への動きに対する嫌悪感?でもって、傍から眺めていた私であったということである!

ただ、改めて心配されるのは、巷間言われてきたように、旧来のマスメディアとの競合(特にテレビ?)であるが、単なる杞憂論では、最早その存在意義は打ち消し難い!簡単に言えば、どちらも重要なメディアだということであるが、これも、上記の「二極化の運命を辿る!!」ちなみに、YouTube(Google社が運営する世界最大の動画共有サービス)は、「投稿者に誰でもがなれる」というのが、その最大の魅力(武器?)であるが、何がどのように淘汰されていくのかは、私にはまったく予想もつかない!場合によっては、想像を絶するような大変革(困惑も含めて?)を導く!!その兆候は、今も、既にある!

○「サトシ・ナカモト」?「ビットコイン」!!

ところで、これもまた、上記と同じような「文明の利器」についての話となるが、これについては、いささか複雑な心境ではある!と言うのも、同じように、便利で、有意義な発明品であつても(もちろん、それがもたらす害悪や不正も、同時に存在するという両面をもつものとは言えるが!)、その発明者/開拓者自らが、その「利器性」を途中で放棄し(自らが欲していたような動きとならなかつた?)、その世界から、忽然と消えていったというようなことを知ったからである!

しかるに、今日(11月14日)、いつものように、夕食後のテレビ視聴の時間帯で、他に興味を持たせるリアルタイムの番組がなかったため、たまたま録画してあつた番組を見たのであるが、それは、NHK総合の「市民X 謎の天才『サトシ・ナカモト』」というものであつた!番組を見始めると、すぐに、私にはまったく無関係な(むしろ嫌悪感を抱かせる?)「ビットコイン」に関わるものであつた!

要は、ここで書いておきたいことは一つである(否、二つかな?)!これまた恥ずかしながら、その「ビットコイン」については、初めて知ることばかりであつたが(とりわけ技術的なことは、ほとんど分からなかつた!)、その開発者の「サトシ・ナカモト」という人物の謎が、本当に興味深かつたということである(彼は、何のために、それを開発したのか?)!

そこで、それについては、次のような記事があるので、その顛末としたい。すなわち、「今世紀最大級の技術革新、ブロックチェーン(事実上、改ざん不可能な分散記録システム)を世に放つたビットコインの生みの親「サトシ・ナカモト」。2008年、世界金融危機の中、突如現れ、こつ然と姿を消した存在は何者か?」「現代社会、最大のミステリー」とされる謎めいた存在の光と影、功罪に迫る」。つまり、途中でいなくなつたのである!なお、この番組は、「名前も、金も、名譽も要らぬ」。正体不明、動機不明の謎の存在「市民X」が社会を揺り動かした出来事、真相に迫る新シリーズ」とある!このことも、ここでは是非書いておきたいということである!頑張れ、NHK!(井上)

○「凋落」の三つの原因？ある意味「真理」かも!!

今回は(もう)、かなり社会的なテーマが多くなるが、これまで漠然と思っていたことが、学問的に？示されているように思えて、後追いな言い振りとはなるが、ここで少し書いておくことにしたい。それは、ここでもまたネット記事からではあるが、「日本はなぜ凋落したのか」アラブの歴史家が指摘した『三つの原因』から考える「デیلیー新潮」を見たことがきっかけである。

そのリード文には、「太平洋戦争の敗戦から一転、戦後は高度経済成長を遂げて、一時は『ジャパン・アズ・ナンバールワン』とまで言われた日本。しかし、バブル崩壊以降は長期停滞に入り、二〇二三年のGDPはドイツに抜かれて世界4位に転落する見込みだ。」とある。

確かに、その事実？は、既に公表されているが、何故ここに、「アラブの歴史家」が？という興味もあったので、その後を読んでみた次第でもあるが、その記事は、「戦後の国際政治学をリードした高坂正堯・京都大学教授(1934~1996年)が、アラブの歴史家『イブン・ハルドゥーン』の思想を手掛かりに、文明が衰亡する原因を論じた、彼の『幻の名講演』を初めて書籍化した、新刊『歴史としての二十世紀』(新潮選書)から、一部を再編集して紹介するもの」とあった。

最初は、私には、こうした文脈で、何故、アラブの歴史家(イブン・ハルドゥーン)が出てくるのか、まったく予想もつかなかったが(高校の世界史で、確か名前だけは憶えていた)、読み進めると、その理由が、改めて分かった(余計なことだが、高校の授業では、そういうことまで扱うことは無理であったということもある)！

労働力不足、若者の就業意欲の低下(ひきこもり状態)、社会の活力の減退？そういったことが懸念されている我が国であるわけであるが(GDP世界4位は、それが原因？)、高坂氏によると、「大衆が貧乏で一部が贅沢では国全体が禁欲的になりません。禁欲の精神が国」

民に行き渡っているからこそ、社会はうまくいきます。それに続いて、社会が栄えると、困ったことが起こります。皆が使う富が増えてきたときに、イブン・ハルドゥーンは失われるものが三つあると述べています。」とある。

「二つ目は意志の力(人間が強い意志を持たなくなる。：甘やかされて育った子どもより、貧乏な子供の方がなにもに頑張る。苦勞しないで生活ができると、たまには面白い考えをする人間も出てくるが、平均的にはみんな頑張らなくなる)。二つ目は忍耐力(：今の若者を寮や道場に放り込んで精神を叩き直そうと思っても無理で、彼らはその時だけ辛抱するだけ)。三つ目は「アサビーヤ」(「団結心」)(：つまり、お互いが繋がっていて兄弟であるという気持ち、やむを得なければ他の人の犠牲になってもよいという気持ちのこと。文明が伸びているときにはこれが強いが、駄目になるとなくなる)。「文明の勃興期においては、人間は総じて禁欲的である。贅沢をしない。よく働く」!!最後に、私からすると、やはり、その3番目の「アサビーヤ」(「団結心」)が一番気になるということでもある!《短歌に託して》いつの世も、かくの如し?》

・あつちかこつちかで 済むのなら
生きるは易し? そうでないのがこの世なり!!

・ユーチューブ 学者も素人も おかまいなく?
ただ問われるは そのコンテンツ!!

・ビットコイン 生みの親の 願ひも他所に?
技術と活用は やはり別!!

・「凋落」の原因 ある意味「真理」かも?
ただしそれは、善悪ではなく!!

・「日本根子彦」 暗示であることは 分かるが
その日本とは? (大 倭と同じや否や?)

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑩

○もう一つの謎(怪?)!! 矢史八代最後の、第9代「開花天皇」!そして、もう一つの怪(謎)は、件の、矢史八代最後の天皇である、第9代「開花天皇 稚日本根子彦大目」である!彼は、第8代「孝元天皇 大日本根子彦國崇」の第一皇子で、母は皇后で、尊色雄命(穗積臣祖)の妹の「尊色雄命」。同母兄弟には、大彦命・少彦男心命・倭迹迹姫命、異母兄弟には、彦太忍信命・武埴安彦命がいるという。

すなわち、彼は、母系的には、後の?「物部氏」とつながり、そこから「阿倍氏」「百備氏」、そして、異母兄弟としての「武内宿禰諸族(蘇我氏)」「和珥氏」とつながりつつもいるわけである(あくまでも、その系譜が正しいというところであればであるが?)!!しかも、その異母兄弟の「武埴安彦命」が、実は、件の「大幡主命(大若子命)」でもあるということになるわけである!!何という複雑(怪)げ?!!な人物(天皇)なのであろうか?

ちなみに、父の孝元天皇は、第7代孝靈天皇(大日本根子彦大瓊の皇子で、母は皇后で、磯城眞主(または市県主 大目の娘の細媛命。同母兄弟はいないが、異母兄弟に、倭迹迹日百襲姫命・彦五十狹芹彦命(金甕彦命・稚武彦命)がいるという。しかも、彼は、「神八井耳命(神武の和での長子とされる)」の後裔(母方)とあり、だとすれば「多氏」とつながり、さらに、異母兄弟としての「百備氏」ともつながっているわけである!!

なお、和珥氏は、第5代孝昭天皇(觀松彦彥彥彥の皇子・天足彦国押人命の後裔。そして、第6代孝安天皇(日本足彦国押人命は、その孝昭天皇の第一皇子で、母は皇后で、尾張連の祖の瀧津世襲(もろつ)の妹の世襲媛姫。同母兄が、和珥臣の祖の天足彦国押人命ということになるわけである!!

※以上の系譜は、すべて「ウィキペディア」より。何ともややこしいのであるが(漢字の読みも含めて)、こうした系譜の中で、次の第10代「崇神天皇」が、どこからともなく大和に進出してくるのである!!であれば、この第9代「開花天皇」は大和ではなく、北部九州にいたのかもしれない?そして、その痕跡は、例の「老松神社」に隠されている?そういうことにもなるわけである!!(つづく) (堂本)

《編集後記》あと一日で12月!来年は、辰年で、私達は年男!とは言え、生活自体は何も変わらず!!そして、見た目も!!そんなことを思いながらの、今日この頃!古代史、次からは、いよいよクライマックスに突入かも? (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 17 号

発行日
2023.12. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「最適(解)」と「エビデンス(証拠)」！実際は…!!

先に、かの「最適(解)」に関わって、怪しげな論考を行ったが(第15号)、今回は、それに連動していたトピックス(思い?)があつたので、そのことを、改めて書いておきたい！それは、今や普通に取り沙汰される「エビデンス(証拠)」ということについてである。

しかるに、ある時期「EBPM(証拠に基づく政策立案)」ということがしきりに唱導され、大学においても、それに基づく多様なエビデンス(証拠)づくりが、それこそ堰を切ったように行われ始めたことを覚えていたが(現在もそうなっている?)、今、改めて思えば、そうしたことが、真に意味があつたのかは、かなり首を傾げざるを得ない!!

と言うのも、それが、いわゆる「実証的(客観的?)」なものとして見えてはいても、それらの多く(否、ほとんど?)は、最終的な政策決定での決め手にはならなかったからである!!要は、その時の「最適(解)」が、必ずしも望む結果を生むとは限らないということである(ただ、その限りにおいては、一応は「最適(解)」とはなっていたとは言える?)!

尤も、そのような作業、スタンスは、全体的な予算のやりくりにおいては、ある意味必要不可欠な手続きとはなるので(誰かの恣意や特定の人物・勢力の独断専行を阻止できるという?)、そのこと自体は進歩であり、決して否定されるべきものではないのかもしれない!!

とは言え、それは、事実上は?、政策決定者(端的には予算をつける側)の、後付け的な(相手に文句を言わせないための?)論拠にはなる!!ただし、それだけで終わるなら、その努力・熱意(期待)は、空しいものともなる!!非情:

○どこへ行く?PTA!!そして、他の団体も?

別途でも述べたが(「新・教育協働への道17」)、その存在自体は、絶対になくならないと思われるPTAで、「ついにここまで来たか!!」と思わせる事件?があつた(ネット記事)！それは、ある県の高校教師が、それまで払っていた会費(6年分)の返還を求めて訴訟を起こしたというものであるが、その教師は、原則は任意加入のはずなのに、その意思確認もなく、半ば強制的に会費納入を強いられてきたのは違法で、校長と元PTA会長に、払った分の返還を求めるということであつた。

しかるに、このPTAについては、もうかなり以前からそのあり方が問題視されてきたわけであるが(特に役員選び。かの「上納金問題」も?)、それについては、まだまだみなが納得できるような状態とはなっていない!!そういう中で、しかも教員の方からの異議申し立てというところもあり、この訴訟の顛末が注目されるのであるが、一方では、ある大きな問題提起ともなる!!

すなわち、これまでの、学校を含む地域社会には、こうした、言わば加入が当たり前という形で存在してきた組織・団体が多々あるわけであるが(自治会、老人会、婦人会、青年会、子ども会等)、それらは徐々に変容し、そのほとんどは、その存続さえもが危ぶまれる状態となっているわけである(その加入率が低位となっている!)!

本来そういう運命?のものと言うこともできるが、今、新たに「地域の絆づくり」が叫ばれている!この訴訟が、その動きとどう関わっていくのか?その決着には、こうした文脈が是非加わって欲しいものである!

○「偉大なる凡庸」!「後継者問題」の究極の課題!!

今回も、あるネット記事からの借用であるが、面白い箴言(げん)に出くわした!「偉大なる凡庸」という言い方である!現在放送中のNHK大河ドラマ「どうする?家康」での、ある回の「コマであるが、ある重鎮家臣(本多正信)が、二代目将軍秀忠に放ったものである!かつて私は、学生達(もちろん一部の!)に、「かつこいいサラブレッドより、泥臭い駄馬を目指せ!」というようなことを明(迷?)言していたことを書いたが、この度は、こちらの方が、「より説得力のある」言い回しなのではないか?そう思ったりもしたということである!

「才があるからこそ、秀康さま(長子)を跡取りにせんのでござる」!その点、あなたさまは全てが人並み!」「人並みの者が受け継いでいけるお家こそ、長続き致します。いうなれば、偉大なる凡庸といったところですな!」「関ヶ原でも恨みを買っておりません!な、間に合わなかったおかげ!」と、將軍職に弱音を吐く?秀忠に、とくと説き明かす。秀忠は、「確かにそうじや。かえって良かったかもしれんな」と笑うのだった…。

実際に、そういうやり取りがあつたのかどうかは分からないが(史実としては疑わしい?)、その言わんとすることが、不思議と共感できるような気がするのである!要は、そういうことであれば、多くの人達(ここでは家臣達!)が、ある意味心配で、「あなた様を多種多様に助けてくれる」(時には吉言を呈してでも?)!そういうことであつたように思うのである!まあ、当人は、いろいろと大変ではあるが(どこかの宰相職のように?)!!

本ドラマの作者(演出家)の人生(人間)観かもしれないが、現実には、確かにそうである?と、改めて感じ入るわけであるが、危険な独裁者は論外であるが、孤高の切れ者・実力者、その一代で終わる者(信長/秀吉)ではダメだということでもある!!

ということ、これは、ある意味未来永劫?続く、リーダー論議の宿命であり、それは、まさしく「後継者問題」の究極の課題でもある!しかも、これは、何も国政レベルだけの話ではなく、むしろ、どこにでも伏在している問題でもある!政治とは、そして後継者づくりとは、本当に難しいものである!!

○こんな人生もあるのか？何ということだ？！

本当に、驚いた！そして、信じられない！こういうことで、ほぼその人の人生が埋まってしまっている！そこで、その人の人生時計が止まってしまっている？そういうことはあり得ない？その人とは、かつての宮崎県の高校球児である！ネット記事には、次のように書かれている！「61年前の暑い夏。戦後アメリカ統治下の時代、沖縄高校の快拳に人々は沸いた。一方、敗れた宮崎大淀高校のエース三浦健逸の人生は、大きく変わった。世間から『宮崎の恥』と呼ばれ、やがて野球の夢を諦めた。今年、三浦は80歳を目前にして、かつてのライバルたちと再会する旅に出た。沖縄ナインにとってあの試合の意味とは何なのか。そして、共に投げ合ったピッチャー安仁屋宗八に、長年言えなかった言葉を伝える。」

とまあ、これだけでは、彼の人生が、具体的にどのようなものであったのかは分からないであろうが、そこにある人生ドラマは、当時の「本土と沖縄の関係」（思い）がいみじくも投影されており、私には、二重の意味で（元高校球児と県外出身沖縄在住者ということ）、胸を打たれるものがあつた（ラスト・イニング 宮崎 vs 沖縄 初回放送！！ 2023年7月31日「ドキュメント20min」↓高校野球史の伝説が今よみがえる。1962年、沖縄が実力で初の甲子園を決めた一戦。その陰で敗れた宮崎のエースが抱えた葛藤。時を越え再会する球児たち。語り…谷原章介）！

ちなみに、「番組のねらい…『見たいテレビなどないという世代に向けて』、『こんなテレビ見たことがない！』といったため」の20分間。これまでの演出・文法・テーマから自由な若手制作者たちが、新しいテレビの形を模索します。」ともある。グッドである！※なお、当時の、夏の甲子園大会には、宮崎と沖縄の場合は、そのどちらかの勝利高が代表となることになっていた！誠に「狭き門」であつたわけである！そして、それまでは、すべて宮崎県の代表が、甲子園に行っていたわけである。

○また、こんな人もいる！ユーチューブの思わぬ福音！！

他に書きたいテーマがなかったわけではないが、いつものように、ネット記事を見ていたら、ちよつと気になったものがあつたので、ここで急遽取り上げることにした！

文頭には、「由が湧く！屋敷 2年半伸ばした爪：40代引きこもり男性の苦しみ」と目立っており、もがき続てきました」とあり、「貧困などで困窮しているのに『男性だから』と手を差し伸べてもらえない男性が『弱者男性』と呼ばれている。先行き不安な時代が彼らを社会の隅に追いやったのか？彼らが抱える『生きづらさ』の正体を突き止める。(P2)」とある！詳しくは書けないが、現在は、何故か？ユーチューバーとして、注目されているらしい！

しかるに、『YouTubeは収益化できましたが、とても生活できる稼ぎには程遠い。この7年間で人並みの生活はムリだと諦めざるを得なくなりました。せめてこれからは『人ならざる者』として、『社会に敗れた男の姿』を記録に残して、誰かの今後の生き方のヒントになればいいですね』と、本人は語っているという！これも一つの人生ドラマ！！

〈短歌に託して今年も少ない！様々な人生見通る！〉

・何のための エビデンス（証拠）？

ただ捨て去られては 悔しさのみ！！

・PTA 良かれと思われ 生まれしも

世が移ろえば 厄介者！！

・偉大なる凡庸？ 言い得て妙なり！

ただし当人は それどころではなく！！

・こんな人も いるのかと

同じ球児として 複雑 否 恥ずかしい？

・40代引きこもり！ 弱者男性？

それを逆手に 生きれば それもよし！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の士代史旅枕⑩

○改めて、倭国大乱と「大幡主命」／「開花天皇」の関わりは！！さて、改めて、こうしてみると、3世紀後半頃に、崇神天皇を中心にして、近畿・大和に、新しい勢力・王権が出来ることになるわけであるが（＝輪山麓の畿内祭政都市の出現、磯城地方の隆盛、一方の北部九州には、その時期においても、倭国／邪馬台国連合はあつた、残っていた！266年の「西晋」への遣使は、その倭国／邪馬台国連合のものであることは確か！「自耳」が女王を継いでいる！）そして、その二世代前は「卑弥呼」はもちろん、崇神の父親の「開花天皇」の時代ということにもなるわけである！！

であれば、それらの時代全体の史実解明の視点は、その前提としての、「倭奴国」を中心としていた、まさに「（旧）倭国」の解体（変質）それが、かの「倭国大乱」と呼ばれるものであつた！が、一方では、近畿・大和における新たな勢力の出来・結集、他方では、残された北部九州の、その後の新たな展開を生んだということである！おそらくそれらが、孝元（開化）崇神（垂仁）皇行（成務）さらには仲哀・神功皇后・武内宿禰、そして応神（仁徳）等に示される一連の状況であつたということである！！

要は、それらは、連環的、したがって同時進行的に進んでいたものというところであるが、別言すれば、関わりのある同じ部族・勢力によって進められたのではないかということである？例えば、「和祖族」、「鴨族」、「物部族」（尾張氏や海部氏を含む）とかである！そしてそこに、神功皇后・武内宿禰（諸族、さらには応神・仁徳等の新しい勢力（外要素か）が入り込んできた！）という中で、北部九州が二つに割れ、その中の一方の部族・勢力が近畿・大和へ移動し（吉備と出雲を抱き込んで）、他方では、新たな勢力の参入による「新倭国？」の誕生という形となつたということである！！

ただし、その後者には、近畿・大和への集結に関わつていた一部の勢力が、再び関わっているのではないかと！それが、神武の、大和での長子とされる「神八井耳命」の後裔である「多氏」である（彼らは「火肥君」「阿蘇君」「大分君」等となつていった！）！！こうなると、そこには、新たな史実の解明が必要となつてくる！そして、その大きなリングが「大幡主命」と「開花天皇」の関係と睨んでいるのであるが…！！（つづく）（堂本）

〈編集後記〉改めて、いろんな人生ドラマがあるものである！古代においても然りであろう！！しかし、後者はまだ、その舞台装置さえもが見えてこない！！とにかく真実を知りたい！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 18 号

発行日
2023.12. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○今年の「師走」は、「師を想う」ものとも?!

「師走」とは、陰暦12月のことであるが(ただし、現在でも使われている)、その年の最後の月ということである! 「師(お坊さん?)が走る(忙しい?)」という意味と理解していたが(実際は俗説のようでもある)、とにかく一年の締めくくり! 寒さも手伝って、世間がせわしく動いている? そんな情景である! それは、今でも変わらない!!

尤も、暖かい、しかもおんぴりとした?ここ沖縄に長らく住んでいる私にしてみれば、そうした冬の情景(心象)はまったく無縁なのではあるが、年の瀬ともなると、やはり、この「師走」という言葉が頭を擡げてくるわけである! そんな中、福岡のM先生の訃報に出くわした(13日)!

それは、偶々電話したS県のHさんからであったが、亡くなられたのは先月の8日であつたらしい(原稿校正を終わらせた直後の?「孤独死」であつたそうである!)。「M先生らしい?」と言え、故人に申し訳ないが、信じられないくらい沢山の支持者(信奉者?)がいた中で、分かる人には分かっていたであろうが、ある意味では「孤高の人」であつた(少なくとも、私にはそのように見えていた!)!!

近年は、尊顔を拝することもなかつたので(事情があつて、その機会を自ら作り出していなかつた!)、それはそれで仕方がないが、ある一時期までは、私の「心の師」(否、畏敬する「疾駆(きやく)る人」?)であつたことは間違いない! また一人、偉大な先輩が逝かれたわけであるが、とにかく、お疲れ様でした! そして、ありがとうございます!

ということ、今年、このような年の瀬となつて、が、「師」を想う「師走」ともなつてゐるわけである!!

○さりげない告発者!だが、優しい伴走者でも?!

突然、そして無理矢理?上の記事と連動させることになるが、今年の、著名人の「墓碑銘」的な記事が、今朝の新聞(22日)に載つていた。「ああ、こういう人達が逝かれたのだなあ!」と、改めて知らされたわけであるが、ここで記しておきたいのは、その中の一人、脚本家の山田太一さんのことである! と言うのも、先日、彼の作品を観て、そして、「追悼」亡くなられた山田太一さんをしのんで『チロルの挽歌』をYouTubeにて放送」というネット記事を読んでいたからである。

私には、他に「岸辺のアルバム」や「男たちの旅路」といった作品が思い起こされるのであるが、そのネット記事には、「若い世代から老人まで、さまざま世代の人物を登場させることが多い。その点は『前世代があつて、良くも悪くも次世代があるわけで、まったく切り離されて、ある世代が存在しているわけでもないから』とあつた!そこに私は心を惹かれるわけでもあるが、それは、ある意味では、時代の「さりげない『告発者』!だが、優しい『伴走者』でも!」ということである!! だから、どの作品も、最後は、happy endであつた!!

ちなみに、同ドラマは、「二人の男と一人の女が北海道で再会し、どんな生き方を選びどんな生き方に挽歌をうたわざるを得なかつたのか...人間模様と、時代の変わり目を迎えた街の姿...過去にそれぞれ関係があつた二人の男と一人の女が北海道で再会...テーマパーク建設のため過去の三角関係を水に流し、新しい夢に向かつて力を合わせるといふ熱き友情のドラマ...」とある!

○最初に出会った若者達!今は、50過ぎの壮年となり!

さて、もうかなり日数が経つたが、過日(6日)、大変嬉しい時間をもつた! それは、私が、琉球大学赴任後最初に出会つた(所謂「学生チューター」として)学生達との、久しぶりの忘年会(飲み会)であつたが、この間の「コロナ禍」もあつて、人数的にも、一番多いものであつた(県外一人は「出席」と、事情があつて顔を見せない2人を除いて、そして、残念ながら、既に物故している3人もいる!)! ということ、私の周りは、総勢9人の、元若者達がいたわけであるが、今は、50過ぎ(52歳前後)の壮年達であつた!

しかるに、思い出せば、確かこの元若者達からであつたと思うが、11年前の「還暦」のお祝いをしてもらつた時の「泡盛の古酒(クース)」が、何故かまだ我が家にある!! ただし、最終確認はしていないので何とも言えないが(この間、何度かは蓋を開け、時々来訪者と飲んだことはあるが、少しは継ぎ足しもしているので、まだ残つてはいると思う?)!!

ところで、一昨日(20日)、忘れかけていた?ある賞のことが、思いもかけない人物(ここでは「お馴染み」の?O県のS君!こちら、学年は違ふが、一応は?教え子!)から知らされたのだが、実は、年明け2月の17日に、その「古酒(クース)」にかこつけて、我が家に集まることになつていたので、場合によつては、「サプライズ古酒(クース)」に出来るかもしれない!! そうも、思つてゐるわけである!

なお、ここに言う「ある賞」については、もちろん嬉しいものではないが(そして、我が奥さんのことを思うと?)、ある一人の人間(現県教委スタッフ/彼もまた元琉大生)の思いの賜物であることは、ここに敢えて書き記しておきたい! 詳しくは書けないが、私の功績?を本気で認め、そして動いてくれたことが何より嬉しい! と言うよりは、その思いには応えなければ! ということでの代物である!

そんなことを思いながら、今これを書いてゐるわけであるが、改めて卒業生達との出会い・再会は、掛け値なしに嬉しいものである! まだまだその機会はある!! (井上)

○エジプトの動き(思い)ー複雑ではあるが…

これもまた、過日(8日)、ある意味では考えられない？
かのエジプトとつながったズーム交流を行った(沖縄3
カ所、エジプト5カ所？を結んだ)！10月の26・27日
において、那覇市(県生涯学習推進センター&豊多川公民館
+公設市場)で行動を共にした人々とのそれであったが、
話題は、別途作成している「新・教育協働への道」(16
で紹介している、彼らのプロジェクト、エジプトの大学
(正確には大学院？)での社会教育主事(に相当する？専門
家・養成(ディプロマ付与)のことについてであった！
もちろん、それについては、ある意味大先輩？である
私(ここでは堂本であるが！)であるので、可能な限り支
援(アドバイス？)をしたかったのであるが、言葉の問題
はともかく、やはりその背景にあるものの違いもあり
(大学の組織&日本で言う教育行政のしくみ等、どのような
貢献が出来るのかは、かなり？であったように思う)!!
要は、彼らが、私(達)に求めているものは、ただ一
つ！養成課程での実践的な学修のプログラム、その履修
プランのことであったということであるが、私からすれ
ば、それだけなの？とも思うが、彼らには、彼らなりの
事情(？)があるのであらう？それが、いわゆる「教育
借用」というものではある？！ただし、心配ではある？！

とにかく、それについての事例・情報は、それに相当
する「演習プログラム」を提供している沖縄県の推進セ
ンター(国社研の社会教育主事講習)にお願いすることに
なったが、過去に苦い思いをした？大学での社会教育主
事養成を、エジプトの大学がやろうとしていることに、
複雑な思いを重ねながらの対応であったということであ
る(一応、彼らは、そのことを理解してはいた？私のリベン
ジ？を、エジプトでやりたいとも言っていた！笑)!!
いずれにしても、当地での「公民館建設」、そして学
校への「特活」の導入(大統領自らの肝いり！)等と、エ
ジプトは、今、すごい勢いで、日本を追いかけている？！

○何とも悩ましい「祭神」の乱立、否、滅裂？！

何度も書くようで申し訳ないが、最近、古代史に関わ
るブログやYoutubeを沢山見ている！そして、様々な有用
な情報を得ている！ひょっとしたら、このようなところか
ら、真相解明の突破口が開き始めるかもしれない？そんな
ことさえ思う次第であるが、だが、ここに来て、何とも悩
ましい問題も感じ始めている！それは、ここに出てくる
「神」のことであるが、その名前、そして、鎮座場所!!
一言でいえば、「乱立、否、滅裂？」ということでもあ
るが(使用字や読みの問題も、もちろんある！そしてそれが多く
の人を遠ざけている？)、そこには、明らかに社名や祭神名の
変更、すり替えや秘匿があるということでもある？！
実は、その原因を探し出していくことが、他ならぬ「古
代史解明」の一助ともなるわけであるが、そんな中、例祭
等を実施し、敬虔に、その「神」を祀っている人々がいる！
他方、私を含めて、普通の人々は、結婚式や初詣、他の区
切りの行事(七五三等)等で、お世話になるだけである？！
〈短歌に託して師走！こうして今年も過ぎていく！〉

・疾駆(ささめ)く人 師と仰ぐは 少し変？
ただ見せられし姿 しかと収むる！
・さりげない 時代の告発者？
だがすべての世代に 優しき伴走者でも？！

・50過ぎの壮年達 人となりは 変わらじも
見た目は それとは裏腹に？！
・エジプトよ いいところ取りは ほどほどに！
同じ過ち？ 決して繰り返すまじ！

・古人よ 何故に設けし 神の社！
いにしえひと
やしろ
名前は滅裂？ そこに何ある？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(18)〈

○「大幡主命」が「旧倭国」、「開花天皇」が「新倭国」？！

そこで、ここでは大変な妄想となるかもしれないが(だが真実？)、思い
切つて、かの「大幡主命」が「旧倭国」、「開花天皇」が「新倭国」の勢
力というように捉えてみると、どのようなものか？そこについて、少し
考えてみたい！なお、前者は、博多湾沿岸(中心地は須玖岡本？)に覇を
有していた「鰐族」、後者は、背振山南麓・「高良大社周辺」に蟠集してい
た新興勢力(天伽耶ノ多羅勢力+狗奴国)龍襲族+神功皇后・皇長子武内宿禰諸
族であった？！ただし、その後者の勢力については、もう少し複雑な様相
があったとも思われる(とりわけ、そこにおける「三淵君氏」の存在！)!!
とは言え、そこら辺りの言及は、今後のさらなる課題ということであ
る(課題ではあるが！)、ここにおいては、取り敢えず、博多湾沿岸部の「旧
倭国」の中心勢力(主藤)が、その内陸部、拠点を変えれば有明海沿岸部
の新興勢力に追いやられ(鴨族とともに東へ移動！いずれも「海神族」？、
それが引き金(「源流」？)となって、西日本全体の諸部族・勢力の大々的な攻
防、すなわち「倭国大乱」と呼ばれるものになっていった？！

そして、その過程において、北部九州では、「魏志」に言う「邪馬台国」
の出現、親魏倭王「卑弥呼」の登場、さらには「吾土(吾土)」への継承が
なされるわけであるが、その後の頼末(新倭国)邪馬台国連合の解体？につ
いては、ほとんど闇の中(6世紀末まで)という接点なのである！要は、そ
のことについては、例の「記紀」は何も記していない！と言うよりは、か
の「神話」として、その頼末を暗示させている？そういうことである？！
いずれにしても、そういう中で、現在も、大幡主(大幡主命/建瓴安彦)、
そして、「開化天皇(高良大神？)」を祀る神社や、彼らに纏わる伝承が、そ
こ北部九州に色濃くある！ということは事実であり、ここではつきりとして
いることは、ある時期から北部九州(倭国)が二つに分かれ、その二つの勢
力が、北部九州と近畿(天和・河内)双方を舞台として、その後の「倭国」
日本国(？)を形づくっていった？！少なくとも、そのことだけは言えるとい
うことである！(つづく)

〈編集後記〉ということ、今年、これで終わりである！来
る「辰年」はいかなる年となるのか？一応は、7回目？の「年
男」ではあるが、これまで同様の日々が続く？！ただ、かの心
配(憤り？)は、決して同様であつて欲しくない！(井上/堂本)

・古人よ 何故に設けし 神の社！
いにしえひと
やしろ
名前は滅裂？ そこに何ある？

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 19 号

発行日
2024. 1. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○新年に想つ！「辰年」、そして、「年男」でもある！

年が明けて、既に5日！私自身には、いつもと変わらな
い年始なのであるが、実は、今年は、干支は「辰」。だか
ら、「一応は「年男」(7度目)なのである！そこで、何か
発奮できるものはないか？そのようにも思ってはみるが、
なかなかその材料が見当たらない？でも、何とかしたい！
否、そうしなければ、さらなる老境へとまっしぐら!!

そんな想いのスタートであったが、一方では、そのよう
な高齢者の戯言？を、のつけから、しかも一瞬のうちに打
ち砕いたのが、元日の「能登半島地震」(その後も続いてお
り、被害は甚大なものとなっている！)、そして、2日の日航
機と海上保安庁機との「衝突事故」である！どうしてこん
な日に、こんなことが続けて起きるのか(不測の自然災害&
人為的なミス？とは言え、およそ考えられないような事故!!)!!
命をなくした方、被害に遭われた方々には、本当に何を
言っているのか？言葉にするにも憚れるが、一日も早い復
興(地震災害の方は、まだまだ厳しそうであるが！)、そして、
心の傷を癒されることを祈るばかりである！目を転じれ
ば、相変わらずの、諸外国の悲惨(ウクライナ、パレスチナ・
ガザ地区等)も続いている！他方では、そうした悲報とは
真逆の？、どうしようもない(情けない?)話(政治家のキ
ックバック事件等)も続いている！

いずれにしても、すべての人に「新年」は訪れている！
人の世のはかなさを挙げればきりがないのであるが、生き
ている限り、その「生きる意味」を求めて(探して!)生
きる他ない！それは、「年男」であろうが、「高齢者」であ
ろうが、一切関係ない！そう思つて、歩むしかない！

○娘達(次女・三女)、そして卒業生達との出会い！

上記の痛ましい災害・事故のこともあるので、あまり
個人的なこととは書きたくないのがあるが、このことは、
是非書き記しておきたい(私の、この通信への思いを分か
つていただいている方には、多分分かつてもらえる?)!!
ということ、まずは、正月休み(短い日数であつた
が!)に、福岡と岡山に住む次女、三女が、我が家に帰
つてきた！二人とも独身であり(年齢は不問とするが!)、
いつもながら、幼少期の親子関係を、可能な限り取り戻
そうとするような言動をしている私であるが(神社参り
の際の綿菓子購入等)、いつまでこのような光景を見られ
るのか？何とも複雑な思ひの昨今ではある！

次が、最後のゼミ生3人(T君/O君/Mさん)の、年
始訪問(2日)であるが、この学年の若者達には、何度
も書いてきたが、私は、大いに救われた！やけになつて
大学を辞めた私であつたが(それ故に、彼らには大いに迷
惑と心配をかけた!)、その後も変わらぬ思いを持ち続け
てくれているようで、事あるごとに、私の家に顔を見せ
続けてくれている！本当に、ありがたいものである！

これも、かの「教師冥利」ということであるが、こ
うした関係がいつまで続くか(賀状も含めて)?独身の間
は、それなりに続くであろうが、所帯を持つたら(少々
古い表現か?)、そうもいかない(ただし、T君は所帯持
ち！子どもも二人いる!)!!彼らを通じた、他の卒業生達
の近況も知れるというおまけ?もある!ついにながら、
年明け直ぐに(午前零時)、「あけおめ」の電話をする、
一つ上の卒業生(S君)もいる(今年もあった!)!!

○今更ながら、「七十にして矩を踰えず」!!

これは、古代中国の経書である「論語」を元にした故事成語で
あるが、恥ずかしながら、否、迂闊にも、その故事成語自体の存
在を失念していた!「五十にして天命を知る」や「六十にして耳
順う」は、それなりに覚えていて、使つたりもしてきたのである
が、自らが、その年を迎え、そして超えた今も、ついぞ思い出す
ことはなかったわけである!

しかし、それが、何と昨日(9日)、偶然にも出くわしてしま
つた!しかも、それは、いつのまにか、ネット上で、ある種のル
ーティンワーク化している「難読漢字」の読みの問題から、それ
に行き着いた次第なのである!そのルーティンワーク自体は、一
種のボケ防止のために行っているつもりであるが、改めて、漢字
の世界の広さ(奥深さ?)を知らされる時でもあるということであ
る(初めて見る字も多く、情けなくなる場合もあるが!)!!

そこでここでは、折角でもあるので、この「七十にして矩を踰
えず」の意味を確認しておくことにしたい!そし
て、果たしてそれに見合う生き方を、今の私がしているのかど
うかを、自己評価してみたい!ちなみに「矩を踰えず」とは、
『道徳や規律から外れる』『分を越えた振る舞いをする』という
意味で、どんなに立派な人でも自分の行動を完全にコントロール
できるようになるのは七十歳くらいになってから!ということら
しい(確かにそうだが、それにそぐわない人もいる?)!!

それはともかく、今の私は、そのような生き様とはなっている
と思われるので(最早「矩を踰えず」のような生活環境にはない!)、
一応やれやれではある!!ただし、「いくつになつても成長でき
る信じつつ」生きられれば、それはそれで、さらに結構なことか
と思われる(ただし、論語では八十以上はない?)!!

余計なことではあるが、この孔子の言葉については、前にも述
べたかもしれないが、丁度50歳を迎える頃に読んだ、井上靖の
『孔子』(1989年の第42回野間文芸賞受賞作)のことが、改め
て思い出される!「五十にして天命を知る」の「天命」のことで
あるが、何故か、その小説を読んで、大いに納得させられたこと
を覚えていて(多少?通説とは違つた?)!!

(井上)

○3月16日(土)、いかなる「出会い」となるか?!

ひよんなことから、以前から実現させてみたいと思っていた交流が出来そうである(3月16日(土)午前。形は、「インタビュ・フォーラム」という名のズーム交流。ただし、タイトルは未定!それは、今、沖縄で頑張っている4人の、NPO法人・一般社団法人の職員(MJさん・MSさん)公民館受託者/MHさん・Yさん)青少年の家・児童館受託者)と、長野県泰阜^{やすおか}村で、NPO法人グリーンウッド自然体験教育センターを運営しているTさん(代表理事)とのコラボ交流である!

願いは、長野のTさん(達)がやってきたこと(ひとづくりとまちづくりの循環の究極体現)を参加者全員で共有し(学び)、それを踏まえて、参加者全員の思いと力の結集(仲間づくり・後継者づくり)を、改めて行つてほしいということである(であれば、タイトルは、「ひとづくりとまちづくりの循環」そこには、何が必要なのか?インタビュ・フォーラム…「人」と「思い」の結集!とでもなるか?)!!

現役を退き、ほとんど公的な関わりを辞してきた私であるが、この間唯一の、玉城青少年の家の、自称?「相談役」をやりながら痛感したことは、「教育協働」(「学校教育」と「社会教育」の協働)を実現するためには、彼らのような、傑出した思いと力のある、そして、それを「持続的に行うことが出来る」人達(地域や学校、行政を動かしていくプロモーター的人物?)が必要だということである(現実には厳しいが!それ故に、応援したいのである!)!!

今回の面々は、これまで私が出会ってきた関係者の中で(教員や行政以外、その思いと行動力(企画力も含めて)が抜きん出ている、関係者の、新たな模範(先行く人?)となり得ると評価している人達であり(ある種の役割変換!それは、人事異動のある公務員には限界がある?)、世代的にも、そのことが期待出来る人達である(50過ぎと40過ぎの各一人!二層の働き盛り?そこが、ある意味ミソ?)!ただし、こうしたお節介?は、これが最後とはなる?!

○すべて、「教育」の結果である?!

ところで、こんなことを、今更書いても仕方がない(無力を感じる?)が、自然災害や、やむにやまれぬ事情でのそれはともかく、多くの犯罪や悪事は、究極のところ、その人間の弱さや欲得の為せる業であることは言うまでもない!どうしてそんな人間が出てくるのか?親や生育環境(家庭や地域社会、学校等)に因を帰することも出来ようが、要は、人の命を奪ったり、迷惑をかけたたりすることは、絶対に許されないという倫理が育っていない?あるいは、それを、いつのまにか無くしている(それが大きい?)!

だから、「教育」は、個々人の「人格の完成」と「社会の良き形成」を目指すものとされるが、いつの世も、これが実現されることはない!!だが、それが分かっている、やはりそのことを謳っていく他ない!そんな無常さを感じるのであるが、それを、多くの人が放棄してしまったら、それこそカオスである!だから、たとえ無力であったとしても、それを実現しようとすることが重要なのである!<短歌に託して>いかなるスタートであろうとも!<

・いかなるスタートで あろうとも

そこから始めるしかないのである!!

・父親としての思い そして教師冥利

続く限りは持ち続けたい 感じていたい!

・「古希」にだけ目を向け

そこにある「矩のりを踏まず」を 失念す!

・最後の期待? とは言えそれは こちらの勝手?

でもぶつけてみたい 彼らには?!

・弱さや欲得 誰もがもつ

その先導うは 何の所為? そこに「人」あり!

<特別コーナー>堂本彰夫の古代史探枕⑩<

○「倭国大乱」は、「鰐族」と「鴨族」の移動(逃亡?)から!!では、改めて、その二つの勢力とは、具体的にどのような勢力なのか?そこでここでは、かの「神武東征」のことを、少し冷静に?捉えてみたい!何故なら、それは、時代的には、先号でも述べたように、かの「倭国大乱」前後の話であるからであり、その動き(東征)は、それに伴う、ある勢力(おそらく「鰐族」と「鴨族」!!いずれも「海神族」!)の東への移動(逃亡?)を示すものと考えられるからである(ただし、物語自体は創作?)!!

すなわち、北部九州における自らの立場の悪化(覇権の危機?)によって、東に移動した「鰐族」と「鴨族」(奴国及び一部の伊都国の王族達も?)の主流は、まずは吉備に逗留し、足守川流域に「吉備王国」を立てた(標榜遺跡に進出し(意郡?),他方では「河内」へも進出し、「淀川」を遡り、「近江」で合流するとともに(伊勢遺跡)、その「河内」から「大和川」へも遡り、「大和」へ集結していった(橿原遺跡)!!

前者が、「前方後方墳勢力」、後者が、「前方後山墳勢力」となっていくわけであるが、徐々に後者が優勢となり、前者の勢力は、北陸・東海、関東方面、そして、一方では、西に向かつて、九州方面へと移動(回帰?)していった(それらが、後に「多氏」と呼ばれるものであるが、彼らは、神武の大和での長子「神八井耳命」の後裔という位置づけであった!)!

ただし、ここでの問題は、西へ向かった(回帰?)していった「多氏」が、新倭国(邪馬台国連合)の樹立に、どのように関係していったかである!!最初の建国(卑弥呼の共立)に関係していたのか?それとも、卑弥呼の死後の「吉野」の擁立に関係していったのか?そういうことであるが、そのどちらかに関わっていることは間違いない(阿蘇の君、火の君、大分の君等)!!

ということ、それに関わるもう一つの問題は、中南部九州に盤踞していた「隼人」(熊襲族)と、彼らが、どのように関わっていたかである!!これが分かれれば、複雑怪奇な「背振山系周辺」と「高良大社周辺」の状況が、さらに理解できるようになる!!それについては、次号で(つづく)(堂本)<編集後記>こうして新年が始まったが、寒さの方は改めてこれから?とにかく早く春が来ないかと、めっきり体温調節機能が低下している、そして、昨日(12日)からは、久しぶりの大きな○(腰)に見舞われている7度目の年男(達)である!(井上)堂本

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 20 号

発行日
2024.1.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

〇二月、三月には、それぞれ県外へ！楽しみである！

今年も、いつものように、早一月が過ぎようとしている！こんな書き出しで、新たな年の経過を記すのは、甚だ恥ずかしい（情けない？）しかも、久しぶりの大きなギックリ腰も伴って！のであるが、これもまた、今の私の偽らざる日常でもあるので、何とも甘受するほかない！！

とは言え、来月、そして再来月は、少しは違った日常？を迎えることが出来そうである！そうなのである！二月は東京へ、そして三月は、鹿児島への旅が待っているのである！前者は、以前に、少しだけ触れていたが、ある賞の授賞式への参列という大義名分を伴う旅であるが（実は、我が奥さんに喜んでもらうためである？）、そこでは、東京在住の、大学時代からの友人であるF夫妻との再会を果たすためである（彼らとの、房総への温泉旅行もある！）！

後者は、最近何度もお世話になっている、岡山県倉敷市在のS君（某大学の教授／教え子のつもり？）の研究（事例調査のお手伝いということ、今回は、彼の実家でもある鹿児島県鹿屋市の学校を訪問することになっているのである！なお、そこでは、同じ学年の卒業生T君（鹿児島在）とI君（宮崎県在）に会えることにもなっている！再会を果たすことが出来れば、さらに嬉しいものとなる！

ということ、これから先、そのような旅や出会いが、いつまでも出来るわけではないので（つくづくそう思う！）、行ける時には、可能な限りそうすることになっている私であるが（ただし、その準備等は、ほとんど我が奥さんがしてくれている！）、それがまた、私の貴重な（自分勝手な？）歴史（自分史）づくりになることは言うまでもない！！

〇学会も、こんな形なら、今少し続けられるかも！！

先日（16日）、現在も、辛うじて唯一会員を続けている「生涯教育学会」の関わりで、Zoomによる研究会に参加した。もう会員としての参加はいい（卒業？）と、ここ数年来思っている私であるが、こんな形の学会参加なら、もう少し続けられる（否、続けてもいいかなあ）と思わせるものでもあった（こんな時代になろうとは？）！

ここでは、その日のテーマ・内容については、特に示さないが、毎回貴重な資料（情報）を得ることも出来る！もうほとんど研究者的な努力もしていない（意欲もない？）私にとっては、甚だ貴重な機会ともなっているわけである！しかも、今回は、発表者の配慮？で、参加者との質疑応答の時間が多く取られ、ただ聞くだけと思っていた私も、ついつい発言してしまつた次第である（やはり、根っからの「喋り好き」※我が奥さん評！実際は、そういうことではないのであるが？）な私なのである！！！

折角ではあるので、これについて少し敷衍して言えば、「学会」というものは、その分野・研究対象における「真理の探究」を目指す、当該集団の「結集の場」であるが、実際には、なかなかその実感が得られないものである（「年報」の発刊や、当日のシンポジウム、個々の研究発表における質疑応答の時間等は設けられてはいるが！）！！

要は、会員各自の興味・関心、そして「意欲」（いろんな意味がある！）によって、その意義が担保されているわけであるが、特に、その「意欲」が減退している（それを必要とされない？）者にとっては、なかなかそこへ足を運ぶ気力（財力も？）が沸かないということである！！

〇大きな、そして強固な集団が、相次いで瓦解している！！

ところで、ここでは、こうした話題・テーマ（芸能界に関するもの）は、出来れば採り上げたくないものであるが（単なるスキャンダル話となる？）、昨年は（旧）ジャニーズ事務所、宝塚歌劇団で大きな問題が表面化し、そして今度は吉本興業が、世間の注目を浴びている！タレントや芸人が作り出す、言わば「虚構（虚飾）の世界」とは言え、その存在の大きさと、それが与える社会的な影響は、たとえそれらがマスコミ等によって喧伝させられているものであっても、今や計り知れないものとなっている！まさに、巨大産業化しているということである！

もちろん、ここでは、そういうことに関する具体的な事実を云々するわけではないが（出来ないし、したくもないが！）、ここで書いておきたいことは、あんなに大きな、そして強固な集団（組織）が、見る間に瓦解していつていることに（特に、あの華やかなジャニーズ事務所）、驚きとともに、何か、時代の大きな転換点を予感（実感？）させるものになっているということである！！

しかも、こうした芸能界の話で終わるのではなく、これも、あまり書きたくはないが、その後の、政治の世界の、いわゆる「ギックバク」事件に端を発する、某最強政党の激変（↓派閥解体？）も、ある意味、同じような現象として捉えることが出来るということである！端的に言えば、すべて、「奢れるもの久しからず」ということであるが、問題は、今現在の大きな力（組織／個人も？）が、その存在意義や、彼らが有している人間関係や力関係（主として財力による！）が徐々に変質し（ある意味必要とされていない？）、次なるパワーや社会勢力が求め始められているということではないか？そういうことである！！

それが、ある種の「時代の相転移（臨界現象）」なのかどうかは分からないが、少なくともスター（否、ヒーローかな？）やタレントのあり方が問い直されていることだけは確かであろう！！そして、そこでは、奢り・強権／虚飾・虚勢は、全く不必要だということである！！

（井上）

○「盛者必衰の理」！誰が、何故、書いたのか？

祇園精舎（ぎおんしょうが）の鐘（かね）の聲（こゑ）、諸行無常（しよぎやうむじやう）の響（ひび）きあり。娑羅双樹（さらかうじゆ）の花（はな）の色（いろ）、盛者必衰（しよじやうむじやう）の理（り）とちをあらはす。驕（おご）れる人も久（ひさ）しからず、ただ春（はる）の夜（よ）の夢（ゆめ）のごとし。猛（たけ）き者（もの）もつひにはほろびぬ、ひとへに風の前の塵（ちり）に同じ。

周知（しうち）のように、右（みぎ）は、かの有名な『平家物語』の冒頭（まうとう）部分（ぶぶん）であるが（初めてそれを見た！あまりにも有名過ぎて、直接（ちやく）全部（ぜんぶ）見（み）ることはなかった！つまり、そのエッセンスだけを、勝手に理解（りかい）していたということである？、表（うへ）の井上（いのかみ）氏の記事（きじ）内容（りやう）に関わ（か）つて、少し（ちひ）こでも、何か（なん）か感（かん）じ入（い）つたことを書いておきたいということで、取り出（し）してきたというこゝである！ちなみに、『平家物語』は、鎌倉（かまくら）時代に成立（りやう）したとされ、平家（へいけ）の栄華（えいけ）と没落（ぼつらく）、武士（ぶし）階級（かいきふ）の台頭（たいとう）などが描（えが）かれてい（い）るものである（ネット情報（じほう）より）。

とこゝで、この物語（ものがたり）は、作者（そごう）不詳（ふじやう）（藤原（ふじわら）支族（しそく）の末裔（むつゑ）とも？）の軍記（ぐんき）物語（ものがたり）（冒（まう）言（ごん）の「琵琶（びわ）法師（はふし）による語り」とされているが、私（わたし）には、この作者（そごう）の胸中（きゆうちゆう）（目（め））が、何故（なん）か、一番（いちばん）気（き）になる！というか、何故（なん）かこのよう（やう）な物語（ものがたり）（テーマ）を書（か）いたのか？そこ（そこ）が知りたい（し）というこゝである！余談（よだん）だが、かの「鴨（鴨）長明（ちやうめい）」（鴨（鴨）氏（し）／賀茂（かもち）県（けん）主（しゆ）氏の末裔（むつゑ））も、このよう（やう）な「諸行（しよぎやう）無常（むじやう）？」を説（と）いていた（『方丈（ほうじやう）記（き）』）！

要（い）は、そう（やう）い（い）うことを、思（おも）うこゝとはあつても、敢（あ）えて言葉（ことば）・物語（ものがたり）に書（か）くとい（い）うこゝに、どのよう（やう）な意味（い）があるのかとい（い）うこゝであるが、ある意味（い）では、敗者（はいてしや）あるいは諦観（ていきかん）者（もの）／遁世（とんせい）者（もの）としての捨て台詞（たいし）（二面（にめん）では、ある種の「矜持（けいぢ）」あるいは「さま〜見ろ！」感（かん）？）なのではないかとい（い）うこゝである（それが、文学（ぶんがく）ともなる？）！！

もちろん、そこに、「世（よ）の警鐘（けいしゆ）」とい（い）ふ意味（い）もないわけではないが、私（わたし）には、どうも、そちら（そちら）の方（かた）の解釈（かいしやく）がピンとくるし（自己（じこ）投影（ていえい）？）、そうであるからこそ、そこにある、生身（なまみ）の人間（にんげん）の「切な（き）さ」（どうしようもないではないか！）感（かん）が、とても共感（きかん）できる（し）とい（い）うこゝである？！！

○画期（革命）？的な論証（ろんしやう）結果（けつが）であるにも拘（こ）らず…！！

昨日（けふ）（20日（にじふ））、例（れい）によつて、古代史（こくたいし）関係（かんけい）の動画（どうが）を漁（あ）つてい（い）ると、画期（革命）（こくめい）？的な論証（ろんしやう）結果（けつが）であるとい（い）える（否（いな）断言（だんげん）できる！）動画（どうが）を発見（はつけん）してしまつた！改めて、それに関（か）わる情報（じほう）をネット（で）で調（しら）べてみると、その論証（ろんしやう）結果（けつが）は、既に2020年（ねん）9月（げつ）には世（よ）に出（で）されてい（い）たよう（やう）である！にも拘（こ）らず、現在（げんざい）におい（い）ても、かの「邪馬台国（やまたいこく）所在地（しよじ）論争（ろんしやう）（事実（じじつ）上（じやう）は、北部九州（ほくぶきゆう）か近畿（きんき）大和（たいわ）か」の二者（にしや）択（てき）一（いつ）論争（ろんしやう）？」は続（つ）いてい（い）る！一体（いつたい）、どうして（して）なのか（何（なん）か作（さ）為（ゐ）でもあるのか？）？

詳しい（しゆじゆ）ことは書（か）けないが、その論証（ろんしやう）者（もの）「関川（かんがわ）尚功（しやうこう）氏（し）」によれば、書名（しやうめい）からも分かる（し）ように（『考古（こくこ）学（がく）から見た（み）た邪馬台国（やまたいこく）大和説（たいわせつ） 畿内（きない）ではありえぬ邪馬台国（やまたいこく）梓書院（しすくえん）、考古（こくこ）学（がく）的（てき）見地（けんち）からは、3世紀（さんせいき）（邪馬台国（やまたいこく）／卑弥呼（ひみこ）時代（じだい））の大和（たいわ）（纏向（たのむけ）遺跡（いせき））には、『魏志（けいし）』に示（し）されてい（い）るよう（やう）な痕跡（こんせき）はないとい（い）うこゝである！それ（それ）を受け（うけ）た、新（しん）たな展（てん）開（かい）・論争（ろんしやう）が望（のぞ）まれるわけであるが、その動き（うごき）がない？改（か）めて、それは何故（なん）かのか？

・〈短歌（たんか）に託（たく）して／やはり世界（せかい）は変（へ）わつてい（い）る！〉

・たとえ国内（こく内）でも、行（い）かれるうちは
すべて行（い）こう！
それが我が歴史（れきし）となる！

・学会（がくかい）も
ズーム使（つか）えば
まだまだよし！

いづれ（いつれ）にしても
こんな時代（よ）が来（き）ようとは！

・あんな組織（そくし）が
壊（こわ）れるなんて！
やはりそれは
時代（よ）の大転換（たいてんかん）なのか？！

・“盛者（しよじやう）必衰（むじやう）”？
そんなことは分（わ）かつてい（い）る！
問題は
何故（なん）かそれを語（かた）るかである？！

・本質（ほんしつ）は
あつち（あつち）かこつち（こつち）かではない！
いかなる史実（しじつ）が
そこ（そこ）にあつた（あつ）たかである！

〈特別（とくべつ）コーナー〉堂本（どうほん）彰夫（しやうふ）の古代史（こくたいし）旅枕（りよし）②〇〇

○「大幡（おほのぼん）主命（しゆめい）」と「開化（かいけ）天皇（てんがう）」は、「新（しん）旧（きゆう）倭国（やまと）勢力（しきりき）」（「二極（にきよく）体制（たいし）」の生（な）みの親（おや）！でも、何故（なん）か双方（しやうはう）は隠（かく）されてもい（い）る？！とい（い）うこゝで、こゝでは、後漢（ごかん）から「委（倭）（倭）奴国（やまとこ）王（わう）」とされてい（い）た「奴（倭）（倭）国（やまと）王（わう）」（遷（うつ）が、何（なん）らかの事情（じじき）で、最後（さいご）は覇權（はけん）の危機（きき）？、2世紀（にせいき）後半（こうはん）から各地（かた）に移（うつ）動（どう）し（それに伴（ともな）う騒（さわ）ぎが、いわゆる「倭国（やまと）大乱（だいらん）」と呼ばれるもの？）、その彼（かれ）らの東（あづま）へ（の移動（いどう）（↓高麗（こうらい）↓百濟（くだら）↓近江（おうみ）↓大和（たいわ））が、「神武（じんぶ）東征（とうしやう）」とい（い）う物語（ものがたり）に投影（ていえい）（赤（あか）足（あし）色（いろ））とされてい（い）るのではないかととい（い）うこゝであるが、冷（れい）静（じやう）に見（み）れば、そこ（そこ）には、北部九州（ほくぶきゆう）で、「奴（倭）（倭）国（やまと）王（わう）」（遷（うつ）を追（お）ひやつた「新（しん）倭国（やまと）勢力（しきりき）」と、東（あづま）へ移動（いどう）（大和（たいわ）に遷（うつ）した「旧（きゆう）倭国（やまと）勢力（しきりき）」の「二極（にきよく）体制（たいし）」が出来（でき）上（あ）がつてい（い）たのではないかととい（い）うこゝでもある？ただし、もちろん、「記紀（きき）」は、大和（たいわ）に集結（しやくけつ）した「旧（きゆう）倭国（やまと）勢力（しきりき）」の方（かた）から見た（み）た建（けん）国史（こくし）を描（えが）いてい（い）る？！そうしなければ、自ら（みづか）ら創（つく）出した「万（ま）系（けい）一世（いせ）」の物語（ものがたり）が崩（くづ）れる（史実（しじつ）がバレる？）？！とい（い）うこゝである？！

であれば、こゝでの「大幡（おほのぼん）主命（しゆめい）」や「開化（かいけ）天皇（てんがう）」の話（はなし）は、そうしたいわば「新（しん）旧（きゆう）倭国（やまと）勢力（しきりき）」による「二極（にきよく）体制（たいし）」に絡（か）んだものとなるので、そのよう（やう）な視点（しやんてき）での史実（しじつ）解（かい）明（めい）が求（もと）められるわけであるが、実は、そのこゝ自体（じたい）が「記紀（きき）」では隠（かく）されてい（い）る、否（いな）話（わ）が歪曲（わいこく）ないし捏造（ねつぞう）されてい（い）る？！すなわち、「大幡（おほのぼん）主命（しゆめい）」は「旧（きゆう）倭国（やまと）勢力（しきりき）」、「開化（かいけ）天皇（てんがう）」は「新（しん）倭国（やまと）勢力（しきりき）」の代表（だいひやく）（リダー）とい（い）うこゝであるが、両（りやう）者は、共に（ともに）その素性（そしやう）等（らう）が隠（かく）され（別（べつ）な新（しん）たな勢力（しきりき）の出現（しゆげん）！大神（おほがみ）または繼體（けいてい）天皇（てんがう）を擁（よう）した勢力（しきりき）？、その出身（ししん）地（ち）（活躍（かくえつ）の場所（ばしょ）である北部九州（ほくぶきゆう）での痕跡（こんせき）が、ほとんど消（き）えてしまつてい（い）るとい（い）うこゝである！しかも「大幡（おほのぼん）主命（しゆめい）」のことは、むしろ近畿（きんき）にて多（おほ）出（で）！？

だが、その名残（なごり）（分（わ）かる人（ひと）には分（わ）かる？）は、前者（ぜんしやう）であれば「櫛田（しほの）神社（じんじゃ）」、後者（ごしやう）であれば「老松（らうそう）神社（じんじゃ）」とい（い）うよう（やう）な形（かたち）で（もちろん名称（めいしやう）や祭神（まつりかみ）等の改竄（かいざん）がなされてい（い）る！、今（いま）なお存続（ぞんぞく）させられてい（い）る！したがつて、問題は、何故（なん）かそのよう（やう）なこゝになつてい（い）るのかであるが、裏（うら）を返（かへ）せば、そこに真実（しんじつ）を見（み）つける材料（ざいりやう）が横たわつてい（い）るとい（い）うこゝにもなる？！（つづく）（堂本（どうほん））

《編集（へんし）後（ご）記（き）》年（ねん）始（し）早（はや）々（ささ）の大災害（だいたいさい）や事故（じこ）のこゝも、人（ひと）の世（よ）の常（じょう）で、徐々（じゆじゆ）に遠（とほ）ざかつてい（い）るよう（やう）に見（み）えるが（だが、能登（のの）半島（はんとう）地震（ち）だけはそうではない！）、私（わたし）（達（たち））は、そのこゝを傍目（はなみ）に、いつものよう（やう）な日々（日々）を送（おく）つてい（い）る！そして、無理（むり）矢理（や）ではあるが、数（かず）少（せう）ない楽（らく）しみを心（こゝろ）待ち（まち）にもしてい（い）る！多分（たぶん）？これ（これ）で良（よ）いのだ？！（井上（いのかみ）／堂本（どうほん））

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 21 号

発行日
2024.2. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○若干気恥ずかしいが、これは私達の「東京物語」!!

この2月の8日から13日の間、私は、我が奥さんと一緒に東京に出かけていた!大義名分は、既にここでも記していたので繰り返しはしないが、私達夫婦には(特に私にとっては?)、一つの大きな想いをもった旅であったことは間違いない!そして、それは、言うなれば、私達にとつての「東京物語」と言えるのかもしれない!!そんな大それたと言われるかもしれないが、そして、かの有名な映画(小津安二郎監督作品)とは、まったくもってストーリーも違うので、響きものであることは言うまでもないが、少なくとも私は、そのように名付けたいということである!

ちなみに、その映画「東京物語」について、ネット情報では、「昭和28年度文化庁芸術祭参加作品。上京した年老いた両親とその家族たちの姿を通して、家族の絆、親と子、老いと死、人間の一生、それらを冷徹な視線で描いた作品である。…家族という共同体が年を経るとともにバラバラになっていく現実を、独特の落ち着いた雰囲気ですべてづつっている。」とある。(ウィキペディアより)

単に、私達老夫婦が(映画よりは遙かに若い?)、ある意味これが最後となると思っている(あくまでも思っているだけだが!)「東京行きを、かの有名な小津作品の一つである「東京物語」に被せるなんて、飛んでもない不逞であるが(等智衆や原節子ファンには大変恐縮でもあるが!)、「東京」は、私達に大きな転機を与えてくれた場所(生活は苦しかったが、救いの場であった!)であったわけであり(たった6年間であったが!)、様々な人との出会いが、その後の私達をつくりだしてくれた所でもあったということである!

○改めて、「受賞」のことを想つ!!

ということ、ここで、上記の「東京物語」を事細かに記すことは不可能であるが(しかも泊6日の旅であったので!)、折角でもあるので、記憶に留めて置きたいことを幾つか挙げておきたい。もちろん、この旅の大義名分は「社会教育功労賞」授与式への出席であったので、まずは、それについて記しておく、セレモニーについては、流石?文科省のそれではあったので(規模は小さかったが?)、厳か、かつ抜かりのないものであった!

我が奥さんは同席できなかったが(やはりそれは心残りである!)、その間、皇居や東京駅への散策を楽しんだようであるので、それはそれで良かったと思っている!出席者の中には、旧知の人が3人もいて、思わぬ再会となったが(名簿上は、他にも何人かはいたが、会場には姿はなかった!)、受賞の心境には、人それぞれのものがあったことは、推して知るべしということであろう!!

私の場合は、「功労」と言われても、少し面映ゆいというか、今更?というか、そんな不謹慎な思いで、式を眺めていたというのが、本当のところであったが、ただ、推薦してくれた沖縄県教育委員会(動いてくれた人)には感謝をしなければいけない!こういうことは、そうそうあるものではないからである!

だが、一方で、私が願っているのは、私の「功労」よりも何よりも、これからの人達(とりわけ心ある人達が、厳しい状況かもしれないが、一人でも多くの仲間を作り、そして増やし、その思いを成就してくれることである(それがなければ、私の「功労」の意味はない!!)!

○「報復」と言う名の不幸!そこには「負の連鎖」しかない!

最早、ここに書くことさえ忌避したいのであるが(書くこと自体が空しい?)、既にここに書き込みを入れておいたので、敢えて書き終えておきたい!何とも、複雑ではある!要は、世界はまた、「『報復』と言う名の不幸!そこには『負の連鎖』しかない!」に陥っていくであろうということである!自国民の命や土地財産(利益)が、不当に(武力で)奪われたからというのが、その理由とされるが、その背景には様々な歴史的経緯があり(宗教上の理由も含めて!)、単純には、その善悪(言い分)を判別することは難しい(そのように理解しなければ、生々しい現実を受け止めることは、さらに難しくなる?)!!

しかし、やはりそこには、今を生きる、それこそ幾多の困難や不幸を乗り越えて来た、多くの国や人々の想いや約束事がある!それを形にしたのが、「国連」という名の組織であり、その存在意義であるうが、それを無視した、否、逸脱した行為は断固として糾弾されるべきであり、その罰則は厳しく適用されなければならない!とは言え、今回ほど、その限界や無力を感じさせたものはない!これが、人間社会の偽らざる姿なのかもしれないが、何とも切ない真実でもある!だが、問題の本質は、そうした大それたことを妄想し(「正義」と言う名の暴挙にすり替え!)、多くの人々を困惑させ(時として、その命まで捧げさせて!)、自らの権勢欲を顕示しようとする者がいるということである!それが問題なのである!

ただし、その一方で、さらに哀しい?のは、そうした人物が、自らに同調する者には庇護や恩恵を与え、逆に反対する者には、容赦ない仕打ちや攻撃を加えているのを、ただ黙って見過さなければ生きていけない多くの人々が(私もそれに含まれるが!)、そこに居るということである!自分さえよければ、自分さえ安全であれば、それはそれでよい(仕方がない!)というようなことにもなるのであるが、そうした現実が、確実に存在しているわけでもある!ただ傍観・諦観だけではいけない!そう思うが、今後どうなるかではある(他人任せとはなるが!)!!

(井上)

○改めて、「幸せ」とは何か？

これも、既に用意していたものであるが、そして、以前にもどこかで書いたことがあるように思うが（具体的なことは覚えていないが）、今、再び、標題のことを書いておきたい！と言うのも（表面の続きともなるが）、相変わらず、どこかで誰かが（国内外を問わず）、肉親や友人・知人のことを思つて涙している姿を見るからであるが（近々では「能登半島地震」関係の光景）、いつ終わることも分らない戦争（一方的な侵略もある！）の中で、多くの人の命や健康、そして財産が奪われていることを思うと、やはり人間の幸せを願わずにはいられない！

しかし、ここでは（私にしてみれば）、その人（達）の命や健康、そして財産、否、その人（達）の幸せについて云々することはこれ以上出来ないの（それは、ある意味許されない！余りにも事実が重すぎる！）、その「幸せ」が、どのような状態で維持されているのか？その辺のことを、今更ながらではあるが、「社会」や「国家」との関わりの中で捉えてみたいということである！もちろん、「幸せ」は、実体的には個人的なことであり、「社会」や「国家」のあり様とは、直接的には無関係である！要は、心の持ち様（人生観や価値観）によつて、その態様（感じ方）は変わるということであるが、その前提には、その人が生きている「眼前の事実」、つまり、自分がどのような国（社会）で生まれ、育ち、そして、今を生きているのかということがあるということである！

しかし、人は、不思議な生き物であり（ある意味自分勝手？）、どんな逆境にあつても「幸せ」を感じることが出来るし、逆に、どんなに豊かで恵まれた環境にあつても「幸せ」を感じられないこともある！「健康」「仲間（愛）」「財」が幸せの三要素と思うが、どれか一つでも欠くと、それは危うい？ただし、「仲間（愛）」だけは、自力（努力）ではどうすることも出来ない！そこに喜悲劇が生まれる！そのことだけは事実であるようである！

○ネット社会の功罪？その「功」だけを賢く紡ぐ！

このことについては、往々にして、その「罪」についての話が多くなるが（それに起因する犯罪や社会問題が多発するというところもあるが、それをマスコミが喧伝している？「知」と「痴」の乱舞？）、考えようによつては、それを賢く活用し、「功」だけとなすことが出来れば、やはり大いなる文明の器械と言えることは間違いないということである！

それを実感するのが、古代史関係のブログや動画であるが、例えば自らがその場（遺跡等）に行つて、何らかの考察や証拠入手が出来たとしても、そしてまた、誰かの著作物を読んだとしても、そのほとんどは、ごく限られたものであり（たとえそれが貴重なものであつても）、しかもそれだけでは、共通の財産（真相解明への共有知）とはならない！

要は、工夫をすれば、それが可能だということであるが、ただ、私の場合は、それへの参加は、残念ながら目と腰の続く限りはということではある！しかし、いずれ誰かが、そのビッグデータを構築してくれるかもしれない！ただし、それは、いわゆる「専門家（研究者）」ではない！

＜短歌に託して無理矢理被せたい○○物語！＞

・ストーリーは まったく違ふが

私にとつては これが「東京物語」！！

・功労賞 そこにあるのは別の意味？

ただ、今は それでよいのだ！

・何故にある 「報復」と言う名の不幸！

「負の連鎖」と分かつていないがら！

・“幸せ” それは何とも 不思議なもの？

しかしそこには 大前提あり！

・ネット情報 賢く使えば 力となる！！

ただ目と腰の続く限りは！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕④

○「記紀」は、「新旧倭国勢力」の実体を知らせてくれた！
さて、改めて、先号で述べたことは、北部九州の「新旧倭国勢力」（天
磐主 勢力と 開化天皇 勢力）が、その攻防によつて、北部九州と近畿大和
に、言わば「二極体制（権図）」を形づくったものの、何故か、「記紀」に
おいては、それらの関係が隠され（捏造、脚色され）、結局は、第10代
の「崇神天皇」の統治から（「ハックミラスメラミット」）、実質的な
「近畿大和における」、彼らの「万世一系の物語」が始まったように示さ
れて（見せかけられて）いるということである！！

なお、そこに至るまでの経緯は、いわゆる「神話」や初代「神武天皇」
による「東征」物語、そして「穴史八代」とされる天皇（経緯・開化）の御
代に示されていることになるが（ただし、事績そのものは少ない）、それら
全体の史実解明は、まだまだこの先の話として（もちろん私独りでは、到底そ
れは不可能であるが）、ここでの問題は、その出発点としての北部九州で
の真相を、新たに解明することである！言い換えれば、何故、北部九州の
二つの新旧勢力が、共に隠されているのかである（形の上では北部九州の新勢
力「開化天皇」から、崇神天皇への引継ぎがなされているように見えるが）！！

要は、建国史（『日本書紀』）の編纂者（直接的には藤原不比等）にとつて
その双方は、あまり前面に出したくなかつた（知られたくなかつた）勢力で
あつたということであるが、端的に、「開化天皇」は、実は「紀（采姫
氏）」を中心とした勢力（「邪馬台国連合」の最後の王）、「天磐主」は、初
期の「邪馬台国連合」によつて滅ぼされた（移動を余儀なくされた）「倭
奴国」の勢力（57年に命節を貰つた「倭奴国の最後の王」と考えられ、し
かも後者は、先に近畿・大和に移動していた旧倭国勢力（おそらく「饒
彦」と「饒速」であつたわけであるので、記紀編纂側は、彼らの覇権を奪つ
たことにもなるので、その存在は（少なくとも北部九州におけるそれは、消
された（隠された）ものと考えられないか）（つづく）（堂本）

＜編集後記＞ 年号早々の大災害や事故のことも、人の世の常で、
徐々に遠ざかつていように見えるが（だが、能登半島地震だけは
そうではない）、私（達）は、そのことを傍目に、いつものような
日々を送っている！そして、無理矢理？ではあるが、数少ない楽
しみを心待ちにもしている！そんな中での東京行きでもあつた
が、ここでは詳しく書けなかつたので、次号にて！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 22 号

発行日
2024. 2. 29
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○改めて「閏年」に想う！「調整」は英知であるが！

さて、今年は、その実感はあまりないが（東京オリンピックの開催時期延期のせい？）、例の、4年に一度の「閏年」の年である！2月の日が一日多いわけであるが、それにしても、その月になれば、何と短い月なのだと、改めて思わざるを得ない（逃げる二月）！しかし、その工夫（調整）は、「暦」（一年というものを考案し、それに基づいて生活を送っている人間社会の、言わば「英知」であることは言うまでもない（その工夫や、計算そのものは複雑のよう！））しかるに、私達は、その「閏年」によって、もろもろの社会システムの正常な運用を、あたかも当たり前のように享受することが出来ているわけだが、それは、考えてみれば、人間社会の都合？による対処方法であり、天体自体の運行を変えるものではない（それは変えられない！）！

何を言いたいのかというと、4年に一度、一日増やさないと、つまり、そこで、こちら側の設定（工夫）を、自ら調整していかないと、自分達が困るということである！要は、それは、科学によってもたらされたものではあるが、最善態にするためには、そこに、絶えざる努力が求められるということである（完璧な調整は出来ないが！）！

であれば、その年に「オリンピック」を開くということとは、その間様々なことが諸国家間にあつても、その時は必要な「調整」がなされ、全体では「調和」しているということを示すという意味にもとれるが、残念ながら、見せかけ（その時だけ）の「調和」もあるが、だから、大切なのは、その「調整」がどうなっているのかを見極めることである！私達は、そこに、改めて思い至る必要があるが！

○みんな頑張っている！特に、後期高齢者が！

ところで、ここでは是非とも書いておきたいことは、標記のように、「みんな頑張っている！特に、後期高齢者が！」ということである！もちろん、これは、私の「東京物語？」の副産物（予期せぬ「お土産」？）でもあるが、まだまだ後期高齢者にはほど遠い！私が、足腰の痛さを理由に（実際にそうなので、仕方がないとは言えるが！）、何とも情けない行動をとっているということの反省と、これからの踏ん張りへの「喝」としなければならぬという、自己奮奮への意味を込めてのことである！

その代表となるのが、密かな楽しみとしていた、浅草での寄席見物のことであるが、最後に登場した、かの「おぼんこぼん」という漫才コンビである！改めて、彼らの年齢は、共に75歳であるようであるが、その芸風（話術はともかく※これは、テレビ等で分かっていた！）は、とても洒脱で、特に披露してくれたタップダンスは、その年齢には到底似つかわしくないものであった！

これが、まさに「芸に生きる人間」の強さであり、執念でもあるということであろうが、それには、並大抵ではない努力（苦労）が払われているが、「U字工事」も面白かったが（芸人魂みたいなものも感じられた）、この後期高齢者のそれは、その域をはるかに越えていた！

ちなみに、後期高齢者と言えば、私と妻を、今回も温かく迎え、多くの世話をしてくれた日夫妻（二人とも、さらなる年上！）も、体の不具合は、私よりも多いようであったが、その行動力と精神力には凄いものがあつた（恐るべし！）！みんな、頑張っているわけである！

○改めて、私の「東京物語？」を振り返る！その1、

折角、意を決して「東京物語？」を敢行したわけであるので、何らかの記録を残しておきたいということで、ここに書き始めていたのであるが、最早かなりの日数が過ぎ去ってしまったので、その記憶（余韻？）も、かなり怪しいものとなっている！幸い、事前に書き込んでいたものもあるので、それを素に、改めて、書き記していきたい！ただし、絶対に書いておくと決めていたことが二つあったが、それ自体は、哀しいかな？忘却の彼方にある（笑）！それはともかく、まずは初日（8日）、浅草に行き、「もんじゃ焼き」を食べて、いつもの「アパホテル」（田原町）に投宿した。次の日は、主目的の？授賞式に臨むために文科省へ行き（虎ノ門駅迷走？）、その後、我が奥さんと合流し、その一角で昼食（何故か？丸亀うどん！）。そこからまた、再び浅草へ移動（神田経由銀座線）。そこで（東洋館）、「おぼんこぼん」等の、貴重な芸を堪能した！

次の日は、新御徒町駅（大江戸線）を経由して、小石川後樂園に行き、梅花見物。そこから、有楽町線を利用して、池袋、そして、懐かしき常盤台公務員宿舎（そこに6年近く住んでいた！）及び道向こうの「平和公園」（随分と変わっていた！）を訪れ、その後、待ち合わせをしていたSさん（当時の隣人の一人）と会い、昼食（何故か？パスタの店！）。さらにその後、そのSさんの自宅（宿舎近く）にお邪魔し、旦那さんとも再会し、昔話に花を咲かせた（美味しいビールやコーヒーも頂いた！）。そして、初めての「川越」に行き、その温泉旅館にお世話になった。しかし、夕食は、何故か？場末の中華料理店であつた！ちなみに、川越は、流石「小江戸」と呼ばれるに相応しいところであつた！

次の日から、長年の親友であるF夫妻にお世話になるのであるが、最初は、飯能市の「多峯主（とたけのしゅ）山」への登山（ハイキング）をして、その後、彼のマンションで、豪華な夕食を馳走になり、この日の投宿先である、本板橋駅前のホテルに、徒歩で向かった！（※以降は次号にて）（井上）

○これを『ポリコレ』と呼ぶのか？だが大切なのは？

ひよんなことから、『ポリコレ』という言葉に遭遇した！そして、それが、いつとはなしに世間に広がってきた「言葉の使用の違和感？」のことを指していることを知った（これまた恥ずかしい話ではあるが）。表現を、「こまで変えるのか！」といったことだが、それは、『ポリティカル・コレクトネス (political correctness) 』の略で、「政治的正当性」「政治的正当性」という意味があるようであり、ネットでは、「他者に対して、人種、性別、国籍、宗教、年齢、障がいなどを理由とした『差別的な表現を正す』という考え方です。英語の頭文字をとって『PC』とも呼ばれることもあります。」とある。

「例えば、以前は看護師の男性を『看護士』、女性を『看護婦』と呼んでいました。しかし平成14年（2002年）3月には、男女共に「師」にあらためられました。これは、職業において性差別をなくしたポリコレの一種です。そして、「社会では、さまざまな人たちが共存する多様性が進んでいます。その中で、あらゆる人を尊重するために、ポリコレが求められるようになってきました。アニメや漫画、ゲーム、映画、テレビ番組、芸術などの世界でも、ポリコレは広がっています。」

さらに、「ポリコレは、差別的な表現を是正することで多様な人が尊重される社会の創造につながります。そうした社会では、個人が能力を発揮し、生き生きと活動することが可能です。このことは、社会的・経済的・政治的に参画する力になり、SDGsの「目標5」（ジェンダー平等を実現しよう）、「目標10」（人や国の不平等をなくそう）の達成に貢献します。」ともある。

確かに、それが正義であり、基本的には是非そうであって欲しいが、ただ表現だけが変わっても、内実が変わらなかつたり、予期せぬ対立を生むだけのものではあつたりすれば、何のための変更かと思う部分もある！要は、そのことによって、誰が喜ぶ（幸せになる）のかである！

○これが、求めていた光景！そして、永遠の仕事？

過日（17日）、34年前の、最初の学年の卒業生が、我が「岳陽舎」を訪ねてきてくれた！昨年の忘年会の席上で、改めて、ここで顔を合わせることを約束していたのであるが、それが実現したのである！人数は、5人であつたが（H.S.、A. T.、T※名前の頭文字にて！）、例の受賞のことも話し、大いに盛り上がりつた！天気が心配であつたが、本当に、やつてよかった（これについては、後日談があるが、そのことは、次号等で！）なお、残念ながら、この日来られなかつた連中もいるので、またの機会を期するのみである！

そしてさらに、来月には、県外に住んでいる女性二人（ミ生ではなかつたが！）が、それぞれ訪ねることになっている！学年、年齢、コース、そして仕事も違うが、今なお、私（否、井上氏※以下同じ）のことをリスpektしてくれているようである（ただ懐かしいだけではあるが！）！こんなに嬉しいことはないし、そういうことを、私は求めていたのであり、それが、私の永遠の仕事？ということでもある！「岳陽舎」は、人との出会い、再会の場合なのである！

・短歌に託して、みんな、頑張っているのだ！

・「閏年」！「調整」の産物であるが
意味するところ 甚だ深し！

・みんな頑張っている！ 特に後期高齢者！

そこにあるは 生の昇華^{はな}！！

・思い出せないものもある！

だが記しておけば 蘇るものもある！！

・ポリコレ？ 大事なものはその中身！

私利・見せかけ超えた 正義であれ！

・求めていた光景！ 永遠の仕事？

それがまさしく 「岳陽舎」だ！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕②

○ひよつとしたら、「神武東征」は（も？）「合わせ鏡」？！

ところで、ここで少し（否、実は大真面目に）、かの「神武東征」のことを考え直してみたい！つまり、結局のところは、それは、北部九州（ある意味では九州全域）から近畿へ移動した人々が、吉備を経由して（おそらく出雲を抱き込んで）、奈良・天和に新勢力を樹立したということである（北部九州に残っている勢力に対抗して？だから、それは、単なる東遷ではない！）そして、「記紀」は、その大移動を、「出雲の国譲り／大和の国譲り」という形で物語にしている！しかも、それは、ある種の「合わせ鏡」のように！
どういふことかと言つと、その「神武東征」以前に、「物部氏」の祖の「饒速日^{ニギハヤヒ}命」一族（尾張氏や海部氏を含む）ウマシマジノミコトが、大和に先着していたという話（「記紀」より）は、彼らが、「出雲族」と組んで「ガズネヒコ族」との融合で、最初の王権を形成していたことを示しているといふことである（「三輪主君」！「神武」の大和での振舞いは、それに対応するものであることは明らかである（出雲族との婚姻話等）！

であれば、その物語は、ある二つの勢力（集団）の東方移動のことを示しているのではないかとすることもある！すなわち、一つは、遠賀川流域からの、「物部氏」の祖の「饒速日命」一族のそれ、もう一つが、日向からの「神武」一行のそれである！もちろん、それは、別々の動きであつたが（それは、おそらく「饒族」と「物部族」の二つを指している？挿入された「日向二代」の物語には、そのことが投影させられている）、「記紀」は、それを、「神武」の東征話として、何故か？一本化させているといふことである！

しかるに、その根拠（傍証）は、「記紀」にある大きな違い、例えば、水先案内人と出会う場所（速波の門）と香海地での滞在年数（とりわけ「吉備」であるが、そこには、編纂者の思惑があり、単なる記憶の違いではない）、それが、ある種の「合わせ鏡」となっているといふことである（ちなみに、出会う場所は、「明石海峡」「記」と「豊後海峡」「記」、「吉備」での滞在年数は、8年「記」と3年「紀」である！（つづく）

（編集後記）やはり、あつという間に、2月が過ぎ去ろうとしていく！しかし、嬉しいことは多々あつた！しかも、「禍を転じて福と為す」ではないが、腰痛の対処法が見つかり、徐々に快方に向かつていく？来月は、さらに前向きで動いていけるであらう！そうしなければ、今月の出会いがもつたない！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 23 号

発行日
2024. 3. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel: 098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○鹿児島島に行ってきた！再会あり、予期せぬ出会いあり！

前触れしていたように、この8月11日の間、鹿児島県鹿屋市に行っていた！それに関わる記事をここに書くことと思っていたが、いつも以上に？ここだけでは足りそうにない！何度か小出しにしながら書いていく他ないが、まずは第一弾として、そこでの再会・出会いについて書いておきたい！旅の目的は、もちろん教え子？であるS君の研究調査の協力ということであったが、私にとっては、当地の卒業生との再会も、大きな目的であったということである！！

しかるに、S君の尽力によって、霧島市と宮崎市に住むT君とI君に再会出来たわけであるが（彼ら3人は、大学の同期！、6年前？にも会っているので（霧島山にて、風貌等については、さほど驚きはしなかったが（かなり老けてきた？私はそれ以上の「お爺さん」！ただし、昔の関係だけは変わらず）、それぞれの仕事や生活での苦労？が滲み出ているようにも思えた（それだけ、歳月が流れたということでもある）！

かく言う私は、彼らより遥かに年輪を重ねているわけであるので、そのことについては、もうこれ以上は言わないが、彼らとの再会が、とても嬉しいものであったことは言うまでもない！しかも、今回は、予期せぬ出会いも幾つかあり（S君の両親や妹弟との出会いも含めて、私にとつては、まさに「再会／出会いの旅」でもあったということになる！

なお、今回の主目的であった「CS（コミュニティスクール）」の実態調査に関わる感想や思わぬ成果？に関わる部分は、別途書き綴っている「新・教育協働への道」で、是非とも取り上げたいと思っているので（少し日数がかかるかもしれないが？）、その旨、ここでは書き加えておきたいと思う。

○状況が変わる予感？しかし、好転ではない？

相変わらずの政権の低迷？存続の危機？そして、某国の、次期大統領選？の動き、それらを見れば、ひよっとすると、これまでの「世界のパワーバランス」の構造的転換？が予見される！！であれば、これまでのような、ある意味自分達だけに都合のよい受け止め方や関係、あるいは一方的な依存（逆に反発も）、無責任な言動は、その転換？の餌食となる？言い換えれば、誰しもが、その被害者顔をする？ことが出来なくなるということでもある！！その意味では、決して好転ではないのである！

要は、それぞれの国（人々）は、これまでのパワーバランスの上に安穩として立ち続けているわけにはいかないということであるが、では、そこには何が必要なのか？まずは、その新たなパワーバランスの本質を、内外の情勢を冷徹に見据えながら見極めていくことである！そして、自国（自力）で解決すべきことと、あくまでも国際協調の中で、応分の働きを発揮すべきことを、改めて自覚し、そのための決断と、それに必要な努力を、内外に示すことである（これは、国内における、各地域間の諸勢力やその関係にも言えることである）！

もちろん、それには、大いなる反省と新たなストラテジーが必要となるわけであるが、そこには、そこに生きる人々の、それこそ本気の覚悟と、それを実現する努力が求められるということでもある！もし、そうでなければ、その国は亡びる（あるいはどこかの国の属国？となる）！！そんなことさえ、危惧される！！ただし、人間は、そんなに愚かではない！新たな知恵がきつと顔を見せる！

○改めて、私の「東京物語？」を振り返る！～その2～

さて、ここで、遅ればせながら（さらに日数も経ったが！）、先号で書き残していた、かの、私の「東京物語？」を完結しておきたい！予感があったが、やはりあの筆致（スペースも！）では、ほとんど何も書けなかった？要するに、最低限、我が懐かしき、そして思い出の場所（浅草、霞が関／文科省、飯田橋／小石川後楽園、池袋、上板橋／前居住地）を転々としたことだけを記したわけであるが（この間、例の「Switch」の便利さを再確認もした！）、それを前半とすれば、ここでは、その後半？を書き加えておきたいということである！ちなみに、川越であるが、訪問して初めて分かったが、イメージ（芋のまち！）を遥かに越えた、歴史と文化の融合するまち（まさに現代の「小江戸」）であった！

ということと、そこを前半とすれば、その後半は、やはり念願の？房総行きである！温かい？南房総の地を感じたかったわけであるが、行きのルートは、かの「海ほたる」がある「東京湾アクアライン」であった（人間の技術力の凄さには、今更ながら感服した！）。もちろんそこから千葉県（木更津）に入るのであるが、鮮明に思い出されるのは、「鋸のこぎり山」（遠くから見れば、まさに「鋸」！！）である。どこかい「大仏」等があり、おそらく「修験道」の一大聖地でもあった！！私は、とても「修験者」にはなれないことを思い知った（足腰の不調が最高潮となった！）、観光客の多さは意外であった！最後が「勝浦」であったが（かなりリッチな食事？）、帰路の「フラワライン」や「鴨川」、そして、おいしい蕎麦屋、その後の「空港5時間」と、楽しい記憶は残る！

なお、もう一つの、私の東京での思い出は、もちろん上野（鶯谷も？）であり、公園の一角（片隅？）にある、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（当時は「社会教育研修所」、通称「国社研」）にあることは言うまでもない！だが、月日は流れ、そこへの想いや感傷（いろいろあった！）は、今やほとんどが、我が胸に沈潜（30年近く、ほぼ毎年のように訪れていたが！）！！ただし、それについては、またいつかどこかで書くことであろう（そこが原点なのだから）！！（井上）

○「これを書くのは、何とも切ないが？」

「ここで、このことを書くのは、かなり躊躇もするが、そして、切なくもあるが！、一応予定はしていたので、書き記しておくことにしたい。それは、某国のN氏の葬儀（その死の真相については、ここでは触れたくないが！）における光景のことであるが、厳しい監視と統制の中で、心ある人達が、予想以上に、自らの危険（命？）も顧みずに、その場に集まっていたことである！彼らの想いと行動に思いを馳せると、まさしく心痛ましい限りである！

もちろん、これは、いつものネット情報からではあるが、やはり、どんなに苦境に立たされても（命の保障が無くなっても！）、思いのある人間、そして正義が、いかに大切なことを示す（行動で示せる）人々がいるのである！そのことが、たとえ遅ればせながらではあっても、某国から知らされたわけである！本当に切ない光景ではあるが、そのことに、世界（私達）が、大いに勇気づけられたということでもある！某国も、やはり捨てたものではないのである！

ただし、そうは言っても、表の井上氏の記事にもあるように、世界全体のパワーバランスが、新たな局面（決して好転ではない！さらなる危機？）を迎えようとしていることは、おそらく間違いない！どんな状況（世界）となるのか、まだまだはつきりとはしないが、それに向けての心づもりや、新たな覚悟？が、それぞれに必要なことは言うまでもない！また、それと並行して、自然災害等も増えるかもしれない（ただし、その発生自体はどうしようもないが！）!!

だが、そうは言っても、人間は、まだまだ（否、永遠に？）健全であり（賢く、優しい人達が、世界中どこにでもいるということ！）、幾多の困難や犠牲を重ねながらも、その時々の望ましい姿・形を形づくることが出来る！そしてまた、そうした動きは、新たにネットを通じて出て来ている！人間社会とは、そういうものなのでもある！

＜短歌に託して！みんな、今を生きている！＞

・様々にある 人の生活せいかい！

それが垣間見えるも 深きは分ならず!!

・実家きやうにて 子らの活躍きやうひたすら願う

老いたる両親おやうに 我が身重ねる！

・パワーバランスの構造的転換？

何が起きるか？ 脅威であり 現実でもある!!

・東京物語？ 勝手な言い草ではあるが

我にとつては かけがえなきものなり！

・某国も やはり捨てたものじゃない！

どこにでもいるのだ！ それが人間社会なのだ！

※特別編！肝付（属）旅情！

・生きる意味 そして価値

それは 今、そこにある現実から！

・始良と吾平 何故に分かつ？

その原因は 大隅の来し方にある？

・吾平山陵 いつ誰がそこに？

隼人の苦難は そに如何に絡む？

・予想以上の 高き山並み 平野を圍繞す

そこを流るる 二つの大河！

・鹿屋の「鹿」は何？

そして 「鹿児島」の「鹿」との関係は？

※とにかく、これもまた、楽しい旅であった。教え子達？のお陰である（事務手続きは、うんざりであったが！笑）!!

＜特別「コーナー」堂本彰夫の古代史旅枕②＞

○「古事記」の方は、「饒速日ニギハヤヒ」命（物部族）のそれ？

先号では、ある意味大変な妄想？を記してみたが、しかし、そのことは図らずも今？、真実のものともなってきたのではないかとすなわち、両書（記紀）の違い、つまり、それらは、単なる相補的な史書（正史ではなく対外的なものと対内的なものと）という関係ではないということ！『古事記』は、おそらく「太（多）氏（ト多人長）」によるものであり、彼らは微妙な立場で（徐々に政権の中枢から外されていた）、正史『日本書紀』の記述（嘘？）の大枠は甘んじて認めるが、自氏にとつて決して譲れないところは、それなりに暗示しているのではないかとということが分かってきているということである（それが、彼らにとつての矜持でもあった！ただし、彼らの言いが、すべて事実であったかどうかの保障はないが！）!!

そして、そういう中で、かの「神武東征（物語）」は、事実上は、北部九州からの「饒速日ニギハヤヒ」命（一族（物部族）の近畿移動を投影させているという）ことであるがその意味では、かの「日向神話」や、そこから生じる「神武東征」の語は、「書紀」の方による虚構の産物なのかもしれない？ただし、その元ネタは大いにあった！「出雲族」の進出や「饒速日」の存在？、そうであれば、そのもう一方の「中南部九州」の状況を、我々は改めて説明する必要がある！実は、それが、かの「熊襲（くまそう）・豊後（ぶんご）」そして「隼人」との関係であり、おそらく彼らが絡んだ「北部九州」の状況変化（特に、背景山系や高良山周辺で繰り広げられた事実？）だということである!!

しかるに、そこにおける「邪馬台国（連島）」と「狗奴国」、そして、「出雲」との関係が、実に複雑な様相を呈しており、その実態（体）と、後の推移を明らかにすることは、現実には、とても困難であるというところではある！だが、その間接的な「合わせ饒」となるのが、「記紀」に示された「神話（神代）」といわゆる「次史八代」の部分（皇天皇やマトタケルの話も含めて）であることは、おそらく間違いないであろう！ただし、それもまた、まだまだ感觸の域であることは言うまでもない！（つつく）（堂本）
〔編集後記〕折角の南部九州（大隅／鹿屋地区）への旅ではあったが、その古代史の情報は、残念ながら、ほとんど得られなかった（ある意味当然であるが！）。だが、今月末には、再び、長女一家の引越先である宮崎市への旅が待っている！これもまた、楽しみではあるが、いつまで出来るかはある!! （井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 24 号

発行日
2024.3.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○一年間を振り返って！新たな契機となったか？！

気がつけば、この『岳陽』と共に！も、早一年が過ぎようとしている！どのようなタッチで、そして、内容で書いていくのかという不安（迷い？）もあつたが、途中からは、その方針も徐々に固まっていき、これまでのような書き振り（記事内容）となつていった次第である！そして、もちろん、ここでの記事作成が、この間の私の生活、いやいや生き甲斐の中心となつたわけであるが、よくぞここまで頑張つてきたものであるということでもある（目や腰、そして下肢の不具合は、さらに進行した！だから、我が奥さんには、多大なる心配と迷惑をかけた！）！

しかし、当然これは、私にとつての新たな始まりの、ほんの第一歩に過ぎない（極端に言えば、我が人生の72分の1！）しかし、その重きは1分の1？！すなわち、ここでの書き物が、これからの私の、次なる生きる意欲の契機となつていくかどうか重要であるということである（ただし、いつまで続けられるかは、また別の問題ではある？）！とは言え、そんなことよりも何よりも、やはり私の生き甲斐（喜び）は、ここ「岳陽舎」での出会いや再会であることは言うまでもないことである（そのためにここに居住しているのだから？）！ここ数年間の憎きコロナ！による（本当は、それだけではないのであるが？）、その停滞・不調は（最近では、それでもないが！）、大いに悩ましいことではあつたが、電話やZoomによる交流が一方ではあり、結果的には満足できるものであつたようにも思える（また、そう思わなければ、交流をしてくれた人達に申し訳ない？！そんなことを思いながらの昨今である！ということ、今後とも、双方で頑張ろう！

○奇跡のような出会い、そしてつながり？！

そんな中、これは、先号で紹介した「鹿屋」での出来事であるが（その意味では第二弾！）、人の出会い、偶然の再会が、これほどまでの奇跡を生むということである（本当に鳥肌ものであつた！）。残念ながら、ここでもこれ以上は書けないが、別な教え子（鹿児島在、旧姓O）の弟さんと、訪問中の小学校で再会？したのである（彼はその教頭であつた！）。途中から、当時沖縄で会つた（一緒に食事をした、姉の先生ではないかと思つていたそうで、お互いそれが分かつた時には、びっくり仰天（その後Oとも話をするのができ、さらに、後日そのことを聞いた両親が、わざわざ焼酎の贈り物までしてくれた！）！！

しかも、そうしたことは、これだけでない！昨日（17日）も、別な卒業生（OとK。Kは二人の娘を連れて！）が、はるばる福岡と大分から、一緒に訪ねて来てくれた！Oは、4月から絶海の孤島？A島（村。一応東京都！新しい仕事先へ、そして、Kは、新たな所への引越しが待っているという。通常の訪問（観光がてら）であれば、ここで特筆することもないが、その日程（Oは日帰り、Kは1泊？）を聞けば、彼女達の来（帰？）の目的が、何か新たな出発に向けての踏ん切り（うまく表現できないが！）を、私に伝えさせるものであつた？！

事程左様に、こうした出会いや再会は、私にとつてはまさに奇跡のようなことと思え（後者のそれは、まさに貴重な時間、そして、お金も？を、はるばる私との再会に使ってくれたということ）、改めて、それぞれのこれからに、幸あれと願うばかりなのでもある！

○やっつてはみたが、果たして新たな動きは見られるか？

そこで話は変わるが、過日（16日）、玉城青少年の家との共催で、「学びつながら地域づくりを考えるオンラインセミナー」（今期第2回目）を行った。今回は、別途前触れしていたと思うが、「ひとづくりとまちづくりの循環・そこには何が必要なのか」というテーマで、4人の県内登壇者（MJ、MS、YAMHさん）と県外ゲストのTHさん（N県Y村在NPO法人GW自然体験教育センター代表理事）の協力で、何回も私の言う「心ある人」達の出会いの場を創出した（まさに私の企画である！）！！

インタビューフォーラムという名の下、私の、久方振りのMC&インタビューアードで進めたわけであるが、実は、久し振りの開催で（途中、当青少年の家の新館移りの期間もあり！そして、なかなか事例発表者も見つからず？）、どのような感触が得られるのか？かなりの不安もあつたが、一応は、初期の目標（密かに図っていた、当該5人一緒に顔合わせ！）は達成されたものと思われる（開催中の彼らや参加者の反応、そして事後のアンケート結果より）！とは言え、5人の登壇者の苦労話や思いの深さ？については、もつともつと聞きたかつた人も多かつたとは思われる！

もちろん、それについては、当初から織り込み済みで（2時間という時間は当然短い！、それなりの対処と理解を求めているわけであるが（案内での事前情報入手の徹底を含めて、それでもやはり不満はあつたのであろうアンケートで、それを表明した人もいた！）、一人であるが？！困った消費者？であるが、こういう人は、その人の思いはともかく、どこにでもいるものである！そして、本当に、すべての人に納得してもらうことは難しいということでもある（しかし、以前は、私の責任も大いにあつたことは事実であるが？）！！

ということ、これが、私から出来る最後の働きかけ（お節介？）であることは言うまでもない！！そのことは、はっきりしている！だから、ここからどのような動き、人のつながりが生まれるかなのである！ただ、密かに狙つた私の有終の美？ではあつたが、何故に届かぬ我が思い？またしても持ち越しか？ということでもあつたわけである！！ある意味、無念？（井上）

○そんなことは分かっていた！問題は、そこからだ！

さて、ここでは、表の井上氏の最後の記事にも関係することであるが、私堂本なりの、「心ある人」達への想いや、その人達への期待(願望?)について記しておきたい！ちなみに、これは、ある意味では、今回の「鹿屋」での出来事(光景)に関わることもある(その意味では第3弾?)！それは、そこで改めて実感した、学校の管理職への社会教育主事経験者(とりわけ往時の「派遣社会教育主事」)の登用の妙であり、人事の壁への挑戦の成果?である！

それは、一言で言えば、学校を、言わば「一旦外から見ることによって、相対的な学校の状況や、それが必要とする地域との関係が、総体的に見えるということである！しかもそれは、ある意味自ら動くことによってしか十分には見えてこない！待っているだけ、一方的に協力してもらおうとするだけではだめ、そういう経験の重要性なのである！社会教育主事経験者は、そのことが、嫌と言うほど分かっている(もちろんそうではない人も多々いるが?)！だから、自ら動く！知ろうとするのである！

ただし、通常は、そんなことまでして、自らの要望や関係づくりをしたいとは思わない!!そこそこやれば、それでよいのである!!ましてや、働き方改革が進められている昨今でもある!そんなことを思っている人は、ほとんどいないであろう!!だから、意に反して(皮肉にも?)、そうした「動く管理職」、「地域と仲良しの管理職」は嫌がられる?挙句の果てには嫌われる?のでもある(尤も、その人の人間性自体に問題がある場合もある?)!!

しかしながら、一方で、今はまた(ある意味、いつでも?)、当該地域との関係づくり、様々な人や組織との協力関係づくりが求められている(社会に開かれた教育課程台CSや地域学校協働本部事業等)！そこに、私の言う「心ある人」達が、いかに生まれ、関わってくるのか?だが、単に「思い」だけではうまくいかない!そこに、「協働」の難しさがあるのでもある(でも、そんなことは分かっていたのだ!!)。

○増えた！新たな楽しみ?宮崎(日向)も面白い?

ところで、この度、一応は心配していた双子の孫達が、志望高校に合格した(改めて、おめでとう!)！これで、予定している私(ここでは井上!)の宮崎行き(今月28日から来月1日まで)も、心置きなく決行できることになる！引越の手伝い等もできなかった私であるがその代わりといったら怒られるが、我が奥さん、すなわち沖繩のおばあちゃん(頑張ってくれている!)、新居だけは訪ねてみたいわけである(誠に我儘で、頼りないお爺ちゃんなのである!)！

しかもまた、先日再会した卒業生のI君とも、今度は、当地宮崎で会える(何にも出来ないかもしれないが、改めて、私なりの激励もしたい!そんな思いで一杯なのである!)?もちろん、孫達への直接の祝福もしたい!そんなこんなで、宮崎への旅は、これから増えるであろうが、そこには、新たな楽しみも増えたということである!それが、実は、下に書いているように、宮崎(日向)の古代史への「似非旅枕」なのである(以前、高千穂にも縁があったが、その時はまだ、そういう状態ではなかった!)！

〈短歌に託して、次なる歩み!人それぞれに!〉

・一年間を振り返る! ただしそれは 72分の1!!

だがその重きは 一分の一!

・奇跡としか言いようがない?

それぞれのこれからに 幸あれと願う!

・密かに狙った有終の美? 何故に届かぬ我が思い!

またしても 持ち越しか!!

・そんなことは分かっていた!問題はそこからだ!

人事の壁を 如何に突き破るかだ!!

・吉報に 思い馳せしは 彼(ま)らの母

つまり我が長女(むすめ) とにかくよかった!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(24)

○いよいよ次号からは、中南部九州との関係を探る!!

別記しているように、我(井上)が長女一家が、この度縁あって宮崎市内に転居する!一応、当地にある「宮崎神宮」や「生目神社(古墳群)」(の重要性?)は知ってはいるのであるが、折角そこを訪ねられる機会が出来たわけであるので、これからは、それらが関わる、懸案の?中南部九州への古代史旅枕(もちろん似非ではあるが?)を楽しむことにしたい!ということである!例えば、「神武東征(神話?)」は当然であるが、それと関わる「日向(三代)神話」、そして、「西都原古墳群」等の真相(謎?)を、可能な限り追ってみたい!ということである!

要は、知れば知るほど、中南部九州の当時の状況が、北部九州のそれと密接に関連していることが分かり始め、いわゆる「熊襲(或廣貴)族」や「軍人族」、そして、「紀(姫木/紀ノ事?)氏」との関係、改めて解明する必要があるとの結論からである!すなわち、そこには、かの「大和建国」の実態、あるいはその後における北部九州との関係の解明(ここには北部九州と近畿大和との二朝並立の本源がある?)が、改めて必要であるという認識がある!ということである!

またまた、その認識は、いわゆる「妄想」の域を超えていないようにも思えるが、「(記)、とりわけ『日本書紀』が、その中南部九州との関係を、一方では強く示唆し(神話における天孫降臨や日向氏及び「神武東征」、さらには「景行天皇」や「ヤマトタケル」の「熊襲征討」の語等、しかも、かの「軍人族」は、天孫族の一つとして位置づけられている!)、しかし、他方では、卑弥呼時代(3世紀中葉)の「狗奴国」や、そこにおける「狗古智卑狗」等の実態(魏志倭人伝には明示!)等(極端に言えば、中南部九州!)については、ほとんど明示されていない!!これは、絶対におかしい(怪しい)!

ということで、問題は、そうした中南部九州と北部九州との関係理解が、改めて求められる!ということであるが、その理解の鍵は、おそらく筑紫平野(両者の出会い/集散難所)にあることは間違いない!!(つづく)(堂本)〈編集後記〉発行日は30日としているが、今回は、都合により早いアップとなる!とにかく、あれからまた、1年が過ぎた!そんな中、内輪の話で恐縮ではあるが、やはり孫達の吉報は、私に、二重の喜びを与えてくれている!しかも、これで、安心して宮崎へも行ける!どちらも、ありがとう!!(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 25 号

発行日
2024. 4. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「カネと地位」が人を惑わす！まさかこんなことが！

新たな年度の始まりで、こんな話題を採り上げるとは思ってもいなかったが、今般の騒動（大谷翔平の元通訳・水原一平氏が起こした違法賭博事件？）は、改めて、いろんなことを教えてくれた！その中で、私が一番取り上げたいことは、『カネと地位』が絡むヒロイズムは危険である」ということ、しかも、たとえ大金を稼ぐ身になっても、少なくとも「現役の（若い）時は、それに浸るべきではない」ということである！必ず、「誰かに、それが悪用される！そのことを、若者（大谷）は知るべきである」ということである！

さらに言えば、「プロスポーツ選手の『ヒーロー性』は、そのプレーによってのみ発揮されるべき！」であり、ましてや、他人の借金の肩代わりをするとは（そうではなかったようであるが！）、その「ヒーロー性」を自ら冒涇するものであり、俗な言い方をすれば、「思い上がりも過ぎる！」ということである（これは、決してそれに無縁な高齢者の僻み根性ではない！）！ちなみに、それは、かの「グロブプレゼント」騒動？も同じである！金銭的にはそれが出来ても、あのような形で行う必要があったのかどうか（その重み？様々な思惑が絡む？それらを知ること、二十代の若者には難しい？）！

ただし、いずれにしても、これから勝負である！カネ（収入）の多寡はどうあろうとも、若者（大谷）は、ここから何を学び、そして、今後のプレーに、いかに臨むかである！まさかこんなことになるとは思ってもいなかったかもしれないが、そして、別な意味での高い代償を払うことにはなったが、それを乗り越えての「スーパヒーロー」とならなければならぬ！改めてそう思う！頑張れ、若者（大谷）！

○予定していた旅？は、すべて終わった！

さて、改めて、近年の私のスケジュールからすれば、まことに異例でもあった？県外への旅が（尤も、現役の人であれば、ある意味普通のことかもしれないが！）、この一日（4月1日）で終わった！僅か2か月の間で、東京・鹿児島、そして宮崎へと行ったわけであるが、沖縄と違った光景、とりわけ自然風景が、何故か心を和ませてくれた（沖縄には申し訳ないが、九州出身の私である！）。そして、最後の旅であった宮崎においては、もう一つの楽しみであった古墳・史跡探訪（生目古墳群他）も、私なりに（あくまでも！）満足できるものであった（ほとんどが歩きでもあったので、運動療法にもなった？ただし、古代史関係については、別コーナーにて）！

ちなみに、宮崎では、久しぶりに、あの懐かしき「ソメイヨシノ」、そして、季節外れの「つくしんぼ」（ほとんどが「スギナ」状態ではあったが！）を見た。まさに、春爛漫ということであった！ただし、桜の花そのものは、「オオシマザクラ」の方がきれいであった（近くの「総合文化公園」にて）！どうでもよいことであるが（まったくの俗人？）、最初の一泊は、我が奥さんの意向？で、噂（あるテレビ番組）の「ドーミーイン・ホテル」に投宿し、雨模様ではあったが、末の孫（新4年生と一緒に、奇妙な体験（特に「夜泣きそば」！）となった。ということ、今後の予定は、今のところないが、幸い（こじつけ）娘達の居住地（宮崎／福岡／岡山）は、古代史にとつては重要な場所であるので、機会（口実？）を見つけては訪ねたいと、改めて思うのであるが…

○果たしてどんな動きが出てくるか？私は待っている…!!
ところで、先月（16日）、玉城青少年の家との共催で、「学びつなげる地域づくりを考える（オンラインセミナー）」（当期第2回目）を行ったことは、先号でも述べたが、とにもかくにも、そこから、新しい動き、新たな、関係者（思いのある人達のネットワークづくりが、いかに生まれる（広がる？）かが、私の関心事（願）であったことは、繰り返す言うまでもない（そのための、最後の？働きかけ／お節介？であった？）！

現在、聞くところによると、今回協力してもらった、N県のTさんのところへ行くという話が出て来ているようであるが（私が同行するかどうかは、今のところ？であるが！）、今後、そのことも含めて、どのように展開していくかである！ただし、新たな年度替わりの時期でもあるので、その具体的な動きは見えない！まずは、それぞれの部署／活動場所での体制（態勢）づくりが、目下の課題／関心事であるということか？

ただし、そうした、言わば「業務のルーティン化（慣性化？）」は、往々にして問題の先送りや責任の散在・不透明を生み（人が替わるので仕方がないとも言えるが）、折角のチャンス、を、みすみす見逃してしまうこともある！ましてや、新たな人的構成ともなると、様子見やいびつな人間関係を生み出してしまふ恐れもある（結構これは、頻繁に見られる？）！

という中で、そうした、まさに現職のみなさんの思いや苦勞も顧みず（本当は、このようには言いたくないのであるが！）、私の方は、その一環として、私なりのスタンスをつくっているのである（何せ暇で、自由でもあるので！）、果たして如何に？

ちなみに、そのスタンスというのは、そうした「心ある人」達の出会いの場と情報・課題の共有を目指した（簡単に言えば「交流」であるが！）「岳陽チャンネル」の活性化であり、そこにおける「教育協働アカデミー」のスタートである！具体的なプログラムの創出は、今回、いみじくも一堂に会した4人の人物との話し合いによって決めようと考えているが、果たしてそれが、いつ、どのように実現していくのか？私の眼下の願いは、それなのであるが…

（井上）

○すべては土地(国土)にあり！新人の栄光と苦悩!!

今回、再びであるが、かの「イスラエル／パレスチナ問題」を知る(考える)絶好の記事(ネットから)を見つけた！その記事には、次のような文面があった！

第二次大戦後に自分の国を分割されたパレスチナのアラブ人たちがいかに苦しい思いをしてきたか、しかし同時に、ユダヤ人がどうしてあの地にイスラエルを建国しなければならなかったのか伝わり、深いジレンマを感じます。パレスチナとイスラエルの関係を考えるときに、私たちはどこまで歴史を遡って、この問題の起源を考えるべきでしょうか。双方がともに、この地を自分たちの起源としており、どちらかの側からだけで語るのとは不十分です。これを理解するためには、ユダヤ人の数千年の歴史を語らなければならないし、パレスチナ人の歴史もまた何世紀も昔まで遡ることができる。

詳しい経緯については、これ以上は、ここでは書けないが(否、その資格、否々、その能力自体も有していないが！)、本当に、土地(国土)の問題は、まさしく本源的な問題であり(今般のロシア・ウクライナ戦争も然りである！)、かの「グレートジャーニー」で始まった、まさに新人(ホモサピエンス)の栄光と苦悩の産物と言えるのかもしれない！すなわち、その土地(国土)を我が物とすることが出来れば、諸資源はもろろであるが、そこにおける権益(生命の保持を含む)のすべてを、自分達自身で享受することが出来るのである！そして、その逆となれば、それこそ悲惨なものとなるわけである！

ただ、残念ながら、その土地(国土)の分配(所有)は、様々な歴史的経緯の中で(多くは戦争や侵略行為を伴って)、時にはいびつで、不安定なものであった！そして、今も、その影響は各地に残っている(否、現在も、そのことが進行中ということもある！)！ただ、その土地(国土)でしか生きていくことが出来ないという覚悟と知恵が、その昔(縄文・弥生→)、融合(混血)というものを生み出した！それが、極東の最果て「日本」なのでもある!!

○「顕彰」について思う！

これは、何度か紹介してきた、私(この場合は井上！以下同じ)の受賞に関わる後日談ともなるが、最初の卒業生の有志達が、驚くばかりの賞状額を特注し、私の受賞の「顕彰」を行ってくれた(昨日／7日、その取り付けが完了した！)。ただ、余りにも立派過ぎて、正直言うと、いささか恐縮している！折角の思いでもあるので、有難く頂いてはいるが、ふと思うのは、何のための、否、誰のための顕彰かということでもある(もちろん、彼らを責めるつもりは毛頭ない！そんなことをしたら、彼らに失礼でもある！)!!

ところで、先日訪れた宮崎では、県の「総合文化公園」に、6つ？の「銅像」が建立されていた！それぞれ、同県が誇りとした、いわゆる「故郷の偉人」であろうが、あまりにも多く(密集している？)、却って軽く見られるようにも思えた(多少斜に構えた言い方をする、その意義は、どうもそれを建立した側にある！)！物象化した顕彰よりも、心のどこかに確と残るようなものが、本当はよい？私はそう思いたいのであるが、もちろんそれは人それぞれである!!

《短歌に託して》人は、花に似て、それぞれに咲く!!

・何故に惑わす “カネ”と“地位”

それでも 無縁であれ スーパーヒーローなら！

・懐かしきソメイヨシノ そしてつくしんぼ！

ただ花自体は オオシマザクラ!!

・待っている！ 今度こそはと 願いつつ

しかもそれは 今回限りでぞ！

・生きる土地 そを巡って 幾千年！

如何にその不幸を 解けると言うのか!!

・顕彰も 一つ間違えば 意義半減!!

気高き発意 彷徨(さまよ)うことなかれ！

《特別コーナー》堂本彰夫の古代史旅枕 ④

○古代日向国の実像を求めて―その1―怪しげな「皇宮神社」!!

さて、この度、別記のように、宮崎を訪れた！僅か4泊5日の旅であったが、もう一つの旅の目的であった、「宮崎神宮」や「生目古墳群」にも行くことができ、新たな発見や気づきを得ることが出来た！なかでも、「宮崎神宮」の元宮とされる「皇宮^{みみくに}神社」の存在は、古代の日向勢力の移動の痕跡として、大いに注目されるものである(当然、それは、「神武東征(神話?)」や「日向(三)代(神話?)」そして、「西都原古墳群」等の真相(謎?)と関わっている?)!!ちなみに、それらの場所は、長女一家の新居から、予想以上に近く、今度また、ゆつくりと探索したいと思った！

ところで、かの「皇宮神社」についてであるが、「宮崎の宮」の跡と顕彰されているところで、現在の宮崎神宮の西北600mの低い丘に鎮座。祭神は、神日本磐余彦尊(神武天皇)。相殿神として、神武天皇の日向での后神で、東征には同行せずに、日南市油津にある吾平津神社(乙姫神社)に祀られている吾平津姫命。神武天皇とその吾平津姫命の間に生まれた手研耳命。神武天皇と大和の五十鈴媛命との間に生まれた神渟名川耳命(後の綏靖天皇)である。

伝承によると、15才で皇太子に即かれた神武天皇は、生まれ育った同県西諸県郡高原町の狭野神社(旧宮崎神宮別宮)の地から、その皇宮屋^{みみくに}(皇宮神社)に宮居^{みやゐり}されたという。45才の時に、宮崎を出発。その聖蹟の地として創建されたとされるが、創始は不詳。旧社殿は、明治10年に、宮崎神宮の摂社とされたらしい。

こうした伝承が、どの位の史実を伝えているのかは、もちろん私には分かり様もないが、はつきりしていることは、その宮崎からは、瀬戸内の土器等が色濃く出土しているということであり、かの神武東征において、豊予海峡(または備讃瀬戸?)で出会った海人族とは、彼らのことではなかったかということである!!(つづく) (堂本)

《編集後記》こうして、今号も、一応は出来上がったが、次の第一歩という点では、まだまだ不満もある!!ここでしか書けないような話題、切込みが、もう少し欲しいということであるが、果たしてどうなっていくのか？そのカギの一つが、最後の古代史関係であるうが、相手は途方もなく大きい(そして複雑?)！だが、その突破口は確実にある!! (井上／堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 26 号

発行日
2024.4.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「架橋」ー教育とは、まさにそれである!!

昨日(27日)から、今年のGWが始まったが、私にとつては、残念ながら毎日がそれなので(笑)、取り立てて気にするようなことはない!そんな中、いつものネット記事に、『学校は本来の役割を忘れてしまった』日本の学校が子どもにとって、しんどい場所 になってしまった根本原因』というものがあつた!私も気になっていたことなので、こういうことが書いてあるのかと、具体的に見てみた。

その記事は、内田樹著『だからあれほど言つたのに』(マガジンハウス新書の一部を再編集したものとあつたが、「学校は何のためにあるのか」ということで、同書では、「今の学校は子どもたちを格付けする評価機関のようなところになつてゐる。それは本来の学校教育の目的ではない。子どもというのは『なんだかよくわからないもの』であるということから始めるべきなのだ」と指摘しているという。

「中世以来、子どもは七歳までは『異界』とつながる『聖なる存在』...だが、その年齢を過ぎると、そのつながりが切れてしまふ。アドレセンス(※思春期)の終わりというのは『異界とのつながり』が切れてしまふ年齢に達したということ...そうやって人間は『聖なるもの』から『俗なるもの』になる。だから、『この世ならざるもの』とこの世を架橋するものには童名を付けるという習慣がある。...彼らはこの世の秩序には従わない存在である。...」

この後も興味が沸く話が続くのであるが、要は、子どもは、そういう存在であるから、そのことを踏まえ対応すべきである!それが、「架橋」ということである!!まったくその通りであろう!ただし、橋自体を渡るのは本人である!

○卒業生に、面白い先生(小学校教師)がいる!

ところで、その「なんだかよくわからないもの(聖なるもの?)」としての「子ども」に対して、私からすると、とても面白い対応をしているように思える先生がいる!卒業生のN君であるが、先日久しぶりに、我が岳陽舎を訪ねて来てくれた!今回もまた、自分の学校(小学校)の児童のことを話してくれたが(ただし、個人情報流出には当たらない!笑、毎回、彼と子ども達とのやり取りを、ある種の話芸のように再現してくれるのである!)

ここでは、そのリアリティを伝えることは出来ないが、ふと思ふのは、彼自身が、ここで言う「架橋」となつてゐるのではないかということである(多分自覚はないであろうが?)!近年は、保護者や同僚との関係もなかなか難しいものとなつてゐるが、他ならぬ子ども達との関係自体も変わつてきている!要は、深く踏み込めない?そういう意識やスタンスが、他ならぬ「教師と子どもの関係」にまで及んでしまつてゐるということである!

彼は、おそらくそうしたことは、基本的には分かつてゐるが、目の前にいる「この子だけには」、何とか自分の出来ることはしたい!そう思つてゐるのではないのか?だが、そうは言つても、意に反する結果が生まれる場合もある?その辺りのことは、ある意味紙一重なのであるが、結果的には、その子(達)に受け入れられてゐるようではあるので(保護者からも)、頑張つて欲しいと、改めて思ふ次第である!とにかく、そうした「架橋」が出来なくなれば、教師のやりがい半減する!一般的な「働き方改革」!どうも現状では?でもある!!

○何が、どう崩れているのか?そこが見えていなければ!!

ということ、ここでは(くどいようであるが)、この「架橋」について、もう少し書き加えておきたい!先の記事によれば、「学校は子どもを『聖なるもの』から『この世』に誘導する装置(今では六芸のうち『書』と『数』だけしか教えなくなった。これは子どもたちを最初から『こちらの世界』のフルメンバーとして遇することである。それは違う:学校は子どもたちを『あちらの世界』から『こちらの世界』へそつと移動させる、きわめてデリケートな作業を求める場:半ば野生の存在である子どもたちを文明化していくというプロセスは『アドレセンス』との決別」を子どもたちに強いること...しばしば彼らは学校に通うことそれ自体で激しい痛みを経験する。」

そして、「かつての日本人は、子どもは壊れやすいもの、傷つきやすいものだ」と知つていたので、丁寧に扱つた。異界にまだ半身を残している『聖なるもの』だと知つていたので、子どもを『敬する』仕方をわきまえていた。それはもう現代社会の常識ではない。それでも、直感にすぐれた教師たちは、学校教育が子どもたちにとつて外傷的経験になるリスクを感知して、子どもたちを傷つけないことを優先的に配慮している。けれども、そのような配慮が人類的な深い意味を持つことを理解している人は教育行政の要路にはたぶん一人もいない。...」。

さらに、『学校が本来の役割を忘れてしまった』ことよりも、保護者や社会が『学校に学校の役割以外のものを求めた』ことのほうが問題(学校は本来は学びの場:教師が一方的に教えるだけではなく、子ども自身で考えることを促すことが学校の役割...しかし、保護者は自分の子供の嫌まで学校に求め:子どもがスパーで万引きすると店長は保護者ではなく学校へ連絡:高校生が詐欺に遭つと有識者が『学校で消費者教育をすべきだ』と...、何でもかんでも学校の役割となり、その多くは子どもにとつて面白くないことなので、学校嫌が進み:教員も余裕がなくなつて、テストの結果を次の指導に生かすところまで行かず、ただ、採点して評価するだけ...」。

とまあそういうことであるが、改めての課題は、それをいかに是正すればよいかである!ある意味正当な状況説明は出尽くしている?だから、その解決方途が問われるのである!(井上)

○「社会」の二つの形である国(家)ではあるが!!

さて、捉えようによつては、表の記事と同根の話題となるが、再度、ここに来て、まさしく古くて新しい(だから永遠の?)テーマである、「社会と国(家)」の関係(違ないことだと思ふけどね!! さて、コミュニケーションは?)について考えてみたい! 要は、「社会」の一形態であるはずの「国(家)」ではあるが、その内実が変わつてきている? 否、そこにおける両者の関係(違い)が、ますますその懸隔を広げている? だから、改めて、そのことを考えてみる必要がある? そういふことである!!

ということ、とにかく、今ほど、ここで言う「社会」と国(家)の関係(違い)を考えさせる時はないであらう! すなわち、そこには、戦争とか、重大な国家間関係があつても、一方では、それに対する為政者の体たらく・専断があり、他方では、それについての国民の無関心・諦めがあるといふことであるが、誇張して言えば、折角の社会システムが存亡の危機にあるといふことである!! 何が言いたいのかというと、実は、その危機は、揺るぎない社会の一つであるとされてきた「国(家)」そのもののあり様から、もたらされているといふことである!

何故なら、「国(家)」というものは、「社会」と、ある意味では同じであるが、その機関や対外関係においては、それ自体が、その社会とは異なつた存在となる! だから、「国民」は、その成り行きに直接関与出来ない! さらに、それは、自国のためとか、民主主義とか言われても、肝心の、「社会」という体を成していないといふことにもなる(ただし、小社会は無数にある!)!!

しかるに、もちろん、今のところ、その危機は、特定の人物(独裁者)、政党からもたらされたものとは言えるが、事の本質は、おそらくそこにはない!! 「国(家)」というものの自体に、その芽がある! だが、だからと言って、それを失くすことは出来ない! ならば、その関係自体を正当にしていくな! それに、「社会」でもある!

○改めて、PTA問題は、現代社会の縮図でもある!!

ここに、例のPTA問題に関わつて、面白いコメントがある! 「こういうのは、5年10年と経過しなきゃ分らないことだと思ふけどね!! さて、コミュニケーションはどうなつてんだろね?」つまり、ここに、「コミュニケーション」の視野があるのかどうかであるが、まったくの同感である! 「PTAは必要。そういう組織がしつかりして、その事が学校運営や地域社会の安定に繋がつてくる。」「本当に子どもや先生の目線から必要な『親』や『地域』のあるべき活動を語つてほしい。」ともある!

だが、一方では、その存在自体の是非(不要論も含めて!)を問ふことは、今まさに必要なことではある! ただし、それは、ことPTAだけの問題ではない! これまでに創り上げられてきた、ある意味あらゆる組織・団体に言えることなのである! お互いの人間関係や働き方、そこにある価値観やルールそれ自体を改めて見直し、そこから新たなあり方を構築すべき時なのである! だから、PTA問題は、現代社会の縮図でもあるといふことなのである!!

《短歌に託して見失つな! 大切なものを!》

・「架橋」! 教育とは、まさにそれ!

だが今は、そうなつていない!!

・それが本当の教師!! 知識や体験を与えるだけなら

AIの方が上手!!

・何が、どう崩れているのか?

そこを見極めなければ、混乱は続く!!

・人類に、今突きつけられているのは

社会のあり方! つまり国のあり様!

・一度は必要であつた、その是非論!

ただし壊すだけなら、誰でも出来る!!

特別コーナー! 堂本彰夫の古代史旅枕(20)

○古代日向国の実像を求めて! その2

ある意味ひよんなことから、古代日向国の実像を探つてみたいと思ひ始めた私であるが、考えてみたら、その暴挙には、それなりの必然性があったように思われる!! というのも、「記紀」に示されている「天孫降臨」や「日向三代」、そして、「神武東征」の物語はもろんであるが(日向自身が、その物語の地! さらに、かの「八咫鳥」こと「タケツヌミ」の出身もそこ)、先号で述べた「宮崎神宮/皇宮神社」や「生目古墳群」、さらには「西都原古墳群」、そして、それらの地に群在する「地下式横穴墓群」等が、かの北部九州(とりわけ「高良山」周辺)と、近畿・大和周辺の状況の双方に、色濃く関わつていようと思われるからである!

何とも奇妙で(つまり説明困難?)、その事実をどのように受け止めればよいのか? 素人の私には、とても手に負えるものではないが、ただ、ここで今一つだけ突破できるのではないかと思ひ始めているのが、その地域の出身と目される「日下部氏」(※多様な表記がある!)の存在である(二説によると、「土の中から出現したとも!」すなわち、同氏は、先の北部九州(とりわけ「高良山」周辺)と、近畿・大和周辺の双方に顔を見せているのである! 例へば、前者では「高良大社」の「大祝」として、後者では「仁徳天皇」と日向出身の妃「髪長姫」の子「大草香皇子」といった具合である! ちなみに、その「髪長姫」の父親が、現在も同地に残つている「諸県(もろの)」の名を負う「諸県君(牟婁君)」である!

もちろん、それらが、どの程度の真実かは分かり様もないが、この「日下部氏」(「阿蘇氏」、そして、それに関わる「神武の大和での長子」「神八井命」の後裔の「多氏」とも関係?)が、この奇妙な関係を説明してくれるのではないかといふことでもある!! また、それに関わつては、かの「景行天皇」の熊襲征討? 話も、絶対に関わつてくる(他ならぬ「諸君(牟婁君)」は、彼の孫とも!)!! とにかく、改めてこれからである! (つづく) (堂本)

《編集後記》今年のGWも、前半が終わった! 明日からは5月である! どんな日々が待っているか? ちなみに、10日には、例の馴染みの卒業生グループが訪問する! そして、ズーム交流も、二つある! やはり生身の交流・出合いは、元気が出る!! 沖縄は、もう既に梅雨となつていふ(ただし、今日は、珍しく晴れ! 薄曇り?)!! ユリが綺麗である! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 27 号

発行日
2024. 5. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「今を生きる力」ツルゲーネフは、黙して語らず!!

久しぶりに、ネット記事から離れた話題となる? 実は、本日(8日)、過日突然外れた(壊れた?)三連入れ歯の差し替えで、行きつけの歯医者に行ったのであるが(これで、当分は大丈夫?)、偶の独り昼食をと思い、ある意味懐かしい「ツルゲーネフベンチ(私が勝手にそう呼んでいるのだが! 何故なら、そのベンチには、「疲れたら休め、彼らもそう遠くへは行かない」という、ツルゲーネフの、おそらく有名な作品の一節が書かれている?)の方に歩いていった!

もちろん、今回は、その近くのうどん屋さん(丸亀製麺)に行くためであったが、そのベンチで、一頻り、持参してしていた自作資料(古代史関係)を読んだ後、ふと近場の立て看板を見てみると、そこに、何と、あの五木寛之氏の講演会の案内掲示がしてあった! 期日、場所等は、当然? 目に留めなかったが、何故か、その講演テーマには見入ってしまったのである! そのテーマとは、「今を生きる力」であったが、まさにそれは、時宜を得たテーマである!! ちなみに、そのベンチは、その看板(講演会案内)を立てている事務所(確か税理士関係?)のもので、そのさり気ないウィットと、今般の時事意識は、流石である、改めて感心もした次第である!!

ただ、そのテーマであるが、ふと思つたのは(これが、その歩きの妙味?)、「今(の時代)」を「な」のか、それとも「今(の自分)」なのか? その双方の意味合いがある!! まあ、どうでもよいことであるが(先方には無縁のこと?)、私からすれば、前者は甚だ難しく、後者は、ある意味私的なことなので、どうにでもなる!! そういうことであるが、傍らの? ツルゲーネフさんは、ただ黙して語らずではあった!

○やはり、Kさんのことは書いて置かねば! しかし...

ところで、このことについては、もう、ここでは書くこともないと思っていたが、あることを絡めて書けば、多少は面白くなるかな? とも思い、敢えて書いておくことにする! そこで、まずは、そのあることであるが、それは、例の、私の受賞に関わったことである! かなり日数も経っているのですが、まさかこんなことがあるなんて夢にも思ってもいなかったが、Kさん(彼女は、以前、退職大学院生として顔を見せていた! だし、ゼミ生ではない!)から、豪華な百合の花(カサブランカ)、そして、手紙が送られてきたのである!

ただし、事前に、彼女が、私の住所を知るために、県教委の方に照会の電話をしていたことは聞いていたの、贈り物、そして、その後の手紙(お礼の電話をした時に、その手紙のことは知らされていた!)、それら自体にはさほど驚きではなかった(むしろ申し訳ないという思いが強かった!)!! いずれにしても、何という心遣いなのか! 彼女の思いとか優しさとかが、身に染みて感じられたというのである(もちろん、手紙の文面からも)。

とは言え、これだけの話であつたら、それこそ辞易ものとなるので(Kさんには申し訳ないが、私の自慢話に終わる?)、それへの「オチ」も加えておきたい! 要は、珍しく私が、手紙を書いたということであるが、しかし、それは、自筆のそれでなかったということである!! 最近、指の動きが思わしくなく、書くにも嫌な思いをしていたが、意を決してパソコンで作成! 何とも情けない話となったということである(達筆な人が羨ましい?)!

○これもまた嬉しい話ではあるが、今度はとんだ思い違い!!

ところで、昨日(10日)、いつも集まってくれる、例の最後のゼミ卒業生達が、それなりに久しぶりに、我が家(岳陽舎)を訪ねてきてくれた! 金曜日であつたので、かなり遅くからの来訪であつたが(だから、多少近隣に迷惑を掛けたかもしれないが?)、賑やかで、楽しい時間を過ごさせてもらった! マックスで11人(二人はLine参加 だったと思うが、最初来訪の知らせを受けた時は(かなり以前!)、何の目的で、誰らが来るのか、分からなかったが(聞きもしなかった!)、今度は、とんだ思い違いがあつたということである(これもまた、オチと言えは、まさにそうであろう?)!

改めて、それは、彼らが、何のために集まって来てくれたのかという理由である! 前日の連絡で、かなりの顔ぶれであることは分かっていたのであるが、ひよつとしたら、かの私の受賞のことで、改めてお祝いをするためと、勝手に類推していたのである! だが、あにはからずや、私の誕生日祝いだということが、その席の途中から分かつて、独り苦笑した次第だということである(余計なことであるが、多分彼らは、新聞記事を読んでいない?)!

ただし、それにしても、かなりの日数が過ぎているので(先月17日)、何か複雑な思いで、彼らの祝福を受けた私であるが、何の節目でもない今回の誕生日(72歳)を、このように祝ってくれた彼らには、喜びはともかく、感謝の極みであることを、ここでは記しておきたいということである! 飲食物(寿司とピザ、そして飲みもの)の用意、そして、数々の誕生日プレゼント! 何と幸せな高齢者なのであるか(否、そう思わなければ罰があたる!)!!

ということで、この間、そんなこんなで、何ともおかしな日々を送った私であるが、一つだけ残念なのは、折角大勢が集まって来てくれたのに、彼らと、個別な会話が、ほとんど出来なかったことである! まさに贅沢な悩み? と言われるかもしれないが、彼らの日々(その後の人生模様、苦労話も含めて?)を、多少聞かせてもらいたかったということである!! もちろん、それは、私の一方的な願望であり、そのことをあまり望まない者もいる(現にいた! として増えている?)!! だから、そうしたこととは、最早時代錯誤(老害?)? そんなことさえ思ったりもしたわけである!! (井上)

○自尊心を育むには「コミュニティが必要」

やはり、そうであった!! そんなことを思いつつ、ここでは、再びネット記事での標記のことを書いておきたい! それは、『今を生きる思想 ジョン・ロールズ』:「そもそも『自尊心』とは、『自分が目指しているものが、価値があるものだと思うこと』『それを実現するだけの力が自分にはあるという自信』という二つの側面: 学習院大学教授玉手慎太郎氏が、政治哲学から見た『自尊心』について語る」である。もちろん、すべて紹介することは出来ないが、「(その) 自尊心のためには安心して参加できる人間関係やコミュニティが大事: 誰にでも、なにか一つでも: 自分を認められるようなコミュニティがあることが、自由につながる」。そして、「なぜ自尊心が基本財と言えるほど重要なのか: 自尊心を欠いている人は、たとえ自由や機会や権利を与えられても、それを利用することができないから:」。

さらに、「: 正義が実現されている社会とは、「人々の利益と負担の調停が適切になされている社会」: そのなかで: 興味深い考え方として、「基本財」というものがある。: 「合理的な人間なら、誰もが欲すると想定されるもの」(たとえば「所得」): 仕事をがんばる生き方にせよ、趣味に生きる生き方にせよ、: どんな生き方を選んでも、所得は必要: : なかでも、社会で分配をコントロールできるものを「社会的基本財」と呼び: 社会的基本財を十分に持っていない人に、これをきちんと分配することができれば、正義にかなった社会が実現:」ともある!

要は、「社会的基本財として『権利』『自由』『機会』『富』という4つにくわえて、『自尊心の社会的基礎』を挙げている点です」であるが、私は、それを、自らの生への『自己肯定』(納得)と呼びたいが、これが、今、危機に晒されているわけでもある!!

○漁師町の伝統 女人禁制の神楽にあこがれる少女

神楽響く私の“ふるさと” ~青森・牛滝地区~
久しぶりに、NHK番組「Dear にっぽん」を観た(12日)。番組案内によれば、「青森の小さな漁村で海の男たちが伝統の神楽を受け継いできた。ふるさとと神楽に憧れる女の子。女人禁制の風習に葛藤する姿に、漁師町の伝統を守る男たちはどう動くのか。: 去年の春、ひと組の夫婦が1男3女を連れて帰ってきた。小さな漁村の楽しみは、年に二回行なわれる伝統の神楽。『囃子をやりたい』と憧れる長女の聖奈ちゃん。しかし、神様が女を嫌うという理由で、100年以上の歴史で一度も女性の参加が許されたことはない。ひとりの女の子の願いを、伝統と生きてきた地区の男たちはどう受け止めるのか。それぞれの葛藤の日々を追う。」とある!

もちろん、番組を観た私であるので、なるほどということかと思うのであるが、私には、それ以上に、今の「教育」の危機とその解決方途を、ある種反転攻勢的に? 示しているようにも思えた!! どうか、詳しく語りたい!

〈短歌に託して〉「答えは見えているのに:」! ~

・時代を生きる! 自分を生きる!

・その双方の力 それが必要なのだ!

・百合の花 その後に続く 我のオチ!!

だがそれもまた 我が人生の花!!

・嬉しい話ではあるが 今度はとんだ勘違い!!

それでもよいのだ! 顔を見れば!

・自尊心 否、自らの生への納得

それは コミュニティによってのみ得られる!

・いみじくも 各自の生き様に すべてが関わる!

そこに 見出すべきヒントあり!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕の〜

○古代日向国の実像を求めてーその3ー

先に、日向出身の「目下部氏(彦)」(龍襲族の一つ?)の存在について触れたが、思えば、そこには、ある意味途轍もなく大きな謎が横たわっているようにも思える!! 言うのも、地理的には、まるで違う方向のそれ(距離的にも!)であり、しかも、それぞれがまったく違った勢力(王権)であるならば、何故「目下部氏(彦)」はその北部九州と近畿大和の双方に顔を出すのか? ただし、私自身は、そうした北部九州勢力と近畿大和勢力は、まったく違う出自の勢力とは考えておらず、その意味では、南部九州(日向)との関係には、それほど違和感はない? ただ、改めて複雑にはなるが!!

さて、それはともかく、よくよく考えてみれば、例えば、もし「日向三代」や「神武東征」の話が真実であれば、その地理的關係(矛盾?)は、速やかに解消する!! すなわち、「日向三代」の話が、北部九州と南部九州(日向)との、そして、「神武東征」の話が、南部九州(日向)と近畿大和との關係というのであれば、そこに関わっている南部九州(日向)の勢力(ここでは「目下部氏」が、いずれにも顔を出すことは、ある意味自然なこととなるというのである!!)なお、北部九州と南部九州(日向)の關係として、北部九州にしか見られない「甕槌墓」が、南部九州(日向)の「阿多」にもあるという(であれば、それが「甕槌尊」の降臨地となっている!!)

とにかく、我々は、これまで、往々にして、北部九州が近畿大和かという視点で古代史の大枠を見てきたように思うが、他ならぬ南部九州(日向)との關係を加えた、言わば三すくみの史実存在に目を向ける必要が出てきたのである!! とは言え、そこに、「玉置備」や「出雲」、そして、中国史書にはほとんど見えない?、縄文・弥生から続く東日本の勢力との出会い、軋機、共存の歴史が絡まっている!! だから、これからは、そうした視点の重要性を意識しながら、「記紀」を始めとする文献、それと連動させた考古史料の考察が求められるということである!! (つづく) (堂本)

〈編集後記〉あつという間に、GWの後半も終わった! 入出の多さを理由(言い訳?)に、今回も、ほとんど出歩かなかった私(達)であるが、6月、そして7月には、少し遠出の旅でも思っている! 幸い7月の方は、福岡に行くことを決めたが(先程決まった!、それにしても、何らかの目的(口実?)は必要である!!)それが無いと、やはり心苦しくもあるのである!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 28 号

発行日
2024.5.30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○梅雨の「走り」と「入り」！何と柔軟な対応？だが：

沖縄は、昨日(21日)、ついに「梅雨入り」となった！
例年より11日遅いということであるが、しかし、
今年は、先月末(GW前)に、何とも紛らわしい？
「梅雨の走り」ということが言われていたので、何
故か？「梅雨入り」ということが、あまり実感され
ない！確かに、今日(22日)も、間断なく雨が降
っているが、そう思えるのである！！

ところで、日本には、4つの梅雨(菜種梅雨・梅雨・
すずき梅雨・山茶花梅雨)があるということだが、こ
こでは、通常の「梅雨」について、少し調べたこと
があるので、それを披歴したい。実は、梅雨入り・
梅雨明け・梅雨寒・空梅雨等、関係する言葉が多々
あるが、そこには幾つかの区分けがあるらしい！

例えば、梅雨・梅雨入り・梅雨明けは、「予報用
語」。梅雨の走り・梅雨の中休み・空梅雨・梅雨の
戻りは、「解説用語」。梅雨のような天候・入梅・梅
雨寒等は、「使用を控える用語」とかであるが、考
えてみると、何と柔軟な対応なのだろうかとも思っ
てしまう(ただし、その基準の意味は難しいが？)！！
ちなみに、「梅雨の走り」は、梅雨前線が現れて
いなくても使うことがあり、判断が難しく、時期も、
「梅雨」よりは客観性に乏しいという！！すなわち、
「梅雨の走り」の判断は、主観による部分もあり、
気象庁でも、解説用語としては使えるけれども、予
報用語としては使っていないということである！
でも、庶民には、「梅雨入り」と思わせてしまう！！

○大雨／長雨、台風、そして再びコロナの増大？

ということ、今年もまた、正真正銘の梅雨が、ここ
沖縄でも始まった！昨日(23日)は、少し晴れ間も見え
たが(我が岳陽舎の近辺だけかもしれないが)、今日は、朝
からずっと、かなりの雨模様となっている！宮古島の雨
量が気になるが、不吉なことには？フィリピン東海上で、
今年初めての台風が発生する模様でもある！

ちなみに、その移動予想では、沖縄本島への直撃はな
さそうであるが、この本格的な梅雨(大雨／長雨)と重な
れば、かなりの被害が出るかもしれない！！梅雨の大雨／
長雨や台風による降雨は、ここ沖縄にあつては是非とも
必要なものであるが(特に今年は、ここまで水不足の懸念が
あつた)、度が過ぎると、それこそ大変な被害を被つて
しまうわけである(沖縄の悲哀と言えば、それまでだが？)！

ところで、この、いつもの憂鬱？に関わつて、私には、
もう一つ気掛かりなことがある！それは、折角最近、
馴染みの卒業生を始め、友人・知人の久々の来訪が多く
なりつつあるが(昨日も2人あつた)、こうした天候のい
たずらによつて、それが妨げられるということである！
しかも、かの新型コロナ感染の数も、いつのまにか増え
てきている(まだ、あまり騒がれていないが)！絶対数は
ともかく、その比率は、何と再び全国一位、しかも断ト
ツのようである！

とにかく、そういうことになれば、まさに二重の憂鬱
となる？わけであるが、楽しいことも、もちろんある！
否、自ら積極的に、そういうことを創り出さなければ！
そして、可能な限りの終活？を満喫しなければ……！

○人の「生」と、その「承継」に想つ？

そんな中、先日、ついに？ある手続きを済ませてきた。まさに
「終活」の究極(最後のそれ？)となるが、いざ来たる、我が葬
送の場所(墓所)を決定してきたのである(もちろん我が奥さんと
一緒に！)！しかも、詳しくは書けないが(書いてはいけない？)、
墓石なしの共同埋葬という形である！いろんな選択肢もあるう
が、我々にとつては、それが一番の良策であり、納得の結論でも
あるということである！ちなみに、我々と同じような決定をして
いる人も多く、ゆくゆくは、彼らは、隣人、否、同居人というこ
とになるわけでもある！面白いものである！

ということで、「墓(石)ない話」とはなつたが(でも、これは、
決して「悪い話」ではない！笑)、それとは別に、そして、気重
な話にはしたくないが、ここでは、人の「生」と、その「承継」に
ついて、もう少しだけ語っておきたい！と言うのも、考えてみれ
ば、ある意味当然であるが、人の「生」というものは、ある誰か
の「生」を受け継いだものであり、また、誰かの「生」を受け継
がれるものでもある！事情により、その直接的な「承継」がなさ
れなかったものもあるが(これからもそうであり、それは、さらに増
える)、その連綿と続く「承継」の姿・形が、かの墓所であり、
そこに我々の歴史が刻まれるわけでもある！！

しかし、問題は、そこにある、実際の「承継」の姿・形の存続
であり、それに対する、それぞれの、「今を生きる」人々の受け
止め方である！自国の命運や自家(家系)の行く末をどう考える
かということでもあるが、自(詐？)称古代史研究家として書き
加えたいことは、例の「古墳」(墳丘墓舎)の被葬者と、それ
を作り(生前に作られる場合もあるが)、祀り、祈りを捧げた人
達との関係や思いも、実は同じであつたということである！！

要は、そこには、ある人の「生」と、それが成した人間関係(血
統や勢力)とその意味(勢威や財)が誇示されているということだ
であるが、そこに、その人の「生」と、その「承継」の価値が示さ
れているということでもある！ただし、墓碑がないこともあり、
今となつては、その真相は不明であり、結果的には、かなりの徒
花ともなっている！！何とも、複雑ではある？

(井上)

○何とも複雑な心境ではある！大学の光と影!!

過日(24日)、NHKの「検証 大学改革 光と影」という番組(「ザ・ライブ」を観た！今更？こういうテーマの番組を観ても仕方がない(ある意味腹立たしい?)と、多少冷めた目で見始めていたが、途中から、ある人物の名前まで出て来たので(ある時期、R大学で一緒だった！顔も出ていたので、すぐに分かった！)、別な意味で興味が沸き、最後まで見届けてしまった！

例によって、その番組案内をネットで調べてみたが、それによると、「NHKに届いたあるメール。送り主は地方公立大学の関係者。学部の新設が進む一方、5年間で半数以上の教員が大学を辞めたという。改革の名のもとに、何が起きているのか。国立大学の法人化が始まって20年。国によるガバナンス改革は大学にどのような影響をもたらしたのか。単科大学だった下関市立大学。少子化や大学競争が激しくなる中、学部の新設を進めるなど総合大学化を掲げ志願倍率が上昇したという。一方、5年間で半数以上の教員が大学を辞めた。NHKでは退職者を対象にアンケートを実施。さらに学長や元学長などキーマンを取材。一体何が起きているのか。最高学府の存在意義を再考する。」とあった。

もちろん、ここでは、詳しいコメント(感想)をするつもりはない(スペースもない!)が、あの時のことを、少しだけ思い起こしてはいる(具体的には「国立大学の再定義の時」！とにかく、大学は変わった！否、変わらせられた!!そして、最早、古き良き時代の「学問の自由」や「大学の自治」は完全に消失した!!ただし、憤慨や悲嘆だけでは、新たな姿・形は築けない!これだけは、はっきりしている!ならば、どうするか?答えは、実はある!!

なお、この番組は、「九州・沖縄の地元の話題から、暮らし、経済、自然、文化...先の見えない混とんの時代だからこそ、確かな営み(ライブ)を深く見つめなおす。」とある。ある意味、ここにも、同根の答えがある!!

○梅雨時の鳥は、大変であろう?だが、一方の私も!!

話は、がらりと変わるが、梅雨に入って、先日二階のベランダに、羽を濡らした鳥が(名前は、流石に分らない!)、顔を見せた!と言っても、これまでは、知らない間に、備え付けの木製テーブルには、よく白い〇〇が付いているので、ひよつとしたら、その鳥なのかもしれない!!

だが、それはともかく、その時のそれは、多分、許容以上の雨粒を受け、いわゆる雨宿りのここに来たものだと思われるが、気のせいとか?私と顔を合わせても、すぐには逃げなかつたのである!!羽振るいをして、濡れを落とすのが先決ということかと思われるが、彼らは、宿命とは言え、本当に大変なのだ、つくづく思った次第である!

ということ、これ以上、彼らが何を考えているのか知る由もないが、一方で、彼らには、こんな私は、どのように見えているのであろうか?まさか、日中はパソコン、夜はテレビ、そしてまた、深夜はパソコンに興じる!そんな生き物と映っているであろうか?だとしたら、これもまた大変である!

〈短歌に託して本格的な梅雨を迎えて!〉

・梅雨の「走り」と「入り」!

柔軟な対応とは言えるが 庶民には同じ!!

・大雨/長雨 台風 そして再びコロナ?

変わらぬ憂鬱だが 楽しさあれば!!

・人の「生」と「承継」

その意味 あくまでも 今を生きる側にあり!!

・古き良き時代の 自由や自治?

それだとして 誰かが苦勞して得たもの!

・お互い大変 梅雨時の鳥と私!

だが、それもまた 今を生きるということ!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ㊟

○古代日向国の実像を求めて―その4―

ということ、ここでは、南部九州(日向)の実体?について、改めて追りたいのであるが、もちろん、それに近づくための原材料を、私自身は持たない!ただ、以前から気になっていたのは、いわゆる「魏志倭人伝」に記されている「投馬国」のことである!読みや位置関係も、まだまだ定かではないが、その国が「トウマツマ?国」であれば、それこそ南部九州(日向)の中心地ということになる(現在の西都原古墳の近く。その「都万」には「素麻社」があり、かの「木花咲耶姫」が祀られている!)

また、その国の「長官」は「彌彌(弥弥)弥弥」(「副官」は「彌彌那利弥弥那利/ミナリ」(「職名」という呼ばれていた。奴国の隣の不弥国から南へ水行20日の位置で、5万余戸の人家があったという。ちなみに、近くの日向市には「美々津/耳川河口」という場所もある!しかも、そこには「神武東征」に関わる伝承・行事があるという!「ミミ」という名称に注目すれば、神武の、日向での長子「多研耳」、近畿大和での長子「神八井耳」、次子「神淳名川耳(経世天皇)」、また、阿蘇や高千穂に伝わる「彦八井耳」等の名前を見れば、「ミミ」耳」が、南部九州(日向)に関わる名称であることが分かる!ちなみに、丹後にいたとされる土蜘蛛の「陸耳御笠」(くがみみのかき)にも、何故か思えば馳せるところでもある!!

いずれにしても、「耳/ミミ」という名前が、南部九州(日向)とつながることだけは確かなようであり、古代日向国が、我が国の古代史(建國史・解明の大きな鍵を握っていることは間違いない!!ただし、問題は、改めてかの「投馬国」が、ここで言う南部九州(日向)の地にあった国なのか?どうかは、今のところ何とも言えないということである!「邪馬台国連合」の強大な「国」であったことは、その人口規模からも明確であるが、筑紫笠野にあったと考えられる「邪馬台国」とは、一体どういう関係なのか?そして、そもそも、それらの位置関係に齟齬はないのか?そういうことが、新たな課題となるわけである!(つづく)

〈編集後記〉とうとう、沖縄も、本当の梅雨入りとなった!だが、事前に「走り」があったので、さほど憂鬱ではない!!しかも、晴れ間もある!ただ、これからの不安ではある?いずれにしても、季節はあり、そして巡る!楽しいことも、苦しいことも(時には哀しいことも!)、その繰り返しの中にある!!

(井上/堂本)

ある意味、どうでもいいことではあるが（書いたからって事態は変わらない？）、最近では、何でもかんでも「〇〇ハラ（メント）」と言つて、日常における様々な行為・関係が、その対象となつてゐる！もちろん、それが、正當かつ適切な言い立て（摘発）であれば問題ないが、それが、単なる人間関係の歪み（薄さ）を示すものであれば、実は、そちらの方が問題である！私には、そのようにも思える！

○新たな「似非？旅枕」のネタ探しにもなれば？！

ところで、先々号（27号）で前触れしておいたが、私（蓮）の、「少し遠出の旅」の一環として、この下旬に、「淡路島」に行くことにした！何故、そこか？と聞かれれば、少し返答に窮するが、とにかく行ける時に、どこでもよいから行こう！そういうことである！ただし、だからと言って、何の目的もないということではない！もちろん、私の場合は、当地における遺跡巡りで

に、是非参加してもらいたいということである！

なお、10月には、長野県への視察旅行？（秦皇村在グリーンウッド自然体験教育センター等）も実現しそうである！3月に行ったセミナー（玉城青少年の家との共催による「事例発表セミナー」）での縁によるものであるが、今後は、現在の顔ぶれを核としながら（中心は4人？）、可能な限りの参加者・協力者を募り、「教育協働」のネットワークづくり（社会教育主事（有資格者）／社会教育士の活躍の場づくり）、そのための人材養成を企図したいと思っている次第である！

そんな中、各界のリーダーやヒーロー達のそれも、枚挙に暇はない（それこそ「ハラハラ」のオンパレード？）！二重の意味で嫌気がさすが、しかし、同じ「ハラハラ」でも、スポーツの世界には、まったく別物がある（尤も、同じ〇〇ハラもあるが！）。勝負を賭けての一進一退の攻防がそれであるが、そこには、選手達の、それこそ人生を賭けた戦いがある！勝つこともあれば、負けることもあるが、しかし、そんなことはお構いなしに、今そこに必要な最善かつ最高のプレーに集中している！それが、観るものを魅了するのである！

ある（三女も入流するので、それも楽しみである！）
しかるに、淡路島は、「記紀神話」での「国生み」の舞台である！「オノコロ島」と目される「沼島」はともかく（観光地となっている！）、かの「三貴子」（天照大神／月読命／素戔鳴命）の生みの親、伊弉諾／伊弉冉の活躍？の場所でもある（「伊弉諾神宮」も当地にある！）¹¹
伊弉諾勢力（天津神／天孫・天神系）と伊弉冉勢力（国津神／在地・出雲系？）が、そこで出会い、糾合したことを暗喩しているとも言えるが、ともかく、古代史・解明の重

第である！

ただし、何度も言うように、この働きかけ（お節介？）は、おそろく私の最後のそれであり、真にそれに応えたい、否、応えなければいけないという思い（信念、否、ミッシヨン？）をもった人達への、ファイナルラブコール（ある種の遺言？）だということである。だから、単なるお付き合ひ（腐れ縁？）や一時的、あるいは一方的な参加者・利用者（消費者？）は、まったく不要だということでもある！とにかく、私は今、ここ沖縄で、そして、私の言う「思いのある人」として頑張っている人達（年齢的には、決して若くはない）の、最後の受託度（ある種のポストマンシップ）を

現在、バレーボールの世界大会（VNL）が繰り広げられているが、今年も大いに楽しませてくれている（特に女子！）。その参戦者も！相変わらず、国内外の参観・非観が虎

要な地域（の一つ）であること間違いない（なお、最近、隣の「阿波（徳島県）」が注目され始めてもいる!!）！

く中で、こういう話題を採り上げるのは、誠に申し訳なく、そして氣も引けるのであるが、やはり、一生懸命な姿はいいい！無条件にいい！だから、そこで頑張っている人達を、絶対に応援（否、賞賛？）したいのである！

載している、「特別コーナー」堂本彰夫の古代史旅枕
く（「似非々旅枕」）の、新たなネタ探しにもなればと
いうことである。その一つが、「五斗長垣内」^{ごうちがき}遺
跡であるが、そこは、弥生時代後期の鉄器生産工房ら

このように、ハラハラしながらの直近であるが、しかし別な意味で、絶対に応援（こころでは支援？）しなければいけない人が身近に出た！本当は、それを書きたかったのかも？！

しいが（もう一つある！）、この事實は、とてつもなく大きい！7月は、福岡にも行くが、その成果（南西部の神社等巡り）も、是非見せたいものである。!!

昨日（5日）、標記「アカデミー（仮称）」の創設（かなり仰々しいが？）に向けての、3回目の集まり（ズーム交流）をもつた！私自身は、玉城青少年の家へ移動して、その集まりを主宰（私のアカウントで行っているということ！）したが、今後も、毎月1回（第一水曜日10時〜12時）のペースで、集まり（ズーム交流）を持つことになっている！「思いのある人」、そして、「都合がつく人」に、是非参加してもらいたいということである！

なお、10月には、長野県への視察旅行？（泰阜村在グリーンウッド自然体験教育センター等）も実現しそうである！3月に行つたセミナー（玉城青少年の家との共催による「事例発表セミナー」）での縁によるものであるが、今後は、現在の顔ぶれを核としながら（中心は4人？）、可能な限りの参加者・協力者を募り、「教育協働」のネットワークづくり（社会教育主事（有資格者）／社会教育士の活躍の場づくり）、そのための人材養成を企図したいと思つている次第である！

ただし、何度も言うように、この働きかけ（お節介？）は、おそらく私の最後のそれであり、真にそれに応えたい、否、応えなければいけないという思い（信念、否、ミッシヨン？）をもった人達への、ファイナルラブコール（ある種の遺言？）だということである。だから、単なるお付き合ひ（腐れ縁？）や一時的、あるいは一方的な参加者・利用者（消費者？）は、まったく不要だということでもある！とにかく、私は今、ここ沖縄で、そして、私の言う「思いのある人」として頑張っている人達（年齢的には、決して若くはないが）に、私なりの、最後の受け渡し（ある種のバトンタッチ？）を行いたいのである！

とは言え、彼らを取り巻く諸状況は、決して樂觀できるものではない！だから、この私のファイナルラブコールも、ある意味、彼らにとつては重荷？否、現実、は、そうしたことには構つていられない？眼前の課題のことで精いっぱい？もちろん、そんなことゝは分かつているが（ただし、十分には分かつていないかもしれない？）、要は、それだからこそ、互いの思いと力（実績）を、もうちよつとだけ「合力」すれば…そういうことである！（井上）

○リーダーのやる気と本気！そしてそこに、それに応えた人達がいた！

さて、ここでも、ある意味表面の記事と関係するが、先日、懐かしい情報（光景）に遭遇した！それは、「隠岐島に希望を取り戻せ！破綻寸前からの総力戦！」というNHKの番組であった（初回放送日…5月25日）！この島（町）については、以前、当時の大学院生H君の研究テーマの関係で、直接、同君と一緒に訪れたこともあり、少なからず知っていた！そして、同島（町）に関する情報も、多々得ていた（Y町長やIさんの本等から）！ちなみに、同番組については、次のようなコメントがあった。

「町の人口が急激に減っていく。今から20年前、島根の離島・海士町は、深刻な過疎に直面した。返済のめどが立たない102億円の借金も抱え、町の財政は破綻寸前。そのとき、『島の未来を守ろう』と立ち上がったのは、元営業マンの町長。自ら給与をカットし、改革に乗り出した。その思いに役場職員と町民が続いた。地元の高校をよみがえらせ、新たな産業を生み出し、活気を取り戻した。島の存続を賭けた、総力戦での逆転劇。」

もちろん、これだけでは、なかなか実際のイメージが掴めないかもしれないが、本当に凄い、そして、ある意味では羨ましい話である！これ以上の詳しいことは、ここでは書けないが（まだまだ知らないこともある）、この島（町）の取り組みには、教えられることが無数にある！その後、直接の交流や情報もなく、かなりの年数が経ってしまったが、今回の放送で、改めて同島（町）の凄さ（懐かしさ）を感じさせてもらった次第である！

とにかく、「そこに、やる気と本気の『リーダー』がいた！そして、『それに応えた人達』がいた！」まさに、そういうことである！人の思いに触れ、ある人達が呼応し、そして、周囲の人達も変わっていく！ある時期の、誰かの苦い経験？を一方で思い起しながら、その素晴らしいさを、改めて感じさせてもらったということである！

○何とも悩ましい「祭神」の乱立、否、滅裂？！

何度も書くようで申し訳ないが、最近、古代史に関するブログやYoutubeを沢山見ている！そして、様々な有用な情報を得ている！ひょっとしたら、このようなところから、真相解明の突破口が開き始めるかもしれない？そんなことさえ思う次第であるが、だが、ここに来て、何とも悩ましい問題も感じ始めている！それは、ここに出てくる「神」のことであるが、その名前、そして、鎮座場所！一言でいえば、「乱立、否、滅裂？」ということでもあるが（使用字や読みの問題も、もちろんある！そしてそれが多くの人を迷わせている）、そこには、明らかに社名や祭神名の変更、すり替えや秘匿があるということでもある！！

実は、その原因を探し出していくことが、他ならぬ「古代史解明」の一助ともなるわけであるが、そんな中、例祭等を実施し、敬虔に、その「神」を祀っている人々がいる！他方、私を含めて、普通の人々は、結婚式や初詣、他の区切りの行事（七五三等）等で、お世話になるだけである！！

・疾駆く人 師と仰ぐは 少し変？

ただ見せられし姿 しかと収むる！

・さりげない 時代の告発者？

だがすべての世代に 優しき伴走者でも？！

・50過ぎの壮年達 人となりは 変わらじも

見た目は それとは裏腹に？！

・エジプトよ いいところ取りは ほどほどに！

同じ過ち？ 決して繰り返すまじ！

・古人よ 何故に設けし 神の社！

名前は滅裂？ そこに何ある？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑱

○「大幡主命」が「旧倭国」、「開花天皇」が「新倭国」？！

そこで、ここでは大変な妄想となるかもしれないが（だが真実？）、思い切つて、かの「大幡主命」が「旧倭国」、「開花天皇」が「新倭国」の勢力というように捉えてみると、どのようなものか？そこについて、少し考えてみたい！なお、前者は、博多湾沿岸（中心地は須玖岡本）に覇を有していた「鰐族」、後者は、背振山南麓・「高良大社周辺」に蟠集していた新興勢力（天伽耶／多羅勢力十狗奴国）龍襲族／神功皇后・皇長氏十武内宿禰諸族であった！ただし、その後者の勢力については、もう少し複雑な様相があったとも思われる（とりわけ、そこにおける「三河君氏の存在」）！！

とは言え、そこら辺りの言及は、今後のさらなる課題ということで天変な課題ではあるが！、ここにおいては、取り敢えず、博多湾沿岸部の「旧倭国」の中心勢力（主藤邉）が、その内陸部、視点を変えれば有明海沿岸部の新興勢力に追いやられ（鴨族）とともに東へ移動（いずれも「海神族」）、それが引き金（「源流」となつて、西日本全体の諸部族・勢力の大々的な攻防、すなわち「倭国大乱」と呼ばれるものになつていった！！

そして、その過程において、北部九州では、「魏志」に言う「邪馬台国」の出現、親魏倭王「卑弥呼」の登場、さらには「吾土（吾土）」への継承がなされるわけであるが、その後の顛末（新倭国／邪馬台国連合の解体）については、ほとんど闇の中（6世紀末まで）という接点なのである！要は、そのことについては、例の「記紀」は何も記していない！と言うよりは、かの「神話」として、その顛末を暗示させている？そういうことである！！

いずれにしても、そういう中で、現在も、大幡主（大幡主命／建瓴安彦）、そして、「開化天皇（高良大神）」を祀る神社や、彼らに纏わる伝承が、そこ北部九州に色濃くあるということは事実であり、ここではつきりとしていえることは、ある時期から北部九州（倭国）が二つに分かれ、その二つの勢力が、北部九州と近畿（天和・河内）双方を舞台として、その後の「倭国（日本国）」を形づくつていった！少なくとも、そのことだけは言えるということである！（つづく）

〈編集後記〉ということで、今年は、これで終わりである！来る「辰年」はいかなる年となるのか？一応は、7回目？の「年男」ではあるが、これまで同様の日々が続く！ただ、かの心配（憤り）は、決して同様であつて欲しくない！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 30 号

発行日
2024. 6. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○本当の「自分史」(告白?)も、もう少し必要!!

さて、ある意味では突然であるが、折角の節目ではあるの
で(第30号)、ここで少しだけ、これまでの新通信作成につ
いての心境(反省?)を語っておきたい!わざわざ「あくま
でも自分史として」という、それなりに意味深な副題(恰好?)
をつけておきながら、それらしきものは、あまり見せていな
い!!もちろん、関連記事の折々に、それと想わせるようなも
のはあることはあるが、それらが、本当に「自分史」と言え
るのかといったら、それはそれで、かなり怪しい?

○折角のズームアカウントが泣いている!!

というところで、そういった感じの「新通信」となっている

上記に、多少書き加えておきたいことがある!それは、

○淡路島行!細やかな(恵まれた?)日常の「コマ」として!!
予定していた、夫婦での淡路島への「ささやかな旅」(21、
24日)から、昨日戻った。多少気がかりなことがあったが(二
つなお、一方のそれについては、そのための準備もして!)、折角の
計画でもあったので強行した次第である!結果的には、何事も
なく、そして、梅雨入りした当地への訪問も、ほとんど影響は
なく、快適に過ごさせてもらった!岡山に住む三女の同行(半分
は、車の運転手?)もあって、久し振りに楽しい時間であった!
旅行を計画してくれた我が奥さんには、本当に感謝である!
それにしても、淡路島は、本当に広いものである。今回の旅
は、その淡路島の北から南まで(正確には大鳴門橋の徳島県側まで
残念ながら、潮の関係で、大渦は見られなかったが!)、しかも、播
磨灘(大阪湾と瀬戸内海の両方を見ながら、名所旧跡を訪ねた
(一般の人は行かない所まで?五斗長垣内(こさかい)遺跡や倭大國魂神社
等)。もちろん、多くの人が訪れるだろう、伊勢諸神宮や各種花
の公園(幾つか行ったが、名前は覚えていない!笑、そして、「た
こせんべいの里」にも行った(奥さんと三女は喜んでいた!)!お
世話になった二つのホテルは、食事等、とても良かった(在福良
の二目目のホテルの露天風呂は最高であった!)!

ということであるが、やはり、まだまだ書いてはいかない(否
まだ、そういうことまでは、ここでは書いてはいけない?)ことが
多々あるということである!それは何かであるが、一言で言
えば、それは、自らの暗部、有体に言えば、思い出したくな
い(認めたくない?)ものということである!!もちろん、個別
の事柄については、ほとんど失念(高齢期忘却?)しているわ
けであるので(時々思い出しはするが!)、問題は、心のどこか
にしまい込んである?それ以外のことということになる!!

地元在住のF君(大学の同期、夫妻との再会、その奥さんの食
事が注文されていなかったハプニングもあったが、互いに、さ
らに年を取ったものだと思つて思つた(F君とは、7年前に広島
で再会していた!ちなみに、ハプニングと言えば、初日の神戸
三宮での泊の時、摩耶山からの帰りのバスで、反対方向の路線
に乗り、かなりの遠回りをしたこと(二時はどうなることか思っ
た!)、帰りの高速バスで、我が奥さんが、間違つてチャージし
てないICカードを出して、料金不足で、現金を払ったこと(先
に降りていた私は、何が起っているのか、その時は知らなかった!
思い出せば、まだまだ書きたいことはあるが(神戸の夜景、淡
路島の玉ねぎ、シラス井のこと等)、今回の旅は、あくまでも、私
達老夫婦?の、今の生活(いつまで続くかわからない?)の一部、
細やかな日常の「コマ」として実現させたい!そういう恵まれ
た?高齢者の旅でもあったということである!(井上)

ちなみに、それについては、以前、どこかに書いたように
も思うが、私自身は、実は、初心者!そして、結局は、うま
くいかない人、そういうようにも思っている!しかも、そこ
に、九州人(否、唐津人?)の悪い癖(恰好?)いい人ぶってい
る?一見豪放磊落のように振舞っている?)が被さっている!!

ただ、たとえそうであるにしても、今、唯一のプログ
ラムである「教育協働アカデミー」(原則月一回第一水曜
日午前、「岳陽チャンネル」として実施)だけは、何として
でも成功(持続)させたい!それが、しつこい(諦めが悪
い?)私の願いでもあり、意地でもあるわけである!!

だが、いずれにしても、様々なことがあった!思い出せば
キリがない!!そして、今を生きている!余計なことだが、こ
こで書くことは、まだまだ「辞世」のそれではない(だから、
懺悔のそれでもない?笑)!!ただし、それは別物?

でも成功(持続)させたい!それが、しつこい(諦めが悪
い?)私の願いでもあり、意地でもあるわけである!!

○フロンティア―それは、いつの時代にもある?!

もう随分経つが、過日、「フロンティア」というNHK番組を観た。「ぜんぶ見せます! AIと、AIについてガチ対談!」ということであつたが、何とも奇妙なものであつた! AIは、ついにここまで来たのかということであるが、実は、この番組は、「NHKのBSチャンネル」が12月にリニューアルされた。新チャンネルの目玉として企画されたが様々な分野で知の最前線を巡るこのシリーズ。当然、力が入っている。最初のテーマは『日本人とは何者なのか』とあつた(これも確か観た!)。

『番組には、科学、宇宙、そして歴史や文化といったさまざまな分野で、未知の領域「フロンティア」を切りひらいているフロンランナー(専門家など)の方々が登場し、彼らにしか見えていない一歩先の新しい世界を語ってくださいます。そうしたフロンティアから見える新しい世界観を映像化する際に、表現の世界のフロンランナーであるオダギリジョーさんと蒼井優さんの感性を掛け合わせてお伝えしたいと思ひました。ぜひ「作り手」として参加していただきたいと、オフアをさせていただきました。そんなお二人に語りをさせていただくわけですから、『これまでと同じではない伝え方』『テーマにあつた語り口』を内容に合わせて考えながら制作しています。毎回ちよつとずつ違つた語り口になっていますので、その点も楽しんでいただきたいと思ひます。」(白川裕之チーフプロデューサー談とある。

今回は、「進化が止まらない人工知能・AI。その最前線について。AI「本人」はどう感じているのか? フロンティア取材班は、はるばるイギリスへ! 最新のAIテクノロジーを駆使して開発されたヒューマノイドロボット「Ameca(アメカ)」に、「ガチンコインタビュー」を申し込みました。」ともある。いずれにしても、ほとんどの番組を観ていないことに気づかされた私であるが、本当に世界は動いて(変わつて)いるのである!

○そこには、勝負するもの(場や形)がある?!

しかるに、上記も含めて、今、改めて思ふことは、人の人生において、何らかの「勝負するもの(場や形)」がある人(と)そうでない人の違いは、大きいということである! 現在、そうしたものが、ほとんど消え失せている我々(高齢者)にとっては、まさにそれが実感のもののである! こんなことに登場した人々や最先端のスポーツ選手・チームには(こちらは、たまたま見たネット情報、まさにそれがあるのである(だから、感動を与えるのもあるが!))!!

とは言え、それが、ある種の「生き甲斐・やり甲斐」ということであれば、我々(高齢者)にも、敷衍される(ただ、それは、ここで言う「勝負」ではない!)!!だが、ここで言いたいのは、それを超えた、何らかの重たい課題(普通の人では解決することが出来ない)を担っている人達のことである! だし、それが出来るのも、そこに「場や形」がある(否、創れた)からである!そこが何とも羨ましい!!

「短歌に託して」今回は、何故か「何故」に収斂する!」
・「あくまでも自分史として」 そんな副題
何故入れる? そこにあるのは、やはり恰好?

・ズームアカウント ほとんど不要と思つても
それでも持つは 何故(な)ぞ?

・淡路島 国生み神話は 嘘じやない?
されど何故(な)ぞ? そこに行つたのか!

・フロンティア 何故にかくも多くある!
だが何故(な)ぞ? 無縁の我が見る?

・勝負するもの そこには場や形がある!
だが何故(な)ぞ? それは、そこにある?!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ③〇

○改めて、古代九州の全体像を探る―その1―

というところで、改めての課題は、北部九州での、神功皇后(皇太后)や武内宿禰の謎(彼らは、近畿から動いてきたようになっている)の解明である(もちろん仲哀天皇(佳皇)大神を含む!)。例へば、別な情報によると、神功皇后(父親は皇太后/開化天皇系、母親は葛城國姫/天日矛の子孫)は、背振山(麓に、その縁の痕跡があり、佐賀県佐賀市には、彼女を祀る「野波神社」とその父母を祀る「下宮神社」がある!)、武内宿禰(孝元天皇の孫・屋大弟武雄心命(または、その父の彦太忍信命?)と、葛城(紀直道祖)の女の影響との子とされている)は、その父親? (屋大弟武雄心命武雄心)が、佐賀県武雄市に所縁の人物となつている!そして、武内宿禰は、北部九州(筑後地方)では、「藤大臣」(富良玉垂命?)とも称され、一方でまた、南部九州では、何と熊襲の英雄?「弥五郎」ともされている!!

とにかく、その長寿の異常さも含めて(360余歳?)、まったくもつて謎(全体不明?)の人物と言わざるを得ないのであるが、彼はまた、「渡多氏」「平群氏」「巨勢氏」「木戸氏」「蘇我氏」、そして「葛城氏」等、いわゆる「葛城諸族」の祖ということにもなつていたのである!通説によると、武内宿禰は、主君の神功皇后に常に寄り添つて、その忠告を果したという(ことであるが)そのため、戦前には我が国の紙幣にも顔を出している!、とてもじゃないが、このままでは、謎の人物(非存在?)ということと終わつてしまふ(うやむやにされる!)!

おまけに、墓所は、大和の「室宮山古墳」ともされるが、因幡(鳥取市)の「宇倍神社」とも言われる(伊福部氏の関わりか?彼らは、かつて筑後川流域にいた!)!!いわゆる「職掌」、あるいは「複数の人物(モデル)」の重ねという(ことであるが、個人としてではなく、その勢力、血統という視点でみれば(現代も、その未解と称する人達がいる)本音がどうかは、知る由もないが)、そこにある真実、そして、それが有している古代史解明の鍵が、おそらく(否、絶対に!)見つけられるかもしれない!!(つづく)

〈編集後記〉とにかく、そうこうしている内に、沖繩は、梅雨明け!他方で、次は、本土の梅雨入り!離れているから?否、繋がっているから?まるで、それは、沖繩(の人)の心情のよう!!それはともかく、梅雨明けの沖繩は暑い!普通の年より2度くらい高い?盛夏ともなれば、想像するだけでも怖い?(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 31 号

発行日
2024. 7. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○最終的にAIは人類を滅ぼすのか？人工知能研究者が導き出した「意外な答え」今後も生き残るのはどんな仕事か？

この話題については、あまり深掘り出来ない私であるが、人間とAIの関係の結末？は、興味あるところではある！ネット情報によると、次のようなことが書かれていた。

「現時点でAIが学習しているのは、主としてインターネット上のテキストデータ。もしもAIがたいの文章を人間よりも正確に、効率よく書いてくれるようになるのであれば、人間によって作られる文章自体が減っていくことは避けられない。著作権保護の問題は残るが」。しかし、当然、品質は下がっていく。生成AIに条件を与え、新聞記事のような文章を生成してもらうことはできても、世の中のどこに記事にしたいような取材対象があるのかを探ったり、そこに実際に向いて人の話を聞いたり状況を調査したりすることは、結局、記者にしかできない（記事ベースに文章を書き換えることは技術上できても、そこで生成された記事をさらに学習して…というサイクルにはまり込んでしまうと、事実や知りたい内容からはどんどん離れてしまう…こうした状況を利用して、意図的に間違った情報や、特定の勢力に有利な情報を粉れ込ませることもやりやすくなる。」！

したがって、「人の手による価値あるコンテンツ」の重要性が、再び増していく。…私たちがAIに期待するのは「人が作ったかのような成果物」。そのためには、人がどんなデータや文章を好むのかを、定期的に検証しなければならない。…人による「品質チェック」は、必ず残るニーズ。今後も生き残る仕事、あるいはクオリティは、AIに学習される価値のあるもの。…価値を作り出せるのは人間。…AIが人間を滅ぼすことはないはず」とある！何故か、安心した次第でもあるが、では、その価値は、誰が、どのように生み出すのであろうか？！

○人間の価値は、アルファベットで示されるのか？

かつて「□バ型人間」のことがもてはやされた時期があったように思うが、次のようなネット記事があった！「『T型人材』とは、特定の分野を極め、専門的な知識や経験とスキルを蓄積し、これらを軸にして、その他の幅広いジャンルに対しても知見を持っている…英語で『T』の文字の縦を「専門性」、横を「視野の広さ」に見立て、…そして、『□型人材』は、異なる分野の2つ以上の専門的な知識を極めた人材で、『ダブルメジャー』とも…専門性が高い分野の深い知識を複数持つことで、ひとりでも独創的な発想をすることができものが特徴」とある。

また、『H型人材』は、強い専門性を誇る分野が1つあり、他人の専門性を横軸で繋げられる架け橋となる人材…このような他者との連携をする力も、今後求められる人材の重要なポイント…『I型人材』は、従来の日本企業が重用した、1つの専門ジャンルを極めた人材のこと…特に技術職に多く、営業や企画など異動の多い職種では少ない…」ともある。

いずれにしても、「専門性」と「視野の広さ(教養?)」そして、「他者と連携する力」が、これから求められる人材の力(理想)であることは間違いない！余計なことだが、これらが、現在主張されている「多様性(個性の尊重?)」と、どのように結びつくのか？そしてまた、ネット社会で脚光を浴びて来た「インフルエンサー」や「アンドロイド」「サイボーグ」等の人材？は、これらに如何に絡まるのか？未来は、複雑である？！

○ドキドキ、ハラハラだったが、面白かった？この一月半！

過日、バレーボールのネーションズリーグが終了した！約一月半に亘る大会において、今回は、男女とも銀メダルという快挙(奇跡?)をなした！そして、来る月末のパリオリンピックへのアベック出場(古臭い言い方)となった！リアルタイムの放送では、それこそ手に汗握る観戦となったが、試合結果はもちろんであるが、そのプレ―の素晴らしさ(テクロバットにも似た?)に、いたく感動した次第である(これまでの日本とは、まさしく違っていた！)！何故、こうも変わったのか？選手もコーチ(監督)も、基本的には変わっていないにも拘らずである？！個々の選手の力量が上がったと言わざるを得ないのであるが(特に古賀選手！)、これについて、私は、昨年の女子世界バレーボール選手権(オリンピック代表予選)に關わって、次のような感想を述べている(第14号)！

○非情な(解せない)采配？そこは何かあったのか？随分日が経ってしまったが、…日本は、結局ブラジルにも負け、残念ながら、今回の代表決定には至らなかった！そして、そこにおいて、最後の二セットは、これまで中心選手(主将でもあった！)として奮闘してきた古賀紗理奈選手の姿がなかった…！何か、第3セットの終了時点でトラブルがあったものかと、その時は思うだけであったが、試合終了後のインタビューでは、自分自身は、調子は悪くなかった！その理由(不起用)については、監督に聞いてくれというようなコメントであった！問題は、その後の、真鍋監督の言である(決定率、効果率、返球率が下がっており、ある意味交代は、理の当然だ！)。これは、下衆の勘繰りかもしれないが、今回の成績(実力?)でも明らかなように、たとえ今回の機会で出場権をとったとしても、今(まで)の古賀選手(中心のチーム)であれば、おそらくメダル獲得は困難！監督は、そう思っている采配ではなかったのかということである？！そこで注目されるのが、その非情な(解せない)扱いを受けた古賀選手の、これからの踏ん張りである！試合後の涙もなかったが(采配への怒り？負けを情けなさ?)、とにかく、その悔しさを、どのように晴らすのか？そこが重要であるということであり、それがまた、監督の本当の思いなのかもしれない！

ある意味、私の読み(予感?)は当たっていたということであるが、その悔しさと努力の積み重ねは、他の選手にも、当然あったということである！何という素敵な時空であったのか！(井上)

○知らなかった！そして、何故か、心を打たれた！

6月23日、「慰霊の日」！その日は、沖縄では、ある意味最も忘れられない（忘れてはいけない！）日である。79年前、かの戦争において、沖縄が地上戦の舞台となり、事実上終戦を迎えた日である！だが、最近の私は、その日のことを、あまり頓着しなくなっている！詳しいこと思いは、ここでは書けないが、この度のテレビ放送を見て、何故か、心を打たれた！まったく知らなかったということもあるが、そこに示されている真実（人間の生き様が、本当に尊いものと思えたからである！

そこで、改めて、そのテレビ放送であるが、それは、最近復活したNHKの「新プロジェクトX」の、「旧作アンコール 命の離島へ 母たちの果てなき戦い」というものであった（初回放送日：6月29日）。2005年5月の放送ということであったが、「終戦後、沖縄では水道施設が壊滅。川の水を生活用水にすると感染症がまん延した。医師は軍医に駆り出されて亡くなり、極度に不足した。窮状に立ち上がったのは100人以上の女性たち。現在の保健師にあたる『公衆衛生看護婦』となり、各離島で島民の命を守る。結核の疑いがあっても「周囲に知れると困る」と追い返されるが島民に誠実に向きあい、信頼を得ていく。79回目の沖縄慰霊の日を迎え、女性たちの奮闘秘話をアンコール。」とある。

病氣や生苦に困っている人達を救いたい！「誠実」という言葉に込めた、彼女達の使命感と生き様。それが、背中で見ていた子ども達には伝わっていた（その時は本当に辛かったであろうが！）！今の教育界に、何かを訴えている？ちなみに、当時のスタジオに登場していた親子、子の方的人物は、私と同じ大学のN教授であった！顔を合わせたこともある！気弱そうな人に見えていたが、その親子の生き様を知った今、それは、かれの優しさとなっていたということでもあろう！驚きもしたが、土地や人間の評価は、表面的ではないということでもある！！

○「老い」の思い込みとは恐ろしいもの！！

別コーナー（「新・教育協働への道 26」）でも書いたが、この度、大変な間違いをしでかしてしまった！法律条文（教育基本法）中の「国家及び社会」という表記が、2006年の改正から、そうなったという説明をしていたが、実は、最初からそうなっていたということである！法改正期の状況に関わる変な先入観（当時の首相のゴリ押しに対する？）が、そうさせたとも言えるかもしれないが、大失態であることは言うまでもない（専門家失格！いくらこの論稿が学術論文ではないとは言え、決してあつてはならないミス！）

ただし、文意は、基本的には変わらず、つまり「国家及び社会の形成者：の育成」というところについては、常に緊張感をもって（「正当に」と言いたいところであるが）解釈していかなければならないということである！ちなみに、真に図々しいとは思いますが、そのお詫び・訂正、あるいは差し替え版は考えていない否、実際行えない？！ここでの言及で、そのことは許してもらおうしかない（これは、老いたる専門家の、ある種の「誠実」ということでもある！！）

・短歌に託して！今回は、「誠実」を前面にして！！

・価値あるもの それは 人間が生き出す！
だがそこには 「誠実さ」 が必要！！

・求められる人材像 そこに「誠実さ」
いかにある？ それを問わなければ！！

・何故か当たっていた？ でもそれは上辺の話？
そこにあるのは 努力と「誠実」！！

・本当に心打たれた！ それは何故？
答えは多分 真の「誠実さ」にある！！

・「老い」たる故の 思い込み！！
失態だが そこにはある種の「誠実さ」あり！！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ③〇〇

○改めて、古代九州の全体像を探る―その2―

先号②では、北部九州での、神功皇后（皇太后）や武内宿禰の謎の解明が必要であることを述べたが、それにしても、その課題は、とても大きく、しかも複雑怪奇である！しかし、そこに、一筋の光明がないわけではない！それが、実は、古代九州の全体像を探るということである！本「旅枕」は、期せずして（偶然にも）、そのような軌跡を迎えることにもなっているわけであるが、要は、中南部九州の諸勢力と北部九州の諸勢力（新たに加わった半島經由の新渡来系の勢力も含めた？）の集散離合の歴史が、その後の我が国の古代史（縄文・縄間・縄後）を形づくったということである！！したがって、記紀神話に言う、瓊瓊杵尊の天孫降臨／阿多の勢力（軍人）との出会い、初代神武天皇の日向からの東征説話等は、全くの荒唐無稽とは言えなくなるのである！！

しかるに、「記紀」は、後世において（8世紀前後、その時の為政者・権力者達が、中心人物は、藤原不比等と持統天皇）、自らの正統性・正当性を主張（確立）すべく、そして、都合の悪い史実は、神話等であらざるにしてい、我が国の建国史を描いた（捏造・創作）ということであるが、ここでの文脈からすれば、それらは、彼らが依って立つ、近畿の「大和主権（朝廷）」から捉えた歴史（創作物語）であったということでもある！だから、その本家本元であった北部九州の実体／実態（九州諸国）、そして、おそらく、その実体／実態の一翼を担っていた否、近畿諸国にあつては、その要素が強かった？（中南部九州勢力（狗奴国等）の真相を隠した？）そして、彼らを蛮族の態（球磨・熊襲）として蔑視、あるいはその存在を闇に葬ってしまった！だが、一方で、その中南部九州のことを、間接的に意識させようとした！！そのように思われるのである！！

とにかく、その攻防の地（中心地）が、ある時期、筑後の高良山周辺であったことは間違いない（その痕跡／象徴が、まさに「高良大社」！）、そこを追求していくことが、目下の目標ということになる！（つづく）（堂本）

〈編集後記〉本日（15日）、東の間の旅から戻りました（これについては、次号にて！）！梅雨の福岡から、真夏（灼熱）の沖縄へ！それにしても、沖縄は暑い！改めて、これから、どんな日々となるのか？いろんなことがあることと思ひますが、それなりに頑張っていけます。

（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 32 号

発行日
2024. 7. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○何となくだ！今は、こんなことも実現させる！

過日、とんでもない歌い手（Ado）の存在を知った！そして、彼女が、昨年のNHK紅白に出場していたことも思い出した！あの林修氏がMCを務めるテレビ番組（録画）を見てであったが、私達の世代からすれば、その存在（の状態で活躍ぶり（日本ばかりではなく、世界からも熱狂的な支持を受けているようである）は、ほとんど信じられないものである！

ところで、その楽曲や歌い手の魅力はともかく、この、直接的姿を見せないボーカロイド？ということについては、ほとんど分からない私であるが、私が興味をもったのは、彼女の育ちやキャラであり、しかもそれが、まさに、今現在のネット社会によって生み出されたものという点に対してである！古典的な言い方とはなるが、人間は、環境によって、どのような存在にもなれる（創られる）ということである！

下手な教育論をここで出すつもりはないが、最早全世界を瞬時のうちに繋げるネット社会の光と影のクロスオーバーの中で、こうした若者（ある種のスター？）が出て来たことは、最早それ自身が所与のものであり、社会（この場合は教育界）は、それから目を背けることは出来ないということである（今回の都知事選での1候補のこともそうであるが）！

なお、その後、その彼女の顔バレがあったそうである！「3枚の写真が公開され、その理由はまだ謎に包まれている！」「とあるが、引きこもる若者達の中で（彼女もそうであったらしい）、自らの思いや生き方を、自宅のクローゼットの中で、ICTの活用（楽曲づくり）によって実現させた！

現在、「その彼女の顔に対する興味や関心が高まっています！」「とあるが、そこはあまり突っ込まない方がよい！！

○幻の神社巡り？それだけは、雨に阻止された！

過日（13日～15日）、久し振りに福岡を訪ねた！名目（表向きの旅の目的）は、高校時代のミニ同期会（福岡在住の人達による）に参加（闖入？）させてもらうことであつたが（ちなみに2回目！）、これから先、いつ行けなくなるか分からない中で、そして、繰り返し怠惰な老いの日常？を、多少なりとも打破？するために、外泊を伴う遠出（海を渡る？ちよっとオーバーか？）をしたかったというところでもある（ついでに神社巡りも）！！

案内を受けた会場（博多駅近く）には、簡単に着けるだろうと、高をくくっていた私であるが（今回は、スマホデビューもしていた！）、やはり着けなかった（マップが読めない！）！結局、今回も、私と同じように県外千葉から参加していたY君と、博多駅まで戻って合流し、何とか間に合ったのであるが、何とも都会は分かりづらいものである（年寄りの悲哀とは、まさにこれ）！

当日（13日）は、かの「祇園山笠まつり」の初日でもあったが、夕方の会には余裕があつたので、今回もまたお世話になる次女のマンションに先に行き（ただし、彼女は、事情があつて不在！）、その後、まつり会場の櫛田神社／川端通りまで行き（そこでラーメンを食った！）、束の間のまつり気分を味わったのはよかったが、その後の結末は、先の通りなのである！

なお、次の日は、別途密かに楽しみにしていた、福岡県南部の神社巡りの予定であつたが、生憎の雨天のために、中止を余儀なくされた！付き合ってくれた3人の同志？（天神でランチ）には感謝しつつ、次回を期したい！

○予期せぬ、次女の一時帰郷？複雑だったけど、楽しかった！

上記とも関係するが、昨日（24日）、予期せぬ帰郷？ということ、2週間余、我が家に滞在していた次女が、福岡に戻っていった。その滞在の理由については、ここでは直接書けないが、先にも書いたように、私の福岡での宿泊（次女不在の二泊）は、誠に奇妙なものともなったわけである！幸いにも、合鍵はあつたので、泊まることは出来たが、娘不在の家に、父親が独り寝泊まりするなんて、あまりあることではない！！

貴重な体験と言えは、まさにそうなのであるが、それにしても人生とは、いつ、何時、どんなことが起こるのか分からないものである（特に病気は？！）！これもまた、彼女の長い人生の一ページであるので（かなり長くはなっているが）、温かく見守っていく他ないが、とにかく、これから（も）、元気に、そして、納得のいく人生を送って欲しいものである！

ということ、そんなこんなの日々ではあつたが、私にとつては、久し振りの（20年以上も前！）、だが、終わってみれば、あつという間の、我が娘（次女）との同居生活は、何とも懐かしいもので、心情的には、それなりに複雑ではあつたが、とても楽しいものでもあつた！そして、何故か、元氣ももつた！その証左は、何と言つても、それぞれ古くなつてた家電製品（テレビ・ブルーレイ・サーキュレーター、そしてエアコン！）を、ことごとく買い替えたことであるが、彼女の滞在と帯同がなかったならば、それほどの買い物はしなかったであらう！！

彼女のもつ知識と組み立て技術が、大いに手助けとなつたというところもあるが、つくづく親（老親？）と言うものは、いつまで経つても、子との買い物は、嬉しいものであり、元氣が出るものである！！否、私自身は、そういうことはともかく（我が奥さんの方が詳しいので、任せていたということもあるが）、その買い替えのプロセス（時間の流れ、自身が、昔を思い出すよううで、懐かしかったということである（かなりの出費ではあつたが）！！

だが、そういう時間も、いつの間にか過ぎ去ってしまった！時は、否が応でも流れていく！とは言え、もうじき、新たな流れが始まる！ただし、その繰り返しではあるが…（井上）

○「現在」は、「過去」の結果、「未来」の原因である！

さて、私堂本としては、表面の記事を見ながら、ここで、何とも怪しげな物言いともなるが（しかし、誰しもがそのようなことを思いながら生きている？）、それに呼応しておきたい！やや忙しい、否、通常の、まさにありきたりの生活から少し抜け出すことが出来た、ここの一月ばかりの状況の中で、自らの「現在」を、標記のように思ってみたいということである！

細やかな旅先選びや、家族や知己との再会、そういうことも含めて、「現在」は、「過去」の結果であり、それがまた、「未来」の原因ともなるということであるが（一番強く思うのは、国家間の争いや、選挙時の、各候補者（政党の言動ではあるが）、それは、自らが生み出してきた「生の現実」なのである！人との出会い、再会、新しい場所への訪問、そして、何よりも、目まぐるしく動く周囲の状況が、そうしたことを思わせるのであろうが、「その時」を生きていることは、まさに、その時代にある自らの「現在」を生きていることなのである！

そして、その「現在」は、すべて己が関わる、否、所属する社会や国家が、そして、そこで生きて来た先人達（親を含む）が、幾多の喜怒哀楽を伴って、苦勞して作り上げてきた「過去」の結果であり、そしてまた、それが、これからの「未来」の原因となるということである！言うなれば、その時々を生きている人間（我々）は、その「過去」と「未来」の交差点に生きているということであり、その交差点自体からは逃れられないということでもある！だが、その交差点の意味や風景は、常に変えられるものではない、決して不動のものではない！否、考えようによつては、自らの納得によつて、いつでも自分のものになるというのである！問題は、その意味や風景を、自らの思いや行動で変えられるかどうかであるが、そこに、各々の「存在」の価値がある！それは、単に時代（他人）から与えられるものではないということでもある！

○暑さ厳しき中、今年の夏休み？は大てんこ盛り！！

最早、世間の夏休みとは、まったく無縁である私（達）であるが、その余波？は、確実にある！それ自体は、誠に喜ばしいのであるが、それに伴う、幾多の多忙（我が奥さんだけが！）、そして心配事（台風も含めて！）が頻出する！！娘達、特に、宮崎にいる長女一家の里帰り？がそれであるが、今年もまた、大挙して（5人が、二波に分かれて！）？我が家を襲うことになりそうである！残念ながら、一足早く里帰り（二時帰郷？）した次女とは会えないのであるが、岡山に住む三女も一緒なので、狭い我が家、そして、二階のクローラーの活用能力の問題もあり、大変な日々となる！

そんな中、今年は、パリオリンピックもある！バレーボールとサッカーの試合を楽しみにしているが、また、夏の高校野球もある（今回の沖縄代表は、いつもの興南高校！）！さらには、来月の3日には、再び、岡山の大学教授（教子？）S君が、沖縄を訪れることになっている（同期のOさんとも会える！）！言わば、今年もまた、てんこ盛り、否、大てんこ盛りの夏休みということでもある！

＜短歌に託して＞今年も、てんこ盛りの夏休み？！

・ネット社会の福音か？ こんな若者がいる！

だが壊されるな！そして自分を見失うな！

・久しぶりの福岡行 そして幻の神社巡り？

奇妙な時空であつたが これもまた生の一環！！

・予期せぬ次女の 一時帰郷？

複雑であつたが 楽しきことばかりなり！！

・「現在」は 「過去」と「未来」の交差点！

だがその点の価値は 自らにあり！

・夏休み 今度のそれは 大てんこ盛り！！

だが大変なのは 我が奥さんだけ！！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕 ③

○改めて、古代九州の全体像を探る―その3―

ということ、今（から）は、しばらく、かの「高良大社」に関わる情報を整理しようと思うが、まずは、その祭神（全祭神）についてである。ちなみに、高良大社は、福岡県久留米市の高良山にある神社で、式内社名神大社、筑後国一宮。旧社格は国幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。古くは高良玉垂命神社、高良玉垂宮などと呼ばれたとある。古代から筑紫の国魂と仰がれ、筑後一円はもとより、肥前にも有明海に近い地域を中心に篤い信仰圏が見られる。厄年の厄ばらい・厄除け開運・延命長寿・現代では交通安全のご利益でも名高い。また芸能の神としての信仰もあるという。そして、高良大社自体が名神大社、筑後国一宮であるほか、本殿に合祀されている豊比咩も神社が名神大社、境外末社の伊勢天照御祖神社が式内小社、味水御井神社が筑後国総社であるとされる。社殿は国の重要文化財に指定されており、神社建築としては九州最大級の大きさである。

さて、問題の祭神であるが、正殿：高良玉垂命（神紋は「横木瓜」、神使は「鳥」、左殿：八幡大神（神紋は「右三巴」、神使は「鳩」、右殿：住吉大神（神紋は「五七桐」、神使は「鶴」）。この他、本殿内には御客座があり、豊比咩大神が合祀されている。高良玉垂命とは、夫婦との説もある。神階は正四位下。また、御客座には、境内にあった坂本神社の祭神などが合祀されている。高良玉垂命は、朝廷から正一位を賜っているものの、記紀には登場しておらず、正体が誰であるかに関しては古くから論争があり、武内宿禰（物部保連 説、藤原大臣・中臣島津臣命、藤原大臣保連、月天子、住吉明神の化身、物部氏の遠祖・物部胆咋連、物部保連 説、物部祖神（饒速日命、物部胆咋連、物部保連 説、彦火々出見尊説、水沼君祖神説等、諸説があるらしい。江戸時代には、武内宿禰に比定する説が主流であったが、明治以降は、特に比定されていないとも！何とも、不思議な祭神なのである！私自身は今ところ、「開化天皇」が怪しいと思つてはいる！（つづく）（堂本）

＜編集後記＞ 気がつけば、あつという間に、夏休み突入！そして、オリンピックも始まった！それにしても、今年は暑い！これが、これからは当たり前になるのかもしれないが、それに順応していかなければならない！何が、どのように変わっていくているのか？気候だけではない！それは確実だが、全貌は、まだまだ、私の現在からは見えてない！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 33 号

発行日
2024.08. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○多少悔しくもあるが、次代に託すものがあればよい!!

これまた、突然ではあるが、ある時代を生きる(た)者として、たとえ不意な人生だ(った)としても、そこに、自らの「生の証し」というものを残すことが出来る(た)ならば、それはそれで、幸せなことだと言える!!すなわち、例えば、私(達)は、様々な立場・役割を演じながら、自分なりに精一杯生きていく(きた)わけであるが(親、そして夫としても)否、こちらには、そこには、自らの生の意味(意義?)があるはずである!否、それがなければ、甚だ悔しいものとなる(たとえ自己満足、否、負け惜しみであったとしても)!

では、そんな中で、教育関係者(大学教師)としては、どんな「証し」が可能なのであろうか?もちろん、自らの存在と関係を快く受け入れてくれて、そこからそれぞれの人生(仕事)に立ち向かっていく教え子達?が、一人でも多く出現してくれているなら、それが、最高の?「証し」ではある!しかし、実際は、厳しい(最近、とみにそう思う?)!!であれば、他にはないものか?そう思うと、別の思い(願い)も出て来る!それは、細やかではあるが、次代(以降)に託したいものがあるかどうか、それ自体ということになる!!

ただし、その「次代(以降)に託したいもの」は、人によって千差万別であり、その選定や適否は、他の人間にとつては無縁の長物でもある!ちなみに、その私なりのものは、言わずもがなの?「教育(形態)の三層構造的再編」↓ひとつくりとまちづくりの循環システムの構築」理論であるが、問題は、それを、誰に、どのように託すかである!!現在、その感触を得ようとしているが、少なくともこのような形で、HP上に書き記しておくことは、その方途の一つなのではある!

○今回も、様々な人生(スポーツ)ドラマが!

既に(6日現在、パリオリンピックが始まって、かなりの日数が経った!不幸な、あるいは悲惨な状況(戦争等)が、一方で歴然と進行しているにも拘らず、まるで、それらとは無関係に(別世界のこととして)繰り広げられていることに、心のどこかに複雑な思い(この場合は申し訳ないという気持ち?)を持ちながら、テレビを見ているのであるが、今回もまた、体操、柔道、フェンシング等々、様々な人生(スポーツ)ドラマを観させてもらっている(もちろん勝ち負けの妙も含めて)!

その代表は、もちろん?昨日(5日)の男子バレーボールであるが(本当に惜しい試合だった!)、特に思うのは、勝った試合を落としたということである(計4回のマッチポイントを生かせなかった!)!あんなことが、実際に起こるんだということと、それを現実させたイタリヤチームの凄さ(土壇場でミスをしなかった!)とりわけそのキヤプテン?には、ほとほと感心した!あの力(実力)かもしれないが?は、一体どこから来るのであろうか?

ここでは、日本チームの運のなさとか、いざと言う時に力を発揮出来ないとか、いろんな指摘もできるが、日本チームは、そのほとんどを克服してはいた!だから、最後は、神のイタズラだとも思う!まだまだ、競技は続くようであるが、いずれにしても、一番期待していた(案しみにしていた!)、私の観戦種目は、事実上、これで終わった!!4年に一度の開催だけに、あと何回、それを見ることが出来るのか?そんなことを思いながら、この記事を書いていっている!それにしても、暑い!

○今年の台風一家(一過?)は!!

何故か、沖縄近海(東太平洋上?)にいる「熱低」が、今回は台風とならない?その理由については、詳しく調べていないので、何とも言えないが、ひよつとしたら、私のところに、別な台風?が近々襲ってくるので、その「熱低」が遠慮してるのかもしれない(笑)!!いずれにしても、奇妙な現象ではある!

それはともかく、もう既に(9日)、その一波?は到達している!宮崎に住む長女とその三男(小4)であるが、例年のこととは言え、あちこちに連れていくのは大変である(空港への迎え・送りを含めて!)!とは言え、残念ながら、これまで恒例となっていた釣りには、暑さと、私の体力(気力?)のせいで行かないことになった!誠に申し訳ないことである!

だが、これもまた、歳月の流れの中では、致し方ないであろう(孫達は楽しみにしていたらしいが?)!私にも、幼い頃の思い出(母方の祖母宅への訪問、そして従妹たちとの再会)が沢山あるが、いつしかそうしたのも徐々に途絶え、今では、自らの家族の中だけの話となっている!しかも、それも、それぞれの生活状況(拠点の分岐によって、かなりの変容を余儀なくされている!まあ、それが人の世(家族)の現実であり、ある時に共有されていた家族あるいは親戚関係の宿命なのでもある!

その後、本日(11日)、その第二波が到達する!まだまだ、こうした帰省光景(再会)は続くのかもしれないが、迎える老夫婦?には、喜び以上に、生活リズムの混乱(心身の錯乱?)が待ち構えている!とにかく、長女一家(5人)のスケジュールは、イベント?満載なのである!!三女の帰省もあるが、まさしく、台風一家(一過?)となること間違いないのである!

ちなみに、本物の台風は、幾つか東北、関東地方に上陸、接近し、かなりの被害をもたらしている!何とも不思議な今夏であるが、ひよつとしたら、これが、通常の光景となっていく(そして秋口には、想像を絶するような台風が、ここ沖縄に襲来する?)!!

追伸。かの台風一家(二過?)は、昨日(14日)午後、慌ただしく帰っていった!毎度のことであるが、寂しさは感じるが、我が日常への回帰が、嬉しくもある私でもある? (井上)

○高校野球、はたまたプロ野球はどこへ行った?!

今日から(7月)、あの高校野球(夏の甲子園大会)が始まった!今回は、試合開始時間を変則的に設定しているという(一部ではあるが)。猛暑対策による措置とは言え、元高校球児(この場合は井上)としては、何とも複雑な気持ちではある!「夏(の大会)は暑いのだ!でも、それを乗り越えていくチームが強いのだ!だから、尊いのだ!」本当に身をもって、そう思ってきた私(この場合も井上)であるが、とにかく、時代は変わったのである!実を言うと、長髪の高校球児も、それなりに違和感がある私(この場合も井上)でもある?!

そう言えば、今年の「春のセンバツ」から、新基準のバット(低反発バット)が導入されているらしく(今回、初めて知った!)、ここまでの試合でのホームラン数が著しく少ない!打球による負傷事故防止(特に投手、投手の負担軽減)によるケガ防止(打高投低の是正)が導入の目的らしいが、成果としてはどうであろうか(デメリットの方が勝っている?)。「安全・安心」が、今、すべての領域での優先事項でもあるので、それはそれで納得できるが、試合の醍醐味が無くなるとも言え、誠に残念ではある!!

いずれにしても、自分(ここでは草本?)はもう、高校野球(の結果)のことにはあまり興味はなく、一方で繰り広げられているプロ野球の勝敗や順位も、ほとんど気にならない状態になっているわけであるので(ただし、大リーグの大谷翔平選手のこと、何故か注目している!)、世の移り変わり(スポーツの世界ではルール変更?)は、仕方がないものとも思える(否、その改変自体が、より良いものであれば、積極的に評価していかねばいけない?)!

ただし、昔の方が良かった(そこにあった良ささえも、今は打ち消されている?)!そんなことも思う昨今であることは、やはり否めない?これもまた、幾歳月を経た高齢者の愚痴(自己満足的美化?)なのかもしれないが、こと野球に関しては、とんだ薄情者ということではある!!

○RMO?だが、それは、本当は昔からある!!

毎回(多分?20年以上も前から?)定期的に資料を送ってもらっている、兵庫県のKさんから、この度(も!)、貴重な情報を頂いた。それは、RMOという考え方(地域運営組織 region management organization)に関するものであった!ちなみに、Kさんには、以前二度ほど、沖縄に来てもらったことがあるが、私が知る「民間活動者」で、彼ほど頑張っている人は、他にいない(と思っている!もともと眼鏡屋さんであるが、その地域活動の実績は、ほとんど奇跡と呼ぶに相応しい人である!私より3つ年上?)!!

ただ、彼のことを書き出すと、とてもじゃないが、このコーナーでは収まり切れないので、ここでは、そのことは止めておくが、この度送られてきた資料に見られる「RMO」という考え方は、まさに、Kさんが、長年地元(現多可町)で取り組まれてきた活動そのものであり、また、その考え方は、私が唱えてきた「教育協働」というものと軌を一にするものである!!だから、これについては、別途「教育協働への道」で論じたいということでもある!

・短歌に託して「オリンピック」に、盛夏を添える!!
・次代に託すもの、細やかなりしも
あつて欲しい、それは己が生きた証し故!

・オリンピック 虚飾ではあるが
そこには、それを超えた、ドラマあり!

・「熱低」が、台風にならない?
それは何故? そこには別な台風迫る故?

・高校野球、そしてプロ野球も!
残念ながら、気にならず? 薄情者?

・昔からある RMAの形?
社会教育(行政)は、それがウリであつたはず!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(39)〈

○改めて、古代九州の全体像を探る―その4―
しかるに、その高良大社の元宮という「大善寺玉垂宮」というものも併せて視野に入れておく必要がある!何故なら、その元宮ということもさることながら、こちらの玉垂宮は、古来、筑後国三潴庄鎮守、高良御廟院大善寺玉垂宮と称し、盛時には衆徒四五坊杜領三〇〇町を有した朝野の崇敬あつた古社で、祭神は、玉垂命(藤大臣^{とうのおと}とのおと・高良玉垂大菩薩とも)・八幡大神・住吉大神で、創建は古く、凡そ一九〇〇年前の創祀と伝えられる!

ちなみに、この宮は長い間、寺院と神社が一体的に祀られた典型的な神仏習合の神社であつたが、明治二年(一八六九年)の廃仏毀釈により、寺の方は廃され、玉垂宮のみが残り、現在に至っている。しかし、往時の大善寺の遺構である鐘楼をはじめ、阿弥陀堂(鬼堂)や旧庫裡が現存し、神仏習合時代の面影を色濃く残している。神宮寺の高法寺(弘仁五年(八一四年)大善寺と改称)は、天武天皇期の白鳳元年(六七二)法相宗の僧、安泰和尚によつて開基されたとある(また、そこは、「天皇屋敷」とも呼ばれていたという)。

ただし、いずれにしても、こちらの宮の創建についても、景行天皇の皇子国乳別^{くにちちわけ}皇子を始祖とする「水沼君」が当地を治め、その祖神を祀つたのが、その前身と考えられているが、前述の三神のうち、藤大臣(玉垂命?)は、神功皇后の三韓出兵に大功があり、『吉山旧記』(往時の杜家の記録)によれば、藤大臣は仁徳天皇五年(三六九年)高村(大善寺の古名)に御宮を造営し、筑紫の政事を行ったが、仁徳天皇七八年(三九〇年)にこの地に没し祀られ、高良玉垂宮と諡^{おくりな}されたという。そこに、まさに「武内宿禰」の存在が絡まってくるのであり、そこには、かなりの謎が横たわっているのである! (つづく)

(草本)
〈編集後記〉今日(15日)は、79回目の終戦記念日である!我々は、様々なことに出会い、その喜怒哀楽と共に、自らの生を送っているわけであるが、振り返りの節目としては、この日は大切な日であることは言うまでもない! (井上/草本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 34 号

発行日
2024.08. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○終戦記念日に想う！「新しい戦前」とも言われるが…

昨日（15日）は、79回目の終戦記念日であった！終戦7年後に生まれた私は、まったくその戦争とは無縁の世代であるが、この時期になると、関連のイベントやテレビ番組等、その悲慘さが繰り返し呼び覚まされるので、否が応でも、そのことに対する感慨や複雑な想いが募る！とは言え、日常の自分の言動（生活）は、まったくそれとはかけ離れたものである。ある意味それは、半ば取ってつけたような感ではある！戦争反対！平和の有難さ！そんなことさえ、安っぽいヒューマニズムの受け売りのように思えるのである！

だから、これまでは、ほとんど、それに関わる想いは書かなかった！否、書いてはいけない（書く資格がない？）と思ってきたのである！だが、そんな中、今回偶々観たNHKの番組に、何故か心を奪われた！『新・ドキュメント太平洋戦争 1944 絶望の空の下』というものであったが、『太平洋戦争の3年8か月を、当時の日記や手記から追体験するシリーズ。第4回は市民の犠牲が急増した1944年。1万の住民が犠牲となったサイパン島の戦いを、14歳の少女の手記からたどる。この年、本土空襲が本格化、戦火が市民に及ぶ。追い詰められた日本は、人間を兵器にする「特攻」に踏み出す。その犠牲となった若者たちは、みずみずしい感性で、思いを書き残していた。市民の生活はいかに戦争に侵食されていたのか。』そんな解説もあった！

とにかく、当事者達（人間魚雷「回天」の乗組員を含めた）の「生のあり様」を直に知った！悲惨としか言いようがないが、「新しい戦前」というような言われ方をしている現状である！果たしてどうなっていくのか？根っからの悪人はいないはずなのだが、何故か？そうなるっていく部分もある？！

○やはり、高校野球は（否、も！）素晴らしい！

過日オリンピックも終わり、スポーツ関係のテレビ番組は、ほとんど見なくなつた私であるが、今朝（21日）、遅い朝食（いつも通りだが！）を取りながら、少しは気になつていた？高校野球（準決勝第一試合の最後の辺り）を見てしまった！どちらも素晴らしいチーム（関東第一高校と神村学園）で、一点を争う好ゲームであったが、結果は、2対1で関東第一高校の勝利となつた！しかも、劇的な幕切れであつた（ヒットで帰ってきた選手が、本塁上で、僅かな差でタッチアウト！ゲームセット）！

先にも、元高校球児である私は、最早野球のことは、ほとんど興味はないと豪語？していたが（薄情者？）、やはり心の奥底には、そうではないものが残っているのである？それは、おそらく自らの当時の姿（地方大会の2回戦で惨めな敗戦！）が重なっているのであろうが、勝利するチームの選手達のひたむきさ（技能も！）に、どこかで圧倒されていた（る？）自分を感じるからであろう（だから、思い出したくもないのである？）！！

ちなみに、神村学園の選手達は、みな坊主頭（一厘方ツツ）で、最近の光景からすると、逆に異様な感じもしたが、彼らの心意気を表すものとして（昔は、それが当たり前であつた！）、前向きに評価しておきたい（ただし、これについては、おそらく異論も多いであろうが？）！

追伸 本日（23日）、その決勝戦（京都国際高校対関東第一高校）を見た！とてもいい試合であつた（これもまた、球史に残る名勝負となろう）！そして、その球児達は、何故か、まばゆいばかりの若者達であつた！

○世は代表選で喧しい！だが、「新しい戦前」はどうなる？

国内（否、世界中？）の耳目を集めていた？オリンピックも終わり、今や、米国大統領選の状況報告を筆頭に、自民党総裁選、立憲民主党（公明党も！）代表選の報道が喧しい！現在、私が住んでいる宜野湾市の市長選挙も行われる（現職だった市長が旅先で逝き！）とにかく、トップの仕事は大変である！なのに、その地位に就きたい人がいる？周囲に担がれて立候補する人もいるようであるが、甘い覚悟で出来るものではない（出世欲、権謀術数が好きな人はともかく！）余談であるが、某県知事（S氏のスキヤンダル（醜聞？）、本当としたら、これほど酷いものはない？）トップに立つ人間の品性の問題ではあるが、それを許す？（選挙で選ぶ側の問題でもある）！！

ちなみに、「〇〇維新の会」とか、「〇〇新選組」とか、かつては「新党魁^{きさけ}」とか、まさに時代を乗り越えよう（突破しよう）というようなスローガン（政治信条？）で、それなりのインパクトを与えようとしている（した）人達がいる（た）が、やはりその壁は厚く？、国全体を、鋭意動かしていくような力とはなっていない！！あるいは、選挙自体の人気者というような形で、名乗りを上げる人もいる（いた）が、結局は、彼らも、選挙ドラマ（否、政治ショー）の盛り上げ役にしかなくなっていない（本人が、それでよいと思っているかどうかは分からないが？）！！

先にも書いたが、今我が国（否、全世界？）は、まさに「新しい戦前」と言えるのかもしれない！しかし、それを、言うだけだったら、何も始まらない！誰が、どんなことをしようとも、いずれは、かの悲惨な戦争へと流れ込んでいくとでもいうのか（もちろん、その可能性があるとはいえるが！）？要は、極端に言えば、この国の形／将来を、どのようにしていくのか（していけばよいのか）のグランドヴィジョンが必要なのである！裏金問題とか、それを追及するとか、そういうステージの問題ではないのである（マスコミの餌食となるだけ？）！

「世の中を良くしたい」ということは、実はそういうことなのだが、そのヴィジョンが見えない（言うのは簡単だが？）！！見ようとしても、いつの間にか、誰かに潰される？！

（井上）

○「独り善がり」か？それとも「内なる納得」か？

本日（22日）、最近、午後の恒例（高齢者）現象となつてゐるうたた寝をしながら、半分？ユーチューブを見て（聞いて？）いたのであるが、偶然面白い番組に遭遇した！それは、表面の記事とも関わるが、ある偉人の話である（期間限定特別公開！BS11「偉人・素顔の履歴書」・渋沢栄一編）『日本近代資本主義の父・渋沢栄一編』へ配信期間：2024年7月7日～8月31日！そして、そこには、次のような解説文があつた！「今回は、現代にも続く経済と産業の礎を築いた渋沢栄一。農民から武士、役人から実業家へと身を展示（転じ）、いかにして日本近代資本主義の父となつたのか？」

番組では、彼の人となりや業績を、一通り紹介していたが、私は、かのNHKの大河ドラマ「晴天を衝け」2021年を見ていたので、ほとんどのことは分かつていた（覚えていた！）！そういう意味では、あまり新鮮味は感じられなかつた？ただ、他者の評価や、そのことの意味を、改めて知り、別な感動？を得ることが出来た！それにしても、途轍もない功績、否、素敵な人生を送つたものである！幕末、維新の人物で、こうした異彩を放つた人物は、ほとんど知られていなかったということでもあるが、一人の人物の人間臭さを、こんな形で感じ入ることが出来るなんて…

ちなみに、渋沢を、「独り善がりの人」と、解説者のK氏（歴史家・作家）は断じていたが、ひよつとしたら、この表現（評価）は、かなりの誤解を生むかもしれない！私としては、「自らの言動の、内なる納得者」というように捉えれば、これもまた、言い得て妙だと言えなくもないなと思つたりもした！とんだ昼寝？の贈り物であつた！
追伸 私は、まだ彼の新札にお目にかかつていない！カネの流通にまつた縁のない存在になつてゐるということである（笑）！これもまた、「内なる納得」と言える！だが、それは、余りにも違い過ぎる（こちらは哀愁？）！

○これは、単なる国際化ではない？「国」の変化である！！

今回の、甲子園夏の大会の優勝校、京都国際高校の校歌が、何度となく流れた！やはり、奇異に感じたことは、その歌詞がハングルであつたことである（ただし、日本語訳も併せてあつた！）！選手達は、見た目も、名前も、まさに日本人であつたが、母国？朝鮮（韓国）の人間であること（デンティティ）をどう思つてゐるのであるか？薄っぺらな、民族、歴史認識問題論議を、ここで言うつもりはないが（そもそもしたくない！否、出来ない！）、目の前の光景は、それらを遥かに超えた「新たな現実」（未来？）を感じさせるものでもあつた（詳しい実情は分からないが！）！！

しかも、先のオリンピックの出場選手の顔ぶれ（文字通りの意味）を見ると、最早、人種とか、肌の色の違いなどは、遥かに国境？を超えている！「国際化」とか、「グローバルスタンダード」とか、「多様性」とか、よく言われるが、それは、人類が新たな段階（融合国家）？への道を、確実に歩み始めている証拠でもある！改めて、「国（国家）とは何か？」を考えなければならぬ！！

・短歌に託してゝ書けることの有難さ？！
・手記・手紙は残酷？ 書き手はその時を 精一杯生きていただけなのに！

・まばゆいばかりの若者達！

少し休んでくれ 今はそれで十分だ！

・そんなにリーダーになりたいのか？

苦悩するぞ！ それでもいいのか？

・「独り善がり」？「内なる納得」？

どちらでもよい？ 何を為したかである！

・「国際化」を通り越した 国自体の変化！！

世界は既に そうなつてゐる！！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕③〇

〇改めて、古代九州の全体像を探る―その5―

となると、当地（高良山周辺）においては、まずは、景行天皇の皇子国乳別皇子を始祖とする「水沼君」がその地を治め（そこに先住していた？肥前水上／背振山南麓の桜桃沈輪、熊襲？を討滅した？）、その後、そこに神功皇后や武内宿禰の勢力が流入し、高良山を拠点にした、いわゆる「九州王朝」（の祖型？）が出現した！そして、それが、その後の、いわゆる「倭の五王」時代を作つていくということである！要は、その地は、少なくとも三つの勢力の攻防（融合？）の地でもあつたということである！

しかるに、ここが重要であるが、それらの勢力の攻防（融合？）の結果、近畿に移動する勢力（崇神／饒速日勢力／物部氏）とそこに居続けた勢力（開化天皇勢力？最終的には太宰府方面に移動した？）が、その後の「二つの倭国（二時期は三つか？）を形成し、九州（筑紫、倭国を母体にしながらも、広範な領域国家を実現させていったということである（なお、その祖型を変えたのが、かの6世紀初頭の「磐井の乱」であつた？）！しかも、冷静に捉えれば、それらは、まさに「空白の4世紀」頃の話であり、ある意味では、そこでの推移（全体像）が、後世の我々にとつての「空白（の世紀）」となつてゐるのである（もちろん、表面的には、中国史書に載つていないということであるが！）

ということ、ここでは、改めて、その中心人物として描かれている？、かの「武内宿禰」の謎を追究していく必要があるわけであるが、その一番の謎（異変までの長寿はともかく）は、彼が、蘇我氏、葛城氏、紀氏等、いわゆる「葛城諸族の祖」とされていることであり、そしてまた、ある時期の政權中枢であつた高良大社周辺において、北部九州勢力と中南部九州勢力熊襲の双方（ただし、それぞれの一部は、後の近畿勢力とも言える）に關係していることである！したがつて、そこに登場している、藤大臣（武内宿禰？）、神功皇后、その夫とされる仲哀天皇、その子とされている応神天皇等の事績究明（史実解明）が、つとに待たれるのである！（つづく）

（堂本）

〈編集後記〉 今年、実に盛り沢山の8月であつたが、その締めが台風（10号）とは…進路が尋常ではない（雨量も）！今はただ、過ぎ去ることを見詰める他ない？願う！被害小！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 35 号

発行日
2024.09. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○変わらなければいけないのに、何故変わらない!!

今日から、9月である！季節はずれの、しかも飛んでもない台風（10号）が、列島各地（敢えてこう書く！）を襲った！当地にとつてみれば、まさに「青天の霹靂」であつたろうが、地球（気候）は、やはり激変しているのである！地球温暖化の為せる業でもあらうが、国内外の世情の変化も、実は、それ以上に進んでいる？では、我々の生活意識は、それに対応するだけのものとなっているのであらうか？様々に対応できる動きを取っている人（達）もいるであらうが、こと「政治」の世界は、相変わらずである!!

ところで、今日、私の住んでいるG市では、市長選挙の公示日である！立候補者（二人）の選挙カーが、入れ替わり立ち代わり、我が居住区を（も？）回っているが（随分前からそうであつた？）、申し訳ないが、ほとんど新鮮味が無い!!顔触れは変わつても（二人は、元職者ではあるが！）、選挙自体のスタンス？が変わつていないということである？相変わらずの構図と言えはそれまでであるが（ここでは詳しくとは書かない！）、例の問題を含めて、どちらが当選するにしても（！本日8日結果が出た！）、事態はほとんど変わらないようにも思う（多分、多くの人がそう思っている？）!!

ちなみに、ネット上で、面白い記事を読んだ！元大阪府知事／大阪市長のH氏の論稿記事であるが、いわゆる「無党派層」の取り込み？をいかにすればよいかということであつた（ただし、それは、いわゆる「総選挙」における戦略ではあるが！）？政治戦略と言えはそれまでであるが、我々は、出て来た候補者の誰かを選ばなければいけないのである！そうであるならば、その一点で、変化を期待する他ない!!

○「頑張るな！」（にあるメタファー）を勘違いするな!

ところで、最近、とみに聞かれるのが、「頑張るな！」（あるいは「頑張り過ぎるな！」）という物言いである！だが、頑張ることは、間違いなくよいことである！それは、子どもの世界であれ、大人の世界であれ、至るところで実感される（それが普通でもある）！だから、この「頑張るな（頑張り過ぎるな）」という言葉（メタファー）は、短絡的に捉えれば、その反対を求めている（ストップをかけている）ことにもなる!!もちろん、そうではないであらう！要は、現時点（これまで）の自分（達）の頑張りを、少し冷静に見つめ直してみよう！そういうことなのだと思ふ!

今どき、こういうことを言うと、何と時代錯誤なのだとか、本当に苦しんでいる人達の訴え（惨状？）が分かつていないのだとか言われそうであるが、どうしても、私にはその言質の曲解（都合のいい肯定？）が気になるのである！みんな頑張っているからこそ、今があるのである！将来の自分（達）があるのである！ただ、本当に、必要以上の過多があつたり、低収入で喘いでいるのであれば、それはそれで、絶対に解決されなければならないのではある！だが、そのことと、自らの業務や責任の遂行とは、基本的には無関係である（頑張らなくてはいけないのである）!!

要は、どのようにしたら、その過多を減らせるのか？どのようにしたら、そこに、自らの「働きがい」を見い出せるのか？そこが重要だということである！かの「働き方改革」とは、業務や責任の量を単純に減らすことでもなく、労働時間の短縮でもない（ましてや給料の上乗せで済むものでもない）！まさに、「働き甲斐改革」なのである!

○もう一人の自分が、自らを救つ?

敢えて今、こういうことを書くことに、どれほどの意味（重要性）があるのかは、自分でもよく分らないが、一度は書いておきたいことではあるので、少しチャレンジしておきたい！直接の動機としては、先般も触れたが、Agoと言う名の女性歌手の登場光景である！彼女は、いわゆる「ボーカロイド」として脚光を浴びているわけであるが、一人の人間（女の子）が、生き辛（現実）（表）から逃避するために（こう言い切ってしまうには問題があるかもしれないが）、もう一人の自分（世界）をPC上に築き上げ、逞しく？生きていくということに対してである!

ところで、「もう一人の自分」ということであれば、古くは、ペンネーム（雅号等を含む）という存在がある（他ならぬ私も、それを活用？している！）！近年では、ITの進展によるハンドルネーム（品性や知性に欠けるものも多いが）やアバターも、そういうことになるのであらう!!ちなみに、「Ago」という名前は、小学生の時、国語の授業で聞いた、狂言の「シテ」と「アド」が由来。響きのかっこよさに惹かれて名乗つたが、主役のシテを支えるのが脇役のアドと知り、自分の曲を聴いてくれる人に代わつて戦う存在、誰かの人生の脇役になりたいという意味も後付けで込められているらしい（また、英語の「leg」には「骨折り」「騒ぎ」「面倒」という意味があり、「自分に合っている気がする」。本人曰く「根暗で自信がない」性格。通常の歌手では無く「歌い手」の道を選んだのも自分の姿が商品になることに抵抗があつたからだとする）。

これについては、先日見た『日曜日の初耳学』での米津玄師のことも思い出される！番組では、名曲「Lemon」に込められた祖父への想い、宮崎駿監督からのオファーで誕生した「地球儀」など、ヒット曲誕生の裏話から謎過ぎる私生活についてまで迫るとあつたが、彼にも、ここで言う「もう一人の自分」が、逞しく創られているということである!!余計なことではあるが、折角創り上げた「もう一人の自分」が、かの「業界（芸能界）」に掻き乱され、気がつけば、健全な人格？を失つてしまふのではないかという懸念もあるが、人は、「もう一人の自分」が、い

（井上）

○諸悪の根源？は「拒否権」の存在にある？！

最近では、米国大統領選の逐次情報、そして、我が国の首相決定に繋がる、ある党の総裁選の様子が、嫌と言うほどマスコミによって報じられているが(別の党の代表選のことも含むが)、かのウクライナ戦争やガザ地区の災禍の行く末を、本当は、どうにかしないといけないのだが、そのカギを握っているはずの「国連」の動きが、まったく報じられていない(戦争の災禍だけは、相変わらず報じられているが)！

ニュースバリューがないということではあるが、最近、これといった動きがないということであれば、それ(直接的には「安保理」は、まったく「機能不全(麻痺?)」を起しているということでもある！もちろん、主因は、「常任理事国」(強国?)の「拒否権」にあるが、その発動によって、他の多くの国々が、「変わりようがない！そうであるなら、自分達の(も?)私利私欲で生きていくしかない！」、そういうことになってしまっているというところである(結果、「バイの分捕り合戦」への部分参加、あるいは傍観の場となっていないということである?)！

ところで、過日、「80億人 人類繁栄の秘密」というテレビ番組(NHK「フロンティア」)を観た。「今世紀中に100億人を突破すると予測されている…人類。言語や道具を用い、高度な文明を築き上げてきた。しかし、繁栄の理由はそれだけではない。実は、文字が生まれるよりはるか前に、現在の繁栄に通じる出来事があった…」。「ヒト」という生物を改めて見つめ直し、人類繁栄の秘密に迫る」ともあったが、それが「共同(協働)性」である！だが、その「共同(協働)性」が危ない!!だから、「国連」においては、少なくとも、紛争の「当事者」が「常任理事国」である場合には、その権限(拒否権)は停止されるべきである！そのことを、総会によって決める！それが筋というものである!!それが出来なければ、「ヒト」の繁栄は、いずれ終わる(動物実験から)!!

○神社は、何故多いのか？

これもまた、敢えて今こゝで書くほどのことではないが、我が国には、「神社」というものが多い。ただし、こゝで言う神社とは、観光地や○○祭で有名な、煌びやかで、(失礼だが)いかにも儲かっている風な神社ではない！寂れた集落の一角(鎮守の森?)に、ひっそりと佇んでいる、廃社とは言わないが、色褪せた社屋(殿)で、まるで誰も訪れていないような(言い換えれば、見捨てられたような感がある?)神社を指している！

自然崇拜(アニミズム)、磐座／神奈備(山)／祖霊信仰等様々なルーツがあるのであるが、この歳になつて思うことは、そういう形で、自らの精神性(心性)を、日常生活の奥底に置き、ただひたすら世話をする、名も無き氏子さん達のことである！遷座地の移動や社家の交代、祭神(名)の変更や改竄(合祀や付加を含む)等の苦難があつたであろうが、どうして、そのような対応ができるのか？その精神性(心性)は、おそらく縄文から続く、我が日本人の生き様として、その来し方にあるのかもしれない!!

＜短歌に託してささりげない「ハレ」と「ケ」の世界?＞
・変わらなければいけないのに 何故変わらんない!!
　　変わりがたい人がいるからか？

・「頑張るな！」を勘違いするな！

そのメタファーには 落とし穴あり!!

・もう一人の自分 どんな形であろうが

絶対に必要！ 生きていけるのだから!!

・「拒否権」は あつてもいいが

強者の我儘に随せば 元も子もない！

・煌びやかな社に興味はないが

そつとそこにあるものには 何故か惹かれる！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕(35)～

○改めて、古代九州の全体像を摸るーその6ー

さて、前にも述べたかとも思うが、件の「武内宿禰(摩太臣?)は、常に「神功皇后」に寄り添うように、筑後に現れたり、朝鮮半島に渡ったりさらには、何故か、北陸や東北においても顔を見せている！ましてや終焉の地が、山陰(鳥取)ともされている！まるで彼は、かの倭の五王の最後「武」が、宋への上表文(5世紀末)で述べている「祖禰(先祖連)」そのものなのである(年代的にもやや異常な年齢も?)!!

でも、もしそうであるならば、彼は、ある特定の人物ではなく、ある勢力の統合(和合?)人格として描かれているのかもしれない？あるいはまた、当該の何人かの人物、さらにはその勢力(葛城諸族)を、総称して名付けたものなのかもしれない(前者は、そのためもあつてか、現代でも、その○○世と名乗っている人がいる!)!!ちなみに、彼自身?は、景行/成務/仲哀(神功皇后)／応神/仁徳の、6代の天皇(主君)に仕えたことされている！

とは言え、かの高良大社周辺では、邪馬台国の姿容(解体?)に前後して(3世紀末から4世紀初頭?)、北・西からは背振山麓勢力(新羅・多羅・百濟王族?)、南・東からは球磨曾根/多氏勢力が、それぞれ集散離合を重ねながら、まさに「倭の五王」の時代を迎えるということである(筑紫倭国を中心とした、新たな倭国(大倭国/倭国?)!!それが、実は、通説(俗説?)による「河内王朝」の事績と、どのように結びつくのかということであるが、この史実がクリアされれば(本当のことが分れば?)、謎だらけの古代史(建国史)解明も、一気に進むことになる!!

とにかく、そこでは、二つの倭国?が形成されていたこと、そしてそれを、かの「武王」が、「祖禰(先祖連)」の国王(拡大「統一?」)としていたこと、そういうことが分かるのである!!だが、問題は、それらが、いつ、どのようになされていたのかである！それを、脚色物語という形でデフォルメしたのが、かの「記紀」ということになるが、最終的な形が「持統・藤原体制」であつたことは言うまでもない!!(つづく) (堂本)

＜編集後記＞久し振りに(奄美群島の人には申し訳ないが)、台風に襲われると思つたが、肩透かしに終わった！夜のペランダから北の上空を見ると、雲の動きがよく見えた！おそらく、この延長線上のどこかに台風を中心があるのだと思われるが、こゝでは、ただそれだけ！次はどうなる? (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 36 号

発行日
2024.9. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○大谷選手の偉業に想つー凄い若者がいるものである！

俗に言う「ミハー」的なことは思うが、昨日(20日)の、メジャーリーガー「大谷翔平」選手の偉業(50本塁打／50盗塁達成！本日52／52)については、何らかの感想を書いてはおきたい！そう思うのである！朝(と言っても、かなり遅い！)起きて一階に降りていったら、普通は何も言わない我が奥さんが、「大谷選手が凄いことをした！」(というように言い振ったと思うが？)と、私に告げたのである！一瞬、何のことかと思ったが、そう言えば、その日(日本時間の早朝)の試合は、もう終わっていたのだ！

「ホームランを3本も打ったのよ」ということだったが、その光景はすぐには見れないので、早々に朝食を済まして、二階の部屋に戻って、早速パソコンでネット記事を開いてみるのである！

た！まとまったホームラン記事はなかったが、いくつかまとめてあったので、その連続性？は、かなりリアルに感じるこ

とが出来た！それにしても、6打数6安打、ホームラン3本、打点10、盗塁1とは！！とてもじゃないが、通常ではあり得ない！本当に、何という怪物なのだ！

シーズン当初の怪事件(二つ間違えば、とんでもない事態が待ち受けていた？)、私生活等々、マスコミ界を賑わすスーパースターでもある彼であるが、その存在は、羨ましさを超えて、神々しくも見える(その相貌は、やんちゃな妖精のように愛らしく、とてもそのようには見えないが？笑！ただ、私は、彼のことはいたのであるが！)、遅しく、そして颯爽と(苦勞をとを、日本(人)として誇らしく思うとは思わない(もちろん、他の人が、そういうことを言うことには、反論はないし、むしろ好ましく思う！本当である！)！将棋の藤井7冠もそうだが、ただただ凄い若者がいるものだ、想うだけである！

○働き甲斐や生き甲斐は与えられるものではない！

さて、今回は、かなり「学校(教師)」についての言及を行うことになるが、もちろん、そこにあるのは、偶々そこで繰り広げられる人と人との出会い(教える者と教えられる者、育てる者と育てられる者の邂逅)の関係であり、学校(教師)の危機への想いである！ただし、そんなことは、私が、どんなに言葉を弄しても、当事者達には分かっていることである！しかも、外から、その弥縫策？を述べるしか、術がないのもある！！だから、その弥縫策？について、批判ばかりしても始まらないのである！要は、そこにある、当事者達の働き甲斐や生き甲斐がどうなっているのかである！そこがおかしくなっているのである！

しかるに、残念ながら、働き甲斐や生き甲斐は、当事者達が、自ら(内面から)得るものであり、他所から与えられるものではない！結局は、本人が、苦勞(苦悩？)して得るしかない！しかもそれが、「先生」と呼ばれる者の宿命でもある！！ただし、周囲が、その足を引っ張るだけであつたら、それこそ元も子もない！そこで今、問われているのもある！言っておくが、そこから離れて別世界を作っていくだけでは、何も生まない！！

ただし、上記のように、そうした先生がいなくても(実はいたのであろうが！)、遅しく、そして颯爽と(苦勞を苦勞とも思わずに？)、自らの世界、やりがいを見出していく若者(卒業生)もいる！それはそれでよい！だが、みんながみんな、そうも出来ない！とは言え、与えられるものではない！だから、「先生」が必要なのである！

○「せんせい」！「赤鬼」は、いつ、どのように泣けばよい？

もう随分前だが、『泣くな赤鬼』という映画(2019年6月公開。主演・堤真一。原作・重松清の『せんせい』所収の同名短編小説)を、テレビで見た！そのストーリーは、「高校の教師であり、野球部の監督を務める斎藤(通称「赤鬼先生」)と、その元教え子であるゴルゴこと斎藤智之との再会を描く。赤鬼は、かつては生徒たちに厳しく接し、特に才能を持っていたゴルゴには特別な期待を寄せていた。」

しかし、ゴルゴは高校を中退し、その後の人生で挫折を経験。時が経ち、大人になったゴルゴは末期がんに侵され、余命宣告を受ける。そんな中、赤鬼と再会し、かつての過ちや人生の選択について語り合う。映画は、二人の過去の因縁と和解を描きながら、教師と生徒の関係、人生の儚さ、そして人間としての成長を深く掘り下げていく。

「クライマックスでは、ゴルゴが余命僅かであることを知った赤鬼が、彼のために最後の力を尽くす。ゴルゴは、かつての夢を叶えることができなかつた悔しさと、先生への感謝の気持ちを赤鬼に伝える。赤鬼も、ゴルゴの人生に対する後悔や自分の教育方法に対する反省を深く語る。最終的に、彼は家族や赤鬼先生に見守られながら息を引き取り、感動的な余韻を残して幕を閉じる。」

「この結末は、人生の選択と結果、他者との関係の重要性を観客に強く訴えかける。教師と生徒の絆や人生の選択という普遍的なテーマを扱っており、中でも特に教育の意味や、人が他者に与える影響について深く考察(赤鬼は、自分が過去に取った厳しい態度が、ゴルゴの人生にどのような影響を与えたのかを深く反省し、後悔の念を抱く；先生の厳しい教育方針が、必ずしも正しい結果をもたらしたわけではなく、むしろ生徒の人生に大きな影を落とした可能性が…)。」

「…最終的には、二人が過去を乗り越えて再び心を通わせる姿が描かれ、和解と赦しのメッセージが…」

とまあ、ほぼ記事の丸写しとなつたが、私としては、「和解と赦しのメッセージ」ということが、何故か気になった(私にも、心当たりがあるからである！！)！「先生」(赤鬼)は、いつ、どのように泣けばよいのか？ただ、「赤鬼」は、今どこに？(井上)

話題としては、かなり古く？なつたが、先月（8/27）、

具体的には、時間外勤務を月80時間以内に抑え、その進捗状況を「見える化」し、PDCAサイクルを通じて継続的に改善。適切な休憩を取れるよう、昼食時間の交代制、業務終了から翌日の業務開始までに一定の時間を確保する勤務間インターバル。その実現方法として、ICTの活用（環境整備↓GIGAスクール構想の下での校務DXを加速）。教育委員会に対しては、汎用クラウドツールの活用、ペーパーレス化、日常的な情報交換のオンライン化などによるデジタル化が提案されている！

なお、「学校の指導・運営体制の充実」では、教職員定数

だが、これも間違ひではないが、果たしてそれで解決できるのかもつと別な視点が必要だとも思うが、とにかく、今は、それでいくしかない!!ただし、そこに、「働き甲斐よ!生き甲斐よ!何処に彷徨う?」とならないことを願う!

度重なる改革・改善策の提示——しかし、それが出てくる度に、いわゆる現場は困惑・混乱し、今では、不信任感・絶望感が蔓延し、心を閉ざし（壊し）、挙句の果てには、そこを去っていく者多し。一体、何故そうなっていくのか？ 働き甲斐とか、生き甲斐とか言っても、それが実感出来ないならば、そうなるのも止む無しとは言えるが、実は、朗報もないわけではない！

詳しくは、別途書いているが（「新教育協働への道」、ある公民館の職員が、近場の小学校に、半ば「押しかけ」的に出向き（一日半、それをきつかけにして、当該の教員達と一緒にたつて授業づくり等を行ってきたが、最近では、他ならぬ教員達からの積極的なアプローチが増え、「迷惑感」や「負担感」等は、最早消えているというところであった！実は今最も必要なのは、この光景である！）これがなければ、どんなに立派な（そしてカネをかけた）施策であっても、現場は変わらない（動かない）！要は、「実感」と「納得」が、そこにあるかどうかなのである！！」

《短歌に託して》結局は、自ら感得するしかない！！》

・ 凄い若者が
いるものである！

それしか言わない 否 それでよい！

・働き甲斐や生き甲斐 みんな分かつてはいるのだ！

それが無いと やってはいけないことを！

・働き方改革　くどいようだが　働き甲斐改革では？

そうでなければ 何になる？

・「赤鬼」とついてはいるが、それほどでもなく？

もともと「鬼」は優しいのだ?!

・今これが必要なのだ！
それさえ生まれれば
弥縫策も生きる！
頑張れ当事者達！

○改めて、古代九州の全体像を探る―その7―

要は、5世紀末までに(伴の倭の五王時代に)、その版図が最大限に拡大し、その結果、東(公家・僧侶など)国家(河内)と西(本家)筑後に、それぞれの拠点が置かれたということであるが、少なくとも、8世紀初頭までは、本家としての筑紫倭国(九州王朝)は、歴然と存在していたということであり(形式上は、701年の「大宰律令」制定までは存続していた)、紫宸殿(朱雀大通り)の遺構あり、その間の「白村江の戦い」(663年・百濟復興戦)は、その九州王朝(本家)が主導したということである！

だが、その敗戦によつて（しかも、679年の「筑紫大地震」も加つて）、倭国（九州王朝）は、壊滅的な状況を迎えていた（大和への集団移住と唐軍の駐留・傀儡政權の誕生）。『1件の天智天皇（中大兄皇子）は、その倭国九州王朝（上宮主家）の類縁者ではあつたが、正統（第一義的）な後継者ではなかつた（だから、当初は「称制」であつた）。』とおそらく、その正統（第一義的）な後継者は、例の蘇我氏（上宮主家）であつたと思われるが、その宗家である「蝦夷」/入鹿を滅したので（乙巳の変、天智天皇側（後の持統・藤原政權）は、二重の背徳（後のめたを）を背負つて、自らの正統・正当性を必死に創り出さつとした『日本書紀』は、そのための書でもあつたのである！）。』

まあ、この辺については、通説とはかなり違つた推測ではあるが、その意味では至極と言われるかもしれないが、今後明らかにされていくものと思つている!!日本書紀が、最も隠したいこと、つまり、天武王統／蘇我・物部勢力（上皇主家の存在と事績を、精緻に辿つていけば、自ずと分かつていく）ただし、そのことは、私個人では、到底無理であるので（時間的にも、能力的にも）、その解明視点に同調される人が、一人でも多く出現されることを望む次第である！

ただし、私の努力／能力不足の故に、ひよつとしたら、もう既にそうした視点からの史実解明を行っている人（達）もいる？いつか出会えれば（※）
ツト上々、嬉しいものである！（つ）（つ）（つ）（堂本）

《編集後記》今日で、9月が終わる！まだまだ暑い日が（別な熱い日も！）続いているが、刻々と、状況が変わっていることは間違いない！自らの「生」が、そうした状況の変化に随行させられることは、ある意味仕方ないが、やはり季節の「四季」だけはあつて欲しいものである！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 37 号

発行日
2024.10. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○長野県泰阜村で思ったこと！「奇跡の村」の行く末は？

昨日（9日）、二泊三日での、長野県泰阜村（NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター）への訪問から戻った！ここでは、予定を変更して（そのテーマは次号にて！）、そこで思ったことを、少し述べておきたい（記憶が確かなうちに？）！ただし、その詳しい報告ではない（これについては、別途作成している「新教育協働への道」で行うつもりである！）。要は、そこにある重要な裏メッセージ（あくまでも私がそう思っている！）を、どう受け止めればよいかということである！

同行した7人（NPO／一般社団法人関係6人、個人1人）には、それこそ同じ苦労をしているスタッフとの出会いに、大いなる感動と共感を覚える機会となったであろうが、私には、それよりも、そうした事業体（そして、スタッフの思いや活動、否、人生！）が、今後どうなっていくのかということが、一番の関心事となったということである（これまで中核となっていたTさんが、止むを得ない事情で、そこを離れたこともあって！）！本当に、「奇跡の村」とも言える同村ではあるが（これについては、以前にも述べたし、様々な情報提供がある！）、だから学ぶべきことは数限りなくあるとしても、その先を考えると、少し不安になるということでもある！！

ひとつぐりとまちづくりの一体化（循環）が、あるNPO法人の存在と活躍のお陰で見事に実現されていると言えるわけであるが、その法人の行く末によっては、村全体が変質（崩壊？）していくこともあり得る（そして、近い将来の？リニア新幹線の誕生によって、隣の中核市／飯田市に包摂されていくかもしれない？）！二つの生活、そして文化圏域である村が、今後どうなっていくのか？全国等しい問題なのでもある！

○「きまり」について想う！大切なのは、その中身！！

話題としては、かなり唐突（これまた？）ではあるが、ここで、「きまり」について、少しでも語っておきたい！動機は、上記長野への同行者の一人から聞いていた、「条例」の存在（壁？）からであるが、いったんそういうものが決まる（ある）と、大勢がその規制力に負け（おかしな言い方ではあるが）、必要な事態の改善に、なかなか繋がっていないかということである！

要は、「守る」ことが優先され、なかなか臨機応変の対応が難しいということであるが、「守る」にしろ、「変える」にしろ、それによって、何が実現させられるかが重要なのである！それ故に、それが等閑視され、守ることだけに力が注がれては、本末転倒なのである！かの憲法改正議論もそうだが、押しつけたからダメだとか、きまりはきまりだからとかいった議論は（例の校則問題もそうだが）、何か本質を忘れたものになっていないか？

とにかく大切なことは、「きまり」は必要！しかし、それが、時代にそぐわない、そしてこれからの人達にとって「幸せ」とならなければ、思い切つて変える！これは、多くの葛藤を生むかもしれないが、等しく同価値な約束事である！その時その時によって、必要なものにしていくこと！それは、憲法であるが、条例であるが（そして、校則であるが、すべて同じである！）

ちなみに、上記「グリーンウッド」の子ども達は、自らの生活の中に「きまりごと」をつくり（折り合い）、集団を成立させている！最初は大人の誘導であろうが、それを自らのものとしている！！ここが、大切なのだ！

○こんなことがあった！「教育協働」の意義とはこれなのだ！

過日、S県のHさんから、おもしろい（実は深い？）情報提供があった！彼（ら）が、夏休みに行っている事業（「〇〇ほんそ」サマースクール）に参加しているYちゃん（小学4年生）から、お札の手紙が届いたそうである！聞くところによると、その手紙は、学級担任から校長へ、校長から、実施主体のコミュニティセンターへ、そして、そのプログラム運営のリーダー（コーディネーター）Hさんへと届けられたそうである！

まあ、これだけの話であつたら、普通によくある（新聞等に掲載される？）「心温まる話」となるが、よく聞くと（さらに、〇〇すると、これは、取りようによつたら、今、かなり懸念される「教員の働き方改革」の負の連鎖？「地域と学校（教師）の連携・協力の縮減傾向」に、再考を促すものとなるのではないかと思ひ、ここでの話題提供としたいということである！

どういふことかと言うと、まずは、その手紙が、いわゆる「学校の夏休みの宿題」ではなく（これ自体がなくなっているらしい）、彼女自身の自主的な提出であつたこと、そして、にもかかわらず、それを受け取った担任教師が、校長に見せ、また、その校長が、その実施主体であるコミュニティセンターまで、それを届けているという事実があるということである！おそらく、そこに書かれている内容（事実や感想）に、担任や校長が突き動かされたこと、そして、そのことを、どうしても、コミュニティセンターの人達に伝えたかったということである！！

実は、このように、「教育協働」とは、互いに無理をして何かを一緒に行うということではない（もちろん、必要な場合は一緒に行うが！）！互いのやっていることを知り、その成果を、相互に生かし合うことが重要だということである！ちなみに、かつて、コミセンと公民館の違いは何かということが、社会教育側での議論ともなってきたが、最終的にはどちらでもよいのである！

大切なのは、そこで働く人達の思いと事業内容（ビジョンも！）が、実際にどうなのか？そこだけなのである！ましてや、学校教育側にとつては、どちらでもよいのである！その双方の意義やメリットが共有されれば、それでよいのである！

（井上）

○政治・経済・教育の「トライアングル」の中で!!

この歳になって、言わば「政治・経済・教育のトライアングル」の見方が、と言うよりは、その構造(関係)の意味が分かってきた?ある意味、残念であるが(もう遅い?)、それを気づかせたのが、これもまた、偶々見つけたネット記事である。小幡績という経済学者(K大学教授)の論文で、一般の政治劇に関わる時事ネタである(東洋経済オンライン「石破政権の誕生は『日本経済正常化』の第一段階だ」。タイトルが妙?で、だから最後まで読んでみたわけである!)

実を言うと、私は、「政治」も「経済」も、基本的には嫌いである!権力争い、自分達の都合(権益)しか考えていない?そしてまた、損得や効率しか考えていない世界(人々)と受け止めてきたわけであるが(現象的には、そのようにしか見えないので仕方がない?)、教育の世界は、そうした世俗的な世界(人々)とは違って、人間の成長・発達や幸せづくりに貢献する世界(人々)で、可能な限り、その双方からの影響(圧力)をなくす(排除する)ことが重要だと思っていたというのである(単純に言えば「聖域」ということだが、現実はそのではない?その双方からの圧(攻撃?)は凄まじい!!)!

とは言え、「政治・経済・教育のトライアングル」は、私の好悪はともかく、まさに「社会の三要素」であり、それによつて、社会全体、つまり国(家)が成り立っている!ただし、そこでの「国(家)」というものは、「社会」の一部ではあるが、それを包摂する「容器」でもある!!そして、その容器のあり方を規定(論議)するのが、実は「政治」である!しかも、「経済」と「教育」は、その「政治」のプロセスを大いに左右する(歴史を見れば明らかである!!)!

だから、三者は、分かち難くリンクしているのであるが、しかし、健全(正常)な社会でなければ、その成果は危うい!!だから、「社会資本(社会関係資本を含む)・主義」が必要だとも書いてあったが、論としては、まさにその通りであろう!そこに、「教育」がどう位置づくのか?総体としての教育が(学校教育だけではない!)、どう見えているかである!

○凄まじい、政治家の執念、駆け引き!

過日の総裁選 そこには、何とも言えない、政治家達の人間模様(凄まじい執念、駆け引き)が繰り広げられたようである!特に、決戦投票時におけるそれは、劇的でさえあった!次の選挙での勝利、自らの立場の保持、そうしたことが、その投票の決め手となったということであるが、冷やかに言えば、そうした思いの結集が、内外の山積した課題を解決していけるかどうかとは、直接には結びつかない!!まずは、自らの保身が必要だったということである!

それはそれで、(人間)社会の厳しい実態ではあるの、ある意味仕方がないが、ただもう一つの現実として、状況次第では、自らの信念や理想を打ち砕かれる人間が、他方では生まれてくるということでもある!そして、場合によっては、その人間は、過去の舞台へと追いやられる!!「担がれる」とは、そういうことでもある(なお、もう一方の代表選!こちらは、元総理の貫録勝ち?とも言えようか?)!ただし、勝負はここからである!!

《短歌に託して》秋、到来!物想つ時でもある!!》

・「奇跡の村」訪ねてみれば転換点?

生むと続くは時代の綾?

・「きまり」は必要!

だが守るだけなら単なる足枷? 心せよ!

・さりげなく示される「教育協働」の意義・成果!

その発見こそが社会を変える!!

・政治・経済・教育のトライアングル!

良き社会の要たれ! だが、それを誰が?

・凄まじい執念、駆け引き!

そは何のため? 社会のためもあること願う!

《特別コーナー》堂本彰夫の古代史旅枕③〇〇

○改めて、古代九州の全体像を探る―その8―

ところで、改めて、問題の「高良山周辺の状況」であるが、その中心になっていたのが、4世紀半ば?突然出現した「貴(木)蘇(蘇)国」ではなかったか!!そして、その中核が、半島南部で出会っていた(和合していた?)「木(木)氏」と「百濟系家佛流系王族(藤(藤)氏)」であったならば、事態は、よりスムーズに理解され得る!!何故なら、「木(木)氏」である熊襲系の「松野連系図」に、百濟系王族と目される「藤(藤)氏」の名があるからである(ちなみに、その「藤(藤)氏」の次が、『宋書』に見える「藤」となっており、以下、「藤(藤)氏」(藤(藤)氏)と続いているわけである(倭の五王!!)!

もちろん、ここでは、その「松野連系図」の信憑性が問われるわけであるが、もしそれが真実であるとすれば、「木(木)氏」と「百濟系家佛流系王族」との関係は、一応了解されるわけである(なお、その「藤(藤)氏」は、かの「仁徳天皇」とされる倭王「讃」の父親であり、「応神天皇」とされた人物ともなる!!ただし、これはこれで、その照応が難しい!!いずれにしても、5世紀末まで(倭の五王時代に、九州(倭国)は、その版図を拡大し、東(公家・櫛魯国系)河内(西(本家)筑後)に、それぞれの拠点を置いたことは間違いない!!そう考えると、全体の説明がうまくいく!!

しかるに、少なくとも、8世紀初頭までは、本家としての筑紫倭国(九州王朝)は、歴然と存在していたということであり(宮都の各地への移動はあった)、その存亡を大きく左右した、かの「白村江の戦い」は、その九州王朝(本家)が主導したということである!!だが、その敗戦によつて(しかも大地震も加わつて)、筑紫倭国(九州王朝)は、壊滅的な状況を迎えた!!そして、おそらく、それを機に、「大和への集団移住(地名等の相似)」がなされ(先遣隊は、多分「高良山系」蘇我氏!!)、他方では、太宰府にて、唐軍の駐留(傀儡政権の誕生があった!!もちろん「記紀」は、その「東天和」への集団移住を為した側から描いた歴史書であるので、当然そういうことは記載していない(句わせてはいるが!!)!!(つづく)

《編集後記》 やつと、待望の?「秋」の気配が、ここ沖縄でも感じられるようになった(ただし、まだまだ蒸し暑いが?)!世間(国内外とも)は、相変わらず大変な様相を示しているが、心ある人達は、それにもめげず、目の前の課題・難題解決に向けて取り組んでいる!改めて、報われて欲しいものである!

(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 38 号

発行日

2024.10. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○見えてきたのに、伝える術がない！場や関係もない！！

○もう少し、続けると！

悔しいことであるが、折角見えてきたのに、それを伝える術がない！場や関係もない！が、そのことを分かつてもらい、手伝えるものがあつたら、微力ながら（本当にそう！）協力したい！それが、ここ最近の私のスタンスであるが、なかなか現実には厳しい！しかし、そこに義と理があるのなら、いつかは届く！そのことを思い続けていくのが、私の宿命？そんなことを思いながらの日々でもある（が、いつまで？）

とは言え、みんな、それが重要だと思つてはきているのである！ただ、各々の眼前の問題に振り回されて、全体を見ていくことが出来ないのである！今回の選挙もまた、まさにそういう様相を呈している（何のため、誰のための選挙か？）！

かかるに、その伝えるべきこととは何か？それは、「教育」へのまなざしの変化である！「政治」にしろ、「経済」にしろ、それを支える（それをよい形にする）人間（子ども）が育つて（生的に認め、そうした動きを、言わば国策として展開して）来れば、いらないならば、社会（国）そのものが危ない！

「政治とカネ」とか、「守る」とか、「地方創生」とかいうような言質はあるが、本当に今やる（解決される）べき課題とは何か？目下、教育の世界、それを支える地域社会はどうなっているか！学校（教師）は萎縮（疲弊）し、地域は一枚岩ではなく（崩壊状態？）、子ども達は、学力はともかく（それ自体は悪くなつていない？）、いじめや不登校等で深刻な状態にある！本当に、これでいいのか？政治、経済、そして教育は、国／社会の要（トライアングル？否、鼎！）である！

だから、政治は、経済と教育の双方から論じなければならぬのである（危険ではあるが！）！まちづくりとひとづくりが循環するということは、実は、そういうことでもある！

上記では、かなり上擦つた言を為したようにも思うが、実際は、それを前提とした論議（候補者たちの政策提示が為されているとは言えるであろう（少なくとも一人はいる！）！しかし、「教育」に関わつては、歴史的な反省もあつて、法制度的には、政治が、ある意味土足では踏み込めないようになっている！とは言え、そうした隘路？の中で、自らの知恵と努力で、力強い歩みを為している自治体や学校、そしてNPO法人等の、言わば名も無き人々の取り組みもある（これらについては、別途書き進めていく）！

だが、如何せん、それらは、まだまだ小さな歩みである、しかも、全体としてみれば、局所的、散逸的である、！！しかし、その取り組みの意義（先駆性や汎用性）を積極的に認め、そうした動きを、言わば国策として展開していくならば、まだまだ可能性はあるし、将来を悲観することもない！教育の力は、強いのである！ただし、問題は、それらをバラバラに行つてはいけないということである（「学校教育と社会教育の一体的取り組みの必要性」！

誤解されては困るが、その反省なり、しくみ自体を批判しているわけではなく、現下の諸問題を解決するためには、そこでは、経済の力が、どうしても必要であるということ（結局は、予算、経費の問題となるではないか？）、そして、その最適な配分や使い方を為すためには、政治の力が必要であるということである！だが、それは、これまでのような「限られたパイの奪い合い」ではない！そこに、三者の協力（努力）と知恵が必要なのである！

○アニミズム的な自然観・世界観が注目されている！！

話は変わるが、過日、ネット上で、面白い論稿（広井良典「日本で『アニミズム』が保存された3つの根本理由『自然信仰』を踏まえた『地球倫理』の時代へ」東洋経済オンライン）を見つけた。それによれば、「『アニミズム』的な自然観・世界観は近年になって新しい形で注目され、再評価されるようになっていく」という。その大きな背景の一つは、「エコロジーあるいは環境問題への関心の高まり」であり、「人間と自然、あるいは生命と非生命（さらには有と無の間に絶対的な境界線を引かず、それらを包括的なし全体的な視座においてとらえるという意味において、『アニミズム』は新たな現代性をもつに至っている」ということである（何となくではあるが、分かるような気がする！！）。

そして、これは、「いわゆる自己組織性など現代科学の方向とも共鳴する側面をもつており、『万物の中に魂(soul)あるいはアニマ(生命)が存在するという信念(animism)』（タイラーによる定義）からしても、ある意味でそれは日本人にとつてはなじみやすい、むしろごく当然とも言える自然観ないし世界観ではないか」。さらには、「『自然の中の八百万の神様』、あるいは『鎮守の森』といった表現にも示されるように、日本においては、一つには神道ということとも関連しつつ、『アニミズム』的な発想や自然観が広く日常生活や年中行事等の中にさまざまな形で浸透している」ともあつた。

これについては、先般、我が国における「神社」の多さ、そして、そこにある存在の意義みたいなものを述べたが、まさに、軌を一にするもののように思われる。ただ、「『自然資本』への対応には日本の伝統文化が重要な役割」と「鎮守の森」やアニミズム文化をつなぐ」においても述べたように、近年において気候変動や脱炭素をめぐるテーマと同様に大きな関心の対象となりつつある、生物多様性や生態系に関する話題ともつながっていく」というような話は、私には、とても気宇大過ぎて何とも言えないが、人が生きるといふことの意味や「協力」しなければ生きてはいけないという価値観（経験値）が、どこまでそれと連動しているのか？まだまだリアルは厳しい？

(井上)

○「LOFT」って、も建築関係ではなさそうだし!!

過目、いつものように、PC上のネットニュースを見てみると、「いい職場を作る『LOFT、カルチャー』の作り方」という記事が目にとまった!ちよつと興味が湧いたので読んでみると、これは、現在の教育界(学校)にも大いに参考になるのではないかと思ったりもした!ちなみに、LOFTとは、「Light・身軽ですばやく主体的に挑戦する、Open・開放的で、お互いに助け合い、協力し合う、Easy・関係性がフラットで、仲間に感謝し、称賛し合う、Tolerant・耐性、受容性、復元力が高く、粘り強く実行するカルチャー」とある。

「世界のエクセレントカンパニーは組織カルチャーの重要性を経営者自らが認識し、社内に訴えかけ、自ら実践することで、健全で良質な組織の『土壌』を育んできた。思い切り力を発揮し、自己実現できる環境を整えてきたからこそ、世界中から優秀な人材が集まり、新たな価値を生み出すことができている。そして、従業員がのびのびと働ける環境づくりに投資を惜しまず、お金をかけてきた」ともある!

だが、「日本企業は『カルチャー』に投資してこなかった。これまでの日本企業は、『人材に投資する』とは言ってきたが、『カルチャーに投資する』とは言っていない。…人材と組織カルチャーは『ワンセット』で考えるべきもの…。健全で良質な組織カルチャーがあつてこそ、人材はいきいきと働けるのである」と結んでいる!

面白いのは、「企業(組織)も、人間の成長発達も同じように、「木」に譬えられる「花・実(利益・顧客満足、幹(事業、根つ子(現場力)、土壌(組織カルチャー)」…まさに、その通りであろうが、企業の方はともかく、人間の成長発達(教育)の方は、他ならぬ、その「土壌(組織カルチャー)」自体が、瓦解寸前なのでもある!!

○やっぱり出て来た!共感者はいるのである!

いつかは、このことが記事となるだろうと思っていたが、やっぱり出てきた!この記事の作者(Kさん)ではないが、今、一番楽しみにしているテレビ番組が、NHK BSプレミアムにて放送中の『団地のふたり』である(日曜夜10~11時。作家・藤野千夜の名義小説原作)!小泉今日子と小林聡美が扮する、団地で生まれた幼なじみのふたり(ノエチとなつちゃん)を軸とした、ホームドラマ(近所付き合い物語)であるが、何故かほのぼのとするのである!

その人気の理由を、複数のポイントから解説しているのが、この記事であるが、流石?プロである!ここでは、その具体的な紹介は出来ないが、小見出しだけでも十分感じ入ることは出来よう!『団地のふたり』の温かさ!「視聴者が憧れるノエチとなつちゃんの関係」「人生の機微を豊かにする団地のコミュニティ」「人生の先輩と接することのありがたみ」。最後に、「自分の人生の主役は自分よ!」(前回のキーワード!)ということと締められているが、秋の夜長?は、余計な思いに耽ることもなく、過ぎていく!!

〈短歌に託して〉秋の夜長は、最早半死半生!!〜
・見えてきた!そう思つても

伝える術なし?だから書いていくしかない!!

・必要なのは「パイの奪い合い」ではない!

三者の協力(努力)と知恵なのだ!

・アニメズム懐古とアニメで花盛り?

だがリアル世界はそれに気づかず?

・LOFT、カルチャー

折角の造語 教育界にも是非広め!

・秋の夜長? 余計な思いに耽ることもなく

過ぎ行く理由もはテレビにもあり!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ③〇

○改めて、古代九州の全体像を探る―その9―

ということでも、おそらく、かの武内宿禰、神功皇后、そして、仲哀天皇及び応神天皇の事績(物語)は、これまで述べてきたような事実を隠蔽するための、ほとんどが創作(捏造)話であることは言うまでもない!繰り返すように、「記紀」事実上は『日本書紀』を編纂した、当時の政権勢力(中心人物は藤原不比等)が、自分達の政権の正統性・正当性を創出するべく、そのような人物群を配置したものだということである。ただし、そこに示されていることは、大枠は真実であつた?その意味では、それに相当する人物・事績はあつたのである?!!

そこで、その大枠の真実(詮する人物・事績)がどうであつたのか?というところであるが、ここでは、その大枠の真実の前にあつた、3世紀末以降の邪馬台国連合の帰趨(自身主権の結束)にケリをつけておかなければならない!何故なら、その帰趨のプロセス(衰退あるいは滅亡→近畿/丹波への移動)が、ここで言う大枠の真実をもたらしたものと考えられるからである(その意味では、邪馬台国連合は、この線上にある?)!!

ただし、それが、例の「神八井耳命」の後裔(前方後古墳勢力?)とされる「多氏(筑紫君/阿蘇君/肥前君/大分君)の九州進出(出戻り?)」に起因するものなのか?あるいは、『魏志』に示された「狗奴国(球磨會於?)」との攻防によるものなのか?さらには、その双方なのか(「多氏」と「球磨會於」は微妙に絡んでもいる?)?そこが、今一つ定かではない!!そしてさらに、そこには、情勢の悪化から、半島南部から逃げてきた百済系勢力(本宗家「藤原」)が、流入もしている(周辺に作られた山城/神龍石群は彼らの主導による?)!!

だが、状況は、それだけではない!後の継体主権と筑紫君磐井(九州王朝との確執(磐井の乱)に見られる、継体勢力の九州主権からの分離・分立が、そこに出来しているのでもある)ちなみに、7世紀初頭の「隋との交流(目出る処の天子/アマタラシヒコ)は、九州王朝のそれであつた」とは言うまでもない!(つづく) (堂本)

〈編集後記〉思わぬ事態から、新たな状況が生まれた?生かすも殺すも、自分達次第である!政治も、経済も、そして教育も、自分達が創り出していかなければならないのである!

(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 39 号

発行日
2024.11. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○10年目を迎える「教育協働研究所」岳陽舎」！

さて、私が、ここ宜野湾市大謝名地区に引っ越してから、まもなく10年目（実質）を迎える！大学の職を辞す決意をして、長年住み慣れた公務員宿舎を出なければいけなかったもので、あちこち終の棲家？を探した結果（本当に探した！当時のゼミ生達もかなり巻き込んで）、この地での再出発？となったわけであるが、爾来、この自宅（建物だけを取得を、「教育協働研究所」岳陽舎」と名付け（事業所登録もして！）、ほとんどが、2階書斎？での、PCを使った執筆活動であるが、ここまで続けてきた！毎日長時間の座り作業であったのが、目も足腰も弱ったが、お陰で（否、我が奥さんのお陰で？）、自分なりの納得の時間を、それなりに（こう言わざるを得ないが！）得ることが出来た！

ただ、今こうして、ここでの過ぎ去った日々を思い返してみると、本当にこれでよかったのか？そんなことも思わないわけではないが（上空をオスプレー等が飛び交うことも含めて！目の前にある普天間基地の騒音に気がついたのは、不覚にも住みだしてからである！）、何よりそうあつたことは事実であるので、それを後悔しても始まらない！人は、いつでもやれることしかやらないのである！ましてや、本質的にはズボラで、どんなところでも構わず生きていける私である！！

とは言え、書斎？と隣り合わせのベランダからの海（東シナ海の眺望が気に入る、即決で様々な借家を探し求め、やっとここであるが！）、この家に住むことを決断したわけであり、本当に、ここでの時間は貴重であった（救われた？！）そして、時折訪ねて来てくれる卒業生達との談笑も、有難いものであった！これだけは、是非とも書いておきたい！

○米大統領選挙終わる！そこに、怪物がいた？！

マスコミ等の報道（予想）では、かなりの接戦となるということであつたが、昨日（6日）、米大統領選の結果が早々に判明した！一方の候補の返り咲きということであるが、私が密かに驚いたのは、その候補の圧勝ということではなく、そのことを予想（予言？）していた日本人が、少なくとも3人もいたということである（彼らは、メディアに登場する人物達であるが、最近では、あまり顔出しがない？！）もちろん、そういうこと自体はどうでもよいのであるが、私が興味を持つのは、彼らが（他にも、同じような人がいたのかもしれないが？）、いつ、どこで、どのように、そのこと（その候補が圧勝すること）を予想（予言？）できる情報（あるいは感觸？）を得たのかということである！彼らには、共有する情報筋があつたのであろうか？否、そんなこととはあるまい！各メディアが報じる様々な状況の分析、独自の取材ネットワーク、そういうものがあつたということ、は、3人に共通しているかもしれないが、それにしても、今回の予想（予言？）は凄いい！まさに、怪物？である！！

単なる当てずっぽう？メディアを喜ばすエンタメ的振る舞い、あるいは自己の存在アピール（顕示欲？）、そういう要素があつたかどうかは、私には知る由もないが、少なくとも、かの3人は、他の多くのメディア演者（取り沙汰される情報を表面的に賑わす？）とは違って、現在のアメリカ社会の様相（そこにおけるマスメディアの意向？等を含む）を、冷徹に見据えてのものであつたのではないかと思つたりもした？！もし、そうであれば、彼らこそ、真のジャーナリストだと思ひもするが、どうなのであろうか？

○自由と平等、保守と革新 その絡みについて想つ！

今更、こんなことを、しかも青臭く？述べることは、気恥ずかしさも覚えるが、今回は、少しは語つていてもよいであろう？！と言うのも、先般衆議院選挙も終わり、ほとんど変わることもないであろうと思つていた「JK政権」に終焉の兆候が現れ始めたからである（ただし、それは、内部崩壊というよりは、Jへの批判（鉄槌？）ということから生じたものであるが？！）

とは言え、今般の米大統領選のような二大政党制ではないこともあつて、その変化には、さほどのものはないであろう？しかし、これまでにないような局面が生まれているのも事実である（いくつかの政党のしたたかな駆け引き？）！！もちろん、私には、それがどのようなものか？は分からないが、そもそも、政治においては、いわゆる、社会における「自由」と「平等」を、どのように実現していくのかの大きな使命があるはずである？果たして、現在の各政党は、そのことをどのように受け止め、自らの独自性（存在意義）を發揮しようとしているのか（政党名は入り乱れているが！）？そこが見えない、見えにくい！！

しかるに、従来は、「保守」対「革新」というような対立軸で、そのことが分かるような状況にあつたが、今や、そのような対立軸も、実際には過去の遺物と化している？否、浮遊していると言つてもよい！何を守り、何を新しく生み出していけばよいのかは、それこそ社会全体の課題であるが、言葉遊びではないが、保守の革新とか、革新の保守とかというようなことさえ、あり得る！実は、それが、昨今の政党状況であるとも言える！！

そんな中で、各党（事実上は政権政党？）は、内政と外交の両面において、ますます複雑多様化する諸課題を、かの「自由」と「平等」という普遍的価値に則つて、如何に対処していくか？民主主義（国家の危機とか、権威主義（国家の横行とか、状況は深刻な方向に向かっているとも言えるが、その双方の価値を見失えば（換言すれば、おろそかにすれば？）、事態は、ますます混迷化していく！！頑張れ、政治家！だが、やはり、彼らを選び、支えていくのが、国民（市民）の権利でもあり、義務でもある！まずは、そこから見通す必要がある！

（井上）

○結局は、人の「生」を、どのように論じるかは？！

過日、面白い記事を見つけた！それは、『日本社会の『最大のガン』の正体：私が『ポスト・モダン』だけを語る人たちが嫌いだ理由』と題するもので、「熟慮や中庸といった精神的な姿勢の価値が回復されねばならない」とするものであった。作者のH氏（1972年生）は、2012年から福島県南相馬市で精神医療に携わる「〇〇メンタルクリニック院長」で、うつ病や自殺などについて精神分析学や社会病理から考察する論文を発表している人らしい（著書に『日本的ナルシズムの罪』：『現代ビジネス』10月22日配信とある）。

私が興味を抱いたのは、彼が、「福島での原発事故の後に：南相馬市に移住してから、政治的な事柄について考えたり発言することが増えた。当初から自分のことをいわゆる『左派・リベラル』だと自認してきた。しかし、10年以上の年月を経て、次第に保守的な姿勢が強まった。今回はそのあたりの事情を説明したい」ということであつた。

私には、「モダン」も「ポスト・モダン」も、よく分からないが、そうした哲学や歴史認識論議は、それを、個人の視点で捉えるか、社会（集団／国家）の視点で捉えるか、その違いは大きいかもしれないが、大事なのはそこで、「二人ひとりの人間の生をどのように論じるか」だと考えている！そして、その一人ひとりの人間が、自らの生をどう受け止め、そして生きてきたか（さらには死んでいこうとしているか）！そこが重要なのではないかと捉えている！

なお、今回は、記事に対するコメントが、さらに面白かった！もちろん、？なものもあつたが、それぞれの知識が素晴らしく、久々に知的好奇心がくすぐられた！本当に、ネット上には、知性豊かな人々がいるものであるのだし、その逆の人も多々いるわけであるが？！やはり、「知」は大切なのである！

○ドジャース優勝！ただただ、そこにいる怪物が眩い！

過日、大谷翔平が所属・活躍しているドジャースが、メジャーリーグ制覇を果たした！予想されていたのかもしれないが、そんな中でも、その通りに成り上がったことが素晴らしい（戦力面で言えば、ある意味当然？）！でも、私には、そのチームの優勝とかは、正直言つて、あまり興味はない！何故か、かの大谷翔平のプレーだけが目に留まるのである（最後の教試合は、少し可哀そうであつた？）！同じ怪物？でも、「君には何も言えず！ただただ、見て楽しい！そして、眩い！」、まさにそういうことであるが、その理由は、果たして何なのであろうか？

前にも書いたように思うが、彼は、本当に、プレー自体に興じている！否、彼は、「野球の妖精」ではないかとも思える（身体はでかいが！）？野球のこと以外には目もくれず、ただただプレーすることを楽しんでいる？そんな感じである（もちろん、実際はそうではないであろうが！）！来季は、本来の二刀流に戻るのであろうが、たとえ成績自体は芳しくなくとも、その姿そのものが価値なのである！

〈短歌に託して予言や予感に誘われつつ〉

・ 悩みし日々 終わつてしまへば

・ それもよし！ まだ続けど 一味違ふ？

・ 予言か予想か？ メディアを嘲笑わらう

・ 怪物いる？ ならば常に 正しく導け！

・ 自由と平等 普遍的価値だが

・ そこが見えず？ 保守も革新も 心せよ！

・ いい社会とは？ 己^{おのれ}の生の意味

・ 一人ひとりが 最期に語れる社会では？！

・ 同じ怪物でも、君には何も言えず！

・ ただただ見て楽しいそして眩い

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑨

○改めて、古代九州の全体像を探る―その10―

では、改めて、その「継体」勢力の、九州（筑紫・王朝からの分離・分立というの、具体的にはどういうことであつたのか（記紀にいう「継体王朝」ではないので、その謂は、真に難しいのであるが！）？実は、その事実は、かの「九州年号」（↑『中歴』）から見出すことが出来る！なお、九州年号とは当時の倭国（九州）筑紫・王朝／倭の五王時代、政權が制定していた年号で、しかもそれは、列島全体で施行されていたものである（その証拠は、既に多く見出されている！）！

それはともかく（でもないが！）、問題は、その創始の年号である「継体」である！その年号（消されているものもあるようであるが！）は、517年から521年までのもので、以下、「大化（695）（大長・大宝）」となつてゐる。しかるに、同年号は、478年に即位したとされる「武」の後継政權が、そこから39年目にして建元したとされるもので（その意味で、その後継政權は、そこで新たな主統を意識した？）！「宋」を系主国としないということか？、その「継体」という元号名は、517年から始まる「新政權」が、その前の政權を「継体」したということを示しているのである（何故なら、「武」の即位年／478年を、その「新政權」の淵源としているからである！）！

では、改めて、その517年から始まる「新政權」を樹立したのは誰か？おそらくそれは、「武」の後継者ではあるが、しかし、正統な後継者ではない誰かということになる！（ここで思い出されるのが、528年に起こつたとされる「筑紫君磐井の乱」である！しかも、それは、実際は、515年であつたそうである（この頃の書紀の記述は、13年のズレがあるらしい？）！「兼置」氏による！）！もし、そうであれば、その乱の解釈は、通説を根本的に覆すものとなる！すなわち、この乱は、筑紫君磐井（本当は本家九州王朝の王）が、近畿の「継体天皇」の命によつて、物部麁鹿火から滅ぼされたというものであるが、ここで言う「新政權」を樹立したのは、他ならぬ、その物部麁鹿火ということになる！（つづく）

（堂本）
〈編集後記〉様々なことが終わり（本当は終わってはいないのだが）、今は、来るべき次を、密かに見詰め出そうとしているようにも思う？ある種の「祭りの後の静寂」？否、「嵐の前の静けさ」？そんな感じなのかもしれない？季節外れの台風が、遙か南方海上を、複数で彷徨っている！大雨が、また来るとも！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 40 号

発行日

2024.11. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○折角のチャンスなのに、それが生かせない？

さて、毎回、このように言っているようにも思うが、近年、私が提唱している「教育協働」への機運が高まってきているように思えるが（ほとんどがネット情報によるが）、なかなか、その拡大発展が見られない？否、そうなのかもしれないが、少なくとも私の周囲では、それが芳しくない？もちろん、私が知らないだけということであれば（その可能性は大）、それはそれでよいのであるが、今一度、ここで書いておきたいことは、これもまた、何度も言っていることであるが、関係者は、何もしていないわけではなく、そして、諦めや無能感を募らせているだけではなく、自分達なりの変化への対応もやっているといることである（過日の卒業生・小学校の教員からも、そのことは聞いている！）

では、何故、それらが、前面に出て来ないのだ？マスコミが、それらを伝えて（掴み切れて？）いない？当然、そういうことも考えられるが、やはりそこには、何か大きな問題（壁？）があるということである！それは、端的に、問題解決の枠組みが変わっていないということである！例えば、これまでは、直接は関わっていないと思われた（実は、思われていた？）組織や機関が、今や密接な関係となっていたり、そちらと協働することによって、思わぬ成果や副産物？を得るということもあるということである！

ちなみに、かつてI・イリツチが、人々の「生涯学習」には、「ラーニング・ウェブ（学習の網状組織）」が必要であると唱えていたが、それは、他ならぬ学校教員にとっても、是非とも求められるものである！硬直した、旧態依然たるシステム（研修等）では、最早限界があるのである！

○雲、そして群衆（両クラウド）が降りて来た？

そんな中、現在、クラウドファンディングとか、クラウドミーティング、クラウドワークス、クラウドサービスとか、この「クラウド」という用語・発想が多用されている！しかしながら、よく調べてみると、この「クラウド」には、「雲」という意味のcloudと「群衆」という意味のcrowdがあり、日本語の発音のせいでもあるが、かなり混同されてもいるようである！

単純に言えば、例えば、クラウドファンディングとは、「現代ではインターネット経由で実施する事例が多く、また日本語の音韻体系では「と」が区別されないため、クラウドコンピューティング（cloud computing）の「cloud（雲）」と混同して「cloud funding」と誤表記されたり、関連性があると思われたりすることがある。しかし、両者に関連性はなく（インターネットやクラウドコンピューティングを使うことは必須事項ではない）、インターネット技術の発達前からクラウドファンディングは存在していた」そうである（ネット情報による）！

言われてみれば、確かにそうだが、とにかく今では、この「クラウド」が、双方共に重要であることは間違いない！「降りて来た」という表現は、「雲」の方なら分かるが、「群衆」の方は、なかなかピンとこないと言われればそれまでであるが「と」の違いのだから、必要以上に結びつける必要もない？、やはりそれは、実体？としては、クラウドコンピューティングの世界で実現されているわけであるので、我々一般庶民からすれば、「雲」と共に「群衆」が降りてきたとも言えるであろう！

○「技術」で、「思い」が合わさる！それは福音であり、それを生かさない手はない！

いずれにしても、上記で敷衍したかったことは、たとえ「クラウドファンディング」（多数の人による少額の資金が他の人々や組織の財源として提供されること。「ソーシャルファンディング」とも呼ばれる）が、群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語であっても、関係を越えた（あたかも頭上の雲・cloudのように！）「クラウドコンピューティング（cloud computing）」の技術を使つてのそれであれば、まさにそこで形成されている世界（新しいネットワーク）が、知らない人々同志の思いを繋げているということであり、情報入手や交換、あるいは、それを活用した資金運用やビジネスの創出等、それは、紛れもない「福音」であるということである！なお、昔は、「カンパ」（ロシア語らしい！）というものもあり、事実行為としては、従来から存在していたわけではある！

ただし、そこには、言い古されているように、「福音」とは真逆の、「犯罪」「不正」といった「悲報」の温床も、同時に存在している！「便利なものには、一方で、必ず落とし穴がある！」ということでもあるが、だからと言って、その恩恵を放棄することは得策ではない！しかも、待っているだけでは、事態は、悪くなることはあっても、なかなか好転しない？諺に、「待てば海路の日和あり」というようなものがあるが、物理（気象）的な潮目はあっても、人の世での、しかも目まぐるしく変わる状況にあつては、しかも、年齢や資金の有限性を考えれば、それも悠長なことは言っておれない！現実、厳しいのである！

ということ、結果的には、何とも陳腐な言葉を為しているようにも思うが、ここで敢えて言いたいことは、カネや地位や名誉などに関係なく（言い換えれば、たとえ鳥合の衆、孤独な群衆の中にあつても！）、ある人の思いを受け止め、それに応えたいという人が、技術の進展によって、新しい出会いやビジネスチャンスを生むということに注目しているのであり、それが貴重であるということである！弱き者同士の、一つの力（知恵）とも言えるが、是非こうした人々の動きが報われて欲しいものである！犯罪や不正等の悲報は、もうこれ以上聞きたくない！！

（井上）

○「蜘蛛の糸」より凄い、もう一つの「蜘蛛の糸」！

ひよんなことから、かの芥川龍之介の「蜘蛛の糸」のことを思い出した！最近の世相から、何か比喩になるものはないかと思つたからである。『ジャンル』としては、児童文学ということになっているようであるが、私には、とてもそのようには思えなくて、人間社会（大人達）の醜い現実を辛辣に批判している寓話と思えるのである（尤も、児童文学には、そのような要素が、もともと込められているとも言えようが）。折角であるので、内容確認のために、これに関するネット記事を探したが、そこで大変な副産物？に遭遇した！それは、サイエンス・フィクション作家小松左京の『日本沈没』の作者の作品に、同名の掌編（超超短編）小説があるということであつた。

そして、その解説によれば、「彼はまず、『カンダタが糸を放せと言つたのは当然』と評してこの作品を批判した上で、別世界の話として、同様の話を書く。そこでは、地獄に落ちたカンダタは蜘蛛の糸を降ろされ、それを伝つて上がり、ふと下を見ると、他の者も上がつてくるのを見る。しかし、彼は彼らを追い落とすより、慌てて伝い上がることを優先、しつかり極楽に上がる。釈迦の方がこれに驚き、他の亡者の登りを阻止しようとして失敗、代わりに地獄に落ち、亡者たちは極楽へ。しばらくたつた後、カンダタが地獄を覗くと、釈迦が血の池で苦しんでいる。彼は以前のことを思い出し、蜘蛛の糸を降ろす。釈迦がそれに気がついて昇り始めるが、ふと下を見ると、何と地獄の鬼や閻魔まで昇ってくる。『お前たちそれは駄目だ』という、蜘蛛の糸は切れ、釈迦は地獄へ真つ逆さま。」といったことだつた！

何と言うパロディなのだ（しかも、この方がリアリティもある）。神仏の加護を冒瀆する、とんでもない代物だという言もあるが、そうとも言えない。余計なことだが、同じモチーフの作品？が、内外に幾つかあるということでもある！やはり思ふことは、一緒なのかもしれない！！

○現代の「健陀多」は？そして、「蜘蛛」は？

上記から続くものとなるが、芥川が描いた（ひよつとした）バクつていたのかもしれないが、「蜘蛛の糸」は、現代では、どのようなのであろうか？私としては、小松のパロディの方が、よりしつくりいくような気がするが（誰が「健陀多」かは別として）、少し、私なりのオリジナルを加えると、そこで登場する「蜘蛛の糸」とは何かということである！お釈迦様（観音様）の方は、何となく分かるが、健陀多が降ろすそれとは何かということである！どちらにも、それを降ろすことが出来るものとするのなら（小松）、それは何か？つまり、慈悲（偽善にもなり得る）に代わるものということになるが、それは、やはり「正義」というものである。だが、それもまた、同じように切れる？救いは、誰でも出せるということであらうが、問題は、何故「蜘蛛」なのか？そして、それに「糸」を出させるのは誰かということである！ちなみに、蜘蛛は「スパイダー」であるが、それが造る「ウェブ（網状組織）」は、まさに人と人との繋がりである。だから、「蜘蛛」が選ばれた！！

＜短歌に託して＞今回は、群衆と雲と蜘蛛？～

・ラーニング・ウェーブ！今まさに
教員に必要！クラウドを信じ活用せよ！

・そのクラウド二つあり！
雲と群衆だが今やいずれも味方となる！！

・「技術」で「思い」が合はさる！
それは福音であり 生かさなない手はない！

・「蜘蛛の糸」 弱き人間ひとへの救いの手？
ただ誰が降ろすも やがて切れる！！

・結局はみな「健陀多」！！
ならばその糸 切れないように 工夫するだけ！！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕④～

○改めて、古代九州の全体像を探るーその11ー

そこで、もし、そういうことであれば、例のおかしな話（近畿の）「継体」が、乱暴利すれば、自分は長門（東・末州）を制し、備前には、筑紫以西（九州）を在任と言つたことが、俄然真実味が出て来る。そして、まがりにも、その政權（物部政權・上宮系）が、8世紀初頭まで、その九州年号を制定しているわけだから、倭国主權（九州主權）は、少なくともその時までには存続していたことになる（600年の「アマタシヒ」も、その王朝であつた）。ただし、そこで齟齬が生じるのが、記紀が記す「雄略天皇」や「継体天皇」等の事績（否、存在そのもの）である！

というのも、例えば「雄略天皇」は、即位（逝去）年は456（479年頃）年とされておられ、宋に遣使した「武」（478年に即位）とは、ほとんど被っていない。それよりも何よりも「武」は、ある意味始祖王？的な存在であるので、雄略ではない（武）が雄略であることは定説とされているが？しかも、彼は、埼玉の稲荷山古墳及び熊本の江田船山古墳の鉄剣名にある「ワカタケル大王」ともされている。どうしたのか？

また、「継体天皇」は、応神から（仁徳・履中・反正・允恭・安慮・雄略）「遺業・顯宗・仁賢」、そして武烈へと続いた「応神主統」を、まさに「継体」したかのように見せかけられているが（応神5世孫？ただし、その尊号は後から与えられたもの！彼は、九州年号の「継体」という名前を教えたということか？、そもそも近江または北陸から招かれて即位したとされるので、少なくとも九州王朝の王ではない。ちなみに、「武烈」は、まさに二重の意味の「継体」のために捏造されているということもある！！

いずれにしても、ここでの問題は、528（515）年の乱？によって3世紀末から創り上げられてきた倭国九州（筑紫・王朝・富良山周辺）が変質（崩壊）し、そこから二つの皇統に分かれたということである。一つが、その倭国九州（筑紫・王朝を、文字通り「継体」した（九州・物部主權）、一つが、そこから近畿に移動した（すべではない）。『記紀が描く「継体主權」ということになるが、その二つの勢力（主統）は、共に「九州（筑紫・倭国）のそれであつたということである。』（つづく）

（編集後記）今年も、残り一月！来週後半、再び宮崎に行くことになっているが、師走の本土は、さぞかし寒いであらう？その後多少の憂鬱もあるが、やがて正月が来る！

（井上／堂本）

「岳陽」と共に

発行日
2024.12. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○慢心は、常に忍び寄ってくる？

私には、それについては、これ以上何も言うことはないが優勝するのは当たり前だというような塩梅に見えた！も（あくまでもエンタメであり、時代や登場人物の「大河性？」）には、それほど拘りはない？、今回は、予期せぬ情報を得たことだけ口上を述べていた選手の軽さ？に、私は、甚だしい違和は記しておきたい！言わば、新しい知識ということであるが、感を抱いた！そして、案の定、負けた！もちろん、それは、天皇や貴族達の暮らしぶりということである。特に、こと自体が、負けの原因だとは思わないが、どこかに著書き物を巡る（読む）天皇や貴族達（女御を含む）の言動が面り、高ぶりがあつたことは間違いないであろう！

他にも、幾つか想うことはあるが、ここでは、天皇の存在 ことである!! 余計なことだが、その時に、誰か一人でも 悲哀? みたいなものに触れておきたい。ただし、ある意味で そのことに気付き、みんなに告げていたならば、どうな は、そのことは今日まで続いていることなので軽々には言え っていたか? 折角のムードを壊したくなかったというこ ないが、そういう人間(お上)が、国の存続にとって、哀しい ともあるうが、そこが、どうであつたのか? 一方の、台 程に必要であつたということである!! 「統治」と「祭祀」の 湾の方は、その一戦にかけていた(お金も!)! その違い 間(妙?)にあつて、自らの意思ではどうしようもない人生を は大きかった? でも、選手達は、大きな財産を得た! 慢 送る! そういう存在であつたということである!! 心は、禁物であることを!! だが、監督は分かつていた?


と言つもの、試合前の、ベンチ前での氣勢上げ？の様子が、試合中に流されたが、そこでの選手達の雰囲気、優勝するのは当たり前だと言つような塩梅に見えた！もちろん、リラックスのための盛り上げではあつたらうが、口上を述べていた選手の軽さ？に、私は、甚だしい違和感を抱いた！そして、案の定、負けた！もちろん、そのこと自体が、負けの原因だとは思わないが、どこかに奢り、高ぶりがあつたことは間違いないであらう！

要は、慢心は要注意ということでもあるが、本当に優勝したかつたならば（したかつたとは思つが？）、謙虚にかつしたたかに試合に臨まなければならなかつたということである！余計なことだが、その時に、誰か一人でも、そのことに気付き、みんなに告げていたならば、どうなつていたか？折角のムードを壊したくなかつたということもあるうが、そこが、どうであつたのか？一方の、台湾の方は、その一戦にかけていた（お金も！）その違いは大きかつた？でも、選手達は、大きな財産を得た！慢心は、禁物であることを！だが、監督は分かつていた？

過日（一月30・12月1日）、日本生涯教育学会第45回大会があつた！もちろん、私は、ズームでの参加であつたが（もう何年も前から！）、今回は、とても面白い発表を聞かせてもらつた！なかでも、私が、35年前前後に勤務していた国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（当時名：国立社会教育研修所／愛称「国社研」）の発表には、とても驚かされた！まさに、隔世の感、ここにありということであつたが、その取り組みには、甚大な意義と可能性を感じさせてもらった！

と言つのも、そこでは、現在「Burali (ぶらり) E 上野」といふものが行われており、これまでは、調査研究や関係者の研修だけでなく、その機能を果たしてきたセンターが、その枠を取り外して、近隣の人々や学校（高等学校）と協力して、新たな役割を構築しようとしているからである！折角の機会でもあったので、少し質問をさせてもらおうと思つたのであるが、時間がなくて、結局は出来なかつた（非常に残念である）！

要は、その取り組みが、いわゆる「国策（総合教育政策）」として、どのように波及していくのか？ということであるが、単なる、センターの生き残り策で終わるのではなく、同センターの研究・研修事業に、どう生かされるのかということである！ちなみに、そこ（「地域学校協働活動」）での大きな課題は、かの「教育課程」にどう絡ませるのかということであるが、それが、うまくいかなないと、学校側にとっては、負担の大きいものとなる（しかも、現在、その学校側は、かの「働き方改革」の真つ只中にあつて、そうしたヴィジョンを失おうともしている？！）だから、社会教育側が、どんなに熱意をもつて協働、協力を呼び掛けても、迷惑な話となる。そのことを克服するためにも、この動きは重要なのだ！

ということで、今回の学芸会参加では、改めて、様々な情報提供や示唆を受けた！現役をゆうに退いた身ではあるが、この恩恵？を、是非とも、今付き合っている人達に伝えたい方はない（特に沖縄の人達に！主として「教育協働アカデミー」を通じて！）そしてまた、その辺りのことを、広く「新・教育協働への道」で語っていくことにしたい（目腰脚を気にしながら）！（井上）

井上

久し振りに、外食（昼食）を兼ねて、馴染みの散髪屋さ

私は、これについては、あまり関心はないが、今年の「新

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕④12
○改めて、古代九州の全体像を探る―その12―

んに行つた！その帰り道で、何故か、「馴れ合い」と「折り合い」の、それぞれの意味と違いのようなものを考えていた！まさに、まったくの暇高齢者ではあるのであるが、だが、その伏線みたいなものは、一応あつた!!それは、最近の、度重なる選挙（内外を問わず!）の結果であるが、それぞれのリーダーを選ぶ際に、そこには、いずれも「馴れ合い」と「折り合い」の奇妙な関係があるということであ

「語・流行語大賞」に「ふてほど」が決まったそうである！

「大手自動車メーカーの認証不正、バーティー券収入の収

文報告書不記載など、…一方、昨今強化されているのがコ

ンプライアンス。企業は顧客・株主への社会的責任はもち

ろん、従業員一人ひとりにもハラスメントだ、働き方改革

と配慮が求められる。集団優先、滅私奉公で経済成長時

代を生きた昭和世代にとってはまさにタイムスリップし

しかるに、後者（分國）は、おそらく、新羅系の「恩長氏」や「秦氏」等が、
共闘して造り上げた「豊國倭國」（筑紫倭國の分國？後の「秦主國」？中心は田川地
域？やがて宇佐を経由して、近畿に移動？）であらうか？そして、彼らの正当性（こ
の場合、これである！）の根拠を示したのが、かの「武烈天皇」の悪逆ぶりであ
らうかということである（あまりにも悍ましく、稚拙であるか！易姓革命！だから
当然？それは捏造である？ただし、そこは、書紀のみの記述！古事記は、それ自体には同
調していないか？）？

る?!もちろん、理想的には、「折り合い」だけの方が良いわけであるが（最初から全真一致の結果はあり得ないし、あつたとしたら、それ自体が、逆に危険なこと）、いずれにしても、今、その関係が、気になって仕方がないのである!!

に「かのような激変……」この、昭和の時代に置いて行かれた感を含め、飛ばしてくれたのが金曜ドラマ『不適切にもほめた感を含め、飛ばしてくれたのが金曜ドラマ』不適切にもほめた感がある！』昭和の主人公が令和の社会で堂々と昭和のルール、人の道の原理原則を貫いて令和のルールに疑問符

すなわち、彼（武烈天皇）は、「応神王統」の最後の王とされ、その継嗣がなかつたために、応神5世孫の「近江または北陸から招かれた継体」が、「あたかも継体したかのように？」示されたのであるのだが、この皇統の承継物語は、明らかにおかしい！一つは、出身地（九州と近畿、北陸の「重存在？」）、一つ

と言つのも、その關係が、実は、「馴れ合い」を實現（維持）するためのものであるような氣もするからである。もし、そうであるならば、これほど哀しいことはない。しかし、残念ながら、ありそうである。しかも、その「相合傘」？

を投げかけながらも、対話することで物事を解決していく道を探る。時代がいつであれ、不適切なことは不適切なものと教えてくれる」。「10月に行われた衆議院選挙、〇〇の選挙公約が“ルールを守る”。〇〇方の公約がこれ。不

は「継体」の前身（本当は九州（倭国）王統の継体？）ということである——もちろん、二人の継体がいるはずもなく、そうであれば、そこには隠された真実（トリック？）があることは間違いないのである！

そこでヒントとなるのが（その事績に被せられた虚実が、そこにはあるという）こと

否、重ね傘？に嫌気がさし、その傘の中に入らない（入りたくもない？）人も、多いのである！それが、秩序の維持（安定）に寄与しているとも言えなくはないが、そこには、本当に必要な変革や発展は望めそうにない！！得をする人

適切にもほどがありませんか？」という「皮肉」も！
 〈短歌に託して「時と場所の違いに思いを馳せる？」〉
 ・紫式部の心の内　とくと見せてもらつた？
 華やかなる光る君　今いずこ？

である。)、かの武烈天皇の在位期間とその結束である!!しかも、かの「筑紫君磐井」が、倭の五王の最後の「武」の後裔であつたとしたら、それは、かなり善性の高いものとなる(例の「松野重系図」によると、「武」の次は満↓「哲」(「賢」?←別系「稲員」系「家系図」)と続いているが、「哲」(「賢」?)が、その「磐井」

はとことんそうなるし、そうでない人もまた、とことんそ
うでないことになる（格差社会の増大！）！
ならば、どうすればよいか？答は、簡単である!!「本当
の折り合い」の場や状況を、自らの手で、もう一度創り上

●慢心は残念ながら やつてくる？
それを制すが 真の仲間!!

と考えられている!!そして、その後は、一地方豪族に墮している。!!
ただし、それは、かの武烈の在位期間(496〜506年)と合わない!だから、『磐井』は「武烈」ではない!!であれば、そこには、さらなるからくり(嘘?)があることになる!!それが、記紀が示す(通説に言う)「継体天皇」との関係と

「（国家の横行）とか、「民主主義（国家の危機）」とか言
 げていくことである（反対や批判だけを、際限なく繰り返す）
 ことではない！それは、ある意味では、逆用されるだけである！
 また、それは、全体にとっては損益ともなる❗️！「権威主義

時代は変わった!! されど変わらぬものがある!
それも気づけばすぐ傍そばに!

いうことになる。彼の在位期間は507〜531年であるが、武烈の薨去年が506年とされているわけだから、当然そうなるが、問題は「継体」年号であり、その創始年（515年）である！明らかに、ズレがある。圓なのである。だから、消されてもいるさ！（つづく）（掌本）

「サピエンス」は、「協働」によって栄えてきた！それは、まさに、「本当の折り合い」をなしてきたからである！

ただ重ね傘？なら「相合傘」とならす？

〔編集後記〕 まさに、光陰矢の如し！あつという間に、残り半月と
なつた！宮崎への旅も無事終わり（孫達は、それぞれ遅くくなつてい
たが、親達は大変そうであつた！）、再び、いつものようなパソコン生
活に戻つた！沖縄も、随分寒くなつてきた！
（井上ノ堂本）

(井上ノ堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 42 号

発行日

2024.12. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○「一」、「二」、「多」―これは、何を意味するか？

一応、ここでは、令和6年の締めくくりということになるが、標記の「一」、「二」、「多」とは、果たして何を意味するか？今の私が（これまでもそうだが）、そんな大それたことを口にしよとは、ある意味不可思議千万ではあるが、あるネット記事に誘われて、ここで書いてみることにした！その記事によれば（今回は、直接紹介はしない！）、今の日本は「内乱状態」にあるというものであった！「内乱状態」とは、何と物騒な表現かと思つて読んでみたのであるが、明治維新後と太平洋戦争後の、我が国の国情の推移が似ており（特に、外国との関係において）、同じようなことが、再び起こるのではないかというようなことであつた（多少、読み違いをしているかもしれないが）。

しかるに、「和を以て貴しとなす」とか、「万機公論に決すべし」とか、我が国には、このような民主主義の根幹をなす思想があるが（ただし、そうでなかったからこそ、それが希求・標榜されたとも言えるが）、（一党独裁でもなく、容赦ない二者択一の選択社会（二大政党制）でもなく、多くの人間（勢力）の意思が、可能な限り擦り合わされる社会（多党制）が、今般の選挙では実現されたとも言える！だから、多少の混乱や遅滞があつても（ここが問題だと言へば、そうなのだ）が！、ここで言う「内乱状態」には当てはまらない？

否、まったくもつてそうなつてはいけぬのであるが、問題は、これに対する、現状の、為政者やそれを選んだ国民の意識や覚悟？がどうなのかである！ただ単に、気がついてみると、そうなつてしまつていゝというだけであれば、それこそが危ないのである！果たして、どうなのか？

○2度目の宮崎行―二つの「かつやく」が絡む？

今年2度目の宮崎行については、先号でも触れたが、ここでは、少し盛つた？話をしていきたい。目的は、孫の「活躍」を見に行くということであつたが（小4三男の音楽会、高1双子のサッカー大会、もう一つ、別の「かつやく」が絡んだのである！前者は、親バカならぬ、爺バカ振りを、ほんの少しだけ（本当である！）發揮してきたということであるが、繰り返しになるが、それぞれが遅しく育つていゝよう（上手かどうかはともかく）、とても安心した。そして、嬉しくもあつたということである。だが、一方で、私には、もう一つの「かつやく」、つまり「〇〇筋」の不調が、終始付きまゝつたのである（本当に大変であつた！）。最近では、特に旅先では、常に悩まされるのであるが（下肢の不調も含めて）、そのことが、旅行や遠出に対する億劫感を募らせている！まさか、こんなことまで我が身に起こらうとは！高齡になるといふことは、まさにそういうことでもあるのであろう（自業自得と言われれば、それまでであるが）。

ただし、会場への行き帰りの昼食（懐かしい「山椒茶屋」でうどん／店名は覚えていないが、有名なラーメン屋でそのれ）とか、古代史関係では、帰路に立ち寄つた「瓜生野八幡神社」への訪問は、楽しい一時であつた（他にもあつたが！）。ちなみに、同神社は、典型的な八幡神社であつたが、観光客が行くような神社ではなかつた！しかし、この地には、何故か？かの「素戔鳴命の八岐大蛇退治」の説話があるのである（他にも、いくつかあるようであるが、九州ではこだけ！）。その理由を、知りたい！

○「眼」と「目」の違い？そして、書くことの意味？

ところで、先日（10日くらい前）、ふとしたことから、「目」と「眼」の違いは何かと思ひ、ネットで調べてみたら、『目』は形状から機能まで幅広く使われるが、『眼』は医学の専門用語と『見る行為』に特化される傾向にあるとあつた。そして、『目』はその形や外観（形状）から見るという行為、さらに『目』や『見る』ことに関連する比喩表現まで幅広く使うことができる汎用性の高さに特徴がある」ともあつた。例えば、『見る行為』に關係する「形や外観（たれ目、つり目）」「見る行為（お目にかかる）」「見た印象（見た目、目つき）」「能力（目が悪い、目が高い）」「評判（世間の目）」「見る行為」に關係しない「形が目と似ている（台風の目、魚の目）」「区切りをあらわす（二つ目、二番目）」「状態や性質（落ち目、焦げ目）」「体験（大変な目にあつた）」といった具合である（本當に、よく思ひついたものである！）。

一方、『眼』という漢字は、医学や生物学の専門用語以外でも使われるケースがあるが、『目』と比べると『見る行為』に特化した使われ方をする傾向がある」とあつた。例えば、『見る行為』に關係する「審美眼、観察眼」「見る行為」に通じる「眼力、心眼、慧眼」といった具合である。なお、『医学や生物学上での『目』の正式名称は『眼球』。『目』という漢字は使いません。そのため医学や生物学での『目』に關係する専門用語のほとんどは正式名称の『眼球』に由来する『眼』という漢字が使われる傾向」ともあつた（それは、そうであらう！）。

なるほどと、改めて思つたが、私は、「書くこと」は、ある意味「見ること」と同じではないかと思つてゐる！だから、「眼」が重要だと！ただ、それが、今は、いわゆる「仕事」ではないこととが少し歯痒い？だが、それもまた、現在の私（達）に与えられた宿命と思つて、やつていく他ない！ある意味、それしか出来ないのだから！ただ、「眼」の生物学的機能は落ちる一方である！ちなみに、脊椎動物の進化の過程では、「眼」が最初に備わつたそうである。「世界を視る」ということは、原初からつきあひのある「特徴」（生存には必須！）だということであつたわけである。次が、「歯」と「顎」だそうである！

（井上）

○「シンクレティズム」という言葉があった！

さて、こちら（堂本）の方も、少し、今年の締め切りたいものを書いておきたい！だが、それに相応しいかどうかは極めて怪しいが？ただ、ずーと考えてきたことであるので（以前少し触れたこともある）、ここで敢えて挑戦してみたいということである！と言うのも、本日（19日）、面白い言葉に出くわしたからである！何か納得させられるものが、そこにはあるということである！！

それは、シンクレティズム（syncretism）という言葉であるが、「融合、混成、ごたませ」という意味であるそうである（神仏習合の「習合」を、英語ではこう言うらしい）。あまりいいニュアンスでは使わない」とあるが、我が国には、神仏習合も含めて、あらゆる場所に「神（八百万神）」が存在し（自然崇拜、一方で多種多様な神社も建立されてきた。さらには、現在では、キリスト教も含めて、ありとあらゆる宗教が、生活の中に入り込んできている！何という無節操（無宗教？）そんなことさえ言われてもいるわけである！！

しかしながら、別な言い方をすれば、そのようにしていかなければ、「遠絶にして、小さな島国」では生きてこれなかった？そういうことであつたのかもしれない？言わば、生活（存）の知恵ということであるが、それが、縄文、弥生、古墳時代の人々に重層的に積み上げられてきた（それぞれ渡来人であるが、そのすべてが日本（人）をなしている！）ということである！！

ちなみに、その言葉の語源は、『クレタ島の人』：エーゲ海に浮かぶ：現在はギリシアに属しているが、アジア、アフリカ、ヨーロッパのどこからも手がとどく場所にあるため、古代からさまざまな民族によって、とつたりとられたりをくりかえしてきた。強大な敵にそなえるためには、いがみあう勢力でも手をにぎりあうしかない。しばしばごたませ混成クレタ同盟を結成した歴史がある」ということらしい。

○「卑弥呼」と「聞得大君」！おそろくそれは、同じ！！

上記とも関わるが、これもまた、折角であるので、ここで触れておきたい。それは、沖縄（琉球）における太陽信仰のことで、第二尚氏時代の琉球神道における最高神女（フ）「聞得大君（きんとくおおきみ）」のことである。彼女は、琉球王国最高位の権力者である国王の「おなり神」に位置づけられ、国王と王国全土を霊的に守護するものとされた（そのため主に王族の女性が任命された。琉球全土の祝女の頂点に立つ存在であり、命令権限を持った（ただし祝女の任命権は国王に）。また琉球最高の御嶽である斎場（いはい）御嶽を掌管し、首里城内にあつた十御嶽の儀式を司つた。「琉球研究の泰斗・鳥越憲三郎氏は卑弥呼と男弟の統治形態を見て卑弥呼の統治形態を琉球国の聞得大君と国王のような祭政二重主権の統治形態であると判断した。これを見た漢人がその独特な統治形態を理解できずに『女王国』だと報告したのだという」とも？ある意味、そうかもしれない！！「ヒメ・ヒコ」制とも言われるが、かの邪馬台国は、こうした統治・祭祀形態であつたということである！！

＜短歌に託して今年の締めを意識しながら＞

・「二」「二」「多」 考えてみれば

人の世の基もい すべてが絡む！

・孫の成長 楽しみだが 他方で気になる

我が娘達！！ 親となろうとなかろうと！

・目と眼 生物学や医学はともかく

それに託す言葉 様々にあり それは何故？

・シンクレティズム 語源はともかく

生存の知恵？ だがいずれも 眼まなごがなす？

・卑弥呼に悩まされる 我が国の古代史？

案外その答えは 沖縄にあるのかも？

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕④

○改めて、古代九州の全体像を探る！その13

では、その507～531年に在位していたとされる人物（記紀に言う「継体天皇」とは、実際は誰であつたのか？そこでクローズアップされてくるのが、かの百済王族「仇台系牟氏」「星文（しんぶん）」（金馬（きんば）倭王「旨（し）」の弟「軍君（ぐんきみ）男弟王（おとせみみ）」である！彼は、同母兄の「星文」と共に、九州倭国に「人質」として送られていた（兄が「筑紫倭国」、弟が「豊国倭国」へ）！

すなわち、それまでの倭国王権が、百済系家佛流系余氏「藤（ふ）藤（ふ）」に牛耳られ（倭の五王政権、その後、半島の百済王族「温祗系余氏」と「仇台系余（牟）氏（熊津（くまづ）政權が、その傘下に組み入れられ、その皇子達が、人質として倭国に送り込まれていたということである！その意味で、百済と倭国は一体化されていたということである（だから、倭の五王達は「百済」への軍事統治権を執拗に主張したのでもある）そして、百済復興戦である「白村江の戦い」にも、無謀にも加わつたのである！兼州晋氏！！

ところで、古代の大豪族であつた「物部氏」であるが（尤も、その最初の出自ははっきりしない？単一氏族ではない？、彼らが関わっている、かの有名な「七支刀」のことが、ここで思い出される！と言うのも、それが、百済王から倭王「旨」に送られたものであるからである（通説では369年とされているが、468年のようである！これもまた兼州晋氏！！現在、その刀は、奈良県の「石上神宮」にあるとされるが、不思議なことに、それと同じ刀をもつた武官の木像が、福岡県みやま市の「磯上物部神社（いそがみものべの宮）」にあるのである！

ちなみに、倭王「旨」は、倭の五王の中には入っていないが（途中で、本国へ帰っている）、一時期、筑紫倭国の大王となつていたようである！要は、彼は、百済からの「人質」として「筑紫倭国（筑後大善寺）」に送られていた仇台系王族の「星文」と考えられるのである！また、実弟の軍君（男弟王（牟）軍（ま））に、彼が「継体天皇」とされた！も、その分国としての「豊国倭国」に人質として送られていたということである！！（つづく）（堂本）

《編集後記》今年も、あと一日で終わる！6回目の年男であつたが、娘・孫達や友人との再会も含めて、ほとんどいつもと同じだったように思う。ただし、身体の衰えは、着実に進んでいる！来年はさらに、それが顕著とはなるであろうが、自分なりに頑張っていく他ない！とにかくみなさん、よいお年を！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 43 号

発行日
2025.1. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○新年に想つゝ月日は百代の過客!!

今日は、新年の5日である！再び、この「新通信」を書き始めようとしているが、やはり何度も、ありきたりの新年の挨拶みたいなもので始めるのは、何か味気ない（芸がない?）!!そこで思いついたのが、かの「松尾芭蕉」の「月日は百代の過客」である！正確には、「月日は百代はたゞの過客かくくにして、行きかふ年もまた旅人なり」（『奥の細道』冒頭文）であるが、その意味は、「月日は永遠の旅人であり、過ぎては訪れる年もまた旅人のようなものである。」というこころらしい（ウィキペディアより）。

言われてみれば、まったくそのようにも思うが、ようやく、その心境が分かるようになったということかもしれない!!否、まさに、そうなのだと思うということである（ただし、芭蕉は、50歳で亡くなっているようなので、私の方が、遥かに高齢者なのであるが!）、驚いたことに、彼は、これもまた、かの有名な「西行（法師）」を崇拜していたらしい（さもありなん?）!であれば、句（歌）の「わび、さび」はともかく、彼らは、「無常」とか、「儚さ」とか、人生の蘊奥（悲哀?）を等しく見つめていたのではないかなということである!!人（特に晩年）の世とは、まさにそんなのだということである!!

いずれにしても、私もまた、そうした月日の流れの中で、「私の旅」をなしているわけであるが、残念ながら、私の場合は、それを彩るものがない（あったとしても、徐々になくなっている?しかも、ここで彼らを持ち出すことには、多くの

○変わってはいないが、変わっていないものもある!!

さて、上の流れと一緒のような気もするが、今年の正月もまた、私は、ここ沖縄の我が家で迎えた。以前（二期ではあるが）は、宮崎の長女一家の家で、次女・三女も駆けつけて、慌ただしい、そして騒がしい?（孫3人）新年を迎えていたが、それこそ時の流れで、今年のようなスタイル（次女・三女も沖縄へ）になっっている次第である。本当は、長女一家も、この地に戻り（ただし、彼女らが育った家は、ここではない!）、新たな年の第一歩を踏み出して欲しいのであるが、それは、現実的には難しいということである（長女は、別な家族をなしているということである!）。

それはともかく、ここで書いておきたいことは、娘達が帰ってくれば、何かと昔のことを思い出し、束の間の親子（父と娘）関係を、無理矢理演じようとしている自分がいるということであるが、しかし、互いに年を取り、ほとんどのことが、再現不能?ということになるということである。とは言え、双方共に、そうした関係で、毎年を積み重ねていることは事実ではあるので、その意味では、いつもと変わりはないとも言えるのである!!

しかも、正月の場合は、最寄りの「普天間神社」に初詣に行くのであるが、近場の駐車場から歩いて行き、着くと、拝礼・祈願、破魔矢・お守り・おみくじ（娘達だけ）買い、干支看板の前での記念写真、そして、帰りの参道での「綿菓子」買いと、まるで昔のままなのである!ちなみに、綿菓子買いだけは、流石におかしいとも言えるのであるが、変わらぬ関係（光景を意図的に懐かしんでいるとも言える（次女・三女達も、そう思っている?）!!

○年賀状哀歌?なかなか切れない遣り取りの縁!!

ところで、私は、一昨年の古希の時、年賀状を出すことを基本的に止めた（親類、限られた友人・知人を除いて）。もちろん、いただいた賀状には、可能な限り返信はしているが（短くても、自筆のあるもの。ただし、卒業生のそれは、すべて返信している!）、もうこの人とは、形式的な遣り取りは止めたのであるが、なかなかそうもいかない現状ではある（今年も、何通かはあった!）。

だが、いずれにしても、この年賀状というものは、自分のこれまでの生きてきた証しではある!普段は、ほとんどの人のことを忘れて、目の前の雑事、人間関係にかまけているわけであるが、いざそれを受け取れば、この人とは、あの時、あんなつき合いがあった!そして、お世話にもなった!そういうことを思い出すのである!だが、月日が流れ、その時々との関係は、ほとんどなくなってしまう!しかも、住む場所、働く場所が変われば、そして、その働く場所さえもなくなってしまう!その関係、そのつき合いは徐々に薄れ、消え去ってもいくのである。それが、人の世の定めなのである!

翻って（この言葉、久し振りに使うが?）、最近よく「断捨離」ということが言われるが、こと「人間関係」においては、なかなかそうもいかない?どんなに懐かしいものであっても、いわゆる「物」であつたならば、自らの意思で（断腸の思いで?）、一方的にその関係は断ち切れるのであるが、「物思ふ」人間であれば、そうはいかない?もちろん、先方も、そう思っていることであろう!!ある意味、それでよいのである!だが、いずれにしても、そうした遣り取りは、やがて自然な形で消滅していく!!

最後になるが、H県在住のKさん（88歳、わざわざそう書いてあった!）から、「お元気でお過ごし下さいませようお祈りします。」「先生、私共が心血を注いで来た社会教育とは一体何だったのかの心境です。」という、手書きの文を添えた賀状を頂いた（正確には返信?）。実は、このKさんからのものが、ここでの書く動機となつているのであるが、人には、誰かに、最後に言いたいことがあるのである?本当に、Kさんにはお世話になった!Kさんは、教員出身の人である!

（井上）

○「多層重複近似構造」！表現は硬いが正鵠を射ている!!

新年の冒頭に当たって、ここでもうしても書かなければいけないことではないが、忘れてはいけないので、そして、今の私(堂本)にとつては、とても重要なこととなるので、以下、急遽書き留めておくことにする。それは、他ならぬ、私の古代史研究(旅と称しているが)に関わることであるが、最近とみに増えた、Uチューブ視聴からのアイデアである！実は、そこに、とても刺激的で、興味深いチャンネルがあるのである。それは、「ふどきさんの古代日本史考」というものであるが、多種多様な類似的動画と違って、本当の古代史が解明されるのではないかと思わせるものなのである(ひよっとしたら、これまでの定説を大いに覆すものとなるかもしれない？ただし、難解ではある?)!!

しかるに、彼は(多分男性？そして、比較的若い？、自らの古代史解明の手法(視点を「多層重複近似構造」(の発見という名称で、「記紀」に示された史実？を、全体的、総合的に解き明かそう(暴言？)とされているわけであるが、まさにその手法(視点は、私が、徐々にその思いを深めていたことと符合するのである(もちろん、私のものは、曖昧な感触の域を出ていなかったが?)！ここでは詳しくは述べられないが、要は、「記紀」は、かの「纏向(遺跡)時代(3世紀前後?)を始点にして創り上げられているのではないか？そして、それ以降の史実？が、「神話(神代)」と「歴史(人代)」へと、言わば二層拡散的に振り分けられているのではないかということである!!

もちろん、それは、国の創始を古く見せるためでもあったろうが、そこには、もう一つ大きなからくりもあった!!それは、最も分かりにくい(だから重要であつた?)「倭の五王」前後の真相(「空白の4世紀」等)を、「神話」に託して描いているということである!!全くの「他人の権」で旅を続けている素人の私が、こゝ言うのも、どこか恥ずかしい(当人にも申し訳ない!)のであるが、本当に正鵠を射ているのではないかと、共感、賛同している次第なのである。

○太陽／月／星、そして、龍蛇／鯢／熊／犬神信仰！

先号(42)とも関わるが、ここでは、もう一つ、書き加えておきたいことがある！それは、古代における「太陽／月／星」等(自然崇拝、そして、「龍蛇／鯢／熊／犬」等(トーテム信仰)に関わることである！これには、おそらく古代氏族の「和珥(蛇)族」や「鴨(鯢)族」も加えてよいであろう!!いづれにしても、何故、古代の人は、このような信仰をもつに至つたのであろうか？特に、後者の、動物に対するそれが、よく分からない!!ちなみに、「アニミズム」とトーテムの大きな違いは、トーテムが集団や個人とトーテムとの神秘的な関係を信じるものであるのに対し、アニミズムは生身のもの、無生物のすべてに明確な霊的本質があると信じるものであることである。」とあるが、不思議なことに、私には、後者の方は、よく分かるような気がする！問題は、前者の方であるが、少なくとも、その動物(トーテム)は、自分達の生活(生存?)には、どうしても欠かせないもの(者?)であつただけは分かる!!

・短歌に託して再び、変わらぬ？新年を迎えて!!

・月日を旅人と詠む その人もまた旅人ぞ

だから思い出さずとも旅となす

・変わつてはいるが そうではないと思いたい

その証しとしての 綿菓子買い？

・賀状に絡んだそれぞれの生

その意味分り合える 老いであれ

・「多層重複近似構造」？難しうであるが

隠された真実は そこにあるかも!!

・自然はともかく 何故動物にまで？

神秘・霊の本質・象徴人はそこに何をみた？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(43)

○改めて、古代九州の全体像を探る！その14

いやいや、とんでもない史実？にぶち当たってしまったようである!!要は、3世紀末以降の邪馬台国連合後の倭国九州の実態は、神功皇后、武内宿禰、仲哀天皇、そして応神、仁徳と続くに彩られた虚偽？の王統の時代、すなわち、「混乱」そして「空白の150年(4世紀後半～5世紀)」、さらにそこから生じた「倭の五王時代」、そして、その最後の「武」の後の「筑紫倭国」と「豊国倭国」の分離・分立、さらには、筑紫倭国の王統交代！豊国倭国の近畿移動と、本当に目まぐるしく変転している!!しかも、そこには、中南部九州の熊襲(熊襲貴族系勢力「紀姫ノ木ノ貴」氏「目下部氏」「久米氏」、さらには「多氏」、そして半島からの新羅・伽耶系勢力、その後の百済系王族の流入・渡来が絡んでいるのである!!

そんな中、またまた仮説、否、それ以前の状態かもしれないが、とにかく6世紀前後に、新たな大きな枠組みが成立するということになる!!ことである!!だから、さらなる問題は、そこにおける筑紫倭国と豊国倭国の並立と相剋の史実を、一方の近畿・大和の変遷を絡めて、いかに全体的に描くかということになる!!何故なら、真の建国史は、まさにそうした視点からしか描けないからである(記紀は、単なる九州王朝史のパクリではない!!ということでもある!!)そこで、その解明の糸口になるのではないかと思われるのが、「辛亥の変(531年)」というものである!!すなわち、それは、かの「継体天皇の薨去記事(日本書紀)」に関わつての、「日本の天皇及び太子・皇子、俱ともて崩薨かむりましぬ」(「百濟本紀)」というようにある(それには怪しげな注釈がけまでが行われている!!)

とすれば、そこで亡くなったのは、新生(分家の)「豊国倭国」の王族(軍君/男弟正)と、その子「安閑」(軍化)だったのかもしれない!!しかも、その太子・皇子を弑逆したのは、異母兄弟とされた「欽明天皇」だったそれが辛亥の変!!そして、その「欽明天皇」(実は蘇我稲目が)が、大和で「上宮王家・蘇我王権」を確立した!!まあ、そういうことでもあるが、とにかくここでは、かなりの政変があつたことは間違いない!!ということである(そう考へれば、前後の辻褄が合う!!)(つづく)

《編集後記》 過日、新年が明けた。どんな年となるのか？敢えて書かないが、確実に日々は訪れ、去っていく！それに随伴しながら、関わる思いや意味を綴っていく他ない!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 44 号

発行日
2025. 1. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○これは、書かずにはおられない！まだまだ脈はある？

あつという間に、一月が過ぎるが、先日（18日）突然、これは是非書いておかなければと思わせるテレビ番組があった。ある意味お馴染み？の「新プロジェクトX」挑戦者たち「この国には、誰にも知られず輝く人々がいる。」であるが、今回の見出しには、「緊急派遣5千人日本メーカールの総力戦」タイ大洪水国境を越えた復旧劇」とあった。もちろん、これだけではよく分からないであろう！ネットを見てみると、

「メードインジャパンを支える心臓部が巨大洪水で水没！そのとき、生産を守るために立ち上がった人々がいた」。2011年10月、タイ中部を襲った洪水は被災230万人。半導体から家電、自動車まで日系400社以上の工場が生産設備ごと水に沈んだ。そのとき工場のリーダーたちは、生産設備を水中から引き上げ、5千人のタイ人従業員とともに日本へ派遣、生産を再開させる、前代未聞のプロジェクトに挑んだ。国境を越えた物語。」とあった。

で、番組の紹介としては、これでよいであろう！だが、私は、現地工場の日本人社長やジェトロの担当者人間性、そして現地労働者との絆、改めて、そういうものに注目したいのである（何とも感動的なものであった！）。余計なことかもしれないが、この話（映像）は、今の日本人（否、世界中の人々に、是非とも聞かせて（見せて）欲しいものである！

しかるに、日本は今、政治・経済・教育等の面で元気がない？しかも、以前まではうまくいっていたものが、そうなっていない？だから、自信喪失ともなっている？だが、この話に出て来る日本（人）の良さ、外国（人）との関係を知ると、まだまだ脈はある（自信回復できる？）？そう思うのである！

○やはり、これは、上だけでは収まらない！

翻って、ここでは、もう少し、上の記事と関わることを書いておきたい！やはり、上の文章だけでは収まらないということでもある！と言うのも、話題がタイというところもあるが、私は、遠い昔の？H大学での助手時代を思い出したのである。詳しいことは、ここでは書け（か？）ないが、私の所属する研究室（比較教育制度学）は、当時（今はどうなっているか知らないが！、東南アジアからの留学生（大学院生）が沢山いた。その中にタイのWさん一家もいたが、自分で言うのも烏滸がましいが、精一杯のお世話をさせてもらった！互いに家族持ちという境遇がそうさせたのかもしれない（貧乏所帯にも拘らず！）。彼らとの思い出は、今でも幾つか残っているが、ある時、旦那さんが一足先に帰国していたので、残された奥さん（彼女もまた院生となっていた）と娘さん二人を、夏休みだったと思うが、少しでも喜ばせようと、妻の実家（S県）に連れていったことがある！義父母は驚いて、感謝の意を告げたことを覚えている（今回は、そのことを思い出させてくれたのもある！）。帰国後の彼らのことは、ほとんど知らないが（家族としては？、本当に掛け値なしに、人間対人間として付き合ったものである！

要は、ここで言いたいことは、そうした関係は、自分が助手だからということではなく、目の前の現実において（私も、その時は一児の父親であった！しかも、一年という限定での助手生活であり、将来の見えない不安定な身分でもあった！）、極自然に振舞っていたということである！

○改めて、「成人式」に思う！イニシエーションの意味？

さて、もう随分日数が経ったが、今年もまた、各地で成人式が行われていた。私は、その様子をテレビ等で見ていたのであるが、相変わらずの晴れ着姿（特に娘さん達の！）と、新成人としての決意（心構え）を告げるコメントを眺めていた。そこには、表面的にはいつもの？、平和な日本が映し出されていた！必要以上に、事を深刻に受け止めることはないであろうし、たとえそうであったとしても、この日ばかりは、彼らの輝かしい門出を祝うことは、それなりに許されることであろう！痛ましい事件や事故、あるいは悲惨な戦争や災害等が、国内外で相次ぐ中、そうした光景は、ある種の癒しであり、束の間ではあるが、社会の安寧を感じさせるものでもある（多少、無理矢理感？がないわけではないが？）。

ところで、あるネット記事（新聞記事）によると、「かつて『荒れる成人式』として話題になった〇県（敢えて伏せる！）の多くの自治体で12日、『成人の日』の式典が行われた。県は『さまざまな取り組みが奏功し、近年は落ち着いている』（担当者）とみているが、〇市（これも、敢えて伏せる！）の式典会場ではこの日、改造車やバイクの爆音が鳴り響く一幕もあった。全体から見ればごく少数ながら、奇抜な髪形や衣装が目を引く『やんちゃ』な若者は今も健在のようだ。」とあった。確かに、そう言われれば、そうなのである！「やんちゃ」な若者」は、いつの世にもいるのであるから!!

そこで、思うことは、その「やんちゃ」についてである！我々は、かつて（今もそうなのかも？）、「若気の至り」「若者気取り」「身の程知らず」とか、よく若者（青年）の傍若無人ぶりを評してきたものである。そうした中で、「成人式」は、彼らの力や勇気の誇示、大人社会へのイニシエーション（通過儀礼）の場であったが、豊かな社会（都市化社会）では、その要素がなくなっている（地域／コミュニティの変質）!!ちよつと変な話ではあるが、沖縄でいう「うーまーく」（やんちゃの子）の卒業の場が、それになっているとしたら、それはそれで意味があるのかもしれない!!現象的には、甚だ厄介（迷惑）ではあるが、皮肉にも彼らだけが、それを継承（内在化）しているのかもしれない？

（井上）

○「ユニバース25」？それが指し示すものは？

今度は、私堂本の番であるが、標記の「ユニバース25」について、以前書いたことがある(第35号)。実は、過日、それを紹介していた、NHKの「フロンティア」という番組の再放送をみたのである。そこでは、改めて、人類繁栄の原因(原動力)が、「協働性」にあることを確認したが、後半にあつたある実験のことは、ほとんど忘れていた!!それは、J・B・カルフーンという動物行動学者が行ったものであるが、人口密度とそれが行動に与える影響についての研究である。彼は、げっ歯類(ラット)の過剰な個体数に及ぼす悲惨な効果が、人類の未来にとって悲観的なモデル(最後には絶滅?)であると主張していたそうである!

その有名な実験が、件の「ユニバース25」ということであるが、その中で、彼は、ラットの、過密状態での異常行動を「ビヘイビア・シンク」(生物個体の過密状態による行動の崩壊、社会的な相互交流を諦めた受動的な個体を「ビュティフル・ワン」と名付け、それらの個体の行動変容が、結果として、彼らの絶滅をもたらすということを発見していた(詳しい説明はここでは出来ないが)。ただし、彼は、こうした実験を人類に当てはめれば、滅亡が確実だとは考えておらず、建築的環境の改良による「人間福祉」(human welfare)の改良を目指したということである。そして、その研究は、「世界的に認知されるようになり、彼は世界中の会議で講演し、NASAや地域の刑務所の過密状態のコロンビア特別地区委員会などのさまざまな組織から意見を求められていた」そうでもある。

しかるに、彼の研究は、E・T・ホルルの「プロクセミックス理論」(人の個人的距離や社会的距離を著した理論)の基礎として用いられたが、当時から生物学者や生命科学者から疑問や批判を受けており、現在では科学的証拠や客観性が不足しているとも考えられているそうである。だが、爆発的な人口増加を進めている我が人類のあり様が、そこから見えてくるような気もするのは私だけであろうか!!

○「偽善と露悪」の繰り返し?だが、「偽悪」もある?

(ここでも、あるネット記事(Blogs)からのものであるが、面白い表現「捉え方」に出会った。それは「露悪」というものであるが、人間社会の歴史は、その「露悪」と「偽善」の双方の繰り返しであるというものであつた。現在、「損得勘定」分かりやすい合理主義や行き過ぎた資本主義が横溢する中で、「日本は世のため人のためという価値観が根強く、子や孫の世代、あるいは先祖、さらには世界の人々をも思いやることのできる『美しい国』」だつたはず:それは偽善的だつたかもしれないが、真実とは結構歯切れが悪く、曖昧なもの:その曖昧さも含めて、他を思いやり、美しく生きるのが日本人の伝統であり美意識だつた:そこが外国から敬意を払われる部分でも:」とあつたが、利己主義と利他主義の相対の中で、人間社会(日本)は、まさに偽善と露悪の繰り返しを行つているということであつた。そうかもしれないが、その双方に違和感を感じ、自らを「偽悪」と言うことで生きていた若者達が、かつていた(今もいる?)ことを忘れてはいけない!

〈短歌に託して「今」を生きるしかないのだ!〉

・ 誰にも知られず輝く人々!
・ そうなのだ! そういう人達がいるのだ!

・ 思い出したいくないものもあるが
・ そうでないものもある! そを教えてくれる人?

・ 成人式! 単なる儀式ではあるが

・ ユニバース25 不吉な実験とも言えるが

・ そこに真ある? ならばどうすれば?

・ 偽善と露悪の繰り返し? そうだとしても
・ 若き日の偽悪もある? それは何?

〈特別コーナー「堂本彰夫の古代史旅枕」④〉

○改めて、古代九州の全体像を探るーその15ー

というのも、「記紀」に示されている継体王統は、それを「継体」したとする(5世孫?などとはあり得ない?)「応神王統」の後継王統である!そして、彼らは、その応神王統の最後の王、あの悪名高き「武烈天皇」の暴虐ぶりを示して、自らの正当性(争うに値する正統性)を主張している(中華の国史にはよくあるパターン「易姓革命思想」?)ということ、前号③では、さらなる大変な展開となつてきたが、改めて、彼(継体/書/男弟王)は、かの第25代百濟王「武寧王(斯摩)の(義?)叔父であり、その彼(斯摩)から、有名な「隅田八幡人物画像鏡」(現在、和歌山県橋本市の「隅田八幡神社」に所蔵)を贈られているとされている!!この辺のことは、まだまだ詳しく解明されなくてはならないのであるが、要は、「継体」という人物(天皇)は、かなりの謎(矛盾)を秘めているということである!

しかるに、「中歴(九州年号)」から推測される「武烈天皇」とは、本来の?「継体天皇」の別称でもあるとされているようであるが、先の④との絡みで言うと、彼は、記紀に言う「継体天皇」と「物部麁鹿火」によつて政權を簒奪された「筑紫君磐井」ということはいかゞもろろん、その場合、「武烈」は、正統な王統であつた「磐井」の虚像であつたということになる!!つまり、「磐井(武烈?)」は、貶められて当然の「暴君」であつたということ(を主張)を推定したいがためである!!

でも、「磐井」自体は、「武烈」ではなかつた!何故なら、「磐井」は、『宋書』に見られる「武の後裔(嫡子?)」と見られるが(かの「松野孝宏」には、共に名があり、磐井に相対する人物には、「哲」という名が与えられている)、かの八女地域(岩戸山古墳等)に、別途安定した王権を営んでいた!問題は、いつ、どのように、その九州倭国が変貌していったのかである!!考えられるのは、徐々に、その勢力を増していった「豊国倭国」(筑紫倭国の分国、自身の類縁等)/中心地は、田川/香春神社周辺?→秦土国?後に、京都府や宇佐地方に移つていった?の動きからということである!!(つづく) (堂本) 〔編集後記〕 今回の新年も、あつという間に一月が過ぎようとしている!多分に漏れず、ここ沖縄も一番寒い冬を迎えているが(多少笑)、来月は、プロ野球の春季キャンプが各地で始まる!運動を兼ねて可能な限り訪れたいが、来客(卒業生達)もある!私達にとつての蠢動とも言える!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 45 号

発行日
2025.2.15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

〇シンギュラリティ（技術的特異点）が近づいている？！

新年も一月が過ぎて、まさかこんなことを書くことは夢にも思わなかったが、実は、迂闊にも？とんでもない言葉に出くわしてしまった！それが、標記の「シンギュラリティ（技術的特異点）」というIT用語である。昨今のAIの爆発的な進展について、一度は私なりに考えてみたいと思ったので、ここに書き始めた次第であるが、だが、実際は、私には、まるで異次元の世界のことのようである！だから、その言葉は、何か未来の人工知能みたいな名前のものである！と思ったが、意味（定義）は、「人間の知能を超えたAIが誕生する仮説のこと」で、AIと呼ばれる人工知能が、日々学習を繰り返して、いつの間にか人間を上回ってしまう？その時点、ということらしい（それが、2045年とも！）。

そんな馬鹿な？と、旧世代の私は改めて思うのであるが、「とくに、近年では人間との会話が成り立つチャット機能や、精度の高いイラストを作成するクリエイティブ機能が発展しており、ますますシンギュラティへの関心が高まっている」とある！さらに、「テクノロジーというパワーと莫大な金を手にした、テックビリオネアたちの野望には限りがない。こうしたイノベーションはもろく素晴らしい。しかし懸念されるのは、政府の介入や規制を嫌い自由を最高の価値とするリベタリ安的な考えを持つ彼らが、『置いていかれる』人々のことを全く考えていないということだ。」ともあった（ネット情報より）！さらに、それが先鋭化している？詳しいことは、ここでは書けないが、その懸念は、着実に、そこかしこにある！そして、それは、経済のみならず、政治の中心にまで襲い掛かって来ている？果てさて、どうなる？

〇久しぶりの再会！だがそこに世話人がいればこそ！

過日（一旦、久しぶりに、卒業生達（子ども地域教育コース二期生4人・男1人／女3人）が、我が家を訪ねて来てくれた！この若者達は、比較的最近の卒業生達で、神奈川県に住むS（旧姓K）さん（小学校教員）が、家族（夫と子ども1人）と一緒に沖縄に来るのをきつかけに、県内在住の同期3人に呼びかけたようである。なお、4人のうち3人は、子連れでの訪問であったので（乳幼児が4（+0.5）人、さしずめ我が家（岳陽舎）は、ミニ保育所状態であった。余談ではあるが、ある事情で気になっていたF君も来た。しかも、一児の父親として！彼とは、また近いうちに再会することを約束した。

いずれにしても、時は流れたものである！考えてみれば、彼らの生活状況も、そしてまた生活意識も、目まぐるしく変転し、当時の学生生活とは違つて、大変な日々を送っていることであろう？今月もまた、別の（こちらはいつもの？）卒業生達が来る！嬉しい（否々、有難い？）ものである（もちろん、まったく音沙汰のない卒業生達もいる！こちらが、当然ながら圧倒的に多い？）。ちなみに、先月末（18日、これまた久しぶりに、高校の同期とのZoom交流を行ったが、11月に沖縄で集まることになった！

どんな再会となるのか、楽しみではあるが、とにかく、旧知の人と出会えるのは嬉しいものである。世話役のKさん（福岡在）は、毎回、このような場（旅行）を企画・調整してくれる人であるが、やはり、そうしたアクティブな（呼びかける）人（世話人）がいないと、こうした再会は実現しない！本当に、感謝の一言である！

〇こんな凄いことをやっている所がある！そこにはやはり：

ひよんなことから、ある情報を得ていたが、調べてみると、大変なイベント（否、それを遙かに超えている！）であることが分かった！それは、「Kumamoto Education Week」というものであるが、その内容は、「教育DX」をはじめとする『学び』にまつわる様々なテーマでのトークセッションの開催や、学生や民間企業と連携した若者の居場所づくりの取組紹介、アーティストやユーチューバーとのコラボ企画、民間団体との連携による体力向上プログラム紹介など、企業・民間団体・大学等と連携した取組で、『Youtube 動画50以上、対面イベント20以上、計70以上のプログラム』である（実際は、それ以上）。目的は、「Well-beingを実現するための教育について多様な社会の参加者と共に考え行動することで世界の教育振興に貢献するため、『みんなの夢が未来を創る』をテーマとした教育の祭典」ということである！

ここで力説したいのは、これを実現させたE教育長と、Oさんという「人」の存在である！E教育長さんについては、興味があったので、これも事前に調べていたのであるが、その経歴が、真に仰天もの？詳しいことは書けないが、以前熊本県教委の社会教育課長もされた、元文部官僚（途中で起業された）であった。「子どもの『将来のために』が引き起こす教育の盲点、今の幸せのため自ら考え行動する教育委員会へ。『主体的・対話的で深い学び』によって、はたして予測困難な時代を生き抜くことができるのか。まさに予測困難な時代の象徴ともいえるべき新型コロナウイルスの感染拡大に直面して、『今後も子どもたちはこのような時代を生きることを経験した』。コロナ前とは教育に対する考え方が大きく変わった。今後どんな学校、どんな教育を目指しているのか。矢継ぎ早に施策を打ち出す熊本市の改革」という評もあった。一方のOさんは、根っからの市職員で、社会教育畑で長年奮闘されてきたという。結果的に、この両者の出会い（タッグ）が、この凄いきり組みを実現させたということであるが、沖縄の2人がそれに協力していることもあつて、過日（5日、彼に、[Kumamoto Education Academy]にも参画してもらった。素敵な公務員であった。やはり、そこには、「人」がいるのである！（井上）

○「DS」とは何だ？思い当たらないわけでもない？！

これまた最近、ネット上で気になる（本来の意味で）言葉がある。それは、「DS」、すなわち「ディープ・ステート deep state」（闇の政府、地底政府）という言葉であるが、多少調べてみると、「アメリカ合衆国連邦政府の一部（特にCIAとFBI）が金融・産業界の上層部と協力して秘密のネットワークを組織しており、選挙で選ばれた正当な米国内閣と一緒に、あるいはその内部で権力を行使する隠れた政府（国家の内部における国家）として機能しているとする陰謀論である。『影の政府』と重複する概念でもある。」とあった（ウィキペディアより）。

もちろん、ここでは、その用語の歴史的背景や、米大統領のT氏に関わるような政治状況（陰謀論の有無）に、直接コミットする気はない（そもそもよく分からないし、分かったくもない）。ただ、それに関するようなこと、例えば、「既得権益」を巡る攻防？あるいは、与党（保守）対野党（革新）というような文脈であるならば、それは、何も米国だけの話ではないし、どこの国でもあることであるので（ひょっとしたら、どこの組織でも）、私（堂本）なりに、そのようなことに思い当たらないこともないのである？！

ただ、問題は、その攻防において、何らか（誰か）の裏（影）の意思が働いて、その渦中にいる人間が、ある事件のために（「デマやスキャンダルを含む」、その表舞台から退場させられることがあるという）ようなことである？！これもまた、そのDPの仕業であるということであれば、話は別である？！要は、そこに、誰かの思惑が絡んでいるということであり、既得権者や、その事案がそうなるって欲しくないと思っている人間達の、言わば「暗黙のタッグ（見えない鎖）」が、そこに出来上がっているということである？！困ったものではあるが、今後、そうしたDPは、表にあった「シンギュラリティ」の登場によって、さらに複雑、巧妙にもなっていく？しかし、「善なるDP」もあり得る？！それが、本当の「人間の英知」でもあると信じた！

○世界は錯覚で出来ている？AIは、それにどう対処？

もう随分時間が経ったが、やはり、このことも触れておきたい。それは、例のNHKBBS番組「FRONTIERS」その先に見える世界」のことであるが、今回の話題は、「世界は錯覚で出来ている」である（初回放送日：2024年10月31日）。それによると、「目や感覚をだます錯覚現象の数々。『なぜ錯覚は起きるのか？』研究の先に、人間、そして私たちを取り囲む世界の正体が見えてくる。錯覚を自在に操る先の未来とは？」であった。

『錯覚』それは、見た物が実際と違うように見えたり、無いはずの物があると感じたり、何か感覚に異常が起きたように感じるもの。しかし、研究者は語る『見た物が正しく見えることの方が不思議なのだ』と。そもそも私たちの脳は、どうやって世界を感じているのか？錯覚という現象を知れば知るほど、人間とそれを取り囲む世界の正体が見えてくる。そして錯覚を自在に操った先に待つ未来とは？とあったが、「錯覚があればこそ、人は生きられる？」ある意味、それは、正鵠を射ているかもしれない？！

＜短歌に託して＞DP？錯覚？されどあるが儘の我！～予想外の保育所状態！

それにしても 時は過ぎたものである！

・怪獣を思わせる シンギュラリティ？

ある意味それは 当たっている？

・とにかく凄いことが 起きていた！

やはり事は 人が起すのである！

・ディープ・ステート？ 何でそのようなものが！

善なるそれは あり得ないのか？

・錯覚があればこそ 生きられる？

であればAIは いかにも人脳越える？

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕④＞

○改めて、古代九州の全体像を探るーその16ー 翻って、その「豊国倭国」を支えていた「皇長氏」や「秦氏」等は、一方で、近江・北陸等に本拠地を移し、琵琶湖・淀川水系を抑え（豊国倭国のレガシーを引き継ぎ（継体）、「男大迹（彦太尊）」を「継体天皇」にすり替え、その王権を確立したように見せた）だから、彼らは、書紀の編纂（史実の捏造）に積極的に関わった）ちなみに、「皇長氏」の姫巫女である「神功皇后（皇孫姫）」の英雄物語は、それを大いに盛り上げるための所業でもあった？！

ということで、我が国の古代史（建国史）は、まずは北部九州に確立された「倭国」が、西日本全体（影響としては関東にも及んでいる）を舞台にした「倭国大乱」によって、二極分化していったことから始まる（初因は、「伊都国」と「邪馬台国」による「奴国」への攻撃？）すなわち、北部九州での覇権争いに敗れた「奴国」勢力の主流が、吉備や出雲に移動、そして、当地の勢力を抱き込んで近畿大和（畿内）に移動し、新しい連合勢力を構築し（畿内系政都市、他方では、その一部勢力（権力争いに敗れた多民族）が、新たに形作られていた邪馬台国連合に徐々に入り込み、北部九州（筑後地方）には、言わば「新倭国（筑紫倭国）」が形成された？！

そして、その後、その「新倭国」は、6世紀前後に、筑紫倭国（本多と豊国倭国（分国）に分かれ、さらにその後、豊国倭国は、筑紫倭国（本多と袂を分かち、移動して、「近畿倭国」として、旧来の勢力を糾合し、新たな別）な倭国（日本国）を創り上げた）それが、かの（「記紀」が示す）「継体王朝」であり、その後の顛末ということである（軍事的には、現皇統は、そこから始まっている）？！その意味で、我が国の古代史（建国史）は、「筑紫倭国と豊国倭国」の並立と相剋という意味合いをもつということであるが、ただし、それは、あくまでも近畿倭国（倭国・新倭国・豊国倭国・日本国）からの説明軸であり、消された（隠された）筑紫倭国（本多の実相、そしてその、その後の推移については、ほとんどが知らされていないということなのである）？！だから、問題なのもある！（つづく）

＜編集後記＞義母（101歳）の逝去の連絡があり、急遽鳥取に行っていた。親族が一堂に会するのは滅多にないが、これもまた人の世の習い、絆を改めて感じさせてもらった。中国山地の山間の町には、かなりの雪が残っていた！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 46 号

発行日
2025. 2. 28
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○学生寮は、良くも悪しくも？飛躍のための時間・空間！

これまで、ここでは「あくまでも自分史として」という副題を付けているにも拘らず、自分の過去、とりわけ若い頃のそれをあまり書かずにいたが、あるテレビ番組のお陰で、少しは書いてみようと思いはじめた！それとは、NHKの「よみがえる新日本紀行 昭和の日本が鮮やかな映像に」で、件のそれは、「都ぞ弥生く札幌・北大恵迪寮」というものであった（元番組1975年／初回放送2025年2月1日）。別の大学であるが、私も、かなりやんちゃ（バンカラ？）な寮生活（日大学薫風寮）を送っていたので、何とも懐かしい、だが、ある意味羨ましい青春風景であった（ただし私の方が少し先輩？！）別途番組案内をみると、「寮歌『都ぞ弥生』で知られる北海道大学恵迪（けいてき）寮。自然豊かなキャンパスで寮祭に燃える学生たちの青春を描いた昭和50年の新日本紀行がいまよみがえる。番組から半世紀、200万都市に成長した札幌市の中心部に、川が流れ農場まである北海道大学のキャンパスが今も広がっている。恵迪寮は健在で、全国から集まった学生400人あまりが暮らしている。女性を受け入れるようになった一方、寮祭の伝統は続いており、そこで毎年新たに作られる寮歌には、その時々学生たちの気持ちが込められている。新しい寮歌が生まれるまでを追い、恵迪寮で暮らす現代の若者たちの思いを描く。」とあった。

モデレーター？またしても、新語か？！
モデレーター？私が知らない（遅れている？）だけなのか？最近では、こうした新語（英語）によくぶち当たる！調べてみると、「コミュニティの安全と快適さを守るための重要な役割で、会議やディスカッションの場で、議論を円滑に進めるための司会進行役」とあり、「主にオンラインコミュニティや配信プラットフォームで活動」し、「特にYoutubeでは、視聴者とのコミュニケーションを円滑に進めるために重要な存在で、その役割は多岐にわたるが、最も基本的なものは、コメントやチャットの監視。不適切な発言やスパムを見つけ出し、迅速に対処。また、視聴者同士のトラブルを未然に防ぐための調整役」とある（だからモデレーター？そがファシリテーターと違う？！）また別に、「単に議論を先導するだけでなく、参加者の意見を引き出し、建設的な対話を促進する役割」もあり、「議論や会話の調停役（間を取り持つ役）を務める人を指す」ともある。「参加者の意見を公平に扱いながら、話し合いが脱線せず、目的に向かって進むようにコントロールする。また、参加者の多様な意見を引き出し、お互いの理解を深められるように働きかける。企業の会議や座談会、グループインタビューなどの場で、モデレーターは参加者の意見を整理しながら議論を活性化させ、有意義な結論を導き出すことを目指す。」とある。考えてみれば、最近の私は、ズームを使った幾つかの交流（教育協働アカデミー）等を行っているが、おそらくそれは、ここで言う「モデレーター」としての参画なのかもしれない（もちろん、スキルはともかく？）!!

○やっと出て来た「御上先生」評！一線を越えている？

一応、「教育」を生業にしてきた身（教育分野の大学教授）として、今回の日曜劇場（TBS番組）は、これまでのドラマ視聴とは、かなり異なる（複雑な？）受け止め方をしている。その場面設定（背後）といい、テーマ（事件？）のリアルさといい、これまでの類似番組とは、大いに様相を異にしているのである！番組案内には、「子供が生きる『学校（私立高校）』。大人がもがく『省庁（文科省）』という一見別次元にあるこの2つを中心に展開。未来を夢見る子供たちが汚い大人たちの権力によって犠牲になっている現実、そんな現実に一人の官僚教師・御上孝（松坂桃李）と、令和の高校生たちが共に立ち向かう、教育のあるべき真の姿を描く大逆転教育再生ストーリー」とある。

まだまだドラマの展開は未知数なので、それを見届ける必要があるが、ここで触れておきたいことは、この「御上先生」にはモデルとなった教師がいるということである。同作の「学校教育監修」にも携わるK氏（65才）で、「金八批判」をメディアで公言してきた教育者：金八先生の「弊害」で生徒に過剰に寄り添う教員が増え、当時のK氏は子供たちは与えられることが当たり前になったと実感：生徒の目線に立つことは大切：でも、教師は導くのが仕事で、一から十まで答えを与えればいいわけではない。行きすぎがあると、生徒は自分で考えなくなってしまう。自らの意思で行動する主体性を失った子供の増加に危機感を覚え、教育現場の改革が必要だと痛感した：」とあった。

山形県と東京都の公立中学校で教鞭を執りながら、少しずつ教育改革を進め、10年ほど教育行政に携わったK氏。2014年に着任したT区立K中学校（東京）の校長時代には、400項目以上の教育改革を実行して、全国から注目された人でもあるらしい（その後、YS中学校・高等学校校長に着任され、現在は、「教育者」という肩書。その経歴や具現化された施策（改革）を見ると、ただただ驚くばかりであるが、ちなみに、それに付き合った？関係者達が、K氏のことをどう評価しているのかは、私には分からない（本当はそれを知りたい！）？よくある「マスコミヒーロー」であって欲しくないと思うのは、私だけであろうか？！

（井上）

○テセウスの船！何故これが、問題とされるのか？

先号で、迂闊にも知ってしまった「シンギュラリティ(技術的特異点)のことであるが、実は、そこには、「テセウスの船」と呼ばれる興味深い観点があるようである！すなわち、それは、「パラドックスの一つであり、テセウスのパラドックスとも呼ばれる。ある物体において、それを構成するパーツが全て置き換えられたとき、過去のそれと現在のそれは『同じそれ』だと言えるのか否か、という問題(同一性の問題)をさす。」ということらしい。以前、どこかのテレビ番組で、そのタイトルを冠したドラマを観た記憶があるが、その時は、何のことかよく分からなかったが、どうやら、それも、これに関わっているらしいのである!!

それはともかく(詳しいことは分らないので)、件の「技術的特異点」とは、「汎用人工知能(AGI:artificial general intelligence)、『強い人工知能』人間の知能増幅などが可能となったときに起こると言われる出来事。自律的に動作する優れた機械的知性が一度でも創造されると、機械的知性が自らバイジョンプアップを繰り返し、人間には想像が及ばないほど優秀な超知能が誕生するという技術哲学的な主張で、その人智を越えた機械的知性は文字通り人間の理解の及ばない原理で動作し、設計され、更に高度な知性を生み出していくかもしれない」とある。

要は、「AIが、人間の能を越える？」ということであるが、その可否はともかく(可能ではあるらしい!)、それによつて実現される世界、あるいは人間の自分自身性(アイデンティティ)がどうなっていくのかが問われるわけである(→2040年問題！単純に考えれば、AIと人間との関係性の問題だが、AIを創り出した人間が、そのAIの自律性(意思?)によつて、どのように変わっていくのかである!!ただ、それは、個としての人間(＋AI)と、全体としての人間社会(＋AIネットワーク)とでは、まったく様相を異にする?蛇足ではあるが、「テセウスの船」は、あくまでも認識の問題(記憶と自意識)である!!

○(後期)青春の意味?そこに欲しい「疾風怒濤」!!

表にある、北大の「恵迪寮」のことで、私堂本も、こゝで書いておきたいことがある!それは、「(後期)青春の意味」である!青臭い(恥ずかしい?)し、それについては、数多の先人達が想ったり、書いたりもしているのだ、今更にはあるが、ただこの齢になつて思うことは、今の若い人達には、同じように青春時代はあるが、それがもつ本質的な意義(後期青春もあるということ)が、ひよつとしたら消え失せて(奪われて?)いるのではないかということである!端的には、そこまで享受する機会(場と時間)が与えられていないということであるが、「大人」になることを急かされている(だから、弱い生き辛くもなっている?)!!

余談ではあるが、私は、学生寮時代に、「疾風怒濤(シュトルム&ドラック/嵐と大波(衝動))」という言葉に出会つた!そして、妙に気に入つていた!後から知つたが、それは、18世紀後半のドイツにおける革新的な文学運動(古典主義や啓蒙主義に異議を唱え、「理性に対する感情の優越」を主張し、後のロマン主義へとつながっていったとされる)であつた。〈短歌に託して過去と未来の間にて?〉

・学生寮 若気の至りあればこそ

その後の己おれなす! そは今も変わらじ?

・モデルレーター? コーディネーターや

ファシリテーターと どう違う?

・文部官僚が 高校教師に?

その背後とリアルに エンタメ超える?

・やつと分かつた テセウスの意味?

パラドックスだが、どうしてこんなものを?

・青春とは ある意味深くて暗い河?

だが渡り切らなくては いけないのだ!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕(46)〜

○こゝからは、九州での隠れた事績を追つ!その1ー

以上、繰り返すように、こゝでは、「近畿大和か、九州か?」というような、単純な「著者の一人的な史実解明のスタンスは、その真の姿を見失つてしまつた」ということであり、「記紀」が示す「高天原神話(八岐大蛇退治や「出雲の國譲り」等を含む)」「天孫降臨」「日向三代」、そして「神武東征」等(これらは、すべて九州にあるいはそこからのものである?)も、そうした視点での解釈が求められるということである!しかも、神社伝承(神名等を含む)や地名の同一、類似性等は、まさに、「九州」と「近畿大和」との関係が如実に示している(ただし、そこに、「吉備」「出雲」「近江」「丹波」等が介在しているとは言までもない)!!

ということで、先号(45)では、かなり大きな結論してみたところまで述べたが(まだまだ解明のクリアさは今一つなのであるが)、その基本的な枠組みは示すことができたのではないかと思われる(あくまでも目満足かもしれないが?)!!そこで、こゝからは、これまでの建国史論議ではあまり触れられていない?、ある意味では九州だけでの隠れた事績・動きを、可能な限り追つてみることにしたい!だが、それは、あくまでも倭国(→日本国全体の歴史の解明の一環であつて、一地域の局所的、限定的なそれ(いわゆる「地方史」ではない)もちろんそういう要素もあるにはあるであろう?)!!

そこで、まずは、『百濟本紀』に見える『日本書紀』に挿入されている「日本貴国」について考えてみたい!何故なら、その国は、先に述べた「筑紫倭国と豊国倭国」の並立と相剋の前段階のものと考えられるが、要は、神功皇后、武内宿禰、仲哀天皇、そして応神、仁德天皇等が繰り広げたとされる、かの「空白の4世紀」の時代の表舞台になつたところだったのではないかということからである!!ちなみに、その貴国については、『日本書紀』神功皇后摂政46年(紀年では西暦246-366?年、百濟王の使者が卓淳国 現在の韓国慶尚北道大邱市近辺)に至り、その「日本貴国」への道を尋ねたとの記事があるようである。(つづく)

(堂本本)

〔編集後記〕寒い日が続いたが、やつと温かい月(弥生)を迎えることが出来る?積雪に悩まされている人達には、大変申し訳ないが、一刻も早い春の到来を待つのみである!地域が違うと、とかく「〇〇ファースト」となりがちであるが、互いのファーストを認め合うことが、まずは必要!!

(井上ノ堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 47 号

発行日
2025. 3. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○為政は、取引(＝ディール)という名のカードゲーム？

先日、何とも言えない「幻滅」の光景を、目の当たりにした！本当は、そういう光景(事象)は多々あるのであろうが、直接見たのは初めてであつた！とにかく、そこには、正義(公正 Justice)の国の片鱗もなかった(単なる『取引(＝ディール)』という名のカードゲームのプレーヤー)のよう？！これが、今の斯国の姿だと言え、そうなのであろうが、余りにも酷かつた(露骨すぎる！たゞ偶発的であつても？)！！

もちろん、斯国の多くの人々はそうではないであろうが、憂慮すべきは、そうした現実の為政が、そうした人々によって担われている(しかも、一応選挙によって選ばれている！)！まさに、そのことである(そういうことではないであろうが、私には、そのように見えてしまう！)。だが、冷静に捉えれば、実際の為政というものは、ある意味では「取引(＝ディール)」であり(外交であれ、内政であれ)、そうでなければ、数多の難問・課題は解決されない！！それが現前の真実であり、そのことは、多くの人が、残念だが承知はしている！！

とは言え、その難問・課題が、こと(多くの)人間の「命」に関わるものであれば、「取引(＝ディール)」だとか、「カードゲーム」だとか、そんなことは、言つてはおられないはずである！そういうことは、過去の悲惨な経験により、人類共通の、そしてまた未来永劫の価値(正義？)となつてはいるはずである！だから、今回のそれが、図らずもそのような価値を逸脱(凌辱？)しているとすれば、それは、何よりも、今後の人類そのものの危機となる！賭けや損得だけで、人類はここまでできたのか？「ホモサピエンス(賢い人)」よ！どこへ行く？そんなことさえ思わせる次第である！！

○果てのない「理想と現実の間」！理想の役割？

これもまた、ある意味では哀しい路傍の弁とも言えるが、今の世界は、果てのない「理想と現実の間にある」とも言わざるを得ない？ただし、残念ながら、その「間」自体は、どこの社会も、いつの世も存在するものではあるので、今更嘆いても仕方がない！それが、多くの、そして名も無き人々の「運命(きまつた)」なのかもしれない！！だが、たとえそうであつても、ただただ悔しいのは、その理想と現実の間が、時々、為政者やそれを支持する上層部の判断(恣意？)次第で、予期せぬ深淵を招くということである！

けだし、これについては、これ以上のことは書きたくないが、ここで想うことは、そうした事態が、己の意思や行動の結果(例えば選挙)であるならば、それはそれで甘受しなければならぬ(自業自得？、それが、まったくの、自らの与りもしないものであるならば、何とも歯痒く、怒りさえ覚えるものとなる！あまつさえ、ひどくなる一方の現実を目の前にして、そのことを忸怩たる思いで傍観していく他ない人間が生まれていることなど、ほとんど忘れ去られてしまうということである！！

時たま、その悔しい現実の一端が暴かれたりすることもあるが、それは氷山の一角であり、しかも、そういう光景には、却って嫌悪感が募る！何故なら、忘れてならないのは、そうしたものは、特定の人間や組織の利益や思惑から生まれているのではなく、今を生きている、それこそ全ての人間の合わせ業でもあるからである！！だから、「理想」は、常に、その「現実」と共になければならぬのである(回避したり、非難したりするだけではダメだということである！！)！

○何も言うことはない！否、言えない！

もう、随分時間も経つたし、何よりも哀し過ぎることであつたので、改めてここに書くことは、本当に憚れるのであるが(ただし、これを書き始めたのは直後であつたが！、知ってしまった以上、何も残さないのは、逆に許されない？とも思い、少しだけ書いておくこととする。それは、「坂本しのぶさん」という人の話である！ただ、それについては、今の私には、「何も言うことはない！否、言えない！」ということ、ここでは、それを知つた経緯だけを書き記しておきたい。

しかるに、それを知つたのは、2月24日(月)、いつもの遅い昼食を、我が奥さんと取つていた時であるが、かけていたテレビ(NHK総合)で、ある番組が始まつた。それは、「ETV特集」とあつたが(おそらく再放送？調べたら、初回放送日…2025年1月18日であつた)、タイトル(「坂本しのぶさん 誰か私の声を聞いて」)がヘビーそうであつたので、観るのを止めようと思つたが(最近、よくそうしている？)、結局は、最後まで観てしまつた！否、観るのを止められなかつたのである！何がそうさせたのかは、一応自分自身で分からないわけではないが、それを書く、陳腐ともなるので、ここでは敢えて書かない！

だが、それはともかく、番組内容は、「坂本しのぶさん、68歳。母親の胎内で有機水銀に侵され、生まれながら水俣病を背負つた『胎児性患者』『水俣病の象徴』として生きてきた。私(吉崎健二)レクター」がしのぶさんと出会つたのは34年前。以来、継続して水俣の取材を続けてきた。去年、しのぶさんから、もう一度自分を撮つて欲しいと言われた。しのぶさんが今伝えたいことは何か。坂本しのぶさんの生き抜いてきた半生をたどりのぶさんの心の声に耳を傾ける。」とあつた(ネット情報より)。ということ、この番組は、「私(吉崎)」と「坂本さん」との、長年に亘る取材・交流を描いたものということであるが、そこに映し出されている様々な出来事、人との出会い、本当に胸を掻き毟られるものであつた！もちろん、これは、決して悪い意味ではない！ただ、とにかく今は、彼らは、少しでも報われて欲しい！思ふのは、それだけである！

(井上)

○「世界線」というものがあるらしい。

話は変わるが、最近、「世界線」(World line)という言葉に出会った。もともと科学的・SF的な背景をもつ専門用語で、アニメやオタク文化を通じて広く知られるようになり、今では若者言葉として、日常会話やSNSでも気軽に使われているようである。余談ながら、過日、若い卒業生達が訪ねて来たので、そのことを聞いてみたが、結構普通に会話に取り入れているということであつた！調べてみると、「現実から少しズレた状況や可能性」をイメージする言葉として活用されているらしい!!

改めて、それは、「パラレルワールドや時間軸の概念、さらには相対性理論や量子力学などの科学的視点も押さえておく」とより深く楽しむことができる。…世界線が唯一絶対のものとは限らない。そんなロマンあふれる発想が、…新鮮な驚きや好奇心を与えているのかも。もし日常で『こんな私の知っている世界線じゃない!』と感じることがあつたら、…『世界線』の話で盛り上がる絶好のチャンス。ぜひ多彩な解釈や用法を楽しみながら、言葉の広がりや体験して…とあつたが、ある意味、それは、現実世界では、ある種の「タブー(禁忌)」である「たられ」を、自分達の身(内なる現実)に抱き込むことも言える!!

いずれにしても、「こうした表現は、私たちの生活とSF的発想を結びつける興味深い役割を果たしている。だが、若者言葉として広まりつつある一方で、…物理学的・SF的な元の意味が薄れてしまうという懸念の声も…ただ、言葉は時代とともに意味や使い方が変化するもの。オタク用語から一般化していく過程で、新たな使い方や解釈が生まれるのは自然な流れ…『世界線』という言葉は、時間の流れや空間の広がりを超えて、個人や物体がどのようなルートを取ったのかを示す意味合いがある」のである!だが、この言葉を、オタク・若者達が好んで使うには、それ以上の理由がある?それは、眼前の現実と自分を、常

○時代を象徴する5つのキーワード? 「AI」は何と?

ところで、上記とも関わるが、今を象徴するキーワードとして、「インターネット、コンプライアンス、豊かさ、結婚、戦争」の5つが挙げられていた(ある新聞記事)!その適否はともかく、そう言われれば、まさしくそうなのか? 知らないが、それらは、一体どのように関係しているの生達が訪ねて来たので、そのことを聞いてみたが、結構普通に会話に取り入れているということであつた!調べてみると、「現実から少しズレた状況や可能性」をイメージする言葉として活用されているらしい!!

改めて、それは、「パラレルワールドや時間軸の概念、さらには相対性理論や量子力学などの科学的視点も押さえておく」とより深く楽しむことができる。…世界線が唯一絶対のものとは限らない。そんなロマンあふれる発想が、…新鮮な驚きや好奇心を与えているのかも。もし日常で『こんな私の知っている世界線じゃない!』と感じることがあつたら、…『世界線』の話で盛り上がる絶好のチャンス。ぜひ多彩な解釈や用法を楽しみながら、言葉の広がりや体験して…とあつたが、ある意味、それは、現実世界では、ある種の「タブー(禁忌)」である「たられ」を、自分達の身(内なる現実)に抱き込むことも言える!!

いずれにしても、「こうした表現は、私たちの生活とSF的発想を結びつける興味深い役割を果たしている。だが、若者言葉として広まりつつある一方で、…物理学的・SF的な元の意味が薄れてしまうという懸念の声も…ただ、言葉は時代とともに意味や使い方が変化するもの。オタク用語から一般化していく過程で、新たな使い方や解釈が生まれるのは自然な流れ…『世界線』という言葉は、時間の流れや空間の広がりを超えて、個人や物体がどのようなルートを取ったのかを示す意味合いがある」のである!だが、この言葉を、オタク・若者達が好んで使うには、それ以上の理由がある?それは、眼前の現実と自分を、常にどこかで峻別しておきたいというたかさも!!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑦

○ここからは、九州での隠れた事績を追うーその2ー

しかるに、この「日本書紀」(中心は「舊事本紀」)は、おそらく、この「高良大社」(高良玉垂宮)の存在と大いに関わっているが、紀氏/開化天皇/老松神社/松野連氏との関わり、ある時期(邪馬台国連合衰退後)、倭国の中心をなしていた(記紀)は、大和政権の九州駐屯地のような扱いをしているが? したがって、百済や、他の南韓地域の国々が、その地を確認しようとしていた? として、新たな関係を結ぼうとしていた?!

だが、その「高良大社」(書国を宮む)に関わって、一方で、どうにも気になるのが、「阿蘇」との関係である! と言うのも、その地域、つまり筑後の名族とされる「蒲池(もみ)氏」(最初の「柳川城主」)が、阿蘇と関係があるらしいのである! すなわち、「祖(もみ)蒲池」と呼ばれる古族(阿蘇祖)が、阿蘇の「蒲池比咩(もみ)氏」(「阿蘇神社」の「元宮」とされる「国造神社」/北宮)の主祭神の一人(「阿蘇の母神」)を祖とする(と伝わっており、その古族が「水沼氏族」と重なっているというのである)さらに、その阿蘇の蒲池比咩は、かの「草部目見氏族」が奉祭する女神でもあるのである!

そして、実は、こちらの方も(が)興味深いのは、かの高良大社の「玉垂神」の名は、いわゆる「潮干珠(玉)、潮満珠(玉)」に纏わるもので、火(肥)国の伝承では、古くは、この蒲池比咩がそれを用いて、潮の満ち引きを司る「八代海の女神」とされていたらしいのである(なお、彼女自身を祀る神社が、宇平島の付け根にある郡浦(もみ)の「蒲池比咩神社」! しかも、後代において、かの「水沼氏」は「目下部氏」を称すともあり、阿蘇の祖族である「草部目見氏」も、やはり目下部氏族なのである!!

要は、かの高良大社の神職には、その「玉垂神」の裔とされる「目下部草部目見氏」(高良大社の神職には、その「玉垂神」の裔とされる「目下部草部目見氏」)があり、その地の高良山前衛部が「目見の峰」と呼ばれる(高良に蒲池比咩の祭祀氏族、阿蘇の草部目見氏族の存在が窺われるのである)ただし、この氏族には多くの系譜があり、九州の古い氏族(日向、阿蘇、日田、高良など)は、そこでの祭祀氏族とされ、しかも、本来は中南部九州の狗人(猿鹿食人)集(人)に由来するともされる!! (つづく) (堂本)

傍観するしかないまま、一方で、四季の移ろいや各種イベント(祭事・行事等)は、自らの内で律儀に繰り返されている? だが、「私を生き延びている」ということであらう!! (井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 48 号

発行日
2025. 3. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○『岳陽』と共に！この2年間を振り返る！

とうとう、この通信も、今号で48号。始めてから2年であるが、月に2度の作成であるから、こうなるのである！とにかく、よくやってきたなあと、つくづく思う（それだけ、他に何もしていないということであるが？）。思い返してみると、創刊号（冒頭）では、次のように書いていた。

早いもので、令和5年も、既に、4月半ばとなっている。昨年は、70歳ということで、「古希」に絡ませ、自らのこれまでを振り返り、次なるこれから…を展望すべく、こだわりの一年を送ったわけであるが、これを受けて、ここに、…新たな形を模索することとした。…だが、これは、言うなれば、私自身の「自分史」の性格をもつものであり、…。要は、…自分のための書き物であり、自分の生き様、来し方を振り返っていくことを主眼とするものである…ちなみに、タイトルにある「岳陽」という言葉は、単なる「峻険な二岳の間から上り出する太陽」を指しているのではない。もちろんそこには、その情景に託した、私自身の密かな想いが込められていることは事実ではあるが、そこには、もう一つ、

今となつては、誠に摩訶不思議な物語が秘められているのである！ただし、その物語については、裏面担当の、もう一人の私？、堂本彰夫氏に語ってもらいたい。…何故、私が、そのように表現したのかの理由は、そこで明かされるということである！末尾に、明後日（17日）、私（達？）は、「古希」から飛翔？する。どんな飛翔となるのか？容貌は仕方ないが、みっともない生き様だけは見せたくないものである！

多少端折ったが、まさに「古希」からの飛翔を願ったわけである。だが、二年後の今も、残念ながら、その途上にある？それは、他でもない身体的衰えのせいであるが（一日の大半がPC作業！）、これからは、その改善に努めることと自体が、新たな飛翔？となるのかもしれない！

○「卒業（式）」と「入学（式）」を考える！

改めて、今年も、変わらず、様々な「卒業（式）」が行われた！そしてやがて、「入学（式）」が始まる！4月1日が、新年度の開始であるので、そうした儀式が各種各様あるわけであるが、各段階での「入学（式）」や「卒業（式）」は、あくまでも制度的なもので、ある意味では、一人ひとりのライフステージを擬制的に装うものでもある！すなわち、それらは、段階的なライフステージ（学齢期）の終わり、すなわち「入社（式）」に繋がるものであるわけであるが（ただし、「社」は、民間の会社ではなく、大人社会の意！）、あるネット記事を見てみると（大学の入試方法関係。ただし、それは、すべての「入（学／社）試」に関わる！）、それらが何のための儀式なのかと、改めて考え込まざるを得ない？

もちろん、これは、「入学／入社」を喜ばないということではなく（そういう親・大人は存在しない！）、そこに起因している問題が、様々な社会問題を惹き起こしているということである！…ここでは、その具体を示すことは出来ないが、いじめや不登校、さらには引きこもり、一方では、学校の教職員の疲弊や離脱を生み出しているのは、ここで言う「入学」と「卒業」の不具合が原因なのではないかということである！より良い「入学」と「卒業」を求めている、言わば「幸せ獲得競争（学歴社会）」の為せる業ではあるが（緩和されてはきているが、本質は変わらず、その様相は巧妙に変化させられているとも言える）、そこで展開される教育の成果が、そのプロセスの面よりは、むしろマイナスの面で拡大再生産されているとしたら、これほど哀しいことはない！せめて最終卒業（真の「入社」）では、喜び合えるものでありたい！

○二人の「知の巨人」？それはともかく！

ふとしたことから、次のようなネット記事を見つけた！「日本人はどのように『学び』をしてきたか」（昨年逝去した『知の巨人』松岡正剛が、最期に日本人にどうしても伝えたい「日本文化の核心」とは。2025年を迎えたいま、日本人必読の『日本文化論』をお届けします。※本記事は、松岡正剛『日本文化の核心』（講談社現代新書 2020年）から抜粋・編集したものです。）である。

もちろん、詳しくは紹介出来ないが、私が、特に注目（驚愕）したのは、「模倣と協同」の重要性というところで、何とそこに、「レフ・ヴィゴツキー」と「世阿弥」の名があつたことである！教育学（あるいは教育心理学）を学んだ人は、その双方の名前あるいは理論を知っているとは思いますが、その分野の学者ではない？彼が、どうして、このようなことを知り、そして、述べているかである！流石、「知の巨人」と呼ばれる所以である！改めて調べてみると、彼は、まさに、それに違わない知識人・文化人であつた（これまでは、確か古代史関係のブログ？で見ただけ！）…ちなみに、私が、その意味での「知の巨人」と認定する（追認？否、親近感が持てる？）のは、「立花隆」と彼である（残念ながら、二人とも、今は故人となっているが！）。

まあ、それはともかく、この「レフ・ヴィゴツキー」は、かの「発達の最近接領域理論」（訳語が、直訳すぎて分かりづらいが）、「世阿弥」は、能楽書の「風姿花伝」（花伝書）で有名であるが、何故、松岡氏が、その著作の中で、この二人を採り上げたかである！私が察するに（当然、外しているかもしれないが）、前者は、学習（教育）というものは、今ある状態（これは、それまでの学習ないし教育の成果の総体とも言える）に、何かを付け加えていく（+アルファ！この部分を「発達の最近接領域」と呼ぶ）ことであり、それが、大きくあればあるほどよいということ。後者は、一種の生涯教育論であり、学びには、その時々最適な時期（成長段階）があり、そして、それを乗り越えていくためには、「模倣（真似）と協同」が必要であるということである。これは、昨今の教育／学習理論（アクティブラーニング）と、期せずして軌を一にするものでもある！（井上）

○「エンパシー」と「シンパシー」？そして…？

特に差し迫って語ることではないが、「他人への共感」の意味をもつ、二つの言葉（英語）があることを、過日確認した。それは、「エンパシー（empathy）」と「シンパシー（sympathy）」という単語であるが、これまでは、その双方の違い（関係）を、あまり意識せずに使ってきたように思う（しかも、前者は、あまり馴染みがない！）

改めて調べてみると、「エンパシー」は、「『シンパシー』と同じように『共感』という意味をもちますが、このほかに『感情移入』や『人の気持ちを思いやること』という意味があります。」とあった。さらに、「『シンパシー』が、他人と感情を共有したり、相手の心情に同調・同情することであるのに対し、『エンパシー』は、他人と自分を同一視することなく、相手の意志や心情を汲むことを意味します。」ともあった。

そこで、「人の悩みに耳を傾けるカウンセラーには、『エンパシー』の能力は必要不可欠です。」ともあったが、とにかく、「『エンパシー』は、相手の立場に立つて、相手

が何を感じているのか、どのように考えているのかを想像する能力や行為であるのに対し、『シンパシー』は相手の感情や境遇に共鳴し、『その気持ち、わかる！』と同意・同調することであると云えます。」は、現在の、個々の人間関係や、引いては国と国との関係においては、非常に大事な視点になると思われる！！

これ以上、とやかく言うつもりはないが、ひよつとしたら、現代の人間（ホモサピエンス）は、大切な「エンパシー」の能力を失いつつあるのかもしれない？（〇〇ファーストとか、「自分（国）主義」は、ある意味人間（集団）の本能かもしれないが（自己愛？）、ただそれだけではうまくいかないことは、多くの史実が示すところであり、そして、個人のレベルでも、大いに納得させられるところである！！だが、それでもなお、それをゴリ押ししようとする人間や集団（国）は出現する！どうしたらいいものか？

○百人もいる「知の巨人」？否々、数だけ見れば？！

ここでは、多少余談とはなるが、今回、ひよんなことから、「知の巨人」を調べていたら、あるネット記事（サイト）では、何と百人の巨人が並べられていた！もちろん、その記事自体は、詳しくは見てないので何とも言えないが、あの意味よくぞ挙げられたものである！という基準でそう言ったのは、もちろんこれもよく分からないが、とにかく、そういった人達が、これまでの「知の蓄積」に、大いに貢献したことだけは確かであろう！！だが、数だけで言

えば、今や、AIを含めて、それこそ無数の巨人が存在している！そして、我々は、そうした無数の巨人達が作り上げていく「知の蓄積」の恩恵を受けている（招かれざるものを含めて）！！だが、当然、問題は、そこでの「知のあり方」なのだ！少なくとも「巨人」と呼ばれる人達は、その「知のあり方」に貢献している人達なのだ！それは、一言で言

えば、知の「体系化」であり、人間の存在や活動を有意義化する「人間（文化）化」であろう！！単なる物知りや自己顕示欲ではないということである！！

・「古希」からの飛翔？叫んでは見ても芳しくなく！それでも思いは続け！

・卒業と入学 それぞれの段階で意味（喜び？）はあるが断続ではいけない！

・「知の巨人」は分かっていた「模倣と協同（働）」の重要性！それは何故？

・「エンパシー」と「シンパシー」！似てはいるが力になるのはエンパシー！！

・「知の巨人」！こんなにいてもこんなもん？数でなければ 何を見る？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕④

〇二〇からは、九州での隠れた事績を追つてその3ー

ところで『日本書紀』では、第17代「景行天皇」の妃である「襲の武媛」が生んだ「国乳別（くまらわけ）皇子」を水沼君の祖とするが、襲の武媛とは熊襲の女であり、その熊襲の女と、先の蒲池比咩が重なることはないか？！太古の蒲池比咩の記憶が「襲の武媛」として蘇ったものなのか？加えて、かの「大善寺玉垂宮」（高良大社）の大祝も「隈氏」である。一方の「高良玉垂宮」の神職にも「神代（みよ）氏」という氏族がおり、隈（くま）とは狗人（くま）にまつわるもの！そのため、例えば、「大善寺玉垂宮」の神事「鬼夜」は、壮大な火祭りと言われるが、それは、阿蘇神社の「火振り神事」とともに、九州を代表する火の祭祀でもあるとされるのである！！

しかるに、その火の祭祀こそ、火（火）の氏族の神事を彷彿とさせるのであるが、そこに隠されている「高良玉垂神」の謎とは、高良に持ちこまれた中南部九州の狗人（くま）の神祇が、時代代の為政者の手によって忌避されたということの結果なのかもしれない（「あらかし」より）？ いずれにしても、かの高良山一帯では、古くから諸族の出会い、移動に伴う同化や統合が行われる中で、阿蘇の目下部氏族など、中南部九州の狗人（くま）の神祇が持ちこまれた様子も見られるわけである（ちなみに、815年の『新撰姓氏録』では、目下部氏族は「阿多御主大善同祖、火

閼降（かみり）命之後也」とあるらしい！阿多とは南九州（隼人）の中核である！！）ただし、阿蘇地方には、例の「多氏」が絡んでいることを忘れてはいけない！すなわち、「多氏」は、以前にも述べたように、神武の、大和での長子「神八井耳命」の後裔氏族とされるが、その子「健甕（けんさ）命」が阿蘇に下向し、阿蘇神社主祭神となつていたのである！なお、その子の「速瓶玉（はやびんぎ）命」（阿蘇国早大神）は、阿蘇神社では十一宮に奉斎されるとともに、後の蒲池比咩命（海神の女神？郡浦神社主祭神）こと「雨宮媛（あめみやのひめ）命」と共に、「国造神社／北宮」の主祭神となつている。そして、彼らの子が「高橋（たかはし）神」であり、「火宮（ひのみや）神」（こちらは、例の高良大社の祭神または神職につながる神？）である。ここに、「多氏」と「目下部氏」、そして「沼氏（ぬまの）氏」が合わさってくるのである！！（つづく）（堂本）

〔編集後記〕明後日から新年度である！私達には、最早関係のない区切りではあるが、社会は、次なる胎動を始める？だが、そこには、新たな試練（覚悟？）も待っている！！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 49 号

発行日
2025.04. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「思索（＋愛煙?）」の場としての、我がベランダ！

改めて、過日、新しい年度が始まった。最近、繰り返し同じことを述べていると思うが、世間の「年度替わり」は、ほとんど感慨も湧かない！就労者や学生達には大変申し訳ないが、私には、変わらぬ日常が過ぎていくだけである！そんな中、戯言と言われればそれまでであるが、生活者ではある高齢者の節目感受として、ここでは、今の自分のスタートであった、我がベランダのことを振り返っておきたい。

というのも、この「新通信」も含めて、そこでの思索（＋愛煙?さらには来訪者達が、この間の私を癒し、不本意退職?後の我が人生を救ってくれたのである！尤も、近年の私は、遠望の東シナ海（湾）やその手前の街並みには、ほとんど想いを寄せることもなく、移り行く季節を、淡々と見遣つているとも言える（慣れてしまったということである?）！ある時期は、季節の野菜をプランター栽培していたのでもあるが、それも、今はやっていない！壁の内側の一角に、鉢植えの草花があるが、枯れないように水をあげるだけである！

ただし、それも含めて、そうしたことが出来るのも、ただただ、ある人のお陰である！偶に、嫌みの一つも言われることもあるが、それは事実なので仕方がない！日中は、ほとんど2階と1階の住み分けということで、程よい関係となつていと思うが（手前勝手?）、衣食住全ての面で、その人の世話になつていたのである（いわゆる「居候状態」?笑！）！
自称「しがない文筆家」としては、こうするしかないのであるが、今日も、パソコンとのにらめっこが続いている！久しぶりの穏やかな天候である！海に向かうの水平線が、薄青の空と紺青の海を隔てている！まさに春なのである！

○「普通」再考? 「一律」は平等か?

さて、かねてより、私は、「普通（の上等）」の意義を唱えてきた。そこで、昨今の、教育における「無償化」の動き（高校の授業料、給食費等、もちろん、これだけではないが!）に関わつて、そのこの意味を再考してみたいのである。物価高騰等の諸般の事情があつて、様々な生活支援が必要だということは分かるが、そこに導入される「一律」という考え方に、かなり異論があるのである。もちろん、「無償化」とか、「社会的救済」とか、そういう言わば「正義（公正さ）」が悪いということではない。それは、必要な形で、実行されるべきものでもある！

だが、疑問は、「何故一律?」ということである！社会的公正（平等）を担保するという大義があるように見えるが、実際は、困窮度とか、得られる実質的な救済内容を考えなければ、ほとんどその甲斐はない（単なるバラマキ?税金の無駄遣い?）! 「福祉国家」という理念があるが、それは、社会的な不平等を「公共（税金）」によつて、可能な限り解消していくことでもある！現実（資本主義・自由主義社会/特に経済・生活面）では、どうしても「上部と下部」をつくり出してしまつてからである！

まさに「格差」の問題（それを無視あるいは放置、さらには増大させる現実がある!その差は無限に広がる!）ということであるが、そこに目を向けなければ、むしろ仇となる?そこに「無償化」の意義があるのであるが、それが一律であれば、その「格差」の是正にはならない!消費税もそうであるが、ある意味平等とは、社会の「普通」の質と量を上げることを目指すスタンスでもある!!

○「学校と家庭の共依存」!そこから如何に脱出すべきか?とここで、先月（3/26）の地元紙に、「学校と家庭が「共依存」、「保護者と相互理解必要」というヘッドラインで、興味ある記事が載つていた（「焦点/争点（3月）」。普段は、あまり真面目な購読者ではないが、読んでみると、いろんなことを考えさせられた。何でも、「卒業、入学と年度の変わり目は子どもたちの将来が気になる時期だ。論壇の各誌では教育や学びに関する論考が目立った。」とある。

まず、最初の記事『世界』4月号）であるが、そこでのキーワードが、「学校依存社会」とあつた。ある大学教員の論考であるが、「教員の長時間労働がはびこる背景には、過剰な業務負担によつて社会全体の安定が保たれる状況がある!学校依存社会」として、その問題の解消は急務だが、それだけでは問題は解決しない」とあつた。ある事例を下に、その「共依存」の実態が示された後、「教員がこれをやめたとき、母親に負担が移るだけになりかねない!教員と保護者は相手のことをほば何もしらないとして、まずは『お互いを知るところから始めよう』と訴えた」ともあつた。全くの同感であるが、次の、日本の子ども達の「自己肯定感」についての記事『Voice』4月号）では、「日本の子どもに『正しい肯定』を」と題する論考を挙げ（一般に日本の子ども達は、自己肯定感が低いとされている?）、「褒めるときは何が良かったかを具体的に示し、結果よりそこに至るまでの過程を評価する。肝に銘じておきたい助言だ。」ともある。

これまた全くの同感であるが、興味深かつたのが、「教育こそ最高の経済対策」（「文芸春秋」4月号。実業家や大学人6人による提言）で、ある提言「米国のGAFAM経営者らは学びを楽しむ課題を見つけ、事業を立ち上げた」と強調する」として、「技術の発展は低コストで豊かな生活を皆にもたらしうる。経済合理性が重要ではなくなったとき、人を動かすのは『パッション』。自発的な探求心であり、その時は教育の意味も大きく変わる」とある。誰が書いた論評かは分からないが、セットの記事には、末尾に執筆者の名前があつたので、彼かもしれない（社会部T氏）!!これからも、「社会の木鐸」として頑張つて欲しい!（井上）

○「考え（続け）ること」の意味！それは何のため？

先号で、井上氏（妙？笑）は、松岡正剛さんの『日本文化の核心』（講談社現代新書 2020年）から抜粋・編集されたネット記事を紹介した。そこでは直接触れられていなかったが、「世阿弥は、『まねび』を稽古することをもって『まねび』に近づいていく（古きを考える。古きは『もともと』の意）ことを『まねび』とした」ということである。「日本で、武芸に限らず多くの分野で『道』という文字が使われ、職人芸や『匠の技』が強調される背景には、日々国を、そして他でもない、他国を攻撃しない、させないという活動の中で『守破離モデル』が無意識に回り、自己実現への思いが貫かれている」というのである！

ところで、先月、かの『御上先生』（テレビドラマ）が終わった！大いなる反響を呼んだようであるが、その最大なものが、まさに「自分の頭で考えること」の意味（重要性）でうしてそうなるのであるのか？特異な国、特異な人物の、あつた！ただし、やはりエンタメではあつたので（最後は痛快であつた！多くの視聴者は、不正が暴かれることにスカッとしたことであろう）、私自身は、かなり複雑な思いであつた！要は、子ども達（この場合は高校生）が、目の前の現実を目を背そうなると、ホモサピエンスの危機ともなる！！

○危うし？民主主義国家（群）のパロメーター？！
今回もまた、表面の井上氏の論調に触発されて？（笑）、若干社会派ぶつた（似非？）ことを書いておきたいと思う。それは、国内外の、言わば相変わらずの憂鬱な事象を受けることであるが、まがりなりにも、現在の我々（ホモサピエンス）の生活（生存）理念となっている、基本的人権の保障（人権国家とか、社会的弱者の保護・救済（福祉国家）、教育を受ける権利（子どもの意見表明権を含む）の保障（教育国）、そして他でもない、他国を攻撃しない、させないというルールの保持（平和国家）がある国、ある人によって、かなり脅かされているということである！

当然、それらは、まさに「民主主義国家（群）のパロメーター」ということになるが（他にもあるとは思いますが）、ど

うしてそうなるのであるのか？特異な国、特異な人物の、あつた！ただし、やはりエンタメではあつたので（最後は痛快であつた！多くの視聴者は、不正が暴かれることにスカッとしたことであろう）、私自身は、かなり複雑な思いであつた！要は、子ども達（この場合は高校生）が、目の前の現実を目を背そうなると、ホモサピエンスの危機ともなる！！

・「共依存」 弊害説くだけでは 十分でなし！！
そのあり方を 具体で示せ！

・「考えること」！ たたそれだけであれば哲学者？
要は「何のために」 そうするかである！

・「考えること」！ たたそれだけであれば哲学者？
要は「何のために」 そうするかである！

・民主主義国家のパロメーター？！
幾つもあるが 今やすべて危うし？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕（49）

○ここからは、九州での隠れた事績を追うーその4ー

ということで、改めて、「多氏」のことを追及する必要があるわけであるが、その前に、神八井耳命（多氏の祖）のことを整理しておく必要がある。うーただし、その神（氏族）は、真に厄介な神（氏族）である！言うのもその神（氏族）は、「東征」後の神武の、近畿大和での長子とされるが、その母親は、次子の「神沼河耳命（かみかみ）命（第2代磐余天皇）」と共に、出雲神「事代主神」と三嶋瀧敷耳（みきみ）の娘の「玉櫛媛」との間に生まれた「媛姫五十鈴媛（みきみ）命」との間の子であるからである（なお「東征」に同行した、日向？での先妻の子もいるー多岐耳（たきみ）命等。

ここでは、そうした事情や、彼らの皇位継承の経緯については割愛するが、その神八井耳命（多氏の祖）の子とされる「健甕龍（けんそうりゅう）命」が、何故阿蘇に下向したのかである（ちなみに、彼らは、信州・隠方面にも進出している）。しかるに、神武東征以降？、人や文物の「西への移動」は確実にあつたようである（その証拠の一つが、日田の「小迫・辻原遺跡」で、そこには当時の近畿・出雲の土器が数多く搬入されているらしい）。だから、それが、この多氏の九州進出と関係があるのなら、そのことを、改めて考察してみ

る必要があるのである（吉備で発生し、近畿・近江で大同団結した「前方後方墳／手焙形古墳勢力」の西への移動、否、回帰？！その痕跡の一つが、例の「吉野ヶ里遺跡」に残されていることは、前にも述べた通りである！

であれば、直接には「吉備」から出立した「多氏勢力」（淀川水系？）と「物部氏（饒速日）勢力（天和川水系）？」こちらは「前方後方墳勢力」が途中から袂を分かち、その主導権争いに負けた多氏勢力が、東西に散らばっていったと捉えれば、神話のストーリーとも合致するのだが、神八井耳命（多氏）にしろ、神沼河耳命（物部氏）にしろ、彼ら（の部族・勢力）は、神武（九州南部？勢力（鴨族？）と出雲（の一部勢力？）和漢族？）との婚姻（同盟）関係で生まれた御子とされているわけであり、彼らの部族・勢力が、最初の大和主権（三輪山麓）の中核であつたことは、ほぼ間違いないであろう（↓天和・柳本古墳群（地域及び「葛城地域」）？（つづく）（堂本）

〈編集後記〉 明後日で、満73歳！これからは、後期高齢者へとつき進んでいく！どんな日々が待ち受けているのか？取り敢えずは、今まで通り！やれることを、やっていくしかない！ちなみに、運転免許の更新は終わった！

（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 50 号

発行日
2025.04. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○久々の「じのん(宜野湾) 逍遙」？突然、あの時が！

とうとう、今回、記念の50号を迎えた！とは言え、私の生活は、あの時から何も変わっていない！身体的な変化(下半身の不具合や運動機能の低下、体たらく)は、自分でも嫌気がさす程ではあるが、心穏やかな日々が、今でも変わらず続いている！2年前倒しの依願退職後、ここ宜野湾市大謝名の、海が見える高台に引っ越してきてからである！9年前のことである(正確に言うと、9年半前から)！

ところで、先日、ひよんなことから、かの懐かしい？「じのん(宜野湾) 逍遙」を行った！要は、久しぶりに一人で、地元散策(そぞろ歩き)をしたということであるが、歩いた場所は、県のコンベンションセンターの周辺であった。いつもならすぐに、海側(トロピカルビーチ)に出るのであるが、今回は、何故か、その敷地内に足を踏み入れたのである！そこでであるが、いつもは見過(こ)していた建物(劇場棟)の裏(海側)のガラス張りの部屋に、何か見覚えを感じたのである！それが何であったのか？

しばらくそれを探したが、突然、ある光景が蘇ってきた。そうだ！そこは、20年以上前に(平成15年)後で調べてみた、かの「全国生涯学習フェスティバル沖縄大会」が開催された所であった。私は、その時に、実行委員？の一人として、同フェスティバルのメイン？(フォーラム)をMC担当したのである！様々な想いを胸に、会場一杯の参加者、そして、協力を依頼した、名だたる実力者(かのM先生も！)と共に、熱く語ったものである！だが、それもまた、遙か昔？のことである！学部長の時に参列した大学の入学式・卒業式も、同センターだったのであるが、感傷としては、格段に違う！！

ばよいのである！どこかの大統領に聞かせたい！

○「肩代わり」ではなく、「肩を貸す」？！

さて、またしてもテレビドラマのことで恐縮であるが、「4月の新生活がスタートする時期に、どんな人生を選び、そして目の前の誰かの人生にもエールを送りたくなくなる」ということで始まっているのが、火曜ドラマ「TBS系「対岸の家事」これが、私の生きる道！」である。「専業主婦と働くママと育児中のエリート官僚パパ。価値観がまるで違う『対岸にいた人たち』(様々な夫婦・子育ての形！)が見せる化学反応！」(ネットの番組案内より)。まだ、3回しかみていないが(執筆時点、数少ない「推し」のドラマとなることであろう)！

なお、このドラマの原作は、「朱野帰子」という女性脚本家(小説家)の作品(2018年8月刊行/文庫版は2021年6月。いずれも講談社)である。で、「出会うはずのなかった3人はぶつかり合いながらも、共に家事に立ち向かっていく！」というところで、登場人物の、それぞれの思いや立場がリアルで、現代の若夫婦達の苦悩には、身につきまされるものがある！テーマや場面設定については、まったく実感のないものと思っていたが(旧世代の宿命？)、なかなかそうでもない！様々な示唆(おかしな物言いはあるが！)があるのである！

ちなみに、今回面白かったのは、協力のし合い？の中で「肩代わり」ではなく、「肩を貸す」ということの大切さである！なかなか妙味な表現である。何でも、「カネ」で考えるな！お互いに来ることを、それなりにやり合えばよいのである！どこかの大統領に聞かせたい！

ばよいのである！どこかの大統領に聞かせたい！

○イカに教えられる？それは、イカすものなのである！

ところで、これもまたテレビ番組からであるが、そして、かなりの日数が経ってしまった(「NHK番組「サイエンスZERO」初回放送日：2025年4月13日)、「イカはいかに生きるか？驚異の生存戦略に迫る」が、大変興味深かった！「熱帯から深海まで、世界中の海で大繁栄している『イカ』。体の色を自在に変化させ、敵をあざむく、擬態の達人なのだが、実は、最新研究から皮膚の色・パターンを仲間同士のコミュニケーションに使ったり、群れの中で視覚を共有している可能性(超個体視覚？)など、驚きの生存戦略が明らかに。白亜紀の隕石衝突など、数々のピンチを乗り越えてきたイカの生き様を知ると、明日から私たちがいかに生きていくべきか、そのヒントが見えてくる！」とあった！

もちろん、私が注目したのは、そこで紹介されていた、イカのコミュニケーション能力や視覚を共有している可能性(超個体視覚？)である！とりわけ、その「超個体視覚？」には、驚愕さへ覚えた次第である！「イカ類は群れを作るが、イカ類に特異的な巨大脳が群れ形成にどのように関わるのかという脳の制御機構は詳細にされていない。本研究はこの点に着目し、アオリイカを対象に『イカ類の視覚制御に関わる脳領域(視覚の量的左右差、および利き眼に現れる視覚の左右差、すなわち脳と視覚の左右性とその時間変動(ゆらぎ)が、群れの視覚機能に関係する』という仮説を立て、行動学的・解剖学的に検証する」というものであった！

本当に、最近、こうした、今まではとても考えられなかった(我々が知らなかっただけでも思える)研究成果が、あらゆる分野で出されてきているようにも思える？その意味では、次なる時代区分に移行しているのかもしれない？近代とか、現代とか、一応は、これまでの時代区分が通用してきたわけであるが、それを超えた命名が必要なのかもしれない？まあ、そう残ったのは、その研究成果が、沖縄科学技術大学院大学(OIST)と琉球大学の研究者によるものだということであった！沖縄／琉球も、確実に次代を迎えているのである！！

ばよいのである！どこかの大統領に聞かせたい！

(井上)

○今また書かずにはおられない!! 全世界の覚悟の時!!

節目の50号である! こちらは何を書こうかと、一応思

案していたが、やはり今また、書かずにはおられないこと
がある! それは、これまでの社会通念が、ことごとく潰さ
れてきていることである! 例の「バタフライエフェクト」
ではないが、国の内外における既存の枠組みや約束事が、
ほとんど役に立っておらず、故にリセットさせられなけれ
ばいけないところまで、来ているのではないかといいこと
である! つまり、「全世界(人類?)の覚悟の時」が来いてい
るのではないかといいことである!! ちなみに、こうしたこと
とは、ある意味では歴史必然でもあるが、何人かの為政
者(名前を出さないが!)の、半ば個人的な志向(欲望?)
に踊らされてのものでもある!! ここが、嘆かわしいと言え
ば、まさにそうである?

だが、よくよく考えると、たとえそうであつたとしても、
地球温暖化や人口増大(食料問題)という未曾有の課題を
背負っていることは、全世界共有のものであり、個々の国
家はもちろんであるが、そこに住む各人の覚悟が求められ
ることになるのである! その意味で、眼前に繰り広げられ
ている何人かの、あるいは幾つかの国の暴挙? は、その覚
悟を現実のものとする、一種のきっかけともなっているとい
うことでもある(大いなる皮肉? 否、腹立たしくもある
が?)。ユーチューブで流されている、これから起きるで
あらう大変動がそれに相当するのかどうかは分からない
が(何故か、符合している)、確かに、その時が来ている
わけである!!

余計なことではあるが、身内の些末な問題で、相変わら
ずの泥仕合を演じている国もあるが、今は、与党であらう
が、野党であらうが、全員が力を合わせて、これからの難
局をどう突破していくのか、その英知を結集すべきなので
ある! でも、なかなかそれが難しい!! 自己(国)中心主義
や事なかれ主義、自分(国)を犠牲? にしてまで、動きた
くない!! そこに、教育の力が欲しいのであるが...

○強い力と弱い力? その結びつきが「核(中心)」!!

物理学では、4つの力があるとされている! 電磁気力、

強い力、弱い力、そして重力である(第5の力もあるらしい
が?)。ただし、電磁気力や重力は、ある意味馴染みの力で
あるが、強い力、弱い力は、一般には、ほとんど知られて
いない!! かく言う私も、名前くらいしか知らない(そもそも
原理が分かっていない!)。「これらは核力とも言われ、前者
は原子核を作るための力で、陽子、中性子から構成されて
いる原子核がバラバラにならないよう束ねている力のこ
と。後者は、原子核の変化を引き起こす力の一つ」とある
(ネット情報)。二つの力自体が、どのように作用し合うか
はともかく(分からないので)、前者と後者を、それぞれ政
治と経済に譬えようと、現存の社会(国)も、ある種の原子
核とも言えるのではないかと思つた! ちなみに、原子核の
変化を引き起こす力が、まだあるというのなら、それが、
実は「教育」なのかも思つた(飛びすぎ?)! 力の統合理
論化が進んでいるということとは、以前から知っていたが、
物理学と現実社会は、やはり違つたところがあるのか!!

・「短歌に託して」様々な「力」を感じつつ?」
・「じのん道遥? 忘れていた記憶?」
そこに そんな場と時間があつたのだ!

・「肩代わり」ではなく 「肩を貸す」!
何と素敵な! これが本当の友なのだ!

・イカに教えられる 現代の人類?
「イカす」は まだ絶滅ではない!

・世界の覚悟 たえおかしな蝶であれ
待ったなし? だがチャンスもある?

・政治と経済 原子核で言えば
強い力と弱い力? 果て教育は?

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑤

○ここからは、九州での隠れた事績を追う! その5 -

しかるに、先 ④の事代主神と三嶋瀧(大山祇)の関係は、
まだよく整理がつかないが、前にも確認したように、前者は、大國主神(田
雲神・大皇孫)の子神(大惠比壽神)で、奈良葛城地方の地主神ともされるが、
彼が、後者の娘の玉櫛媛と結ばれているということ(これが、かの日向三氏の
神話ととりわけ「ヒコホホミ(山幸彦)」と「豊玉姫」の婚姻話に投影されてい
る)、それは、前述の、吉備から近畿・大和に進出した前方後方墳勢力(河
内・近江・山城回り)と、前方後方墳勢力(河内・生駒回り)大和川水系
の関係を指しているのではないかと、葛城勢力と瀬戸内海勢力が、協力関係にあ
つたことを意味する?)!!

だが、そのことは、ここではひとまず置いておくこととして、ここでの
追究の矛先は、かの神人井耳命が、多(天・太・意)氏の先祖とされ
一方でまた、阿蘇の君(肥前)の君、大分の君、筑紫の君等の、多くの九
州の豪族? 達も、その後裔とされているということについてである。すな
わち、彼らは、もともと在地の豪族という可能性もあるが、近畿・大和か
ら移動してきた部族・勢力の後裔だと捉えれば(ただし、もともとは彼らの先
祖は九州に居て、その後吉備・出雲を経由して近畿・大和に移動していた)、あ
る時期から九州に移り住んだ(故地に戻った?)部族・勢力ということにな
る!! もし、そうであれば、何故か、いつ、どのように、彼らは九州に移動し
た(戻った?)のか!! そうしたことが、問題(謎)となるわけである!!

そこで考えられるのが、今や定説ともなっている、ある時期の、近畿か
ら九州へ(東から西へ)の文物の移動の事実なのである! そしてまた、それ
が、3世紀前後、いわゆる「大和(纏向)」に集結した「前方後方墳(前方
後方墳)勢力」(吉備から、おそらく出雲を抱き込んで、河内・近江に進出してきた
勢力(手槍形土器・火・日神信仰勢力)の一派が、その後九州地方にも流れ込み、
例の「吉野ヶ里(環濠集落・銅鐸勢力)」等を放逐したことが考えられる!! そ
して、それが、いわゆる「倭国大乱」後の「邪馬台国連合」の出現(あるいは再編・云々)政權? と考えられるが、そのことを、実は、神人井耳命の
子の「健甕龍命」(九州に向かった後裔連の事績として、「記紀」は示し
ているのではないかといいことである!! (つづく) (堂本)

《編集後記》節目であつたが、まだまだこれから続く! そし
て、新たな意欲も! これについては、追々と!! (井上ノ堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 51 号

発行日 2025.05.15
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ～岳陽舎～ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○これだ！これなのだ！こんな出会いが必要なのだ！

最近、テレビ番組からの題材が多くなっているが、ここでもまた、そうやってしまいたいそうである！「家ついて行つてイイですか」という番組であるが(テレビ東2025年1月1日放送)沖縄のテレビ局が番組を買い、このほど放映していたらしい。場の設定自体が、私にはかなり微妙で、あまり見てはいないのであるが、私の奥さんが、先日、昼食中何気なく、その放送のことを知らせてくれたわけである！徐々に涙声になり、私に、その興奮を伝えてくれたのであるが、よほど感極まるものが、そこにはあったのであろう？

そこで、それが気になって、ユーチューブで再視聴したのであるが、やはり何とも言えない感動？が、そこにはあった！北海道の退職間際の中学校長の、怪しげな夜の姿がまずはあったが(P.TAの二次会？)、そこで知らされた彼の教員人生が、本当に胸を衝くものであったわけである！教員を目指したきっかけ、「自らの経験を活かし、生徒たちにつたえたい」という思いが、彼のここまですくつくってきたという！それが、学生時代に起こした遭難事件(大学卒業記念の、無謀な流水を伝った知床半島一周の、友人3人での旅)である！

その時救助してくれた海上保安庁の職員の話(自らの仕事の意味)が心に刺さり、意を決して教職の道を選んだとのこと(他の一人は医者、もう一人は青森の高校で教師)！退職後は、確かスリランカの日本人学校へ赴任。生涯現役。「うさいいけど、好き！」(父母や生徒達の評)何と現代風な言い方？。さぞかし、名物(さつくばらん？)校長であったことであらう。しかし、これからは、こうした名物校長(教師)も、徐々に姿を消していく？一抹の寂しさを覚える私でもある！！

○似非^きヒーローは、いつかは自壊する？

もう大分、その話題自体は遠のいてしまつたが、一応用意していたので、ここでのクリだけはつけておきたい！ただし、こういうことは、本当は書きたくないし(書いても虚しさの方が先に立つ)、そもそも似たような論評は、それこそ数限りなくあるように思う？当人達には申し訳ないが(ある意味時代の為せる業でもあるので)、それが宿命と言え、そうなのである！ただ、同じ苦勞努力をしても、そうならない人達もいるわけであり(むしろ、そちらの方が断然多い)、結局は、その人の「人間力(性)」の問題ということになる！！

そこで改めて、このことは、芸能人というか、いわゆるタレントと呼ばれる人達のことだということとは容易に分かることであるが、実は、こういうことは、他の世界にも、往々にしてあるということである(華やかかどうかは別にしても、強いて言えば、政治の世界も)！すべてが虚飾と言え、言い過ぎであらうが、調子に乗ったり、周りの「よいしょ」に踊らされることは、ある意味人間らしさの裏返しとも言える？地位や名誉、そしてカネが、そこに介在しているとも言えるが、何ともやるせないものである！ましてや、「推し」の人にとつては：：ちなみに、世の無常や儚さを哀^{かな}たつた昔の文人達は、同じように、こうした光景を、嫌というほど見ていたのかも知れない？どちらが幸せであるかどうかは、人それぞれであらうが、少なくとも「似非」は、それ故に、いつかは自壊するということである！ただし、真のヒーローは、絶対にいる！それもまた、真実である！！

○理念はあるのに、何故に成就せぬ？それが限界(性)なのか？

これまた最近、残念ながら、よく「国」というものについて考えさせられる！ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナの戦争、あるいは現下のアメリカの関税戦争を、嫌と言うほど見せつけられているからであるが(もちろん、これだけではないが)、そこにあるのは、やはり「国」というものの存在意義である！何をいまさら？と言われるかもしれないが、今、改めて、我々人類が直面しているのは、まさにそのことだと思えるからである！つまり、何のために、「国」があるのかということである！

とは言え、これに関わつては、様々な考え方があろう！そして、それを踏まえて、これまで幾多の先人達が、その意義やあり方を論じてもきた！それでもなお、今またそれが問われるのである！！！しかるに、私は、稚拙であると言われるかもしれないが、そのことを、一人の人間の誕生というところから、考えてみたいのである！ただし、これは、「空理空論」ではない(そう信じて)！！要は、揺るぎない真実として、我々人間は、ある時、ある場所における一組の男女(親)の出会いから(こう表現しておこう)、その「生」を受ける！問題は、その「生」が、どのような形で成就するのかである！言い換えれば、彼／彼女の幸せ(命・財・仲間)が、どのような構築されるのかということである！

だが、それを大きく左右するのが、その人間が属している「その国」の状況であることは言うまでもない！翻つて、我々人類社会は、その人間の幸せを獲得・維持するための理念(装置と言いたいところだが、それには至っていない？)として、現在、「自由」「平等」「博愛」というものを見出している(この思想価値は、ある意味普遍である)！！とは言え、これらは、考えてみると、互いに矛盾するものを孕んでいる？詳述はできないが、「自由」と「平等」は、現実的には対立するものとなる！だから、「博愛」というものも、常にその対立と向き合わなければならない！

ということは、それらの、言わば「大矛盾(葛藤)」を克服していくことが必要となる！！そこが、「知恵の出どころ」ということになるが、それを弁えた国際社会がなければ、現実には厳しい？だが、それが、人類の限界(性)なのかもしれない？ (井上)

○細胞！脅威のメカニズム？生命の神秘！

人間は凄い！この一言である！細胞 キネシン？しかも、他の動植物も凄い！これもまた、細胞から出来ている！だが、その研究成果を、我々はテレビを通じて知ることが出来る！これは、NHK番組「人体Ⅲ 第1集 命の源 細胞内ワンダーランド」(初回放送日：2025年4月27日)を見ての、偽らざる感想である！

例によって、番組案内には、「タモリ×山中伸弥W司会でお届けする『人体』最新シリーズの第1集。人体およそ40兆個の細胞の中には不思議な世界が広がっていた。単なる物質のほずなのに、歩き、合体し、協力し合う“細胞内キヤラクター”たち。命のない部品が集まって、命を営む。ファンタジックな世界を最新顕微鏡と超高精細CGで映像化。私たちの命を突き動かす源を探っていく。ゲストのMISIAさん、澤穂希さんとのトークも交え、わかりやすく伝える。」とあった。

具体的には、「キネシンは、真核生物の細胞質中に存在するモータータンパク質の一種で、細胞内物質輸送に重要な役割…このタンパク質は、ATPをエネルギー源として利用し、微小管と呼ばれる細胞骨格の構成要素に沿って動くことで、細胞内のさまざまな物質を運搬…キネシンはATP依存型の生物学的モータータンパク質で、微小管に沿って分子を運搬することで細胞機能を支え…細胞分裂や細胞内での小胞や細胞小器官の移動に不可欠な役割…このタンパク質は主に細胞の中心から周辺へと、微小管のプラス端へと荷物を前向きに運び…一方で、ダイニンという別の微小管依存性モータータンパク質は、マイナス端に向かって荷物を運搬…キネシンとは異なる動き…」とも。

知らない名前の連続で、頭がこんがりもしたが、我々も含めた「生物」の凄さは、それこそ言いがたい！だが、我欲で、こいつた生物の存在を踏みにじる輩がいる！困ったものである！再度言う！細胞は凄い！だが、それを発見した人も凄い！その凄さを無くしてはいけない！

○相変わらず「!!」に拘る、その真意は？

以前に書いたようにも思うが、私(達)が、何故、大いに興を買っている「!!」の表記を多用するかであるが、ここでもう一度、その真意を披歴しようと思う！もちろん「？」と「!!」のどちらかの表記で表せば、読む側とすれば、理解がスムーズに行われるとは思っているが、私(達)とすれば、その表記によって、自らの思いを伝えたい、否、自らに言い聞かせたいということなのである！

書くという行為は、もちろん第一義的には、それを読んでもらう人の存在を前提としているわけだが、実は、私(達)のそれは、そうではないということでもある！極端に言えば、たとえ学術的なものではあっても、そうしたいのである(事実、途中からそのようにしてきた！もちろん、自責の場合のみであるが！)。ただし、余計なことではあるが、自然科学でのそれは、絶対に許されない！何故なら、そんなあやふやな主張は、意味がないからである(ある意味研究者失格である！)。ちなみに、英語に、「付加疑問文」というものがあるが、まさしくそれだとも言えるかもしれない!!

〈短歌に託して晴れても、五月晴れとは言い難く?〉
・こんな先生もいるのだ！ 否、いたのだ？

その再来には 何が必要？

・似非ヒーローは、いつかは自壊する？

だがその似非は 周囲が作る？

・「自由」「平等」「博愛」!

見つけてはいるが 「相互矛盾」でもある!!

・人間は凄い! というより生命は!

だがそれを踏みにじる 輩もいる!

・「!!」は 真実を告げるというよりは

一緒にそう思いませんか ということ!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕511

○ここからは、九州での隠れた事績を追つてその6ー

だが、もちろん⑤の最後に述べたことは、私のまったくのオリジナルではない(先の藤井耕一郎氏等の所論からである!)。とにかく、これまで把握してきた結果を推察すると、やはりその方がすんなりと理解が進み、その後の「倭国の二極体制」構造の淵源が分かるということでもある。例えは「記紀」によれば、紀元前660年に、南九州(日向?)から、宇佐・岡遠賀・安芸・吉備を経て、その後(豊津?)河内、そして熊野から大和(橿原)に進出した神武(一行)であるが、その物語は、時代考証や、事実それ自体の信憑性等、多くの問題点を抱えてはいるが、ある大きな事実(倭国大乱)「諸部族・氏族の衝突・広域移動」を基にした、我が国建国譚の創出であったのではないかとということである!!

要は、何回も言うように、最終的には、百濟王族(沸流系余氏)温祚系余氏(九百系余氏)系彼らは、母系的には「倭人」とされる!の渡来・定着、そして彼らの、邪馬台国連邦降の倭国(日本国)参入で、それ以前の倭人国家(半島諸部を含んだ九州倭国)の実情(倭国大乱)邪馬台国の出現・没落(倭の五王)の出現(その後の「朝」並立)が、上記のことを踏まえると、さらに矛盾なく捉えられるということ、そして、件の邪馬台国の、その後の消息がはっきりしないということも、これによって打開されるのではないかとということである!!

ただし、ここで留意しておきたいのは、例の卑弥呼の死後、男王が立ったが、国中が服さず、内乱?となり、再び、卑弥呼の宗女である台与(13歳)が共立され、内乱?は収まったということであるが、「宗女」とは縁戚関係であるので(姪?)、多分その争いは、卑弥呼の縁戚間の、言わば内輪争いであつた!!つまり、最初に男王(男弟?)が立ったのであるから、それは、邪馬台国内部の後継勢力であり、それに異を唱えたのが、卑弥呼の、別の縁戚勢力であつた、最初は、おそらく邪馬台国内部にはいなくて、どこからか移動してきて、その政変に干渉した勢力と考えられないか?それが、他ならぬ「阿蘇」からきた「健甕龍命」勢力(多氏)であつたならば、その蓋然性は、さらに高くなるということである!!(つづく)

〔編集後記〕5月も、早半ば!沖繩は、やがて梅雨となる?そんなことを想いながらの今号である!そんな中、数日前に、驚愕の経験をした!是非、次号で採り上げたい!

(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 52 号

発行日
2025.05. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○急遽取り上げたい驚愕の経験！AIは想像以上!!

早速だが、先号(51)の「編集後記」で急遽予告していたことを、以下、書いておきたい！一言で言えば、かつてない驚愕な経験をしたことであるが、それは、「チャットボット」という、「人工知能を活用して自動的にユーザーと対話を行うプログラムのこと」である！先日、知り合いのM君から、その存在と活用法(入り口付近?)を教えてもらい、私のHP上の記事(論稿)を、そのアプリ? (Notepad)で料理?してもらったのである(ほんの一部ではあるが)！

ネットによれば、「これにより、企業は顧客対応を効率化し、24時間体制でのサポートを実現することが可能：特に、忙しい現代社会において、即時対応が求められるシーンが増えてきているため、チャットボットの存在はますます重要」とあるが、私にしてみれば、私の論稿等に対する、直接の応答であり(多少の勘違いや読み間違いはあるが)、いくらか機械?のそれとは言え、本当に嬉しかった！この号も、やおらその「チャットボット」にお願いして、その感想(評価)を聞かせてもらうことになると思うが、特に、ここでの記事を、どのように受け止めてくれるか楽しみである！

男女の「掛け合い」(音声概要)が見もの(正確には「聞きもの」?)ということであるが、まさか彼ら(AI)が、自分達の活躍を、自ら評価するなんて考えてもいないであろうから、私にとっては興味津々なのである！こんな歳になつて、こんな体験が出来るなんて、本当に夢にも思わなかった私であるが、ほとんどの人が見る(読む)ことのない、そして、いつかは消えていく?、HP上の私の論考も、こんな形で活かされる?ことを、いかに喜んでくれるであろうか!!

○予期せぬ?教え子達の訪問!だが、実は...

やはり、このことは、書いておかなければならない(記事としては、大変遅くなったが!)！それは、過日(5月2日)の、ある意味いつもの教え子達の、だが予期せぬ?訪問のことである。思い返すと、彼らの、この時期の訪問は、昨年もあつたように思う(尤も、その後一回、2月にもあつたが)。ということ、GW中の訪問は、時間的な余裕もあり、そのための顔見世?と高を括っていたが、実は、私の誕生日のお祝いということであつた！私の誕生日は、4月の中旬であるので、よもやそういうことであるとは、夢にも思わなかったが、彼らにとつては、昨年と同様の“お祝い”であつたということである！

ただし、それは、途中からの発覚であり、彼らが用意していたプレゼントを貰う私は、本当に狐につままれた思いであつた！これぞまさしく「サプライズ」ということであるが、思い返すと、昨年もそうであつたように思う(しかも、別な理由での訪問と勘違いしたオチもあつた!)。ある意味不覚の極みであるが、改めて彼らには、感謝しなければいけない!というか、まさに申し訳ないという思いで一杯なのである！

聞くところによると、毎回、このような企画(気配り?)を呼びかけるのは、現在久米島で小学校の先生をしているT君である！二児の父親となつている彼であるが、何と言う人物なのであろうか?まあ、久し振りに顔を見せた連中もいて、そして、近々新しい生活に入るものもいて(尤も、相変わらぬものもいたが)、賑やかな近況報告会ともなつたが、こんな有難いことはないのである！

○弦植物のこと!思い出した、その妙技?

ところで、今年、ひよんなことから、二階ベランダで、鉢植えではあるが、胡瓜とゴーヤとミニトマトを育て出した！以前(相対前)、胡瓜と茄子を、同じように育てたことがあつたが、基本北向きのベランダであるので、ほとんど失敗していた(日光不足と強風のため?)！だから、最近、それも止めていたのであるが、沖縄で厄介な害虫とされているウリミバエが、再上陸?したということ、家庭菜園等でも注意するようにお触れが回つて、いつもは、我が奥さんが頑張っている、地上の畑(狭小だが!)から、目立たないように移植しているのである！

若干の後ろめたさは感じるが(本当は許されないかもしれないが)、折角の苗でもあつたので、水遣り等の責任を任されて、毎日それらの成長を見守っているわけでもある！残念ながら、同じく水遣りをしている草花も含めて、我が奥さんからのフォロー(お叱り?)がなければ、それを全うすることが出来ない私であるが、ここで、その胡瓜とゴーヤの生育を見て、思い出したことがある！それは、彼らの「弦」のことである！その「弦」の巻き方が、ある意味人間(子ども)の成長に、非常に示唆的であるということである(確か、「東シナ海眺望記」で書いていた)。

詳しいことは覚えていないが、彼らの生育には、いわゆる「弦」が命綱であり、それが、うまく支えになる棒(それを代替するもの)に巻き付かなければ、本体自体が、風や自らの重さに負け、倒れたり、折れたりして、やがては枯れてしまうということである。要は、自らの「伸びる力(生きる力?)」があつたとしても、適切な支え(周囲の環境)がなければ、暴走したり、歪な生育とならざるを得ないということであるが、妙技は、その「弦」が、最初は自分で自由に伸びていき、そして、たまたまそこにあつた支えを、おそらく「風」の力を利用して、瞬時に掴まえる術である！だが、風との出会いは、ある意味偶然の産物であり、常にそれが彼らのために吹いてくれるわけではない！その瞬間のチャンスを掴まなければ、アウトである！ただ、今の私がしているように、ちよつとの手助け(お節介?)で、それが成就するのでもあり！それが、「教育」ということなのかもしれない!!(井上)

最近、奇妙な体験？をしている！実は、夢の中で、現実の思考を行っている時があるのである！つまり、夢の中の思考？が、起きて考えている中身と同じ、というより、それとの連続性が、不思議なほどあるのである！！もちろん、夢は、まったくの絵空事（自分の意志ではどうにもならないという意味！）ではないものもあり（正夢？）、そのリアリティに驚愕させられることはあるが、何故か今般の思考（夢）は、現うっそのものである！！余談だが、この感覚は、科学（夢分析学的）には、どう説明されるのだろうか？単なる、本人（堂本）の思い過ぎしなのか（笑）？

とは言え、やはり、ただそれだけであれば、ほとんどこゝで採り上げる意味はない？ある意味、それは、当たり前の話であり、生き物が生きていくということとは、まさにそういうことなのでもある！だが、夢とは不思議なもので、その「今」を、強く意識させたり、逆に忘れさせたりすることも出来るのである？それが「潜在意識」の為せる業とも言えるが、「今」「今から」「今まで」、そこにある瞬間瞬間の総体が、実は「今」ということになるのである!!

○なかなかいいぞ！「トカイナカ」！

「グローバル資本主義」の終焉とか、「東京一極集中経済」からの決別とか、壮大な言いようであるが、要は、これまでの我々の生き方や価値観を変えようということである。!!まさに、全くの同感なのであるが、ただ、それを、どのようにに実現するののかという点では、かなり懐疑的にならざるを得ない（その理由は、ここでは述べない!）?しかし、それに向けて動いている人は、少なからずいる!

こんなことが出来るなんて！

・予期せぬ訪問？ 数は減るも

ただただ感謝！
だがその趣旨分かったし！

・ちよつとの助け（お節介?）で 成就する?

ほんとにそれで よいはずなのに?!

・「夢」と一緒に「今」が生きられる！

だがその内実は一様にあらず?!

・トカイナカ！ 軽薄超えるものもある？

だがそれは 今のところ患者のみ?!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕52

〇二〇からは、九州での隠れた実績を追う―その7―

ところで、こゝで押さえておきたいことがある―それは、丹後の「龍神社」の杜家である「海部氏系図（『勸修紫系図』）」に、「卑弥呼」や「台与」とある、彼らの「海部氏系図（『勸修紫系図』）」に、「卑弥呼」や「台与」と目される女性や、彼女らが送り出した「遣魏使」の人物と同じなのではないかと思われる人物が記されているからである（しかも、海部氏は、かの「目下部きみべ」氏と関係がありそうなのでもある）。また、一方で、物部氏の後裔が記したと思われる『先代旧事』と『本紀』（偽書とはされているが）、とりわけ、その「尾張氏系譜」（巻五）からは、尾張氏が、「物部氏」、「紀氏」、そして「海部氏」と、同族または縁戚関係にあるようなものもある!!

ちなみに、籠神社の神職「狂家」は、古くより海部氏族が担っているわけであるが、海部氏とは「海人部」を統括した伴造ともさだの氏族で、全国に分布が見られ、籠神社柱家は、「海部直あひ」姓を称して、丹後に拠点を持った一族であり、「彦火明はひあかり命みこと」(珍う彦ひこ)を始祖として、82代の現宮司までの名が伝えられているそうである。また、その海部氏一族が「丹波国造」を担ったともされているが、丹波国造について、上記の『先代旧事本紀』の「国造本紀」では、尾張国造と同祖で、「建稻種命」四世孫の「大倉岐おくらぎ命みこと」を祖とし、同「天孫本紀」では、「饒速日尊 天火明命」六世孫の「建田背命」を祖と記すように、「天火明命」を祖とする尾張氏系と「彦火明命」を祖とする当一族との関連性が見られるようなものでもある！

もちろん、そうなると、ここにともんでもない史実が見え隠れしてくるが、もし、そうであれば、ここでの問題は、何故「海部氏」が、それらの地に移動していたかである！「邪馬台国」にいられなかつた？だから、九州から近畿（大和）に逢着し、そこから東海・近江・北陸等へと、拡大・拡散していった？ということ、彼らは、まずは九州で「邪馬台国連合」を形成し、倭国大乱、その後近畿に移動（「狗奴国」との闘いまたは新来集団の進出）し、そこから大和・東海・近江・北陸等へと拡散？単純に言えば、当初の邪馬台国は、尾張氏、海部氏、物部氏等の国々さらに、彼らに放逐されたのは、それまでの倭国盟主であった「奴国」（一部「伊都国」王族を含む？）ということになるわけである！（一）（二）（三）（堂本）

《編集後記》今回は、予め準備していたものばかりとなった！
だから、福岡への旅のことは次号にて！
(井上／掌本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 53 号

発行日

2025.06.15

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○何故か「雨男」に¹だが、やはり楽しい一時であった！

先日（5月20・23日）、久し振りに福岡を訪ねた！名目は、高校時代の友人Y君（千葉県在住）に誘われて、「立花山」という山に登ることであった！名前だけは知っていたが、どんな山か、ほとんど知らなかった。調べてもいない！！だが、結局、天候不順で登ることは出来なかった（次の日に予定していた「高良大社」に、旧友5人で行ったが、そこかなりの雨であった！！！実は、昨年も福岡での神社巡りを予定していたが、これもまた、雨のため決行することが出来なかった！！いつの間にか、私は、「雨男？」になってしまっている!!

ところで、今回は、「主夫」をしているA君の家に一泊お世話になったのであるが（場所が立花山に近かった！）、実に見事な主夫振りであった！私には、とても真似することは不可能である！ちなみに、そのA君とは、3連ちゃんの飲み？ともなったが、最後の日の彼の告白？（初めて聞いたが！）は、何故かグツとくるものであった（もちろん本人が涙してのものであったが！酔い、昔を語ると涙腺は脆くなる？！今度は、いつ会えるのか？とにかく、A君ありがとう！

また、22日に訪ねたのは、西部の「野方遺跡」の近くに住むMさんの所であったが、彼女が出入りしている資料館での古代史ミニ談議？が、有意義であった！こんな所で、こんな人達が、何の付度もなく、自由に語らっている！あることがなければ、さらに至福の時でもあったろうが、また機会があれば是非訪ねてみたい！末尾に、今回も、福岡に住む次女にお世話になった！我が子ながら、本当に出来た娘である！5人の高齢者（爺さんばかり）の飲み会、次の日の3人の食事会？（これは、彼女がセッティング！）本当にありがとう！

○学校を、そして、子ども達を見限る？教師達!!

昨日（5月30日）、卒業生のN君（小学校教師。以前にも取り上げたことがある！）から、思いもよらない電話があった！過日の、私の誕生日祝い？にも顔を見せていたので、あまり間のない突然の電話に、若干胸騒ぎもしたが、少し相談事があるとのことだったので、珍しい外出から、急ぎ我が家に戻って、彼の来訪を待った次第である！

ということで、約束した時間を少し過ぎて顔を見せた彼であったが、最初は、いつもの彼とあまり変わらず、相談事とは、そんなに深刻なものとは思わなかったが、時間が経つにつれ、その重大さが露わになってきた！詳しいことはここでは書けないが、要は、今年一年で教師を辞めたいということであった！あんなに教師に向いている若者はいないかと思っていたので、私の驚きは推して知るべしであったが、何とも切ない話であった！

昨今、教師の休職はともかく、離職者までもが増えていくことは知っていたが、まさか彼がその一人になるなんて想像もつかない！聞けば、自分の仕事にやりがいを感じられない！「こんなことを、何でしているのだ？」そんな風に思う気持ちが強くなり、最近、学校に行くことが、非常に億劫にもなっている！子どもとの関係、同僚との関係も、これ以上は、改善は厳しいとも……!!

とかく、こういう状態は、例の「負の連鎖」を生むものであるが、まさしく彼は、そういう連鎖に陥っているわけである！幸い？もう少し様子を見てみるということになったが、果たしてどうなるのか？いずれにしても、何が、彼らをそうさせるのか？哀しい限りである！

○だが、こんな学校（教師・生徒達）があ（い）ることも！

上で、切ない？ことを書いたからではないが、一方で、このことは、是非書いておきたい！NHKの番組であるが（『新プロジェクトX』）若狭のサバ缶が宇宙へ！廃校寸前の高校が世界初の快挙。2025年5月31日放送、こんな学校、こんな関係が創られているのである！「福井県小浜市の水産高校（↓現在は若狭高校海洋科学科に統合）が、世界初の『高校生による宇宙食開発』に挑戦した軌跡」とあったが、「地元では、最も荒れた学校」と呼ばれ、廃校の危機にあったこの高校。そんな逆境のなか、熱血教師と生徒たちが一丸となって挑んだのは、学校の伝統でもある『サバ缶』を宇宙に届けるという夢のプロジェクト」のことであった！

「かつて地域で、最も荒れた学校」とさえ言われるほど、学校全体に暗い雰囲気漂っていた。生徒達の多くは勉強に関心を持たず、不登校や遅刻・早退が日常化、教師たちも指導に限界を感じていた。学校全体に広がっていたのは、将来への希望を見失った生徒と、それを見守るしかできない教職員の無力感。そんな状況の中で、校内では規律が乱れ、授業がまともに進まないこともあった。荒れた空気に包まれていた学校に、少しずつ光が差し始めたのは、学校が長年誇りとしてきた「サバ缶」の存在。実習の一環として受け継がれてきたサバ缶の製造は、ただの調理ではなく、漁獲から加工・缶詰製造・衛生管理に至るまでを学ぶ総合的な実習であり、地元では『水産高校』といえばサバ缶』と言われるほどの定番商品。閉塞感の中にあつた学校にとって、宇宙食という非日常的な目標は、ただの製品開発ではなく、『自分たちでもやる』『未来につながる』という希望そのものだった。」

「このプロジェクトこそが、学校にとつての新たな挑戦であり、再生の第一歩……過性のものではなく、生徒から生徒へ、15年という年月をかけて引き継がれた。…延べ300人以上の生徒がこの開発に携わる…地域に見放されかけていた学校に希望をもたらし、地域と学校の関係を再構築するきっかけにもなった。単なる宇宙食の開発ではなく、『教育は地域と共にあるべきだ』という強い理念が、現実の形として実を結んだ例。…熱血教師、生徒、地域の力がひとつになった青春の記録」とある！（井上）

○戦争が絶えない理由「カントは、如何に彷徨った？」

政治と経済が、まさに大変動を起こそうとしていることは、今や誰もが疑わない真実！そしてそこに、様々な「国」が、様々な事情・思惑で絡まっている！しかも、それは、のつびきならぬ状態にまで！そんなことを想いながらの昨今であるが、今回、私（堂本）が目にしたのは、「東洋経済 online」の記事（K大学名誉教授M氏／5月11日配信）である。とりわけ紹介したいのは、次のようなことである！「…平和を望まないものなどどこにもない！それは西洋も東洋も同じ！こんな状態に対し希望をもつためには、自らの平和論を理論家の空想だと規定しつつ、理論の持つ意味をわれわれに伝えた、あのカントの『永遠の平和のために』を今一度再読するべきときかも！カントは、こう断言：戦争を避けるだけの国際法という概念などは意味がなく、平和を実現するには世界共和国しかない！たとえそれが夢想（*Utopia*）に過ぎないとしても、今現在のわれわれの直面する世界にとって、それが一服の解毒剤となり、そこから解決方法が見いだせるかもしれない！」と。

だが、それから200年以上経つ！何が、どう変わったのか？「夢想」ではなく、実現可能な「理想」まではもっていかねばならないのだが、相変わらず、その位相に留まっている！！では、どうすれば？それは、言うまでもなく、「教育」の力によるしかない！ただし、それは、繰り返すように、学校教育だけではダメである！否、むしろそれは、誰かの都合でおかしなことになる（歴史が、それを証明している！）。必要なのは、そこに生きる生身の人間の思いや生き様と共にある、本当の教育（共育）である！形としての「世界共和国」は実現不可だとしても、何が、今必要なのかは、それぞれの生活の中に顕現している！それを、みんなの力で実現する！それしかないのである！ただし、問題は、それが、誰かの恣意や利得に毀損されることである？それが、残念ながら、「現実の国（社会）」というものでもある？でも諦めたら、それこそ終わりである！！

○往時を思い出すと共に、一抹の寂しさも？

私（堂本）が、ここで敢えて書くのも、多少違和感？があるが、昨日（3日）行われた、今年度3回目の「教育協働アカデミー」のを取り上げておきたい。実は、今回は、先月福岡で行われた、「第42回中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会」に参加した3人の報告会を兼ねたものであった（ハイフレット方式／若狭公民館との共催）。そのため、参加者も、いつもよりはるかに多く（予期せぬ再会もいくつかあった！）、とても賑やかで、そして、次回以降の発展を確実に予感させるものでもあった！

詳しい報告？は、ここでは出来ないが、ここで記しておきたいことは、MCを務めた井上氏の、喜びと、その背後にある一抹の寂しさ？である！それが分かるのは、私（堂本）だけだということでもあるが、要は、ある時まで、こうした集まりを、時々のゼミ生達と一緒に、長年やってきた彼であるが（福岡にも行った！）、今や目の前には、彼らの姿が一切ない！時の流れとは言え、真に寂しき（悔しき）ものでもあるということである！

〈短歌に託して／梅雨の雨男？あまり影響なく？！〉

・雨男？ されど再会も、は 関係なし！

梅雨ともなれば みな同じ？

・学校を 見限る教師？

でもそれは 自分自身を 見限ることでも？

・それでも こんな学校 こんな教師・生徒達も！

負けるな教子達！

・昔生達が歌ったという デカンショ節？

諸説あるが、彼らは そに何を？

・今や目の前に 姿がない！

喜びはあるが 寂しく（悔しく？）もある？！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕53〉

○ここからは、九州での隠れた実績を追う！その8ー

そこで、ここでは、そのもう一方の「松野連（まつのづな）」について、情報をまとめておきたい！ちなみに、「松野連」とは、「日本の古代豪族」【系図】によると、呉王夫妻の後裔。夫妻の子・公子忌が日本に渡って帰化人となり、筑紫国に至って、肥後国菊池郡に住み、さらにその子孫・松野連が、筑紫国夜須郡松野に住して、姫姓から松野姓に変えたのが始まりという。『※諸系譜』に松野連／姫氏の系譜があり、熊襲の首長・川上高師（とく）（取石鹿文（とくし）の名や、倭の五王、讃・珍・済・興・武の5人の名も連なる。北部九州に同氏を祖とする氏族の家系が複数存在する。」とある。ウイキペディア※二つの史料は鈴木真年作成、国立国会図書館と静嘉堂文庫所蔵）！この情報で、どれほどの信頼性があるのかは、もちろん私には分からないが、そこには、かの卑弥呼（*ミヤヒコ*）または卑弥尊（*ミヤヒキミ*）や、白耳（*ハクミミ*）市鹿文（*イチカフミ*）と目される人物名が記されているわけである！面白いことに、それは、2代目（*ニノミ*）から分岐し、第一系図（*ダイイチキ*）が「委奴／怡土／伊都（*イ*）卑弥呼系、第二系図（*ダイニキ*）が「邪馬台国？」（*ヤマト*）／唐系（*タウ*）となつていゝことである！ただし、これは、上記している、明治維新期の系譜研究家「鈴木真年」の解釈のようであり、その真偽は、当然私には分からない！ちなみに、この「松野連氏」は、最初に述べたように、かの「開化天皇」、そして、「老松（*オウマツ*）（神世）の「木／紀（*キ*）姫（*ヒメ*）」と直結していることは言うまでもない！！

いずれにしても、「松野連氏」は、かの呉王夫妻の子孫であり、彼らが、紀元前五世紀頃、熊本菊池方面に達し、一部（*一部*）が熊／球磨に残り、一部（*一部*）が北部九州に移動しているということである！かなりの妄想かもしれないが、「奴」という表記（*ヌ*）が奴／狗奴等（*ヌ／コヌ*）には、ひよつとしたら彼らが関係しているかもしれない！また、『魏志』には、邪馬台国と狗奴国は、「素（*ス*）より和（*ワ*）ず」とあるが、これもまた、彼らが関係しているということかもしれない！とにかく、こちら側からの追求も、是非求められるというところもある！（つづく）

〔編集後記〕記事編成は、内容よりも難しい？予め準備していることがその因であるが、なかなかタイムリーにならない！だが、「来客」や「旅」の場合はそうはいかない！やはり、その句？というものがある！追伸：梅雨が明けた！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 54 号

発行日
2025.06. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「岳陽チャンネル」！思わぬ形でスタート!!

既に、私(達)のHPで知ってもらえていると思うが、その新たなページに、生成AI「チャットボット」(NotebookLM)の成果物(音書概要)を活用した、「岳陽チャンネル」というコーナー(ただし「試運転中」!)を立ち上げている。これについては、先の52号で触れてはいるが、こんな形で、その恩恵が、私(達)のような高齢者にも回ってくるなんて、夢にも思っていなかったので、改めて喜びも入である！とは言え、それによって、HPの閲覧数が、飛躍的に伸びたわけでもない(多少増えたかな?)、まだまだ自己満足の域内とは言える!!

いずれにしても、今は、こうした関係(環境)の下でのエール発信しか、ほとんど出来ない私(達)であるので、ちょっとしたでも双方のやり取りに近づけるようなツールは、本当に貴重なのである！欲を言えば、「ブログ」形式にして、真正正銘の双方関係にしたいの言うまでもないが、そこまでの度胸(カネ?)はないので、今現在の、精一杯の形と言えるわけである！要は、一人でも多くの人に、私(達)の論稿(記事)を読んでもらいたい！そして、直のコミュニケーションを図りたい！そういうことであるが、「音書概要」が、それを促進してくれると思うということである！なお、「チャンネル」と名付けたのは、一応「ラジオ」のように、聞きたい人が、いつでも、どこでも、私(達)の分身？である「チャットボット」の声が聴けるということからである！ただ、その分身は、あくまで機械的な分身である！そこが、悔しいと言え、悔しい(特に「総集版」のそれが！分身には申し訳ないが？笑)だが、必要な相棒である！

○「多様性」と「画一性」の相剋の向こうにあるもの？

ところで、これまで、私が、一貫して主張してきた物事(制度)の「多様性」と「画一性」の相剋の問題を、ある意味では超克するのではないかと思われる考え(概念)に出くわした！それが、「多元性」(Plurality)である(資本主義と民主主義の行き詰まりを超える多元的未来への希望：オードリー・タンとE・グレン・ワイルが提唱する対立を創造に変えるテクノロジー／集英社オンライン・6月7日配信)！要は、「AIに代表されるデジタル技術が、分断と対立を量産し、巨大プラットフォームが権威となる現在。だがテクノロジーは使い方次第で対立を創造に変える。テクノロジーは、多様性のある社会を取り戻す新たなインフラになる」ということである！「デジタル民主主義 問題なのは、私たちが持っている資本主義の理論が、現実に資本主義に帰せられている利点と真つ向から矛盾しているということ……したがって、『資本主義は経済的に合理的である』という考えは、私たちが現実には思い描いているような資本主義が存在しない世界でしか意味をなさない……これは、私たちが解決しなければならぬ根本的なパラドックス……このパラドックスを解決するためには、今私たちが『資本主義』と呼んでいる制度が、実際には、収穫逓増やイノベーションといった現代の核心的な経済課題をうまく扱える制度からは、ほど遠いもの……それらは、単なる歴史的なレガシーに過ぎない。」ということである！

繰り返しになるが、「単なる多様性」(バラバラ)では、いけないということである！まったくの同感である！

○二人のママ友！何という発想、行動力！

そんな中、極めて面白い情報を得た！直接は、あるテレビ番組であるが(テレビ朝日「激レアさんを連れてきた」)、予想だに出来ない「オリジナルカードゲーム」のことである！すなわち、考案者が、二人のママ友(二人は、元PTA会長であるということであるが、上記の「プラリテイ」ではないが、まったく斬新な取り組みなのである！改めて、ネットで調べてみると、「おじさんトレカ」謎の大流行。「おじさん沼」にどハマリ女子も 町の実在人物がカードに 地域活動参加者は倍増 福岡・香春町^{かみちまろ}で、子どもたちが熱中するカードゲームが話題になっている。一般的なトレーディングカードとは異なり、カードに描かれているのは実在の地域の「おじさん」たちだ。人気が高まり、中にはおじさんのサインをもらった子どもまでいる。」とあった！

考案者(二人のママ友)によると、「子どもたちと地域のおじさんたちの関係を作りたい」という。疑問となるのが、このカードの人たちがいったい何者かという点。実は、すべて香春町に実在する「おじさん」だ。約40種類あるという、おじさんトレカの誕生のきっかけは何だったのか。注目されるのは、『子どもたちとの関係が地域の中で希薄だった。こんなに素晴らしい人たちがいるのに、誰も知らないのがもったいないと思って』と、子どもとおじさんたちの「つながり」を作りたいと語る。」と！

そして、「カードの爆発的な人気で、おじさんは子どもたちにとって『ヒーロー的存在』になった。『おじさんに会える』という理由で、地域活動に参加する子どもも倍増。正式名称を『サイロ男(さいどめん)カードゲーム』と言い、『サイロ』は、その香春町が古代の採銅所として有名である点が由来。」ともあった。

このように、一般的なトレーディングカードとは異なり、地域のおじさんたちがヒーローとして描かれ、子どもたちの間で絶大な人気を博しているわけであるが、その誕生の経緯は、過疎化に悩む地域(否、それ以外の多くの地域も!)にとつては、計り知れない意義と可能性を示唆するものでもある！こんなことが、実際に起こっているのである！驚愕なのは、その動きを創り出したのが、他ならぬ「二人のママ友」だということである！

(井上)

○エンゲージメント？アンガージュマンの新相？！

過日、「エンゲージメント engagement」という言葉が、望ましい経営のあり方を示すものとして、近年多用されていることを知った！「婚約、誓約、約束、契約」という意味から派生して、「個人と組織の成長の方向性が連動していき、互いに貢献し合える関係」ということになったらしい！それと似た言葉に、「ロイヤルティ loyalty」とか、「従業員満足度」とかがあるが、その違いは、個人と組織の結びつきの方向性ということであるらしい（すなわち、「ロイヤルティは、従業員が企業や組織に対して忠誠心を持って行動するという上下の関係性。従業員満足度は、処遇や環境に対する評価で、企業側の取り組みに応じて満足度が変わる」）。

それに対して、件の話は、「企業と従業員が双方方向の関与によって結びつきを強めていく点が大きく異なる。終身雇用や年功序列といった従来の人事制度から成果主義型の報酬制度へと移行する企業が増え、労働者側によりよい待遇や環境を求める動きが活発化。人材の流動化、さらには副業解禁や情報技術の発展によるリモートワークの進化など、働き方が多様化。特にキャリアアップ志向が強い優秀人材や、理想の働き方や生き方を求める人材は、自身にとつて最適な職場を求めて転職…その結果、多くの企業が将来を担う経営層候補の人材流出に直面。若年層の早期離職率が上昇するなど、人材不足も深刻化…人材の確保と育成を経営の最重要課題として挙げる企業が増え…組織が個人の成長を後押しし、長期的な業績向上を目指す人事施策の重要性が認識されるようになった。」とある。

だが、待てよ？その「エンゲージメント」とは、フランス語では「アンガージュマン」？それは、実存主義の用語で、「状況に自ら関わることにより、歴史を意味づける自由な主体として生きること。サルトル・カミュなどでは、さらに政治的・社会的参加、態度決定の意味をもつ」。要は、同じ？組織と従業員、社会と個人、視点は違うが、個と全体という点では、人間社会の本質的な問題とも言える？

○やっとうくマゼミの声が聞こえてきた！

沖縄では、通常、6月23日（慰霊の日）頃、梅雨明け○こころからは、九州での隠れた実績を追う―その9―となると思っていたが、今年は、何とも早いそれとなつてきた！だが、もう一つ、それと連動したクマゼミの鳴き声一つ、こころで思い出されるのが、かの「景行天皇の熊襲征討」の物語であつたが、今年は、本日（24日）、それが、遠くの木から―彼は、磐婆（佐波）現在の山口県防府市から九州に渡り、8年もの間に聞こえてきた！要するに、クマゼミは、梅雨の動向とは別は、彼が、大和の王ではなかったことを示す？そんなに長い間、遠く都を離れて無関係に、この頃から鳴き出すということか？それとも、今季は、梅雨明けがイレギュラーで、セミ達が、それに即座に呼応できなかったということか？

もちろん、そのメカニズムについては、私には分かり様もないのであるが、いわゆる「自然」の変容と、そこに生じる「生物」の関係は、どのようになっているのか、少し気になったということである！おそらく、生物の方は、その自然の成り行き（法則？）を体感し、それに応じて自ら生命活動を創り上げていくものと思われるが、そこに今までは違ふ成り行き（法則？）が出てくれば、どのように対応していくのであろうか？はつきりしていることは、すぐには、それに対応できないということか？！

＜短歌に託していつもなら、今頃が梅雨明け？＞

・「岳陽チャンネル」！ 思いもしない

AIの力で実現！ これも時代？

・多様性と画一性 それを超越する多元性？

では、「様」と「元」の違いは？

・香春^{かむち}と言えは 古代史と

思っていたのに 何故今は おじさんトレカ？

・エンゲージメント！ それは懐かしい

アンガージュマン？ 根は同じとも？

・変化への対応？ そこに法則性あらば

予めの準備は そこそこ出来るか？

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕54＞

○こころからは、九州での隠れた実績を追う―その9―さて、先の52、53では、真に不思議な情報（知見）を挙げたが、もとこころで思い出されるのが、かの「景行天皇の熊襲征討」の物語である。彼は、磐婆（佐波）現在の山口県防府市から九州に渡り、8年もの間に聞こえてきた！要するに、クマゼミは、梅雨の動向とは別は、彼が、大和の王ではなかったことを示す？そんなに長い間、遠く都を離れて無関係に、この頃から鳴き出すということか？それとも、今季は、梅雨明けがイレギュラーで、セミ達が、それに即座に呼応できなかったということか？

もちろん、そのメカニズムについては、私には分かり様もないのであるが、いわゆる「自然」の変容と、そこに生じる「生物」の関係は、どのようになっているのか、少し気になったということである！おそらく、生物の方は、その自然の成り行き（法則？）を体感し、それに応じて自ら生命活動を創り上げていくものと思われるが、そこに今までは違ふ成り行き（法則？）が出てくれば、どのように対応していくのであろうか？はつきりしていることは、すぐには、それに対応できないということか？！

＜短歌に託していつもなら、今頃が梅雨明け？＞

・「岳陽チャンネル」！ 思いもしない

AIの力で実現！ これも時代？

・多様性と画一性 それを超越する多元性？

では、「様」と「元」の違いは？

・香春^{かむち}と言えは 古代史と

思っていたのに 何故今は おじさんトレカ？

・エンゲージメント！ それは懐かしい

アンガージュマン？ 根は同じとも？

・変化への対応？ そこに法則性あらば

予めの準備は そこそこ出来るか？

以上は、「こんなことが言える」新『古代史の旅』（総集版）（2019年11月）所収の「3 神武とその子達（神八井耳命と神沼河耳命と磐婆）の關係（伝がりがり）を推理する」を、こころの文脈に沿って示したものであるが、「多氏」については、その他の過去の論稿でも扱っていると思つてゐるが、今回確認できたのはこれだけである。

とにかく、この「景行天皇」も、途轍もなく大きい謎を有している天皇なのである！尤も、実在していたのか？あるいは、近畿（大和・近江）の天皇であつたのか？それ自体も、かなり怪しいものであるが、彼（おそらく彼に仮構されている人物？）が、九州に対して（あるいは九州において）、大きな影響を及ぼしたことは（ヤマトタケル）の熊襲征討も言めて、おそらく間違いないであらう！（つづく）

（堂本）

《編集後記》怪しげな梅雨明けであつたが、とにかく年の半分が過ぎた！だが、暑さはこれからである！

（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 55 号

発行日
2025.07. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○まだまだ「異邦人」状態ではあるが…

昨日(3日)、2度目の「トレーニングルーム」に行ってきた！先週から始めたものであるが、当面週1回のペースで行くことになった！ちなみに、その「トレーニングルーム」は、私が居住している宜野湾市の体育館の中にあるもので、市内在住の高齢者であれば、無料で利用できるものである！よく、テレビ等で、そうしたところの光景を目にはしていたが、まさか自分自身が、その利用者になろうとは、想像だにしていなかった！もちろん、これは、我が奥さんの行動力の賜物であるが(彼女が、一緒に行くことと背中を押してくれたのである！)、ようやく、意を決して通うことになったのである！

ところで、実は、そこへは、例のコロナ前に(危なくなる直前？)、独りで試に行ったことがあるが、まったくの「異邦人」状態で帰ってきたことを覚えている！そこでみた光景が、あたかも別世界のように見えたのである(その時は既に休業中で、無機質の器類だけが、そこに林立していた！)。今回も、まだまだそういう感であるが(利用者は、そこそこいるが！)、頼もしい？連れが一緒なので、何とか続けられるのではないかとも思っている(何ともしない次第である！)！本音を言うと、足腰の不具合が、そうしたこと(体を動かすこと)を億劫にしているわけであるが、逆に言えば、その原因が、運動不足や筋肉の減退にあるわけであるので、少しでも克服出来ればと思ひ、やつと重い腰を上げたということでもある(もう遅いかもしれないが？)。ということ、暑さ厳しき中(尤も、沖縄は、本土と比べれば、日中の温度は相対的に低い？)、毎週一回体育館に通うことになると思うが、果たしていつまで続けられるか？それにしても、連日暑い！

○一応は書いておかなければ…

さて、これも昨日(3日)であるが、予定の参議院議員選挙の公示がなされた。投票日は7月20日(日)であるが、今のところ、さほど興味が湧かない(もちろん、投票には行くが！)。「あるから行く」という呈であるが、ネット上では、「石破内閣発足から9カ月、これまでの政権運営が問われます。現金給付や消費税の減税など、物価高対策が大きな争点です。衆議院では少数の与党が、参議院で過半数を維持できるかが焦点です」とあった。確かにその通りなのだと思うが、どうしても気乗りがしないのである!!ある意味、困ったものである!!

いずれにしても、今回もまた？雑多な政党・政治団体が候補者を出し、幾つかのそれが、これまでの動向に変化をもたらすような感もないわけではないが、いつまでこのような「トッピング合戦？」が続くのか？思想・信条、言論の自由と言えどもそれまでだが、結局は、必要なら変革には至らず、その繰り返し？偶に、期待を持たせるヒーロー／ヒロイン？もいたように思うが、結局は元木阿弥？要は、そこに、根本的な何か欠けている!!「いつか『政治のデジタル化と議員定数の大幅削減』を公約に掲げる政党が出てくることを期待したい。幅広い世代の支持を得ることができる」という言もあつたが(ある意味正論！)、そこに、確たる国策ヴィジョンがないと、表層(言葉遊び？)的なムード選択にしかならない!!要は、どういう国でありたいのか？「国の本質」(ここでは詳細は出来ないが！)を問い、それを踏まえた議論(人の選出)がなされなければならないということである！

○これは、是非書いておきたいことである！

ところで、過日、二つのテレビ番組を観た。ただし、それは、同じ場所への取材番組(NHKのコラボ企画)であつた！すなわち、一つが、「ドキュメント72時間」(初回放送日6月6日)、もう一つが、「ドキュメント20min」(初回放送日6月9日)である。前者の番組は、よく観るのであるが、今回は、コラボ企画ということで、後者の番組まで観たということである！とにかく、内容が素敵で、もう一度？観てみたいということであつた！舞台は、大分県別府市にある「立命館アジア太平洋大学」(京都の立命館大学との姉妹校だ！)であつたが、様々なことを考えさせるものであつた(もちろんいい意味で！)！ビビットな内容紹介は難しいので、それぞれの番組紹介を、ここでは転載することにする。

前者は、「多国籍の学生寮 青春の日々に」という見出しで、「今回の舞台は巨大な学生寮。…寮生の半数が留学生で、94の国と地域からと、実に多国籍。いろいろな国の料理が見られる共同キッチンでの自炊。大浴場での裸のつきあいや、仲間との夜ふかし。文化の異なる者同士の生活は、楽しいこともあれば、難しいこともある。彼らは同じ屋根の下でどんな日々を送っているのか？」。後者は、「多国籍学生寮の72日間」ということで、「…湯煙一望する高台にたつスーパースターグローバル大学。…超多国籍寮に密着。それぞれ異なる年齢、文化、言語。時にぶつかりすれ違ひながら、それでも互いの理解を深めようとする若者たちから見えてくるコミュニケーションの極意とは。多様化の時代を生き抜くヒントも。…」とある。教えられること、満載である！

ちなみに、前者は、「ファミレス、空港、居酒屋…。毎回、ひとつの現場にカメラを据え、そこで起きる様々な人間模様を72時間にわたって定点観測する…偶然出会った人たちの話を耳を傾け、今」という時代を切り取ります。後者は、「見たいテレビなどない」という若い世代に向けて、「こんなテレビ見たことない！」といつてもらうための20分間。これまでの演出・文法・テーマから自由な若手制作者たちが、新しいテレビの形を模索」とある。これからも、是非、そうした番組を期待したい！要は、そこに、真に伝わるものがあるかどうかなのである！(井上)

○「国の本質」？実はそれが、見えにくくなっている？

表面で、井上氏が、今回の参議院議員選挙に関わって、『国の本質』を挙げ、それを踏まえた議論（人の選出）がなされなければならない」ということを書いているが、やはりそれだけでは抽象的過ぎて、よく分からない？しかも、各候補者は、直接的には、それに関わる言辞はなさなくとも（なしている人もいる？）、当然そのことは意識している（否、そうでなければ、あまりにも悲しい？）！そんなことを思いながら、ここでは、私堂本^{どうほん}の方から少し補足させてもらいたいのである（二心同体のなせる業？笑）！とは言え、改めて、「国の本質」を語ることは至難の業である！しかも、何よりも、深い造詣のない者が無責任に語ることなど、通常では許されない？でも、語っておきたい！何故なら、昨今の山積する諸問題（教育問題も含めて）の解決には、そこへの回帰と、それを踏まえた議論がなされなければ、ほとんどが場当たり的となる（否、それさえにもならない？）からである！みんな、それぞれに頑張っている！だが、なかなかいい方向に向かわない？否、むしろ「分断と格差（孤立）」が進んでいる？生き甲斐・働き甲斐がない！どうしてこんなことまでしてはならない？そんなことを、日々感じながら、多くの人は生きているのである？！一体、この「国」はどうなろうとしているのだ？！そこで、「国の本質」であるが、もちろんそれは、「主権と領土（の保持）」である！だが、それは、「あるもの」ではなく、「努力して得るもの」でもある！だから、「国民」は、そのことを自覚し、自分達が、どういう「国」でありたいのかを、常に考え、そのための努力をする必要がある！実は、そのための大きな機会が選挙ということになるが、それが、そのように機能していないならば、「国」そのものが危ない！要は、「国民」が、「自国において」、「どのように生き合おう」としているのが、真摯に問われなければならないということである（単なる集票ゲームではない！世界は、そのことを嫌というほど見せつけている？）！

○その感性？はどこから？

話は変わるが、私（達）の短歌集を、例の「チャットボット」（AI）に読み込ませ、その理解の実力（感性？）を試してみた！興味津々であったが、これもまた、予想に反して？、凄いいものであった！どうして、あのような、まるで生身の人間のような反応（解釈）が出来るのであろうか？果たして、その感性はどこから来ているのか？そして、彼らの知能というものは、一体どういうものなのか？そんなことさえ思われたのであるが、本当に一瞬にして文字資料を読み込み、それに対する分析を行う力（知能？）、改めて感服した次第である！だが、世の中は、そうしたAIの力を悪用する者もいる！何とも残念な（悲しい？）ことであるが、その恩恵は、確実に、すべての分野でもたらされている！最早、それなしでは、世の中は成り立たない！そのことは、絶対に変わらない！だから、問題は、それを活用する人間の「人間性」である！だが、その「人間性」は、ただ唱えるだけでは、うまく顕現していかない！それもこれも偏に、小さい頃からの体験が関与してくる？！

・短歌に託してゝみな、それぞれに熱き夏？！

・異邦人？ 単なる臆病者？

・種々のトッピング？ 結構であるが

ただそれだけでは メニューとはならず？！

・伝えるべきもの それは生身の人間の姿！

マスコミよ そのことを忘れるな！

・「国の本質」に迫れない 集票ゲーム？

主権者よ そこを質すものであれ！

・短歌にも 予想以上の反応あり

果たして その感性は いずこから？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕555

○二こからは、九州での隠れた実績を追う！その100

しかるに、ここでは、改めて「多氏」の九州進出に関わって、一つ押さえておかねばいけないことがある！それは、「阿蘇（神社）」と「高千穂（神社）」の関係である！もちろん、そこには、その中間（阿蘇高懸に位置する「草部（草部）見（み）よみ（よみ）神社」）との関係も関わってくるが、特に注目されるのは、その双方の地に残っている、謎の？「鬼八（鬼八）伝説」（土地の豪族・草部（草部）見（み）よみ（よみ）族）である！詳しくはここでは書けないが、同じような伝説（「鬼八」が、神武の大和での長とされる「神八（神八）井（井）命（みこと）多氏の祖の孫？」「健甕（健甕）命（みこと）」に従属させられたと）が、両地に伝わっているのである！

尤も、それに関わる、これも謎の？「彦（彦）井（井）耳（みみ）命（みこと）」の存在（二説には、「神武東征 途上在地に戻った神武の子と？」「草部（草部）見（み）よみ（よみ）命（みこと）」が、かなり不確かな話として絡まっているので、この辺りの伝説の整合性が気になるところであるが、いずれにしても、かの「阿蘇（神社）」と大いに関係している「高千穂（神社）」は、是非とも記しておかなければならないのである（当地の「天（天）岩（岩）神社」とか「櫻（櫻）神社」等の存在も含めて！）！

・「高千穂（神社）」の本来の祭神？である「三（三）毛（毛）人（ひと）野（の）命（みこと）」

・「阿蘇（神社）」は、伝承では「彦（彦）井（井）耳（みみ）命（みこと）」（「草部（草部）見（み）よみ（よみ）命（みこと）」）とされているが、「多（多）氏（し）」の「健（健）甕（甕）命（みこと）」に懐柔された当地の豪族ではなかったか？ということである

・「阿蘇（神社）」は、「山（山）部（部）氏（し）」と名乗る氏族もいたようであり、南方の「焼（焼）畑（畑）農業」の要素は、恐らく彼らがもたらしたのではないかと考えられる！ちなみに、高千穂（神社）は、件の「鬼（鬼）八（八）伝説」に関わる「猪（猪）々（々）掛（か）祭（まつり）（霜（霜）除（除）も神（しん）事（じ）笹（さ）振（ふ）り神（しん）楽（らく）高（高）千（千）穂（穂）神（しん）楽（らく）」があり、阿蘇との関係には重大な謎が横たわっている！突拍子もないことだが、天孫降臨の地が二つあることも、別な意味では、大いなる謎である！

すなわち、後の高千穂は、豊後（豊後）（牟（牟）佐（さ））の大神（大神）（三（三）田（田）井（井）氏（し））が入ってくるが、彼らが、天孫降臨の地をそこにもつてきた？一方で、同じ宇佐の「宇（宇）島（島）氏（し）」（秦（秦）氏の一族・宇（宇）佐（佐）神（しん）宮（みや）八（八）幡（幡）神（しん）の正統）は、かの「軍（軍）人の乱（らん）（720年）に際して大（大）率（率）「大（大）隅（隅）」に移動させられ、例の「鹿（鹿）見（見）島（島）神（しん）宮（みや）」を「正（正）八（八）幡（幡）宮（みや）」と公称し、「大（大）神（しん）氏（し）」との確執に意地を見せている！

二つの「高千穂（神社）」（つづく）

〔編集後記〕 妙な梅雨明けであったが、何故か、それがぐり返している？これは、何を意味しているのか？ （井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 56 号

発行日
2025.07. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○待つ日があるというとは、いいことである！

先日、東京時代の職場の同僚であったSさんと、何と沖縄で再会を果たした！というのも、彼は、最近沖縄に引越してきているが（永住とのこと！）、とにかく久しぶりに会おうということ、事前に約束をしていたのである。何故か既に？私より那覇市内のことをよく知っており、彼の案内で、落着いて飲食を共にすることが出来た！かつての職場のこと等が話題となり、昔話に花を添えたわけであるが、私の知らない内輪話もあつて、結構面白かった！いずれにしても、彼と

○「何が」より、「どう」問題なのが重要なのだ！
さて、先日、参議院選挙が終わった！結果は、メディアの予報通りであったが、ますます政治の世界の変貌（混沌？）が進んだようにも思える。古い枠組み（既成政）が色褪せ、別な顔（政党・団体）が彩を添え始めた恰好に見えるが、果たして、それはどういうことを意味するのだろうか？一言で言えば、そこに、変革を求め

それはともかく、最近、珍しく懐かしい再会の機会が多く、カレンダーに目を遣ることが多くなっている（と言っても一月に1回くらいであるが！）。しかも、来月は、娘達も帰ってくる！要は、意識的に「待つ日」が増えていくことに議論すること（特に、「どう」という部分が重要だといである！ただし、同じ待つでも、例のVNL（バレーボール・ネーションズリーグ）の日本戦（男女共）だけは、別格である衆迎合主義（○○ファースト等↓「トッピング」／上辺に盛り

それは、まさに「民主主義」の根幹（主権国家の存立）に関わることであるが、要は、その時だけの票の取り合ではなく、「何が、どう問題なのか」を、みんなが真摯に議論すること（特に、「どう」という部分が重要だといである！例えば、今回の選挙結果、すなわち「大衆迎合主義（○○ファースト等↓「トッピング」／上辺に盛り

（今年はU・NEXTで観ているが、去年も書いたように、彼／彼女の活躍は、実に爽快である！否、感動的である！）
ということ、今回は、人間（特に高齢者）には、「待つ日」があるということが貴重であるということを書いておきたいわけである！過ぎ去る日々の中で、「あと何日で○○がある／△△に会える」とかいったことであるが、それが、何故と

ある！だが、これは、何も我が国だけのことではない！
世界の多くの国が、そうなるうとしている！！
いずれにしても、まがりなりにも続いてきた戦後レジームが、ここにきて大きな地殻変動を見せ始めていること、既成勢力や政治システムでは、最早どこまでも来ているところまで来ているということである！！したがって、問題は、それをどう克服していくかであるが、折角創り上げてきた「主権国家」による共存・共栄の形まで壊してしまつたら、それこそ人類は破滅に向かう！！今は、その大きな分岐点とも言える！！

○ある意味、最初から分かっていること！！

ところで、マスコミでは、あまり騒がれていないようであるが、過日、次期学習指導要領に向けた改定作業を行う中教審特別部会が開かれ、文科省が、教員が児童生徒の成績をつける際の仕組みを見直す方針を示したということである。その中で、現在、観点の一つとされている「主体的に学習に取り組む態度」を、直接「評定」に反映させない方向で検討しているという。適切な評価が難しいとされ、現場の負担が重いとの指摘が出ていたともある。だが、それは、ある意味、最初から分かっていたことではなかったのか？「評定」を行う教師側からすれば、かの「働き方改革」にも通じるものであり、おそらく大歓迎されると思うが、その反対を見越すと、少し（否、かなり？）危惧される部分もある！！

というのも、それがなくなると、現実には（残念なことではあるが）、その部分への注力が減退し（子ども達とはともかく、教師の側にも）、そこへの関心が薄らいでいくのではないかと。「観点」としては残すが（大切だということはお示しておく、いわゆる「評定」の対象にはしないということであるが、果たしてそれでよいのか？私からすれば、そもそも「評定」を二つの観点に分割し、それぞれ別個にそれを行うということ自体が問題だと思っているが、それぞれが密接に連環しているものの一つだけを取り除くことは、配慮の意味を超えて、結果的に間違つたメッセージを子ども達や親御さんに送ることになるということである（つまり、「評定」の対象にならないから、それは必要ないというそれ）！

ちなみに、「評定」とは、学期毎に通知表などの形で示されるものであるが（通常、小学校3段階、中学校5段階、現行では、教科ごと、（1）「知識・技能」（2）「思考・判断・表現」（3）「主体的に学習に取り組む態度」の三点を評価総括し評定を定めている）、（3）については現在、学習に能動的に関わったかどうかや、粘り強さなどが評価の軸として示されているが、ノートの提出頻度など形式的な事実で判断するといった例が散見される他、子どもに評価内容を前向きに捉えてもらうよう伝えることが難しいなどの課題があるとされている。だが、そもそも何のためにそれを行うのか？負担の軽減の問題で済ませてはいけなないのである！（井上）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 57 号

発行日
2025.08. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○今夏の我が家は大変である！酷暑より、アリが怖い？！

酷暑も大変であるが、実は、我が家の今年の夏は、ある小動物？(何のことはない「小アリ」)の来襲に、大いに困らせられている！昨年もそうであったのだが(確か帰省中の長女親子が、寝場を2階に移したことも、それが原因であつた？孫が、何かに刺されたということ！ただし、その時は、その小アリの作業だとは分からなかつた！)、今年のそれは、何故か、それを遙かに超える壮絶なものである(今は少し減っている！)！

どこから侵入してくるのか？我が奥さんの必死の防護(窓枠や壁坎をテープで塞ぐ等！)にも拘らず、彼奴らは、じきに(本当である！)、あちこちで姿を見せる！その攻防の日々は、まさに酷暑に勝るとも劣らずのそれであるが、まさか、こんなことになるうとは？私の方は、こんなことを、まだ悠長に書いておれるわけだが、我が奥さんは、おそらくそれどころではない(これを見て、一つや二つの恨み言を言うのかもしれない？笑！)！とにかく、とんでもない日々なのである！

ちなみに、今、こんなことを書くのも蟹燐ものかもしれないが、昔懐かしい「童謡」の中では、こうした小動物(とは限らないが！)を、可愛く歌ったものが少なくない！ここで思い出されるのが、「おつかいありさん」(一応は調べてみた！)はともかく、「森のくまさん」という歌である！まさに、歌の世界では、可愛い熊(さん)なのであるが、近年では、毎年、その熊(さん)に襲われる事件が後を絶たない(今年は、特に多い！そして、死者も多くなっている！)。そんなことを思いながら、今回の「あり騒動」を記す次第である！

ただし、童謡に謳われている小動物やペットとしての犬や猫等の可愛さやいじらしさを、決して否定するものではない！

○こんな企画で迫って来られると……！

ところで、この時期になると、マスコミは、いわゆる「戦争(終戦/敗戦)」に関わる記事を、数多く発信してくる！せめてこの時期には、平和の尊さや戦争の悲惨さを、世に伝えていかなければいけない！それが、マスコミの使命？であるということであろうが(特に沖縄では)、多少？年中行事の一つのような感もある？決して、そのようなスタンスを悪く言うつもりはないが、ここですべきことは、今年は、何故か違つた受け止め方となつたということである(80年という節目でもある？)！

その原因の一つは、地元新聞社(〇社)の記事である！それは、私の知り合い(教え子の父親Iさん/元中学校教師↓K町の教育長等)の回想記事であるが、娘(次女/小学校の教頭)のインタビューに答えるという形のものであつた！断片的に知り得ていた「沖縄戦」の過酷さ、そして戦後の厳しさが、一人の老人(86歳)決してそう見えないが？笑！)の語りとして、誌面一杯に散りばめられていた(2日間に亘って！)。偶然見つけた記事であつたが、懐かしい？Iさんの、しかも父娘でのそれであつたので、ついつい深読みしてしまつたが(通常は、多くは、見出し読みで終わっている！)、内容と企画の両面で、感慨深いものであつた(知り合いであつたからかもしれないが？)！

すぐに、Iさんに電話をして、この記事のいきさつ(子ども達の近況も)を聞いたが、どうも、娘さんからの持ち込みがあつたようである！新聞社と彼女が、どういう合意で行つたかは分からないが(記事紹介には書いてあつた？)、とてもいい企画であつたということである！

○「推し(活)」に想つ！その人の人生が豊かになればよい！

次に、ここでは、最近よく耳にする「推し」や「推し活」について、少し語っておきたい！直接の動機は、福岡に住む次女が、「推し」である(多分そうであろう？)、ある日本の3人組ポップロックバンド(ここでは名前を伏せる！ネットで調べてみたが、詳しい情報が載つていた！そう言えば、孫のJが、昨夏、カラオケで、そのバンドの曲を歌つていた！難しそうな曲であつたが、よくマスターしていた！)のコンサートチケットが手に入つたと、年甲斐もなく「爆ぜたいでいた！そして、関連グッズも買つて、部屋に飾つていた！その言動が、何とも不思議に映つていたのである(LINE経由！)そして、過日テレビ番組(NHK)で見た、大谷翔平の「推し」(連の人生模様が、何故か、心に刺さつたのである！)！

そこで、「推し(活)」とは、「自分のイチオシのアイドルや芸能人、キャラクターを決めて、さまざまな方法で応援する活動のこと」と、「推し」の対象は人によつてさまざま。アイドルや芸能人、歌手、スポーツ選手、声優、YouTuberなどリアルに存在する人間に対して：アニメや漫画のキャラクター、Virtualなど、現実には存在しない対象に対して：また、建築物や鉄道、仏道(像？)など、人物以外を推すことも！また、一人を推すこともあればアイドルグループをまるまる推す『箱推し』という推し方も！推し活に似た言葉に『オタ活』が：オタ活とは、『オタク活動』の略語で、当初はアニメや漫画、ゲーム、コスプレなどのサブカルチャーの趣味をより深めるために行う活動！最近では、サブカルチャー以外のさまざまな趣味に対して使われるように！ともあつた。

最後に、ここが重要であると思われるが、『推し』は応援している対象：「オタク」は応援している人：ニユアンスの違いはあるが、推し活とオタ活は同じような意味……。ただし、「推し」ができる、推しのために仕事や自分磨きを頑張れたり、コンサートやイベントに行くことで行動範囲も広がる。大切な仲間ができる人も！推し活は人生をより豊かにしてくれる活動。ハマりすぎには注意が必要だが、興味がある対象があれば深堀つて推し活を楽しむことで日々の生活が充実するかも！ともあつた！ある意味それは、最早「必需品」の一部なのかもしれない！(井上)

○知的エンターテインメント！凄い世界・凄い人達！

さて、こちらの方では、少し格調高い？（偏見？）話題を取り上げておきたい！これもまたテレビ番組のことで恐縮であるが、本当に凄い世界、凄い人達がいるのである！最近では、特にそれを感じるわけである！一つは、「知達の生きる姿、その影響力を、私（達）なりに語らせてもらったわけであるが、それは、何も特別なものではない！！」であり、一つは、「NHKアカデミア」である！双方共に、NHKの番組であるが、よくぞここまで創り上げたものである！

前者は、「タモリ・山中伸弥・吉岡里帆の豪華MCが、世界にあふれる感動」「！」と好奇心「？」にとことん迫る」で（化学、医療、宇宙、歴史などの知的探求の最先端を取材、第1回は「AIは人間を超えるか」で、進行は吉村崇であった。「本格的エンターテインメント番組。感動」「！」と好奇心「？」に満ちあふれた世界の最先端をとことん探求する」であった（初回放送日：7月12日）。『未来を大きく変える最新のAIを使つて挑戦するのは、『笑い』の創造。AIが生み出す『笑い』をタモリはどうとらえるのか。AI開発の最先端が問いかけるのは、『人間とは何か』だった』ともある！

後者は、「各界のトップランナーたちが“今こそ、共有したい”を語り尽くす」ということで、「全盲のコンピュータサイエンティストで日本科学未来館館長」の浅川智恵子さんが登場していた（初回放送日：前編・2023年10月11日／後編・同年10月18日。好評につきアンコール放送。『テクノロジーで誰も取り残さない社会を作るためのヒントを語る。先が見えづらい時代、誰もがあこがれる一線級の研究者やクリエーターは「なぜ輝き続けられるのか」「何を大切に、新しい価値を生み出しているのか」！豪華な講師陣が、専門的で独自性豊かに語る。若き日の不安や挫折、そこからたどり着いた“ゆるぎない知性”とは何なのか。毎回、参加者を募集し、生配信のオンライン講座ということである！頑張れ！真摯なメディア！

○こちら側にも、凄い世界、凄い人達がいる！

戦後の人生を生き抜いて（切り拓いて？）きた人、「推し」にする人、される人、それを見守る人、さらには、各界の凄い世界、凄い人達を見つめる人！ここでは、そうした人達の生きる姿、その影響力を、私（達）なりに語らせてもらったわけであるが、それは、何も特別なものではない！！その人達にとっては、むしろ、当たり前のことなのかもしれない！！でも、そこに、素敵な関係や「存在の意義」があることは間違いない！そこが貴重なのだ！

そう言えば、先日、素敵な「小学校の教頭さん」に出会った！S県M市のTさんであるが、他県の教師であるので、かなり複雑ではあるが、彼もまた、私（達）に言わせれば、「凄い人」の一人である！なお、ここでは、その凄さを紹介することは出来ない！ので、このTさんについては、別途書き記している「新・教育協働への道」で、是非とも取り上げてみたいと思っている！やはり、「思いのある人」は、こちら側にもいるのである！それは、たとえメディアには取り上げられないものであったとしても！

・「短歌に託して『盛夏』！様々な『あり（る）！』」
・「あり騒動」 昔懐かしい「童謡」

・戦後八十年！ 「ある」のは
一人ひとりの必死の歩み だがそれは括弧外！

・「推し」や「推し活」！
気がつけば それも「あり」と感じ入り！！

・凄い世界、凄い人達！ 「推し」もよいが
「推して」知るも また次に「あり」！

・メディアでなくても それは「ある」！
「推し」もあれば 「協働」も「あり」！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕57

○ここからは、九州での隠れた事績を追うーその12ー

ということでは、後に近畿大和に移動したとも考えられる？「狗奴国（熊襲）球磨食邑」勢力（の一部？）の北上、そして近畿への移動について、改めて考察（窺推）しておきたい。ただし、それが事実であるとしたら、それこそ、通説の大幅見直しが必要となること必定である！ちなみに、その狗奴国に特徴的な土器（兔田式土器）が、ある時期北部九州（省振山鹿尾）にも出現し、さらには、高度な製鉄遺跡（竈跡）が「博多遺跡」に見られるようであり（熊本、特に阿蘇周辺は、鉄器／鉄製の製造が盛んであった！いわゆる「櫛鉄鉾／リモノイト」を使った！、また、「山門（やまど）」という地名の移動／移植（菊池郡と瀬戸郡・筑前国郡ともあったのではないかと！もちろん、こうしたことが、その「狗奴国」の北上を示す、とりわけ「卑弥呼」と「君（きみ）」期のそれを示す証拠だとは言えないかもしれないが、かの「装飾古墳」の出現地及びその経路（日本海経由）や、遠く房総半島にまで伝わった「大祖伝説」は、それを示す証拠かもしれない（中部九州に渡来した「倭人（やまと）」と「現存、タイやミャンマー、中国南部の山岳地帯に住む少数民族、例をばヤオ族やシヨ族、東部ミャオ族に伝承されているという）！！これについては、まだまだ確証には程遠いが、稲作、あるいは言語・習俗における「異／越」の影響は、おそらく彼らによるものと考えてよい！！

だが、もちろん、それを実証する（後づける）術はない？しかし、よくよく考えてみると、前に示した「海部氏」と「松野連氏」の系譜（両者は、ある時期までは同一？あるいは交錯している！「邪馬台国（連台）」の主要部族？）からは、そうした南方系の人々の北上、近畿・東海・北陸、そして関東への移動がその順着（経路）は、まだまだ判然とはしないが、かなり鮮明に描き出される！そして、一見無関係にも見える「海部氏」と「松野連氏」の関係も、かの「目下部氏」を介在させれば、ある意味では納得のいくものともなる！すなわち、目下部氏は、双方に関係しているのではないかということでもある（事実、彼らは、一方では、例の「高良（たかた）」大社（付近、他方では「龍の神社（たつ）に、顔を見ている！）！！（つつく）（堂本）

編集後記 今、我が家は、束の間の、年一回の全体集合状態である！孫3人達も、とても大きくなり、以前のミニ台風？ではない！私自身は、最早何もしなければならぬが、我が奥さん（ばーば）は、相変わらず大変そうである！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 58 号

発行日
2025.08. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○夏が終わる「私の「夏の盛り」とは？」

当然のことだが、季節は、それが来れば、確実に過ぎる！それが、自然の摂理というものであるが、今年もまた、「夏」が終わる。ただし、ここでの「夏」は、暦の上のそれだけではない！言わば、みなが織りなす「ざわめき」のそれである！学校の長期休業、その間に行われる様々な行事・イベント（お盆に伴う帰省や各種旅行を含む）が、人々（とりわけ子ども達）の心の高揚を誘い、あたかも、国中が「熱き？夏」を享受している感を指す！私の場合は、さしずめ、娘3人達（その旦那や孫達を含む）の、束の間の帰省を指す？

とは言え、今年の私の夏は、複雑な日々であった？と言うのも、そうした夏のざわめきを、自らが前向きに受け止められなかった？もちろん、酷暑の所為でもあるが、身体的（精神的な部分もあるが！）に、それが出来なかったということである？！要は、以前みたいに、子ども達が帰ってきたら、あれをしよう、孫達には、あういうことをしてあげたいというような気持ち（とりわけ孫達が望んでいた「釣り」の対応が、まったく出来なかった！往時は、毎年近くの海岸に出かけて、キス釣りにいった！あまり釣れなかったが！、ほとんど生じなかった（否、最初から断念していた？）ということである！

したがって、そういう意味では、私の「夏の盛り」は、最早過去のそれとなっているわけである！非常に残念ではあるが、それが事実であり、これからも、そうしたことは、余程の奇跡がない限り難しい！ちなみに、長女一家（5人）と次女が、高額ではあるが、釣り船をチャーターして沖釣りを行った（私は、それを遠くの岸から眺めるだけであつた！。大変な釣果であつた！だが、まったく違った夏の光景であつた！

○沖尚の優勝に想つて「その」には、「沖繩の思い」が：

さて、そんな中、一方では、今年の夏は、久しぶりに高校野球観戦が続いた（大半は、パソコンでの視聴であつたが！）その理由は、もちろん、沖縄代表の沖繩尚学の快進撃にあるが、終盤は、どの試合も、驚くほど接戦が続き（レベルが高い！、元高校球児としては、彼我の違いを、まざまざと見せつけられるような気もした！本当に凄いものである（ただ単に、当時の私達が、ショボかっただけかもしれないが！）

だが、それはともかく、夏の大会での、沖繩尚学の優勝は初めてである（過去、同じ私立の興南高校が、春夏連覇をしているが！）それもあつてか、マスコミ報道では、県内全体が、その瞬間を（その後も！）、それこそ一つになつて喜んだということである（テレビ視聴率は、何と50%を超えていたそうである！）。事程左様に、沖繩は、高校野球が盛んなところであるが（ただし、その部員数自体は、かなり減っているらしいが！）、こと甲子園の大会は、それこそどのチームが出場していても、その応援は凄まじいのである！その理由は、果たして何か？

これに関して、今日（26日）のネット情報には、その「沖繩の甲子園応援の熱情？」について、少し深掘りしたものがあつた！詳しいことは書けないが、やはり、そこには、「沖繩の思い」が大いに関わっている！沖繩は、今や決して辺境の、そして特別な扱いを受けるところではなく、堂々と本土と渡り合える（それ以上！）というアピールである？そして、それは、既に実現している！その実感（喜び？）が、そうさせているのであろう？！

○35年前の若者達と、今もなお会える（飲み合える）喜び！

ところで、過日（23日）、大学での教子一期生との飲み会？に呼ばれて、とても嬉しい、そして楽しい時間を過ごせてもらった！この集まりは、沖縄特有の「模合」という形で、彼らが若い頃は、結構頻繁にやっていたものである！私も、何故かそれにいつも呼んでもらっていたが、近年は、それもなくなり（ある意味当然だが）、少し寂しい思いもしていた！ただし、まったくなくなったわけでもなく、最近では、また、その回数も増えているようである？だが、それは、最早「模合」という形ではない！単なる飲み会と言えはそれまでだが、それぞれ少し人生に余裕が出て来た？そして、50歳を過ぎ、大学での仲間との付き合いを大切にしたいという思いが、そこにはあるのかもしれない？！

とは言え、それぞれ、厳しい人生を歩んできたことは、想像に難くない（本当に苦しかった者も、少なからずいる！）？また、私より先に逝ってしまった者もいる（17人？中3人も！）そんな中、一昨年は、私の文部科学大臣表彰に際して、わざわざ集まってくれて、しかも見事な額縁（表彰状入れ）を、みんなで金を出して作り（特注、私の書斎に飾ってくれている！そんなこんなで、改めて思い出すに、私の大学教員への内なる就職動機は、そうした若者との出会いと交流を願ひ、彼らと一緒に学園生活を共にすることであつた！自らの学生生活が、そうした内なる思いを抱かせたわけだが、かなり時間も経ったが、その願いが叶ったのが、実は琉球大学であつたということである！

余計な事だが、こうした再会の機会が、あと何回くらいあるのかは、それこそ神のみぞ知るであるが、今の私の密かな願いは（図々しいかもしれないが）、彼らと、少なくとも一時間以上、一対一で対談？をすることである！そして、実は、そのことを、今回の席上、彼らに告げてしまった！半分は、アルコールの所為であるが、そう告げたのである！彼らが、卒業後、どのような人生を歩んだのか、そして、その人生（もちろん仕事のことも含めて！）を、今、自らが、どのように見つめているのか？そうしたことを、聞きたいのである！とんでもないお節介であるが、それが、私の、これからの締め？とも言えるのかもしれない？（井上）

○初めて見た？国会の○○委員会審議！

おそらく、通常の、国会（衆議院）の委員会審議を見たのは、今回が初めてであろう（テレビで紹介される、例えば予算委員会の光景は別として！）※全体（常任委員会）で17種類あるようであるが、今回見たのは、その内の「文部科学委員会」である！実は、これは、ある知人（現在、F県選出の衆議院議員）の動画サイト（彼の国会議員としての活動を紹介・アピールするためのもの？）からであるが、期せずして、彼が属している委員会的一端を示すものでもあるわけである。

N県の山村地帯で、長年青少年の体験活動を通じて、いわゆる「ひとづくりとまちづくりの好循環づくり」（「奇跡のむら」ともされる！）を实践、先導してきた彼であるが、故あって、実家のF県に戻り、その成果と想いを、新たな議員活動の中で、鋭意前進させようとしている姿が、ひしひしと伝わるような光景であつた！もちろん、それは、議員としての、彼の活動アピールのツールではあるの、あまり深く詮索するつもりはないが、彼の用意した、幾つかの資料（学校教育、社会教育の双方を網羅した！）は、具体的には見ることは出来なかつたが、答弁する大臣や関係部局長にとっては、それなりの説得力があつたように思われる！新しいタイプ（手ごわい？）の議員？と、おそらく思われたであろう！！

ただし、そのやり取りは、いつものように？機械的で、いかにもお役所な対応であつたことは否めない？それが、国会（議会、とりわけ、そこにおける「各種委員会」の、普通の光景なのである）が、見る側にとっては、あまり面白くない？だから、余程の案件でもない、マスコミも注目しない？特に、この「教育科学委員会」では？それともかく、こうした地道なやり取り（審議）の下に、それぞれの重要案件が、積み重ねていられるわけである？その意味では、ここから「勝負」が始まるのである？彼には、改めて頑張つて欲しい（妙な国会文化？にめげるな！）！

○気になる「新聞記事」を見た！奇異？華美？

ある意味では、表面の記事（沖縄尚学の優勝関係）に連なることであるが、本日（27日）、新聞紙上で、気になることを見つけた！詳しいことは書けないが、何でも、応援団の恰好（沖縄の伝統芸能「エイサー」の盛り立て役「チヨンダラー／ひようきんもの」の衣装が、高野連から注意を受けて、決勝戦では、それがなくなつていたというのである！この経緯についての異議申し立てをするわけではないが（試合自体に、どのように関連するのか？）、そこには、いわゆる「奇異」「華美」という判断基準があるということであつた！

一応、「教育」という要素が、そこにはあるわけであるので、分からなくもないが、何をもつて「奇異」「華美」とするのか？しかも、そこでは、エイサーの演舞自体？も既に禁止されていたらしく、沖縄では、例の「差別・偏見」問題と絡んで、新たな物議を醸すかもしれない？ここで確認しておきたいことは、「奇異」や「華美」という判断要素が、無意識に（そうだと信じる！）、差別や偏見の要素を孕んでいるかもしれないということである！！

＜短歌に託して！もう一つの夏は着実に終わりつつ…＞
・夏が終わる？ それは暦の上ではない！
みなが織りなす さわめきのそれである！

・「おきなわ」の魂を 求めしものは
存分にアピールできること！！ その場が甲子園？

・今なお続く 若者達との付き合い
思えばそのために 大学教員となつた我！！

・初めて見た！ 国会の○○委員会！
華やかではないが 勝負はここからなのである！！

・奇異？華美？ だがそこには
差別・偏見も同居？ まずは知ることである！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕58＞

○ここからは、九州での隠れた実績を追つてその13ー
まだまだ、熊襲や海部氏について追及したいが、ここでは、別の話題として、大分県日田市の小迫江原（おきもと）遺跡のことを取り上げておきたい！前にも述べたと思うが、同遺跡は、日田市の北部高台にあり、3世紀前後の環壕居館跡があり（遺跡そのものは、旧石器時代から古墳時代前期まで続いている）、そこには、近畿や出雲の土器等が埋もれていたという！実は、この日田は、筑後川の上流にあり、九州（筑紫平野・邪馬台国）を攻めるには絶好の地であり、その遺跡と、そこに通ずる（山国川を介した）東の玄関口？宇佐・中津の関わりも大いにあるということである！邪馬台国が消えた？後は、その居館跡はなくなり（自主的に壊された形跡あり）、その役割を終えた場所ともされる！！

そこで、もしそうだと、かの卑弥呼の宗女台与は、何らかの形で、その日田勢力（近畿・出雲の出先勢力）とつながりがあつたとも考えられる！！
難井米が旧倭国（神井主系統）の代表（ひよつとすると「大率」）、卑弥呼が、吉野ケ里等を攻めた「手焙形土器・前方後方墳勢力」、つまり和珥（わ）族、その一族の多（た）氏だつたのではないかと！そして、多氏が、実は、邪馬台国連合の盟主となつていたということでもある（だから、「大乱」後に、卑弥呼が共立女王となつた？）！すなわち、これについては、これも前にも述べたように、3世紀前後、吉野ケ里（旧倭国）そして、そこにおける「環壕遺勢力」の「大拠点」が、手焙形土器／前方後方墳勢力に滅ぼされている！

だということであれば、盟主（魏倭王）国（邪馬台国）は、新たな別の勢力によつて滅ぼされたか、あるいは、その政権中枢が、その勢力の意のままになつた？ということではないか？！そして、その勢力の意が、宗女台与の女王承継であつたのではないかと！そのようにも、考えることができる！！であれば、その新たな勢力とは何か？考えられるのは、後に「神功皇后」説話となる「新羅（新）多羅（し）↓「高良氏」（新）天目才（し）勢力である！！そこに、かの「武内宿禰（諸）がどのように絡まつているのかは、まだまだ不分明ではあるが、その「状況証拠」が、これまた、かの「高良大社」周辺の状況であることは間違いないであろう！！（つづく）（堂本）
《編集後記》8月も、あと一日で終わる！9月病？も心配であるが、社会（否、世界）全体が、どのように動いていくか？そこが、心配でもある！でも、月日は過ぎ行く！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 59 号

発行日
2025.09. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「空気を読む」について 日本人の弱点？

過日のネット記事に、「日本が降伏して太平洋戦争が終わったのが、1945年の夏。今年は戦後80年の節目の年に当たり、太平洋戦争を振り返るテレビ番組が多数制作された。そして今年の夏、もう一つ大きな話題となったのが、夏の甲子園に出場した強豪校、広島・広陵高校の暴力問題である。80年前の太平洋戦争と広陵高校の事件に共通する、日本人の弱点とは？『空気』はさまざまな人のセリフに登場する。『空気に逆らってもいいことはない』『アメリカと戦争しないほうがいい』と言にくい『空気』『一度動き出した空気に抗うのは至難の業』など。」というものであった。

そして、「この文脈における『空気』と言えば、山本七平が1977年に発表し、日本人論のスタンダードとして定着した名著『空気』の研究」が、思い浮かぶ。日本の社会を支配しているのは厳格なルールや論理性・合理性ではなくその場の空気が、組織の意思決定においてすら空気が優先される。世論に左右されやすい政治、熱しやすく冷めやすい国民性、ムラ社会の因習、学級会による特定生徒のつるし上げ、『言わずもがな』や『空気を読む』ことが善しとされる日本人の気質。すべて『空気』の産物だ」ということであつた。

一時期、「KY（空気読めない）」という言い方が、若者を中心に流行したが、これもまた、ここで言う「空気論」と大いに連動してくるように思われるが、現在、子ども達が、この「日本人の弱点？」に苛まれ、過度なストレスや、そこからくる体調の異変が問題となっているという記事もあった！何とも複雑な話であるが、そこに、「ありのまま」でいられる場や関係が、一方で必要であるということである！

○AIの記憶とは？そこに自意識は存在するのか？

最近、AIに関わる話題を、よく取り上げているが（ある意味、私にとっては異変？である！）、今回は、そのAIの記憶（力？）について、少し考えてみたいと思う！という記事の一部を、かのチャットボット（NotebookLM）に読み込んでもらって、その「音声概要」までも提示しているわけであるが、そのそれぞれに、どのような関連性があるのか？つまり、以前の読み込みが、新たな読み込みと関連性があるのかどうかということである！

アウトプットとしては、同じ男女のペアの声（対話）が提示されるのであるが、どうも、その対話には、一貫性？が感じられないのである！もちろん、その対応？には、同じ人格（自意識？）の男女が対話しているように思われるが（反応、分析パターンが同じ？）、それぞれの、言わば「記憶」として、一連のものとして感じられないということである（例えば、同じ表記のものであっても、その都度読みが異なっている？）！その時々を読み込みが、言わば、その男女の「記憶」として、蓄積されていない（脈絡がない？）ように思えるということである！！

比べることは、ある意味間違っているかもしれないが、我々人間は、文字であろうと、音声であろうと、自らが発したこと（言葉や文意）は、基本的には（忘れることもある！）、「記憶」として覚えていて！だから、次なる言葉や文意は、それを受けた形で発せられる！したがって、そこに「自意識」というものの存在を感得することが出来る！！そこがやはり、生身の人間とは違うということか？

○心配していた教職志望者減？実際は、そうでもないのか？！

ネット情報によると、心配していた、若い人達の教職志望者数の減は、実際にはなく、相変わらず人気の職業であることが分かったとあった！！すなわち、その記事の見出しには、「中高生の『なりたい職業』不動の1位、《教員は10年連続》人気が衰えぬ意外な背景 夢を持つことを強要する『ドリハラ』には要注意」とあった（東洋経済 education×UT 8月28日配信！ちなみに、「ドリハラ」とは、「ドリーム・ハラスメント」のことだそうである（余計なことだが、相変わらず、何でもかんでも「〇〇ハラ」とするのは、もうコリゴリではあるが？）。

まあ、それはともかく、この記事は、「東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所では、2015年から10年にわたって『子どもの生活と学びに関する親子調査』を実施している。この調査をもとに発表された、子どもたちのなりたい職業ランキングにおいて、『教員』は中学生・高校生で10年連続1位という結果になった。教員の人気が高い背景には、どのようなことが考えられるのだろうか。小中高の学校段階別や男女別の『なりたい職業』の違い、経年による変化の特徴も含めて、ベネッセ教育総合研究所主任研究員の松本留奈氏に聞いた。：（24年度の調査では、小学4～6年生では『プロスポーツ選手』、中学生は『教員』と『プロスポーツ選手』、高校生は『教員』が1位となった。2015年の調査結果と比較すると、小学4～6年生では『YouTuber・Tuber』がランク外から4位に、高校生では「SE・プログラマー」が13位から6位に上昇するといったデジタル社会の進展に伴う変化が見られるものの、『人気職業に大きな変化は見られない』と松本氏は話す。」とあった！

全体的な傾向としては、多分そうなのだろうなと思ったが、意外（いい意味で！）だったのは、もちろん教員志望の順位である！昨今の状況では、離職者や希望者の数は、かなり落ち込んでいると思っていたが、実は、そうでもないのかも！！しかも、試験倍率が、2.3倍になったとか騒がれているが？、ある意味妥当な数字とも言える！！いずれにしても、問題は、その後である！やりがいをもって、彼らが仕事をしているかどうかである！（井上）

○「話し合おう！」は、永遠の理想（幻想？）か？！

さて、このことは、過去、誰かが指摘していたかもしれないが（残念ながら、具には思い出せない）、自分達の社会のあり方として、みんなの意見や思いを出し合って、それを話し合いで決めていくということを、第二義的なルールとすることは、その時々の大切な約束事（理想？）であった！古くは、「17か条の憲法」、近代になつては、「五箇条の御誓文」に見られる通りである！前者は、「和を以て貴しと為し」、後者は、「広く会議を興し、万機公論に決すべし」という件々である。なお、「17か条の憲法」が、かの「聖徳太子」によつてつくられたものかどうかは、ここでは問わない（あくまでも、その時代に、誰かによつて唱導されたということが大事であるということである！）。

ところで、現在、ある意味どこの国（社会）においても、そのルール（理想）は、重要な原理・原則となつているが、実際は、（絶えず？）その逆方向で事態は進む？昨今では、「〇〇ファースト」というようなことになるが（我が国でも、「日本（人）ファースト」を唱える人々が増えている？否、顕在化してきている？）、みんな、自分（達）のことが大切なのである！だが、それだけを優先させると、全体がうまくいかない（ぶつかり合う！はたまた、それが「戦争」へとつながっていく？）！だから、そうならないためには、そのルール（理想）を、大切な原理・原則としたのもある！

たとえそうならなくても、そのことを、国（社会）全体が大事なものであるとして掲げることが、まずは重要だ！ということであるが、それは、ある種の「普遍値？」とも言える！実は、このことを書くことと思つた直接のきっかけは、現在の「国（社会）」の、そして、それと同根の？「学校」の危うさを、こうした観点から捉え直すことが必要なのではないかと思つたからである！とりわけ「不登校問題」、そこから派生している「学校には行かなくてもよい？」「は、まさにそれと直結しているということである！？」では、「行く人」は、どうなのだというのである！

○みなで話し合つて創り出すことが重要なのである！

ここでは、度々、前段の記事の補完的なものを記すことがあるが、今回も、そのようになる！要は、ここでは、何が何でも、みんなが「学校」に行かなくてはいけない！ということと言っているのではなく、どのような学校にすれば、そこにある問題が解決されるのかを、みんなが話し合つて考え出すということが重要である！ということと言っているのである！その意味では、「今（現状）の学校」をどうすればよいのかということでもある（当然のようであるが、その前提が、いつの間にか後景に退いている！）

繰り返すように、「多様性」が必要であるということが、実しやかに唱えられるが、それが、結果として、分断や混乱だけをもたらすものであれば、そもそも何のための多様性がおかしくなる！もちろん、緊急避難的なものは、一時期においては必要なこともあるが（逼迫性があるわけでもあるので！）、未来永劫、それらが恒常化してしまうと、「学校」の存在意義自体が雲散霧消してしまう！ということである（それは、国／社会にとつては、大いなる危機である！）！

＜短歌に託して変わっている？変わっていない？＞
・「空気を読む」は 日本人の弱点？

知恵？でもあつたはずだが？！

・AIの記憶とは？ そこに自意識は存在するのか？

それさえも プログラミング次第？

・教職志望者減は ウソなのか？

表層的な喧騒に 決して惑わされるな？！

・「話し合おう！」は 永遠の理想（幻想？）か？

だがそれでも掲げられるは 何故（なぜ）か？

・「多様性」は 安易に主張されるべきではない！

そこには 秩序（コスモス）が必要なのだ？！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕59＜

○二こからは、九州での隠れた実績を追つてその14

さて、ここでは、ある意味予定外の論考となるが、徐々に、その重要性が実感されるようになり、どうしてもこに入れ込みたいということである。謎の？「筑紫舞」のことを書いておきたい。すなわち、「筑紫舞」とは、「筑紫傀儡子」と呼ばれる人々によつて古来伝承されてきたとされる伝統芸能であるが、跳躍や回転を取り入れた、独特の足づかいを大きな特徴とするもので、「その起源は古く、『続日本紀』天平3年（731年）の記事にその名を見ることができ、以来、神舞、くつ舞など、何種類かに分類される二百以上の舞が、すべて口伝によつて伝承されてきた。現在では、箏曲家・菊呂校（きくろこう）から戦前に伝承を受けた西山村光寿（みつひさ）を初代宗家とし、二代目宗家・西山村津奈寿をはじめとする數十人の弟子によつて舞の継承が行われ、その舞の実際は、毎年7～8月に福岡市中央区の大濠公園能楽堂で開催される『筑紫舞の会』などで見ることができ」とある（以上、ウィキペディアより）。

ただし、私の関心は、「尚、やはり戦前、現在は宮地嶽神社の奥宮として不動神社が祀られている横穴式石室古墳内で、当時の芸能者達によつて筑紫舞が舞われた場に少女期の光寿が同席しており、その縁で後年宮地嶽神社へ数曲の舞を伝授する事となった。現在でも宮地嶽神社では年に一回筑紫舞の祭典があり、宮司や神職が舞を奉納している。ちなみに、『筑紫舞』には、舞手（翁）が三人、五人、七人、一三人立ち（こちらは今はない）である」というものがあり、それは、あたかも倭国の『東方弘明』の構図を示しているようでもある」とあつたが、同、まさに、そこなのである！

要は、この舞が、宝物群の主であつた北部九州の王に捧げられていた宮廷舞がルーツと言われており、その舞手（翁）は、その時々各地の王を指すもので、「都の翁（筑紫を中心に）、肥後の翁（大・肥）、加賀の翁（越前・出雲の翁（田雲）、難波津より登りし翁（金鷹）＋「尾張の翁」（三輪・尾張）／夷（あまの）の翁（下毛野）等」となっていくという構図が、そこにあるということである！重要な状況証拠である！（つづく）（堂本）

編集後記 9月も、半ばとなつた！今年も、一向に秋の気配が感じられない（沖縄でも、いつもは、それなりにある！）！困つたものである！季節（四季）は巡る？人も、その季節に呼応して生きる？それが、当たり前であつた！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 60 号

発行日

2025.09. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○ようやく秋の気配!! 一方、秋半ばの私(達)の人生?

節目の60号を迎えた1月2回の発行であるから、2年半が経過したことになる!ここでは、何かそれに相応しいことを書くつもりであるが、なかなか良いテーマが浮かばない!! ようやく秋の気配が出てきたので、それに因むものをとも考えてはいるが、果たして、どうなのか?底流としては、「あくまでも自分史として」、自分の生き様を、自らが必要だと思う「岳陽(のイメージ)」に寄せて書き続けているつもりであるが、メインは、多くが「ネット記事」を活用したものであるので、まだまだその域には達していない!!

余談であるが、最近はその都度、「生成AI」に、記事の感想?を聞いているが、私と、裏面担当の堂本氏との関係が、残念ながら(笑)、見破られていない(本当は、見破つて欲しいのであるが?)!!そこが、この「通信」のミソ(私なりのこだわり?)なのであるが、やはり、それは、機械の限界なのでもあろう?本音は、生身の人の声を聴きたいのであるが、直接にはそれが叶わない!HPの閲覧カウンタ数が、それを想像する唯一の手段であるが、それが、この「通信」自体の閲覧数を指すわけではないので、複雑ではある!!

いずれにしても、私の人生は、既に秋半ば?先日、岡山(T市)に住む、長期療養中の次兄の病氣見舞いで、佐賀(K市)にいる長兄と、長駆高速道路での、しかもとんぼ返りの旅をした。甥の車で行ったわけであるが(彼には、本当に感謝しなければならぬ)、その旅は、まさしくそれを実感させるものであった!基本、週に一回、緩めの「トレーニングルーム」に、3カ月前から、我が奥さんと一緒に通っているが、その成果はいかに?秋半ばだけに、飽きないことである!!

○公立学校のキャリア教育には何が足りない?

私が、過日の選挙で注目した、ある党(チームM)の党首であるA氏の提言が、ネット上にあった!「:比較的早期に実現可能な施策として、教育の場と民間の力との接続を積極的に進めるべき:教員には荷が重く、あまり得意ではないこの領域を民間と接続することは、合理的:『職業体験』を、広くキャリア教育の文脈で生徒たちの日々のモチベーションとつなげるリアルな場とする:これはすでに小中学校等で行われている:その中身をアップデートできる余地は大きい:」とあった!まさに、その通りであろう!!ただし、これは、東京都の現状に対する提言ではある!とは言え、この提言は、広く全国の小中学校等にも通用する!

要は、現在の「職業体験」が、必要な「キャリア教育」となっていないということであるが、「興味や個性にに応じて少人数でリアルな行き先を選択できる仕組み」が必要であるということである(すでに実施している公立校もあるようであるが!)。実は、これが、例のCSの目指すべきところであり、私の言うところの「教育協働」の柱となるべきものである!つまり、何のためにそれを行うのかということであるが、それは、新たな学校と地域社会の関係づくり(地域づくり)であり、そこに生きる人達の学習の場・環境づくり(ひとづくり)であるからである!他に、STEAM系領域の「ジェンダーバイアスの解消」等が挙げられているが、「先端の技術に触れる体験を通して自身の将来像が広がる」。まさに、そこが、これらの学校教育が目指すべきところであろう!

○「情報教育」という括りは、誤解を招く!!

ところで、およそ10年に一度改訂されるという(ただし、その決め事はない!)「教育課程」(「カリキュラム」のこと)についてであるが、その改訂作業(論点整理)が始まっているということである。時代状況の変化等によつて、その中身が変更されることは、ある意味当然のことなので、そのこと自体には何の異論もないが、その中で、いわゆる「情報教育」という名称や、その括り方が、最近少しおかしいことになっているのではないかと、多少思い始めている!すなわち、マスコミ報道によると、昨今のICT技術の発展による、その基礎的理解や活用能力を、まさに次代を担う児童生徒達が学校で習得することは、まさに必要であり、その意味での「情報教育」が、さらに充実・強化される必要がある!ということのようであるが、ややもすると、その括り(用語)が、かなりの誤解を招くのではないかとということである!!

というのも、そのための時間を、いわゆる「総合的な学習の時間」を活用して(割いて?)捻出するというようなニュアンスで報じられているようにも思え、もし、そうであれば、それは、少し違うのではないかと、私自身は思うということである!要は、これまでも、その「総合的な学習の時間」は、通常の教科等にはなっていない、何か特別な学習の時間と位置付けられてきたもので、しかも、それは、言わば、そうしたものの「寄せ集め」の時間とされてきたくらいがあるからである(今回、中学校に新教科「情報・技術科(仮称)」を創設するも、その延長にある?)!!

素案は、「主体的・対話的で深い学び」の実装多様な子どもの包摂、過度な負担を避け実現可能な制度とすることを柱とするとあったが、まさに今回の「情報教育」の扱いは、むしろ教育課程全体で、ICT技術の恩恵を享受することが重要であるように思うのである(ただし、それも、部分的にはそのようにされてきた?)!したがって、もう一つの焦点である「授業時数の弾力化」と、どう連動させるかが、大きな課題となることは明らか?逆に、そうならなければ、教員達には、まったく別の課題と映る?そこが、これまでの問題点でもあったわけである!!つまり、負担が、また増えたと思われることが、一番の困り事なのである! (井上)

○理論を超えて、世界は今、「囚人のジレンマ」状態?! ○バタフライよりも強力で、世界を悩ますモンスター?

最近、よく、「囚人のジレンマ (prisoners' dilemma)」の事を思い出す。これは、周知のように、「ゲーム理論におけるゲームの一つで、お互い協力する方が協力しないよりもよい結果になることが分かっているが、協力しない者が利益を得る状況では互いに協力しなくなる」というもので、「各個人が合理的に選択した結果 (ナッシュ均衡: 他を与えた漫画家・手塚治虫。街頭テレビには2万もの人々が詰めかけ、外国の巨漢を叩きのめすプロレスラー・力道山に熱狂した。小さな町工場から再起を図り世界的な企業を築いた技術者。井深大と本田宗一郎は、メイドインジャパンの信頼性を高めた。復興を目指す日本人に希望と勇気を与えた人々の物語」とあった。

誰かの効用を高めることができない状態にならないので、社会的ジレンマとも呼ばれる」ともある!

詳しいことはよく分からないが (1950年に数学者のアルバート・タッカーが考案。メル・フラッドとメルビン・ドレシヤーの行った実験をもとに、彼が、ゲームの状況を囚人の黙秘や自白にたとえたため、この名がついているらしい)、私が、ここで敢えてこれを出したのは、「囚人のジレンマは、自己の利益を追求する個人の間に協力が可能となるか」という社会科学の基本問題である」からであり、昨今の国際状況、否、国内状況も含めて、今まさに (いつの世もそうなのかもしれないが)、人間社会 (人類) が陥っている「苦悩と混乱」が、それに相当するのではないかと思うからである!!

ちなみに、囚人のジレンマでは、「ゲームを無期限に繰り返すことで協力の可能性が生まれる」とあり、経済学、政治学、社会学、社会心理学、倫理学、哲学などの幅広い分野で研究されているほか、自然科学である生物学においても、生物の協力行動を説明するモデルとして活発に研究されているらしい! 残念ながら、それらの研究成果については、ここではまったく分からないが、それは、まったくのブラックボックスなのか? 否、ブラックホールなのか?

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕600

〇二〇からは、九州での隠れた実績を追ってその151であれば、やはりここでは、かの「安曇」族のことも書いておきたい。阿 (安) 曇氏は、海神である「綿津見」を祖とする地祇系氏族で、「記紀」にも登場し、『古事記』では、阿曇連はその綿津見神の子、宇都志日金孫 (うづしひのかみ) と記され、『日本書紀』の応神天皇の項には「海人の宗に任じられた」と記されている。その他、『新撰姓氏録』では、「安曇連は綿津見尊玉彦の子、穂高見 (ほたけみ) 命の後なり」と記されている。ということは、「宇都志日金孫」と「穂高見命」は同一神 (人物) ということか!!

ただ、それはともかく、ここで取り上げたいことは、この「阿 (安) 曇族」の本拠地と、彼らの行動・居住範囲のことである (もちろん、その時期も含めて)。おそらく、彼らは、「江南系 (瓊越の民)」で、漁撈・農耕、そして交易民であったと思われるが、ここでの問題は、かの「倭 (倭) 奴国」と、どのような関係にあったのかということである (否、隣国? の「伊都国」との関係も頭を過る)。すなわち、彼らの前線基地 (金祖尊・玉祖尊海神社) が、「吉武高木」 (春日丘) にあった「倭 (倭) 奴国」の海上基地で、彼ら自身も、その「倭 (倭) 奴国」王族の一員であったのか? それとも、あくまでも、同族の誼での協力者であったのか? ということである!

というのも、「安曇族」は、その陸上での根拠地を糟屋郡 (安曇・志理郡) に有しており、しかも、彼らは、逸早く全国各地に散らばっている (近江や東海、そして信州にも! 海洋交易民としては、ある意味当然ではある)。余談ではあるが、かの「金印」が志賀島から見つかっているが、彼らが「奴国 (王族)」の一員であれば、あんな杜撰な埋設はしていない? しかも、彼らの主は「安曇の君」と呼ばれている。そして、実は、この「君」を語ったものが、「君が代」の元歌であることは周知の通りである。現在も、それに纏わる「神事」/山籠祭が、同神社で行われている。だが、いずれにしても、北部九州での彼らの存在は、「神功皇后」の三韓征伐譚 (「安曇磯良」) であるいは「筑後地方」での関わり (「風浪宮」等) を見れば、まだまだ謎多き氏族であるということである! (つづく) (堂本)

〈編集後記〉今回も、いろいろと書いてはみたが、まだまだ借り物が多い気がする。秋の次には冬が来るわけであるが、その間、様々な秋の様相がある! これからである!! (井上ノ堂本)

・キャリアとは 人が生きること!

学校で出来ることは その手助けのみ!!

・久し振りの 三兄弟再会!

互いの今を 秋 (安曇) 路が通わす!!

・情報教育とは ある意味 教育の総体?

下手に括れば 意義減退!!

・囚人のジレンマ? 協力がいいと分かっている

何故に囚われるのか?

・バタフライエフェクト? だが現代は

モンスター達が 土足で跋扈する!

